

Annual Report of
Center for Integrated Research and Education of
Natural Hazards, Shizuoka University

2020
No. 6

第 6 号

防災総合
センター
年報

静岡大学防災総合センター

防災総合センター年報

第 6 号

Annual Report of
Center for Integrated Research and Education of
Natural Hazards, Shizuoka University

No.6, September 2020

2020 年 9 月

静岡大学防災総合センター

目 次

1 センターの概要	1
1.1 設立趣旨と沿革	1
1.2 組織及びメンバー	2
2 研究成果	5
2.1 個人研究成果	5
2.2 研究業績リスト	51
2.2.1 著書	51
2.2.2 学術論文	54
2.2.3 学会口頭発表	75
2.2.4 その他の著作物	110
2.2.5 受賞	116
2.2.6 特許等	117
3 学内教育活動	119
3.1 新入生セミナー	119
3.2 全学教育科目「地震防災」	120
3.3 全学教育科目「地域社会と災害」	121
3.4 全学教育科目「地球科学」	122
3.5 全学教育科目「社会資本マネジメント論」	123
3.6 全学教育科目「公共施設デザイン論」	124
3.7 全学教育科目「リスクコミュニケーション」	125
3.8 大学院総合科学技術研究科共通科目「津波工学特論」	126
3.9 大学院総合科学技術研究科共通科目「災害情報学特論」	127
3.10 静岡大学防災マイスター称号制度(静岡地区)	128
3.11 静岡大学防災マイスター称号制度(浜松地区)	130
4 プロジェクト・関連行事	132
4.1 「ふじのくに防災フェロー養成事業」	132
4.1.1 事業の概要	132
4.1.2 シンポジウム	137
4.1.3 受講生の活動報告	138
4.1.4 受講生の研究成果・社会的活動	151

4.2	静岡県行政職員防災講座	159
4.2.1	静岡県行政職員防災講座	159
4.2.2	フォローアップ研修	160
4.3	自然災害科学中部地区研究集会	161
4.4	しずおか防災コンソーシアム・ふじのくに防災学講座	162
4.5	しずおか防災コンソーシアム勉強会	163
4.6	防災総合センター主催シンポジウム	164
4.6.1	平成30年7月豪雨による災害・現地調査速報会	164
4.6.2	他頁で報告した主催行事の再掲	164
4.7	東海圏減災研究コンソーシアム	166
4.8	「静岡の大規模自然災害の科学」刊行	167
4.9	減災地域協働モデルの社会実装と検証 (SIP 課題⑦-1 サブテーマ3)	169
5	社会的活動	170
5.1	外部・公開講演会等	170
5.2	マスメディア・新聞等への掲載	205
5.3	公的な委員会等	258
5.4	学会活動	267

1.センターの概要

1.1 設立趣旨と沿革

静岡大学防災総合センターは、全学組織のひとつとして2008年7月に設置され、学内共同教育研究施設のひとつとして位置づけられている。防災総合センター設置の目的は、静岡大学における防災教育及び防災科学研究を総合的に展開するとともに、地域と連携して地域の防災体制の向上に資することである。

東海地震の発生可能性が指摘されて以来、静岡大学は防災体制構築への先進的な取り組みを続けてきた。1980年代に大学内の建物の耐震診断をおこなって耐震工事を実施するとともに、全学防災対策委員会の下に地震対策検討部会を設置し、地震発生時の詳細な対応策を決定した。

さらに、防災教育の充実を目指して、2004年度から学外講師も含めた十数名の教員が担当する講義「地震防災」を開講するとともに、1年生全員の必修科目である「新入生セミナー」の中で防災の基礎知識と心得に関する講演を行うようになった。この背景には、静岡大学内の各部局に防災と密接に関係する研究テーマをもつ教員が徐々に増えてきたことがある。もともと地震防災は理学だけにとどまらず、工学、情報科学、人文・社会科学、医学などの幅広い分野にわたる総合科学の側面をもっていたからである。こうした教員たちは、各自の分野における防災研究・教育を推進するだけでなく、防災施策の検討を目的とした国や自治体の委員を委嘱されることによって、防災行政にも深く関わるようになった。また、地域社会からの講師派遣要請にも、個別的にはあるが積極的に貢献してきた。

このような防災研究・教育・地域連携の活動実績を背景として、静岡大学は、静岡県防災局（現・静岡県危機管理部）との協力の下に、文部科学省の特別教育研究経費（初年度は特殊要因経費）に「防災教育の地域連携を通じた多面的展開と拡充」を申請した結果、2008年度から4年間にわたる交付が認められることになった。そして、この経費を最大限活用しつつ、これまで各学部・各教員が個別におこなってきた防災研究・教育・地域連携活動を有機的・組織的に結びつけ、より高次かつ困難な地域防災課題の解決に取り組むために設立されたのが、静岡大学防災総合センターである。

本センターでは、2008年11月に1名、2009年に1名の計2名の専任教員を迎えるとともに、学内併任教員、学外客員教員を拡充し、防災研究・教育・地域連携に取り組んでいる。2010年には文部科学省の科学技術振興調整費による地域再生人材創出拠点の形成事業「災害科学的基礎を持った防災実務者の養成」に採択され、静岡県と協働し「ふじのくに防災フェロー養成講座」を開講した。2011年4月には大学会館内に研究室、事務室、セミナー室を集約し活動拠点も整備された。2015年4月からは、浜松地区における防災教育の拡充および東海圏国立大学の防災関係センター等の連携強化を目的として、総合科学技術研究科工学専攻が主担当の特任教員1名を採用した。また同月からは地域創造学環を主担当で当センターの専任となる教員1名を採用している。

1.2 組織及びメンバー

2020年4月現在の当センターメンバーは下記の通りである。

センター長

北村晃寿 (理学領域教授、津波堆積物・古地震の研究)

副センター長

村越 真 (教育部門長：教育学領域教授、統計法、リスク認知、防災教育)

牛山素行 (専任教員、研究部門長：融合・グローバル領域防災総合センター教授、自然災害科学、災害情報学、豪雨災害)

小山真人 (地域連携部門長：教育学領域地域創造学環教授、未来社会デザイン機構副機構長、火山学、地質学、地震・火山防災他)

前田恭伸 (工学領域教授、リスクアナリシス)

専任教員

原田賢治 (専任教員、融合・グローバル領域防災総合センター准教授、津波工学、津波防災、海岸工学、水工学)

副担当教員 (静岡大学内他組織所属で当センターに協力している教員)

川瀬憲子 (人文社会科学領域教授、地域研究)

寺村 泰 (人文社会科学領域教授、経済政策)

水谷洋一 (人文社会科学領域教授、財政・公共政策)

池田恵子 (教育学領域教授、社会地理学)

小林朋子 (教育学領域教授、学校心理学、被災者の心のケア)

佐治 斉 (情報学領域教授、画像処理、交通情報解析)

木村浩之 (理学領域教授、地球微生物学、分散型インフラ生産システム開発)

古橋裕子 (融合・グローバル領域保健センター教授、精神科医)

山本裕之 (融合・グローバル領域保健センター教授、代謝学、内分泌学、公衆衛生学、健康科学)

今泉文寿 (農学領域教授、砂防工学)

藤井基貴 (教育学領域准教授、教育哲学、道徳教育)

橋本 岳 (工学領域准教授、画像計測工学、災害予兆検知)

二川雅登 (工学領域准教授、電子デバイス・電子機器)

小林研治 (農学領域准教授、木質科学、建築構造・材料)

石川宏之 (融合・グローバル領域地域創造学環准教授、都市計画・建築計画)

生田領野 (理学領域准教授、測地学、地震学)

石橋秀巳 (理学領域准教授、火山岩石学、実験マグマ学)
三井雄太 (理学領域講師、地震学、測地学)
秋元菜摘 (情報学領域講師、地理学)

特任教員

増田俊明 (防災総合センター特任教授、構造岩石学、地球進化学)
岩田孝仁 (防災総合センター特任教授、防災学、地方行政学 (防災))
小杉素子 (総合科学技術研究科工学専攻特任准教授、社会心理学)

客員教員 (他大学等所属で当センターに協力いただいている教員)

石井輝秋 (客員教授、海洋底地質、火山学)
石川有三 (客員教授、固体地球内部物理学、地震学)
石田瑞穂 (客員教授、地震学)
伊藤 潔 (客員教授、地震学、固体地球物理学)
伊藤谷生 (客員教授、構造地質学、変動地形学、地震探査学)
岩崎一孝 (客員教授、気候学、自然地理学、地理情報システム)
岩松 暉 (客員教授、応用地質学、自然災害科学、情報地質学)
鵜川元雄 (客員教授、火山学、地球物理学、地震学)
大谷栄治 (客員教授、高圧地球科学、鉱物物理学)
笠原順三 (客員教授、地震学、地震探査、地球物理学、物理探査学他)
風間 聡 (客員教授、水文学、河川工学、水資源学)
片田敏孝 (客員教授、災害社会工学)
狩野謙一 (客員教授、地質学、地質図学、地質調査法)
唐戸俊一郎 (客員教授、地球科学、地球内部構造)
吉川肇子 (客員教授、組織心理学、社会心理学)
木村圭司 (客員教授、気候学、地理学)
栗田 敬 (客員教授、固体地球物理学)
小林 淳 (客員教授、火山地質学)
近藤昭彦 (客員教授、地理学、水文学、環境学)
佐藤 健 (客員教授、建築構造工学、地震工学、自然災害科学、安全教育学)
鈴木清史 (客員教授、文化人類学)
武村雅之 (客員教授、地震学)
千木良雅弘 (客員教授、地すべり)
土屋 智 (客員教授、土砂移動学、山地水文学)
中川和之 (客員教授、災害報道、市民防災、災害救援)
林 拙郎 (客員教授、土砂災害、発生予測、豪雨災害、自然災害)

林 能成 (客員教授、地震学、地震防災)
藤井直之 (客員教授、固体地球惑星物理学、火山物理学)
藤岡換太郎 (客員教授、地質学)
増澤武弘 (客員教授、植物生態学、植生学、環境科学)
森下祐一 (客員教授、岩石・鉱物・鉱床学)
山崎 登 (客員教授、災害情報)
山田和芳 (客員教授、湖沼堆積学)
矢守克也 (客員教授、防災心理学、社会心理学、災害社会学、防災教育学)
吉田明夫 (客員教授、地球科学)
吉野篤人 (客員教授、救急医学、災害医療)
渡辺俊樹 (客員教授、構造地質学、変動地形学、地震探査)
井ノ口宗成 (客員准教授、社会・安全システム科学)
菅原大助 (客員准教授、地質学、堆積学、津波工学)
関谷直也 (客員准教授、社会心理学)
楠城一嘉 (客員准教授、地球科学、地震学、リスク共生学)
秦 康範 (客員准教授、災害軽減工学)
廣井 悠 (客員准教授、都市防災、都市工学)
紅谷昇平 (客員准教授、自治体・企業の危機管理)
本間基寛 (客員准教授、災害情報学)
松井 務 (客員准教授、地域医療学)

学術研究員

大森康智

事務職員

五条寿久

パート事務職員

池ヶ谷英代

筒井宝子

三浦千恵子

宮城島小百合

2 研究成果

2.1 個人研究成果

防災総合センターには 2020 年 4 月時点で 2 名の専任教員が所属しているが、広範な課題に対応する防災の分野を 2 名でカバーすることは極めて困難である。このため当センターでは、多数の学内外研究者を特任教員、兼務教員（現・副担当）、客員教員というメンバーとして迎え入れ、研究・教育活動のいっそうの充実を図っている。2020 年 4 月現在で、副担当教員、客員教員を含めたセンター教員の総数は 74 名を数え、学内の全領域に少なくとも 1 名の副担当教員が所在するほか、東北地方～九州地方に渡る全国の大学・研究機関から客員教員として当センターの活動に加わっていただいている。

本節では、これら当センター関係教員による最近の研究活動のトピックスを紹介する。いずれも日本の防災関係研究分野の第一人者であり、さまざまなユニークな取り組みが行われているところである。なお、論文等の研究業績は、2.2 節を参照されたい。



写真 防災総合センター関係者
(令和元年度防災総合センター研究会、2019年9月24日)

教員名：北村晃寿

所 属：防災総合センター長・学術院理学領域教授

2018～2019 年度の研究成果は以下の通りである。

(1) 南海・駿河トラフで起こる巨大地震の破壊領域と大津波の波源域は西から、Z、A～E の 6 領域に分かれ、大地震の発生は隣接領域が数時間～数年をおいて、あるいは同時に起きた。しかし、E 領域(駿河トラフ)の破壊履歴は 1854 年安政東海地震、1707 年宝永地震、1498 年明応地震までしか分かっていない。そこで、私は、1498 年明応地震以前の E 領域の破壊履歴を地層・化石記録から検討している。そして、御前崎で隆起二枚貝化石を発見し、1361 年正平(康安)東海地震で地震性隆起が起きた、言い換えると E 領域の破壊が起きたことを解明し、国際誌 Marine Geology に公表した。さらに、静岡市清水区の海長寺の地下の地層記録から堆積環境を復元し、西暦 400 年頃に地震性隆起の発生を示す地質学的証拠を見つけ、国際学術誌 Progress in Earth and Planetary Science に公表した。なお、後者は、次世代育成事業グローバルサイエンスキャンパス「未来の科学者養成スクール(FSS)」の取組みとして、北村が磐田南高等学校の 3 人の生徒の研究をサポートし、北村の発案で調査・検討を進めたものである。

(2) 2019 年度末で本学を退職された岩田孝仁防災総合センター長の退職記念行事の一つとして、「静岡の大規模自然災害の科学」(ISBN978-4-7838-0555-7)の書籍刊行を企画・編集し、2020 年 3 月 21 日に、静岡新聞社から出版した。255 ページからなり、防災総合センターの教員と関係者 13 名が執筆し、静岡県の地震・火山・津波・地滑り災害に関する最新の科学的知見をまとめたものである。2020 年 4 月 1 日に設置された静岡大学未来社会デザイン機構から出版助成をいただき、本体価格 1600 円で出版できた。なお、私の主な執筆箇所は、次の通りである。

第 I 部

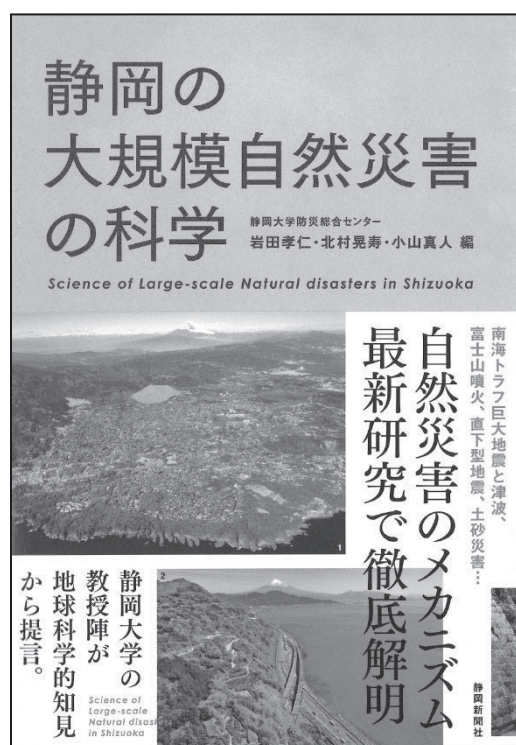
第 2 章 東北地方太平洋沖地震・貞観地震
による津波堆積物(北村晃寿)

第 II 部

第 1 章 静岡県の地質(北村晃寿・小山真人)

第 4 章 静岡周辺の直下型地震と断層運動
(狩野謙一・北村晃寿)

第 5 章 静岡県における南海・駿河トラフの
巨大地震・津波の最新の地質学的
知見(北村晃寿)



教員名：村越 真

所 属：副センター長・副担当・学術院教育学領域教授

認知心理学を基礎としてリスクマネジメントと安全教育の研究をしています。ハードな防災では限界があることが、東日本大震災以来指摘されています。学校教育の中でも臨機応変に行動でき、安全文化の構築に寄与できる次世代の育成が期待されていますが、自ら考え、判断する力を養う防災教育の展開はこれからです。こうした力の育成は、「主体的で対話的な深い学び」を目指す新学習指導要領の方向性とも合致しています。防災教育を付加的な教育内容とみなすのではなく、主体的で（自らの命に関わる）、対話的な（リスクに対する異なる考え方があり得る）場面を通しての深い学び（本質的な理解に基づく実践場面に応用が利く）が可能な領域例として積極的に活用する姿勢が必要だと考えられます。

専門である認知心理学的な視点も踏まえて、実践に活用できる科学的な根拠を持った「主体的で対話的な深い学び」を可能にする安全教育やリスクマネジメントの授業や教材開発を行い、防災マイスターの授業である「災害のリスク危機マネジメント」や「学校のリスク管理」といった授業を通して社会への浸透を図っています。

もう一つの研究テーマは、自然体験活動や登山の中でのリスク認知およびそこでのリスクマネジメントです。リスク社会と言われながら、個人が遭遇するリスクに対するマネジメントの方法は十分に確立されているとは言えません。しかし、自然災害の激甚化、あるいは本来安全であった空間が倫理観の低下等によってリスクが高まっていることが感じられる現代、個人のリスクマネジメント方略の確立は、日常生活においても人々が安全に生活することに資すると考えています。高所クライマーおよび南極観測の安全管理隊員を対象とした質的研究（村越・中村・河合、2014；村越・満下、2020）で、その方略を明らかにしました。また、三相因子分析という特殊な因子分析手法により、自然の中にリスクに関する認知次元として「急襲性」「遍在性」があることを明らかにしました（満下・村越、2019）。平成 29 年度には第 59 次南極観測隊に同行し、研究を継続しています。2020 年度も参加予定でしたが、新型コロナウイルスへの対応のため、2021 年度第 62 次南極観測隊に延期となりました。

教員名：牛山素行

所 属：副センター長・専任教授

自然災害科学および災害情報学を専門としています。豪雨・津波を中心に各地の災害時の現地調査に取り組み、災害情報の伝達や避難行動などの調査研究を行っています。

●風水害・津波災害による人的被害の研究

風水害などによる犠牲者が、どのような状況で亡くなられたのかを分類する研究を進めています。一般的なイメージと実態が異なっていることを明らかにしつつあります。

【主な成果】

牛山素行・関谷直也:2016年台風10号災害による人的被害の特徴, 自然災害科学, Vol.36, No.4, pp.429-446, 2018.

牛山素行・本間基寛・横幕早季・杉村晃一:平成30年7月豪雨災害による人的被害の特徴, 自然災害科学, Vol.38, No.1, pp.29-54, 2019.

●災害情報の利活用に関する基礎的調査

災害情報と実際の被害の関係、災害情報の防災面への活用手法などに関する基礎的調査を進めています。

【主な成果】

向井利明・牛山素行:記録的短時間大雨情報の変遷及び災害発生率, 災害情報, No.16, pp.163-178, 2018.

安本真也・牛山素行・関谷直也:平成28年台風10号災害における岩泉町での避難行動の分析, 自然災害科学, Vol.37, 特別号, pp.33-46, 2018.

塩崎竜哉・本間基寛・牛山素行:豪雨時における災害危険度の高まりを推定するための電話通報数の活用についてー2014年広島豪雨災害事例による検討ー, 災害情報, No.16, pp.49-60, 2018.

本間基寛・牛山素行:豪雨災害における人的被害ポテンシャルの推定に関する一考察ー平成30年7月豪雨を事例にー, 第38回日本自然災害学会学術講演会講演概要集, pp.47-48, 2019年9月22日.

●防災実務者の人材育成への取り組み

ふじのくに防災フェロー養成講座運営主幹として、静岡県危機管理部と連携し、同講座の運営に当たっているほか、静岡県の行政職員防災研修の企画運営も行っています。また、内閣府防災研修コーディネーターとして同府による「防災スペシャリスト養成研修」の推進、気象庁「気象防災専門家育成」カリキュラム構築、気象庁「地方公共団体防災担当職員向け気象防災ワークショッププログラム開発」などの人材育成に取り組んでいます。

教員名：小山真人

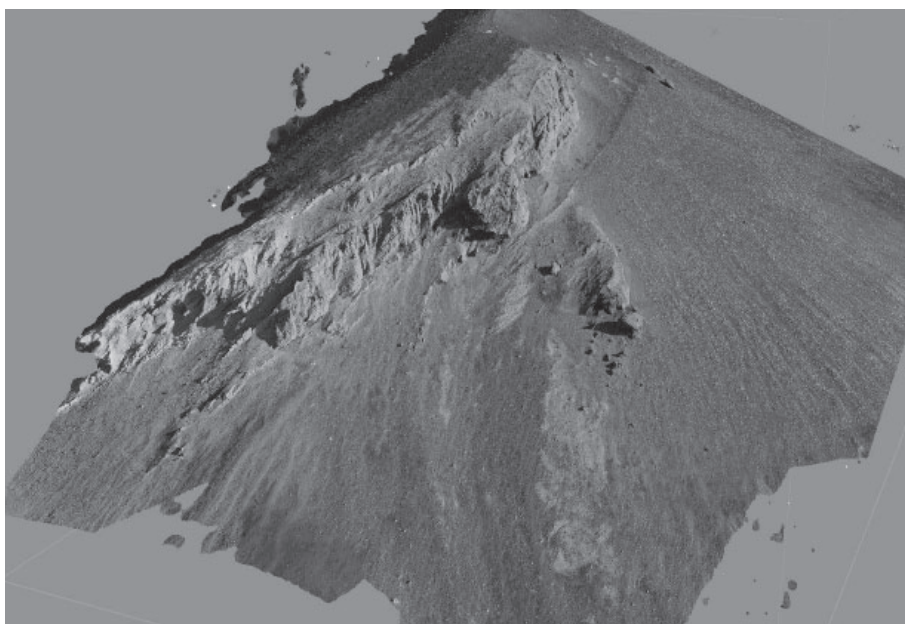
所 属：副センター長・副担当・学術院教育学領域地域創造学環教授
未来社会デザイン機構副機構長（主担当）

静岡県周辺ならびに他地域の火山噴火史、地震活動史、地震火山防災、リスク情報の伝達と教育普及、ジオパークによる地域社会の活性化と防災基盤強化などに関する研究を進めています。とくに最近では富士山、伊豆東部火山群、箱根火山、伊豆大島火山の噴火史・噴火メカニズム・ハザードマップ・防災対応などの作成・見直しと効果検証、UAV（無人航空機）を用いた火山地形・噴火史研究などに取り組んでいます。

こうした研究活動の一方で、火山噴火予知連絡会伊豆部会委員、静岡県防災・原子力学術会議地震・火山対策分科会委員、富士山火山防災対策協議会委員、伊豆東部火山群防災協議会委員などを努め、地域の火山防災体制確立のための助言活動に精力的に取り組んできました。また、静岡県と伊豆半島7市8町が進める伊豆半島ジオパークの顧問・学術部会長をつとめ、伊豆半島ジオパーク推進協議会の設立（2011年）、国内ジオパーク認定（2012年9月）、ユネスコ世界ジオパーク認定（2018年4月）に貢献しています。

以上の作業と並行して、研究成果を一般市民にわかりやすい形で伝える書籍・資料を多数執筆するとともに、多数の講演会・公開講座の講師をつとめています。また、NHKの人気番組「ブラタモリ」の案内人を5回（富士山3回、三保松原1回、浜松1回）務めました。詳しい教育・研究・地域貢献活動の全貌については、研究室のWebサイト（以下、あるいは「小山研究室」で検索）をご覧ください。

http://sakuya.vulcania.jp/koyama/public_html/



UAV（無人航空機）を用いた測量によって作成された富士山（宝永山）の3次元地形モデル

教員名：前田恭伸

所 属：副センター長・副担当・学術院工学領域教授

主にリスクアナリシス、特にリスク対応への ICT の活用について研究を進めています。最近の成果としては、主に以下の4つがあります。

一つ目は、リスク学事典の発刊です。日本リスク研究学会（現、日本リスク学会）の仲間とともに、リスク学事典を執筆、編集し、2019年6月に出版いたしました。この執筆には当センターの岩田先生、小杉先生、吉川先生、関谷先生にもご協力いただきました。

<https://www.maruzen-publishing.co.jp/item/b303332.html>

二つ目は、リスク評価関数についての研究です。多くのリスクが同時に存在するとき、どのリスクから対策していくのかを決定するためには、優先順位を明らかにするリスク評価関数が必要です。これまで等リスク原則、等限界リスク削減費用原則、リスク便益原則などの考え方に基づく評価関数が提案されてきましたが、政治哲学の視点から、ロールジアン、リバタリアン、コミュニタリアンの評価関数を提示し、それらを従来型の関数と比較しました。その結果、関数により優先順位は大きく異なること、それゆえ実際のリスクマネジメントでは意思決定者の価値観が大きな意味を持つことが示唆されました。この成果を2019年5月にケープタウン（南アフリカ）で開かれた World Congress on Risk にて発表しました。

三つ目は、環境ボランティア獲得のための、環境団体と潜在的ボランティアのマッチングのための情報システムについての研究です。このシステムの可能性を探るため、全国レベルのアンケートならびに東京近郊でのヒアリング調査を行いました。その結果、マッチングサイトへの期待は高いものの、それを利用すると考えられる環境団体の ICT への親和性はそれほど高くないという課題が見えてきました。この成果を2019年7月にバンコック（タイ）で開催された International Society for Third-sector Research, Asia-Pacific Regional Conference にて発表しました。

四つ目は、プラスチック廃棄物のリスクについての研究です。海洋プラスチックごみをはじめとするプラスチック廃棄物が世界的な社会問題となっています。これについて包装用プラスチックとその代替品に関する LCA 研究をレビューしたところ、特に気候変動へのインパクトに関して、プラスチックは必ずしも環境負荷が高いものではないことが示唆されました。この成果を、2019年12月にアーリントン(USA)で開かれた Society for Risk Analysis Annual Meeting で発表したところ、ベストポスター賞を受賞することができました。

教員名：原田賢治

所 属：防災総合センター・専任准教授

津波の災害現象や防災対策についての研究を行っています。津波数値シミュレーションや現地調査、実験等により災害現象の理解と対策効果の評価検討について研究を進めています。現在、津波堆積物の形成過程を明らかにするために、実験水路を用いた津波堆積物の形成過程の再現実験の検討を進めています。加えて、沿岸自治体と協力して津波防災対策を地域で進めて行くための計画作りに関する検討も行っています。

教員名：池田恵子

所 属：副担当・学術院教育学領域教授

ジェンダー・多様性と災害

地域防災の体制に女性や多様な立場の人々の視点と参画が必要だという考えは、防災基本計画や地域防災計画にも反映され、徐々に浸透していますが、具体的な施策と地域の自主防災活動における実践はまだこれからです。とりわけ、女性の参画は、災害時避難行動要支援者、避難生活要配慮者の支援と強く関係しています。自主防災活動、防災訓練や防災知識の普及、避難所運営などの実践に、男女共同参画・多様性配慮の視点が組み込まれるよう、調査や研修を行ってきました。また、防災・被災者支援・復興などの活動がジェンダー・多様性の視点を持って行われるために研修カリキュラムや教材の開発に携わってきました。

1) ジェンダー・多様性に配慮した地域防災体制の研究

(ア)地域防災組織の組織形態（自治会・町内会単独型と防災まちづくり型）別に、女性の参加の状況を観察し、地域防災活動の担い手である女性たちと、女性グループによる地域防災活動の実態を調査し、女性や多様な立場にある人々の声が反映しやすい地域の防災体制のあり方を検討しました。

(イ)自治体の防災体制へ男女共同参画や多様性の視点がどの程度導入されているのか把握するため、「2017 年度女性・地域住民から見た防災・災害 リスク削減策に関する調査」（全国の基礎自治体対象）を実施し、2008 年に行われた同目的の調査結果と比較しました。避難所運営指針への記載や備蓄計画においては進展がみられた一方、行政の危機管理部署への女性職員の配置や地域の自主防災組織への女性の参加にはあまり進展が見られず、自治体の財政・人口規模によって進捗が大きく異なることがわかりました。

2) 大規模災害からの復興の地域的最適解に関する研究

東日本大震災では、人口学的特性、産業構造、歴史、地域文化が異なる多様な地域だったところに、地震・津波が襲来、福島県においては原発事故が重なりました。被災地の被害状況は極めて多様であり、国の画一的な復興政策が推進されたにも関わらず、被災地の復興には大きな地域差が観察されます。復興の進め方は一律的な方法があるのではなく、地域毎に最適な復興方法があると考えられます。それを探る共同研究（代表者：浦野正樹（早稲田大学））において、ジェンダー・多様性の面からの復興指標の作成などを担当しました。

教員名：木村浩之

所 属：副担当・学術院理学領域教授

地球科学と微生物学を融合させた研究手法を用いて、付加体の深部帯水層の微生物生態、炭素循環、窒素循環について研究してきました。温泉メタンガスを利用した地産地消エネルギーの生産、温暖化防止、広域災害対策、持続可能な社会の実現に向け、付加体に構築された大深度掘削井を介して地下温水およびメタンを採取し、地球化学および微生物学的手法を用いた研究を行っています。そして、付加体の地下圏でのメタン生成メカニズムを明らかにしようとしています。さらに、付加体の深部帯水層に由来する地下温水、天然ガス（メタン）、微生物群集を活用した分散型エネルギー生産システムの創成に向けた技術開発にも取り組んでいます。現在、これらの微生物生態学研究を基盤として、付加体の深部帯水層に由来するメタンを活用したメタンガス発電施設を創成するプロジェクトを推進しています。さらに、付加体の深部帯水層の嫌気性地下温水とそこに含まれる微生物群集を活用したメタン生成リアクターおよび水素ガス生成リアクターを開発しました。温泉用掘削井から採取した嫌気性地下水とそこに含まれる微生物群集の培養実験を進めていき、実用化に向けて様々な条件を試す計画です。

研究成果として、(1) 深部帯水層に温泉水およびメタンガスが蓄積されていること、(2) 水素発生型発酵細菌と水素資化性メタン生成菌の共生、(3) 脱窒による窒素ガス生成メカニズムの発見、また、原核生物の 16S rRNA 遺伝子の G+C 含量から、地下圏に生息する微生物の生息温度を推定する新たな手法『微生物分子温度計』を開発しました。これら測定困難な地下圏の環境温度を知る上で革新的かつインパクトの高い研究成果が高く評価され、第4回日本微生物生態学会奨励賞を受賞しました。

教員名：今泉文寿

所 属：副担当・学術院農学領域教授

土砂災害の軽減に向け、山岳地で発生する土砂移動現象の現地調査を行っています。現地観測とドローンを使った定期測量の結果、これまで未解明であった土石流の発生・流下機構に関する多くの知見を得ることができました。さらに、森林の管理が土砂移動現象へ及ぼす影響の解明に向けた研究活動も行っています。



写真 静岡市大谷崩にある観測地の様子

教員名：藤井基貴

所 属：副担当・学術院教育学領域准教授

東日本大震災以降、教育学部の学生たちを中心に防災教育の教材および授業開発を進めています。2011年度に開発をはじめた小・中学校の道徳の授業向けの防災教材「防災道徳」は、これまでに全国 150 校以上の小・中学校で活用いただきました。現在では浜松市教育委員会が作成した『浜松市版防災ノート』にも教材を収録いただいています。

また、2013年より特別支援学校、保育園・幼稚園、日本語学校とも連携して「災害時要援護者」を対象とした教材・授業づくりにも取り組んでおり、「防災紙芝居」、「防災体操」、「防災ゲーム」などの教材を開発・提案し、学校祭や地域イベント等にもイベント出展してきました。地域との連携においても日本赤十字社と連携して静岡県内や新潟県内において学生たちが防災講座を担当しており（2018年～）、静岡朝日テレビのアナウンズ部のみなさんとは保育園や幼稚園において自主制作した防災紙芝居の読み聞かせ活動も行っています。JICA との連携事業ではエクアドルやトルコの防災関係者にも講座を行いました。こうした取組に対して、兵庫県等主催「1.17 防災未来賞(ぼうさい甲子園)」では、三度の「ぼうさい大賞」を含む、7度の表彰をいただいています。2020年度からはコロナ対応も含めた「複合災害」を扱った授業開発に着手し、オンラインによる授業実施を進めています。

これまでの取組は教員を目指す学生たちの粘り強い探究心と精力的な活動、そして静岡大学防災総合センターを始めとする研究ネットワークに大きく支えられています。今後も学生たちとともに防災・減災のネットワークづくりに貢献していきたいと考えています。



静岡朝日テレビとの読み聞かせ事業



大学とのオンラインによる防災授業

教員名：橋本 岳

所 属：副担当・学術院工学領域准教授

私は画像計測の防災への応用という工学的アプローチに関する研究を行っています。これまでに「屋外遠距離において高精度な計測が可能」というユニークな計測技術を開発しており、具体的には計測距離約 100m にて誤差 10mm 以下という計測を実現しました。この高精度という特長を生かして様々な実用的な研究を進めています。研究の一例として、土砂災害の予兆検知を目的とした法面の微小動きの計測に取り組んでいます(下図)。また、動画像を使った振動計測を橋梁等の劣化推定へ活かすことを目指して検討を進めています。



教員名：二川雅登

所 属：副担当・学術院工学領域准教授

世界各地で発生している豪雨などによる土砂崩れ（斜面崩壊）は、家屋だけでなく人の命も危険にさらし大きな被害をもたらします。一般的に崩壊が予想される危険斜面へは変位センサや転倒センサなどが使われており、崩壊直前の避難に役立っています。しかし、崩壊の兆しが見える前に現在の危険度を知ることができれば、道路の封鎖や余裕を持った避難が可能となります。そのため、斜面崩壊の予知ができる技術の確立が強く望まれています。

雨などにより土に含まれる水分量が増加し、土の摩擦力が低下するとともに水を含む土の重量が増加することにより、斜面崩壊が発生します。そのため、土中の水分量を直接計測し斜面崩壊の予知ができれば、防災・減災へとつながっていくと考えられます。

これまで、半導体集積回路技術を活用した小型土中水分量センサを研究しており、降雨による土砂災害を事前に予知できるシステムの開発を目指しています。2018年度から2019年度にかけて、土中水分量センサのトモグラフィ計測を可能にし、土中2次元水分量分布の計測をおこないました。これにより、市販センサでは点での水分量計測しかできなかったものが、検出不可領域の無い広範囲の土中水分量分布の観察ができるようになりました。また、ソーラーパネルによる独立した電源確保と無線によるデータ送信を可能としており、電源の取れない山奥や幹線道路沿線など様々な設置場所に用いることができる点も大きな特徴と言えます。

このセンサを用い、自然斜面の法面や、高速道路の法面など様々な地点の土中水分量分布の取得を実施し、深度20cmから7mまでの幅広い深さの水分量データをリアルタイムに取得してきました。下図は、NEXCO 総研殿及び岡山大学の小松先生と共同で実施した、高速道路法面の計測例です。土中水分量センサにより地中の水分分布の可視化に成功しました。今後は、より広範囲に計測できかつ安価に提供できるセンサを実現していく予定です。



教員名：石川宏之

所 属：副担当・学術院融合グローバル領域准教授

1. 最近の研究活動

東日本大震災後の地域づくりに震災遺構を保存できた要因—仙台市立荒浜小学校と荒浜地区の住宅基礎群を事例として—

今日、東日本大震災の被災地では、大津波の脅威を伝える多くの建物が解体され、保存された震災遺構は数えるほどとなりました。未来の人の命を守るために、どうすればこの震災の記憶と経験を後世へ伝えられるのでしょうか。本研究では、誰がどのように震災遺構の保存を決めてきたか、そのプロセスと保存できた内的・外的要因について明らかにすることを目的としました。

調査対象は、仙台市中心部から約 10km 離れた沿岸部にある荒浜小学校と荒浜地区の住宅基礎群です。荒浜小は、1873 年に創立した伝統校で、震災時には児童・教職員・住民 320 人が 4 階建校舎の屋上に避難して大津波から助かりました。調査は、2018 年 9 月から荒浜小などの保存に携わる仙台市職員に聴き取りと実地調査を行いました。

その結果、荒浜小校舎などを保存できた内的要因として、荒浜小は世代を超えて思い出を共有できる場所だったことから、①住民の絆を象徴する場所であること。また、避難場所の 4 階建校舎は多くの命を助け、死者が無かったことから、②避難場所の機能を果たすこと。ただし、住宅基礎群は住民の思いに個人差があったので、③賛成を得られる場所に限ること。一方、外的要因として、荒浜小は災害危険区域内にあり、復興土地区画整理事業の区域から外れたので、④復興まちづくりに支障がないこと。また、早期に防災集団移転先の住宅や復興公営住宅の申込受付がはじまったので、多くの住民が荒浜小校舎の保存を賛成したことから、⑤被災者の住宅再建を早く進めること。以上の計 5 点が明らかになりました。

2. 刊行物など

- (1) 石川宏之「東日本大震災後の地域づくりに震災遺構を保存できた要因—仙台市立荒浜小学校と荒浜地区の住宅基礎群を事例として—」2019 年度日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 7-8, 2019. 9.
- (2) 石川宏之「博物館」・「エコミュージアムとジオパーク」『日本の建築文化事典』, 丸善出版, pp. 498-501, 2020. 1.



震災遺構の荒浜小学校



荒浜地区の住宅基礎群

教員名：石橋秀巳

所 属：副担当・学術院理学領域准教授

私は、天然の火山噴出物の組織解析・化学分析に基づき、マグマの形成・噴火プロセスについて研究しています。2018-2019 年では、富士山・伊豆東部火山群・伊豆大島・三宅島・箱根に加え、九州の阿蘇・雲仙・霧島を対象に、マグマだまりでの噴火準備過程やマグマの火道上昇過程に関する研究を行いました。

阿蘇の研究では、9 万年前に発生した国内最大級の超巨大噴火である Aso-4 噴火を対象とし、噴出物中に含まれる角閃石結晶の組織観察と化学分析を行いました。その結果、噴火直前にマグマだまり中でクリスタルマッシュ層の崩壊がおこったこと、またポストカルデラ期のマグマだまりの位置が、Aso-4 噴火のマグマだまりの影響を受けて決まっていることなどを論じました (Ishibashi et al., 2018EPS)。

伊豆大島の研究では、1986 年噴火のマグマについて減圧結晶作用の熱力学シミュレーションを行いました。その結果、A 火口での穏やかなストロンボリ式噴火、B 火口での激しいサブプリニー式噴火という異なる様式の噴火を引き起こした原因が、本質的にマグマの温度によることを明らかにしました (石橋・種田, 2018 静大地研報)。

雲仙の研究では、雲仙平成噴火のマグマ中に含まれる角閃石斑晶および集斑晶の組織観察と化学分析を行いました。その結果、これまで知られていた 2 つの混合端成分マグマに加えて、もうひとつ安山岩質のマグマが混合していたこと、また、今まで理解不十分であった低温端成分マグマの化学組成や貯蔵環境条件の実態を明らかにしました (Iwahashi et al., 2020JVGR)。

伊豆東部火山群の研究では、4000 年前に噴火した大室山の玄武岩質安山岩スコリアに含まれる斜長石斑晶について、メルト包有物とホスト鉱物の組織観察と化学分析を行いました。その結果、伊豆大室山の噴火以前に、その地下に噴火可能な流紋岩質マグマが存在していたことを明らかにしました (Hatada et al. 2020JMPS)。

その他、マグマだまり中のクリスタルマッシュの実態 (富士山、伊豆大島、三宅島)、苦鉄質マグマの火道浅部プロセス (伊豆大島・伊豆大室山・霧島御鉢)、ケイ長質プリニー式噴火の噴火準備過程 (伊豆カワゴ平・箱根東京軽石) などの研究を進めています。

教員名：三井雄太

所 属：副担当・学術院理学領域講師

地殻変動・地震活動データなどの統計的解析と断層力学の知見に基づいて、グローバルからローカルまでの幅広い時空間スケールにおける固体地球変動現象の発生・準備過程を研究している。伝統的な手法の高度化・精緻化ではなく、機械学習やスパースモデリングなどの新しい潮流を取り入れた解析手法の開発に取り組んでいる。

教員名：増田俊明

所 属：防災総合センター・特任教授

研究課題：固体中の結晶の核形成過程に及ぼす応力場の影響について

変成岩中では、それまでにそこに存在していなかった鉱物の結晶が形成される、ということが普通に起こる。ダイヤモンドやルビーやガーネットや雲母の結晶が変成岩中に出現するのはその典型的な例である。新たな結晶が成長するには、はじめに核形成というプロセスを通過する必要がある。核形成が固体の中で起こる場合に、応力場の影響をうけることになる。増田と大森は、反応速度論的な立場で、核形成の活性化エネルギーが垂直応力の影響を受ける、というモデルを考案した（詳細は省略）。このモデルによれば、方位によって核形成がし易い方向とそうでない方向がありうる。すなわち、異方的な岩石ができることになる。このモデルでは、例えば雲母類では、垂直応力が高い方に劈開面が発達する際の活性化エネルギーが一番小さくなり、その方向で結晶が出来やすい、ということになる。

防災への応用：現状では、上記の研究が直ちに防災対策に役に立つことはないが、長期的に見て、その展望はあり得る。それは、斜面崩壊、地すべりなどの地盤災害に関係している。風化変質により粘土鉱物の結晶が斜面の深部で形成されることを考える。斜面の深部には、当然の様に応力がかかっている。その応力場での核形成を想定し、それが、このモデル通りに起こるとすれば、斜面の傾斜や深さによって粘土鉱物の結晶軸の配列のそろい具合が等方的でなくなり、破壊強度の方位依存性が生じる。その方位依存性を適切に把握することは、そこに刺激（例えば地震波の到達、水分の状況による応力場の変化など）が起こったときに、その岩盤等がどのように挙動するのかを知る手がかりになるはずである。いずれは地すべり等の予測に大いに貢献できる可能性がある。

教員名：岩田孝仁

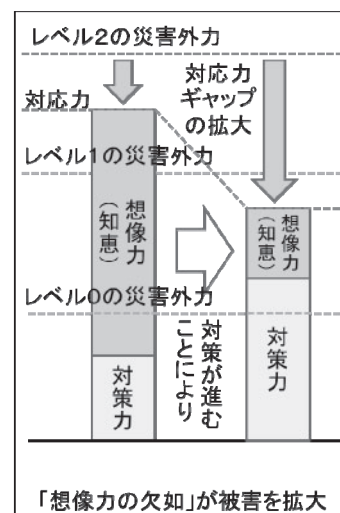
所 属：防災総合センター・特任教授

2017年4月から2020年3月まで防災総合センター長としてセンターの運営にあたり、3月末に静岡大学を定年退官しました。この間、主担当である地域創造学環の学生指導を担当しました。2020年4月からも防災総合センター特任教授として引き続き研究・教育・社会貢献活動を継続していきます。

研究分野としては、これまで深くかかわってきた防災行政や地域防災に関して、減災に甘えてしまう世の中の風潮を改め、災害犠牲者をゼロにすることを目標に「減災から防災社会の構築」をテーマに研究や教育・啓発を続けています。災害に備えるため一人一人の想像力をいかに引き上げることができるか、さらに関係する組織としての想像力をいかに高めることができるかが大きな課題と考えています。

私たちの暮らしを取り巻く自然環境は、日本が近代化のため進めてきた産業の拡大、人口の増大に符合して大きく変化してきました。昭和の時代だけでも、都市近郊の土地利用の状況は大きく変わってきました。河川・海岸堤防の整備や下水道・排水設備の整備などにより、従来は住まなかった（住めなかった）軟弱な低地にも都市インフラの整備に伴い、宅地や産業施設が進出するようになりました。こうした市街地の拡大などの急速な環境変化によって、私たち自身が、その土地本来が持つ固有の災害脆弱性を認識し難くしてしまっています。

このことが災害など日常と異なった環境に遭遇した時に、どのような事態が進みつつあるのかなどを考える力、すなわち「想像力」を欠如させる大きな要因でもあります。専門家の想像力が働かないのは論外として、市民レベルでも災害や事故に対して身の回りでどのようなことが起きようとしているのかを考える力がどんどん低下してきていることを危惧しています。こうした環境の中、想定していた外力を超えた力が襲うと対応の余力の無さから一気に過酷な被害につながってしまう可能性があります。どのようにして克服するかが私の研究活動の大きなテーマです。



教員名：小杉素子

所 属：総合科学技術研究科・特任准教授

人々の生活の中の様々なリスクについて、社会心理学的な視点から研究をしています。特に、リスク問題について異なる利害や認知を持つ人々が、そのリスクの影響や被害の程度や範囲をどのように考え、社会全体やコミュニティとしてどのように対応・管理することが望ましいと考えるのかについて、意見を交換したり意思決定を行ったりするプロセスに着目しています。

2018～2019年度は、地球温暖化（気候変動）のリスクについて、一般市民を対象としたインターネット調査とグループインタビュー調査を行い、リスク認知やリスク管理に関する考え方について調べました。

インターネット調査では、2016年度から引き続き、日本人を地球温暖化に対する態度の特徴から以下の5タイプに分けられることを確認しました。警戒派：気候変動のリスクを最も高く評価し、気候変動は主に人間の活動により引き起こされたと考えている人々、懸念派：警戒派と似ているが、影響の実感が薄い人々、逃避派：気候変動のリスク認知が高いが同時に気候変動が疑わしいと思う程度も高い人々、無関心派：気候変動に対して関心が低く知識も少なく、明確な態度を持たない人々、懐疑派：気候変動に対して疑いが強く、科学者の間での意見の不一致があると考えている人々、です。これらの5タイプの人々は、関心や知識のレベルが大きく異なるため、それぞれの態度や価値観に応じた情報提供活動が必要と考えられます。

グループインタビュー調査では、5タイプのうち、警戒派、無関心派、懐疑派の3タイプに焦点を当て、それぞれの人々が具体的にどう考えているのか、なにを懸念しているのかななどを詳しく調べました。警戒派は地球温暖化の影響を自分の身に降りかかる現実的な脅威と考え、対策行動なども積極的にとっているのに対して、無関心派は地球温暖化に対して他人事で自分とは関係ない国際政治の議題の一つとしてしか認識していないことが分かりました。また、懐疑派は youtube など非伝統的なメディアからの情報を多く入手しており、そこから「温暖化はフェイクニュースだ」とか「地球は寒冷化に向かっている」という、新聞や教科書などの従来型メディアと相反する内容に接触して、判断が混乱している人々が含まれていることが分かりました。また、どのタイプの人々も、地球温暖化の対策としてCO₂を出さない緩和策は知っているが、既に起きている多方面の影響(健康影響、農業や水産への影響、水害や土砂災害、環境・生態系への影響など)への対策である適応策についてはほとんど知らないことも明らかになりました。

教員名：石井輝秋

所 属：客員教授

2018 年度及び 2019 年度は、主として研究航海に参加し、現場での試料採取・海底地質調査研究及びそれらの試資料に基く陸上での解析・研究を行っている。

2018 年度

YK18-08 2018/06/25-07/07

有人潜水艇「しんかい 6500」(=6K) の支援母船「よこすか」YK18-08 研究航海は、二研究グループの乗り合わせ航海で、乗船研究者は首席研究員田村芳彦(海洋研究開発機構) 以下 14 名である。2018 年 06 月 25 日(月) 父島二見港出港-07 月 07 日(土) 東京晴海入港の 13 日間に、前半の西ノ島海域で 2 回及び後半の南鳥島海域で 3 回(計画では 4 回) の 6K 潜航調査が行われた。前半の課題名は田村芳彦提案:「たいりくプロジェクト」「しんかい 6500」および ディープ・トゥによる土曜海山および海形海山の調査、後半の課題名は町田嗣樹(千葉工業大学) 提案: リソスフィア-アセノスフィア境界の進化 ~新たなダイナミックな固体地球の描像~で、プチスポット火山岩の採取及び海底地形・地質調査を行った。石井は後半の乗船研究者として参加した。

KH18-02 2018/07/13-07/23

研究船「白鳳丸」KH18-02 航海は 2018 年 07 月 13 日(金) 東京港有明 MP 出港-7 月 23 日(月) 鹿児島港入港の 11 日間に、四国海盆域で行われ、乗船研究者は主席研究員小原泰彦(海上保安庁) 以下計 24 名である。東京大学大気海洋研究所、平成 30 年度共同利用に採択された研究課題名は「四国海盆下リソスフェアとアスノスフェアの物質的な解明」でありドレッジによる岩石採集、海底地形・地質調査、地球物理マッピングが行われた。

KS18-09 2018/08/02-08/11

東北海洋生態系調査研究船「新青丸」KS-18-9 航海 (Kenkyusen-Shinsei-maru 2018 年第 09 次航海) は 2018 年 8 月 2 日(木) 宮城県石巻港出港-8 月 11 日(土) 石巻港入港の 10 日間に、東北沖東へ約 350km の海域で行われ、乗船研究者は主席研究員平野直人(東北大学准教授) 以下計 12 名である。東京大学大気海洋研究所、平成 30 年度「新青丸」共同利用に採択された研究課題名は「プチスポット火山活動分布が示すプレート変形構造」であり 5 回のドレッジが行われた。厚さ約 70km の太平洋プレート直下のアスノスフェア由来のプチスポット火山岩の、ドレッジによる採取、産状調査を主目的とする研究航海である。超深海(水深約 5700m) での爆裂火口(マール) を持つプチスポ

ット火山を発見した（図 1. 参照）。尚、航海の概要は下記の論文にまとめられている。
 記：「新青丸」KS-18-9 航海，プチスポット火山ドレッジ研究速報と展望－歴史的大
 発見：東北沖太平洋超深海底の爆裂火口（マール）－石井輝秋・金子 誠・平野直人・町
 田嗣樹・他 9 名、深田地質研究所年報，20，105～128（2019）.

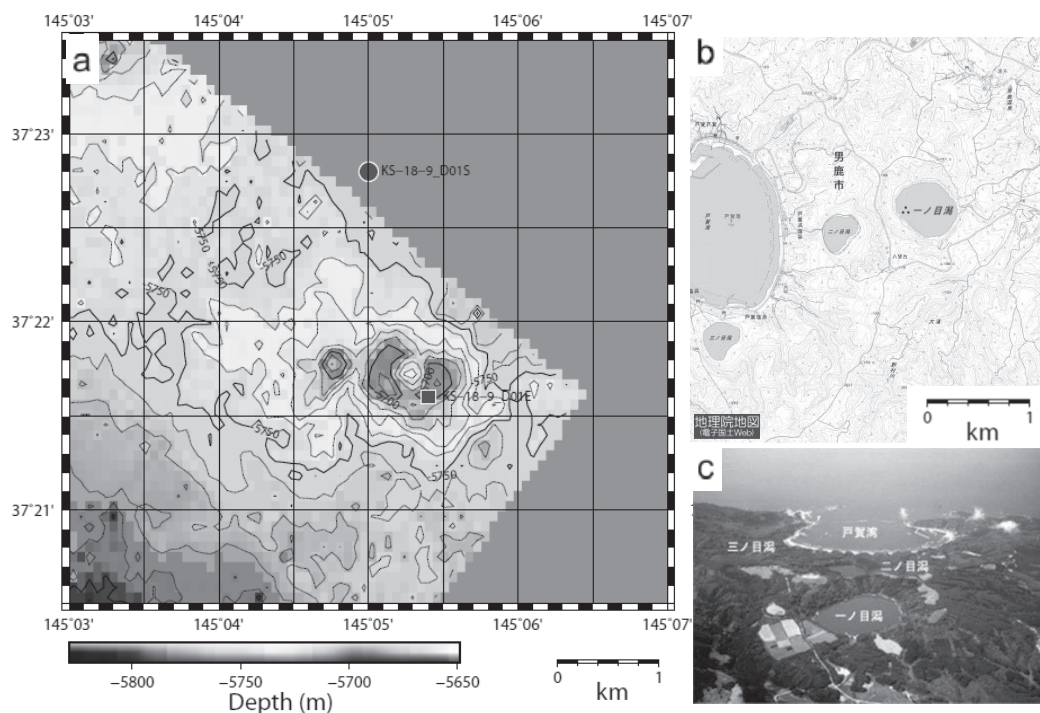


図 1. 水深約 5700m の超深海底の爆裂火口（図 a の中央部、馬蹄形の火口丘を有する）の地形は典型的マール（爆裂火口）とされる一ノ目潟の地形に類似する（図 b、c）。

2019 年度

YK19-5S 2019/04/19-04/28

有人潜水艇「しんかい 6500」（=6K）の支援母船「よこすか」YK19-05S 研究航海は 2019 年 04 月 19 日（金）父島二見港出港－4 月 28 日（日）横須賀追浜入港の 10 日間に、南鳥島海域で 3 回の 6K 潜航調査が行われた。乗船研究者は首席研究者町田嗣樹（千葉工業大学上席研究員）以下計 12 名、航海の研究課題名は「プチスポット火山活動から読み解くリソスフィア－アセノスフィア境界の実体とプレート変形過程」である。プチスポット火山岩の採取、海底地形・地質調査を行った。

以上の研究航海で採取された試料は現在解析中である。

教員名：岩崎一孝

所 属：客員教授・静岡大学名誉教授

地理情報システムを援用した防災研究を進めています。2019年3月までは、修士論文研究指導・卒業研究指導を通じて、防災研究を進めてきました。指導した修士論文・卒業研究名を示します。

2018年度静岡大学大学院総合科学技術研究科修士論文

泉 友太：「地名を利用した自然災害リスク分析」，2019年3月

2018年度静岡大学情報学部卒業論文

山本裕貴：「GIS を用いた浜松市における避難所の圏域分析 ―浜松市中心部の河川を考慮して―」，2019年3月.

高井佑真：「静岡県における外国人観光客の動態分析 ―交通の利便性に着目して 便性に着目して―」，2019年3月

小林元気：「GIS を援用した浜松市の交通事故分析」，2019年3月

小林飛文：「地理空間分析による地域の人口増減に影響を与える要因の研究 ―長野県東信地域を対象として―」，2019年3月.

また、2018年4月より、ふじのくに防災フェロー養成講座受講生（加藤恵一）を指導し、2020年3月、同氏をふじのくに防災フェローに認定することができた。

また、2019年3月16日、静岡県地震防災センター主催の**第116回ふじのくに防災学講座**において、「地震防災と地理情報 ―地理情報システム（GIS）とその地震防災への応用―」と題する講演を行った。

教員名：岩松 暉

所 属：客員教授・鹿児島大学 名誉教授

1. 桜島の大規模噴火に備える

桜島のマグマは 100 年前の大正噴火時とほぼ同量溜まっており、いつ大規模噴火が起きてもおかしくない状況という。鹿児島大学地震火山地域防災センターでは、大規模火山噴火にレジリエントな地域社会の実現をめざして、地方自治体や民間コンサルタントも巻き込み、いくつかのワーキンググループを設置して取り組んでいる。筆者は交通ワーキンググループに属し、大量降灰時の避難や復興について検討を行い、報告書を公開した。その一環として、国土交通省大隅河川国道事務所および鹿児島市危機管理課のご協力の下、桜島において、軽石上での車輛走行実験を実施した。その結果、2 輪駆動車は走行不能と分かった。メディアで報じられたため、火山災害の実情の一端がリアルに認識されたのではないかと考える。



立ち往生した消防自動車

軽石上での車輛走行実験を実施した。その結果、2 輪駆動車は走行不能と分かった。メディアで報じられたため、火山災害の実情の一端がリアルに認識されたのではないかと考える。

2. ウェブ補講

地方大学は危機的状況にある。運営費交付金の削減に伴い、定年教員の後は機械的に不補充だから、人数が半減した上に分野もアンバランスである。鹿児島大学は 2020 年度より理学部理学科と 1 学部 1 学科制になった。そこで側面支援を兼ねウェブ補講を行うことにした。かつて研究機関同士の専用回線が敷設された際、日本の大学研究室のホームページ第 1 号として「かだいおうち」（鹿大応用地質学講座の愛称）を開設したことがあり、歴史的価値を有するとしてアーカイブされていたので、これを再開したのである。今回は少しレベルアップして Advanced Course と銘打ち、大学院前期課程程度を读者対象とした。地図情報の公開も進んだので、Web-GIS もフル活用してみた。内容は、Future Earth などの総論および地質・地形・火山・地震・自然災害・土木地質・その他からなる。テーマ数は約 250、単行本 1~2 冊分の分量にはなろう。アーカイブされているオリジナル版を加えると倍になる。結果的に鹿児島の自然災害史にもなっており、どうも学生・院生よりもメディアによく利用されているようだ。毎日のアクセス数は 100 件程度である。



<https://www.sci.kagoshima-u.ac.jp/oyo/advanced/>

教員名：大谷栄治

所 属：客員教授・東北大学名誉教授

研究：地球内部の水素、水の循環を解明するために中性子線や放射光 X 線を用いた高温高压実験をおこなった。写真 1 は、中性子実験施設 J-Parc において、高压装置「圧姫」を用いて、実験を行っているところである。この実験によって、高温高压下での金属鉄中の水素の存在状態、存在量を解明した。これらの実験とともに、隕石や NASA から借りた月資料中の衝撃をうけて生成した高压鉱物の研究、ノボシビルスク大学の研究者とダイヤモンドに含まれる微小な高压鉱物の研究を行った。



外部委員会における活動：外部委員会の活動として、学術会議連携会員としての活動、宇宙開発機構（JAXA）のはやぶさ II キュレーション委員会の委員として、はやぶさ II 回収試料の分配と処理について議論した。写真 2 は JAXA のキュレーションラボ視察時のスナップである。



アウトリーチ活動：地球惑星の科学のアウトリーチのために、仙台市天文台などにおいて、ブレインサポーター（アドバイザー）として、展示のアドバイス、評価をするための活動をおこなった。また、市民講演会の講師を引き受け、市民に惑星探査や地球内部のダイヤモンドなどの話題で講演会を行った。写真 3 は、2018 年 1 月 23 日に仙台市天文台でおこなった、はやぶさ II についての市民講演会のスナップである。



海外共同研究：バイロイト大学、ノボシビルスク大学、台湾中央研究院の研究者とそれぞれ、地球内部物質の高温高压相転移の研究、ダイヤモンド中の微小包有物の研究、高温高压鉱物の熱伝導率の測定による地球内部の熱履歴の研究を継続した。

教員名：風間 聡

所 属：客員教授・東北大学 大学院工学研究科土木工学専攻 教授

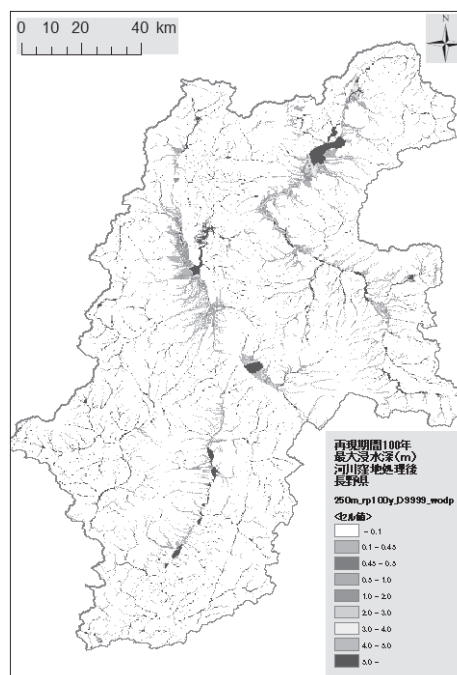
防災に関して下のような内容の研究を行っています。主に川に関するものです。

1. 気候変動に伴う水災害リスクの推定

環境研究総合推進費 S-18 の活動において、気候変動による日本の水災害被害額を推定し、その適応策を評価しています。複数の気候モデル (GCM) と温暖化シナリオ (RCP) から得られた気象データを、外水と内水の洪水氾濫モデルに入力して、再現確率に応じた各被害額を治水経済マニュアル (案) に従って計算します。そして、河道掘削や貯留などの適応策を考慮したモデルによって効果を評価します。

2. 令和元年東日本台風の洪水の災害調査

宮城県北部の中小河川を中心に、破堤地点の調査を実施し、その報告をまとめました。宮城県では国管理河川 1 か所、県管理河川 36 か所が破堤し、南部を中心とした山地河川洪水と北部に見られる平地河川洪水で性質が異なります。地方の河川は治水水準が十分でなく、整備水準も低く、観測機器の更新も進んでおらず、リスクは年々高まっています。



3. 海外の水災害研究

ジャカルタの洪水について気候変動、都市化の影響を見るとともに、建物緑化による気候緩和と洪水適応の効果を数値モデルによって評価しています。タイにおける斜面災害のリアルタイム評価や被害額推定、将来評価など、国内で培った技術移転を進めています。また、ラオスの水害リスクの将来予測も行っています。異なる条件下の災害を知ることから、地元の対策に反映されていないリスクを把握することができます。

数値計算による長野県の氾濫水位 (m)

4. 秋田県米代川流域の洪水予測精度の向上

高精度な分布型物理流出モデルを開発しています。特に融雪出水の研究を進めています。森吉山において積雪観測を実施し、山岳域の積雪分布の推定精度の向上に努めています。多くの融雪出水モデルはピーク流量の推定に問題がありますが、降雨パターンの解析やモデルの性質などをモデル定数に反映させることによってモデルの改善を目指しています。

教員名：狩野謙一

所 属：客員教授・静岡大学名誉教授

諏訪盆地周辺の第四紀テクトニクス

最近 5 年間は、諏訪盆地周辺の第四紀テクトニクスと糸魚川-静岡構造線(糸静線)の活動との関連について、本学理学部地球科学科第 2 期卒業の宮坂 晃氏と共同研究を行っている。これまでに 3 編の論文(宮坂・狩野, 2015, 2017; 狩野・宮坂, 2018)を地球科学研究報告に投稿・公表しており、それらは「静岡大学学術リポジトリ」、「地球科学研究報告」のキーワードでダウンロードできる。この一連の研究では、諏訪盆地周辺に分布する前期更新世の塩嶺累層とその同時代層の対比に基づいて、盆地周辺が前期更新世後半以降に活発な火山活動と地殻変動を経験してきたことが議論されている。そのなかで、諏訪盆地の形成開始は従来の見解である 150~130 万年前よりは新しく、80 万年前以降に活発化したことが明らかに成り、盆地は短期間に形成されたことが示された。この活動は、日本で最も直下型地震のリスクが高いとされる現在の糸静線活断層系に引き継がれている。現在、第 4 報(狩野・宮坂, 2020)が編集・印刷中である。

富士川河口断層帯の最近 100 万年間のテクトニクス

駿河トラフから連続するプレート境界の陸域を構成する富士川河口断層帯とその周辺について、既存の文献資料と我々の地表での地形・地質調査をふまえて、概要をまとめた(狩野ほか, 2019)。その結果、本断層帯周辺の地質構造・地形の大枠は中期更新世に生じた活発な地殻変動によって形成されたことが明らかになった。この活動は現在にも引き継がれている。なお、関連してこの地域で実施された反射法地震探査によるプレート境界から地殻表層までの地下構造探査結果については、再検討作業を行い、現在とりまとめ中である。

この富士川河口断層帯を含めた、静岡周辺の活断層・地震断層に伴う直下型地震の災害履歴とリスク評価を、「静岡の大規模自然災害の科学」の中の一章としてまとめた。

伊豆半島の金鉱床の形成史

金鉱床は伊豆半島の重要な資源であったが、最近はほとんど注目されていない。この金鉱床について、地球化学的・構造地質学的な立場から既存文献を再検討し、その形成過程を考察した(Hattori & Kano, 2018)。それによると、金鉱床の大部分は 100 万年前以降に、プレート沈み込みによる引張による大型の陸上複成火山活動に伴う地表付近での熱水活動と雨水の影響を受けて形成されている。この結果は、金鉱床の成因に対しての最新地質時代における事例を提供するとともに、伊豆半島ジオパークの構成要素の知見としても重要である。

教員名：小林 淳

所 属：客員教授・静岡県富士山世界遺産センター 学芸課 教授

2019年4月より、静岡県富士山世界遺産センターに勤務し、同年8月に静岡大学防災総合センターの客員准教授を拝命しました。専門は、火山地質学、第四紀地形地質学であり、火山の地形地質に立脚した噴火史研究と防災の取り組みを進めたいと考えています。

1. 基本的な研究の取り組み

火山の地形や噴火による噴出物とその積み重なり等を詳細に観察することによって、火山の噴火史とその生い立ちを年表として明らかにすることを目指しています。派手な研究ではありませんが、現地で取得した地質データを一つ一つ積み上げることによって、個々の噴火の推移やメカニズムの復元につながります。このような研究は、火山の長い寿命の中での今の火山のクセを把握し、来るべき将来の噴火への備えの一つとして、ハザードマップや噴火シナリオの構築等に資する貴重な研究と考えています。

その中で、私が現在進めている研究は以下になります。

- 箱根山の中央火口丘期（特に最新期活動による水蒸気噴火）の噴火履歴の精緻化等
- 富士山の活動拡大期における噴火実績と時空間分布の解明
- 伊豆諸島北部火山群の噴火履歴の精緻化
- 上記地域における噴火活動の関連性とそれに作用するメカニズムの検討

2 富士山に係る研究の取り組み

富士山周辺（特に静岡県域）における自然ハザードの精緻化と地図化、並びに、富士山の火山学の向上と防災教育への活用等を目指して、高精度地形データを利用したハザードに係る地形の判読を進めています。特に、富士山周辺のみちの変遷に、富士山噴火が与えた影響を検討するために、歴史噴火に係る地形判読とともに噴火堆積物の層序・分布等の調査を進めています。このほか、宝永噴火を事例に、その噴火推移を物質科学的な観点から補強するために、噴出物の有効な識別指標を得るための研究を進めています。

3 期間中の主な活動、主な発表

- 富士山火山防災協議会 構成機関（静岡県富士山世界遺産センター）
- 箱根山火山噴火緊急減災対策砂防計画検討委員会 委員
- 観光まちづくり支援アドバイザー（派遣先：神津島観光協会）（東京観光財団）
- 静岡県ふじのくに防災士フォローアップ研修：火山ハザードマップの見方・読み方について（静岡県危機管理部：2020年2月2日）
- International Workshop on the mechanism of Phreatic Eruption: Phreatic eruption history at the latest stage of Hakone Volcano、 January 2020.

教員名：佐藤 健

所 属：客員教授・東北大学災害科学国際研究所 教授

工学の都市・建築学をバックグラウンドとしながらも、教育学や社会学、経済学、地理学、医学などとの学際的研究に積極的に取り組み、学際融合による新しい研究成果の創造と、その社会実装による減災社会の構築を目指しています。

◎ 持続可能な防災活動のロールモデルに関する研究

まちづくり活動の中に防災活動を位置づけ、多様な人材の参画と若い人材の育成に取り組む地域コミュニティに着目し、持続可能な防災活動のロールモデルについて探究しています。特に、京都大学防災研究所地域防災実践型共同研究（特定）「持続可能な防災まちづくりと防災人材育成に関する研究（2018.4～2020.3）」に研究代表者として取り組みました。

- Takeshi Sato, Aiko Sakurai et al.: Sustainable Community Development for Disaster Resilience and Human Resources Development for Disaster Risk Reduction – Katahira-Style Disaster Resilient Community Development -, Journal of Disaster Research, Vol.13, No.7, pp.1288-1297, 2018.
- 佐藤 健：持続可能な防災まちづくりと防災人材育成に関する研究，第 56 回自然災害科学総合シンポジウム講演論文集，pp.45-52，2019.

◎ 防災教育を中心とした包括的学校安全に関する研究

東北大学災害科学国際研究所「防災教育国際協働センター」の研究者ネットワークを生かし、防災教育モデルの開発と実践、評価、さらには社会実装に取り組んでいます。また、学校と家庭・地域が連携した包括的学校安全の推進モデルを探究しています。

- 佐藤 健：レジリエントな学校づくり，大修館書店，2019。（4.5.学校再開・学校環境に及ぼす影響を分担執筆）
- 佐藤 健・桜井愛子：学校と地域との協働に基づいた防災教育教材の創造—大崎市立岩出山小学校の実践事例—，安全教育学研究，Vol.18, No.1, pp.83-91, 2019.

◎ 防災人材育成モデル

自主防災活動の活性化と従来の防災リーダー養成のあり方の双方の課題解決に向けて創設された仙台市地域防災リーダー（SBL）に焦点をあて、平常時からの地域に根ざした活動状況の分析とそのロールモデルを探究しています。

- 佐藤 健・柴山明寛・桜井愛子・増田 聡：仙台市地域防災リーダーによる地域に根差した防災活動，第 15 回日本地震工学シンポジウム論文集，pp.3059-3064，2018.
- T. Sato, A. Sakurai et al.: Place-Based Activities of SENDAI BOSAI Leaders (SBLs) for Disaster Risk Reduction, 17th World Conference on Earthquake Engineering, 2020. (accepted)

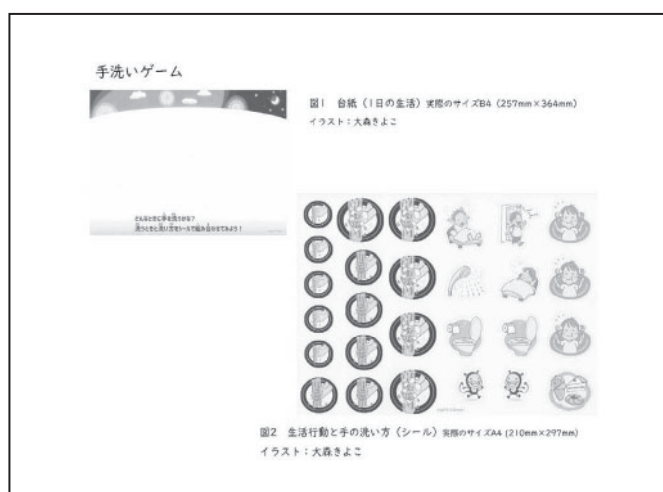
教員名：鈴木清史

所 属：客員教授・日本赤十字九州国際看護大学・大学院教授

科学研究費の助成を受けて「自己啓発型ヘルス・コミュニケーションツールの開発と評価」の研究を行ってきた[平成 28[2016]年～平成 31(令和元)[2019]年度、基盤研究 (C) 課題番号 16K01298 (研究代表)]。

本研究の目的は、幼児から初等教育課程の低学年児童のヘルス・リテラシ向上をめざすコミュニケーション・ツールの開発と、その汎用性を高めるための基礎研究の展開であった。めざすツールは、文字情報依存度を低くしながらも、視覚的訴求力と連想、情報の交換伝達力を持ち、参加者が楽しみながら保健や健康の意味を学べ、最終的には健康生活の実践につながる自己啓発型教材である。研究のフィールドはパキスタンとした。

研究最終年度に「手洗いシール」ゲームを制作した(図 1 と 2)。図 1 は B4 サイズで、左から右にかけて 1 日の移り変わりを示している。図 2 は A4 サイズで、27 のイラストは左側に手洗いを、右側には 1 日の主な活動がシールとなっている。イラストの大きさに手洗いの程度(丁寧さ)が示されている。



台紙とシールを1組として、ゲームに参加する児童一人ずつに配る。そして、児童は起床から就寝するまでの間の行動ごとにどのような手洗いをしているのかの組み合わせを台紙(図1)に貼っていく。できあがったら、別の児童と話し合いを持ち、意見交換を通して自他間の相違や類似を話し合い、日常活動ごとの望ましい手洗い行動を学べるようにした。

「手洗いシール」は、研究地のパキスタンだけでなく、台湾とタイ王国の看護教育に従事する研究者からも評価を得る機会をもった。そこでは、シールやゲームの運営の仕方は明快で分かりやすく、国や地域での年少就学児童にも受容してもらえらるだろうという評価がもたらされた。一方で、これらの国や地域では、一日の食事の大半を外食で済ますこともあり、食事ごとの手洗いが生活習慣として定着しているかどうか(あるいは、するかどうか)は不明だという指摘も受けた。

2020年にはCOVID-19の感染拡大という、ある種の災害のなかで手洗いの重要性が再発見されている。「手洗いシール」ゲームも当初の想定を超えた役割を果たせるかもしれない、とわたしたちは自己評価をしている。

なお、このゲームのイラストは、静岡大学人文学部(当時)社会学科を卒業し、イラストレーターとして活躍している大森きよこさんによるものである。

教員名：千木良雅弘

所 属：客員教授・公益財団法人 深田地質研究所 理事

岩盤の重力による変形と、深層崩壊について研究を進めた。フィールドは、日本の西南日本外帯、中国眠山山地、ネパールヒマラヤ、台湾、スイスである。スイス以外の地域で、河川の侵食が上流に波及することによって斜面が不安定となり、山体が重力によって変形し、場合によっては深層崩壊に至ることが明らかになった。また、後掲する斜面災害について調査し、その結果を主に京都大学防災研究所ホームページの災害報告に掲載した (https://www.dpri.kyoto-u.ac.jp/disaster_report/)。その他 2015 年マレーシアサバ地震によるキナバル山の落石調査を行った。地質災害研究の導入的な書籍として、「災害地質学ノート」を執筆した。2018 年と 2019 年に Malaysia-Japan International Institute of Technology で Geohazards の授業を行った。

災害調査関連

2019 年台風 19 号 富岡市匠 宮城県丸森地区 相模原市緑区牧野の斜面崩壊

2018 年胆振東部地震

2018 年西日本豪雨災害 ヘリ調査結果 広島 of 斜面崩壊調査結果

教員名：中川和之

所 属：客員教授・時事通信社解説委員

2020年3月末をもって、12年間続けた日本ジオパーク委員会(JGC)の委員や調査運営部会員の任期を終え、審査で結論を出すという厳しい業務から開放されました。委員会発足時の5学会(地質、地理、第四紀、火山、地震)の中で、支援組織発足が2017年と最も遅かったのが(公社)日本地震学会で、当時の尾池和夫 JGC 委員長から叱咤激励されていたのですが、JpGUの際に専門員らを対象にした地震学の勉強会を開催、防災科研と連携しての「地震だねっと!」の構築、秋季大会と連動したジオパーク巡検の実施など、各地のジオパークの現場を支える活動を行ってきました。いまは、広く関係学会が連携してジオパークを支える仕組み作りを目指しています。

2020年1月には、阪神大震災をきっかけに行われてきた世界語り継ぎフォーラムで、「ジオパークと語り継ぎ」分科会の共同座長を務めました。人の記憶だけでなく、大地の記憶をどう読み解いて災害被害の軽減に役立てるか、世界ジオパークネットワーク副会長のコモオ氏(伊豆半島ジオパークの世界審査を担当した方)と共に幅広く議論をし、ジオパークの外側に経験をつないでいくことが重要という共通認識を得ました。

2019年度に研究分担者として申請していた科研費の基盤研究(C)が採択されました。日本地球惑星科学連合(JpGU)の2017年大会で発表した、熊本地震前の地元小学校の理科教育をテーマに「断層教育がもたらした地震に立ち向かうエネルギー」というポスターに着目していただいた研究者から誘われたものです。「断層の存在を教わっていたことを再発見した」ことによって、前に向けた若者やその保護者の経験談を、きっちりデータ化するお手伝いをするつもりです。

いずれの活動も、大地の理(ことわり)を知っていることの意味をきちんと位置づけたという阪神大震災以来の私のテーマです。

2014年から、総務省消防庁のお手伝いでベテラン災害記者たちと続けているトップセミナー用研修資料が、消防庁の防災・危機管理eカレッジでようやく公開されました。災害を経験した首長たちが、その時に何を考えたのかの生々しい経験談や、全国の首長仲間へのメッセージは、ずっしり重たい内容になっていると思います。

<https://www.fdma.go.jp/relocation/e-college/senmon/cat2/cat3/post-1483.html>

教員名：林 拙郎

所 属：客員教授・三重大学名誉教授

土砂災害が注目されるようになって久しいが、地震災害を除くとその多くは豪雨によるものであり、豪雨との関連に関する研究は重要になっている。これまで、気象学的な豪雨の分類や定義はなされていないようであり、気象を応用する立場からは漠然と用いられることが多かったようにみられる。しかし、豪雨の用語は、学術以外においても新聞などで災害との関連で使われることが多く、豪雨災害論の立場からも有用な考察が必要である。ここで、豪雨の特徴を気象学的な成果と既往の豪雨災害の研究とを結びつけ、時間的・活動的な面から豪雨災害論へのアプローチとすることは重要な第一歩である。

そのために豪雨とは何か、という一般的問いには答えにくいにしても、土砂災害を発生させた豪雨の時間的特性や活動的特性については、発現した現象から調べるのが可能である。当該研究員は、これまで地域雨量 R_{12} を用いて豪雨度 H を提案し、土砂災害を発生させた豪雨の評価法を示した。現在、土砂災害の発生した豪雨を対象として、主に時間的発現現象（豪雨の継続時間、豪雨の雨量強度など）から豪雨の時間的・活動的特性について検討し、豪雨による土砂災害の体系化を行っている。

教員名：藤岡換太郎

所 属：客員教授

防災総合センターには2020年4月から所属。最近の研究活動として、海洋では相模湾の火山、地震、テクトニクスなどについて調査船による調査の結果を解析してきた。結果は学会での発表がある（2018年の地質学会）。

論文にはしていないが海底の熱水鉱床、特に沖縄トラフの熱水系の成り立ちについて考えてきた。陸上に関してはかねてより考えてきたフォッサマグナの成り立ちについて現地調査などを踏まえて一つの結論を出し、2018年に講談社からフォッサマグナを上梓した。

今後の研究展望としては、災害について考えることである。主として日本列島に過去に起こった自然災害についてその原因を考えることである。

教員名：森下祐一

所 属：客員教授

金属鉱物資源の成因解明研究において、鉱床が生成するマグマ-熱水系では岩石や流体における元素の移動や同位体比の変化などの現象が見られる。マグマ-熱水系で生成した鉱脈型鉱床は熱水から断層中へ鉱物が沈殿したものであるため、それら過去の現象を解析した知見が現在の地質や防災に適用できる可能性がある。

硫化鉱物中に光学的に見えない形で存在する「見えない Au」は結晶格子中に存在する Au イオンまたは 100nm 以下の 0 価の Au (ナノゴールド) として産出する。二次イオン質量分析装置 (SIMS) を用いた微小領域定量分析により、低硫化型の菱刈鉱床において黄鉄鉱の 3 ミクロン領域での Au とヒ素(As)の定量値の正の相関から Au の沈殿メカニズムを考察した (Morishita et al., 2018) が、今期は以下の鉱床での分析値を菱刈鉱床と比較した。

高硫化型の南薩型金鉱床では黄鉄鉱中の Au と As は菱刈鉱床より低い範囲にある。南アフリカの縞状鉄鉱層(BIF)に胚胎する Au 鉱床では黄鉄鉱と磁硫鉄鉱中の As 濃度と Au 濃度はいずれも低かったが、磁硫鉄鉱中の Au はしばしばナノゴールドとして存在していることが明らかになった。世界最大の産金地域である南アフリカヴィットウォーターランド盆地の Au 鉱床では、黄鉄鉱中の As 濃度と Au 濃度はいずれも低かったが、比較的大きな範囲をとる。これらは黄鉄鉱形状の円摩度との相関が見られ、礫岩が堆積した後の熱水活動により Au-As 濃度が改変したものと結論づけた (Morishita et al., 2019)。

これまで行ってきた研究はフィールドワークにおける地質の観察を基盤とするが、それらの知見には熱水系、熱水変質、断層などが含まれる。研究過程で取得してきたこれらの知見は静岡県環境影響評価審査会において、地形及び地質に関する事項についての審議の中で土地の安定性などの評価に活用されている。

また、静岡県中央新幹線環境保全連絡会議の地質構造・水資源専門部会における審議の中で、これらの知見とこれまでの経験が活用されている。

教員名：山崎 登

所 属：客員教授・国士舘大学 防災・救急救助総合研究所 教授

【社会で防災の取り組みを引っ張ることができるリーダーを育てる】

災害や防災を担当する NHK の解説委員の後に勤務している国士舘大学は防災教育に力を入れている大学だ。2000年（平成12年）に体育学部にはスポーツ医科学科を設置し、4年生の大学として初めて救急救命士の国家試験受験の資格を取得できる教育をはじめた。そこが母体となって東日本大震災では宮城県石巻市などの被災地に学生ボランティアを派遣したり、東京の避難所で被災者支援などの活動を行った。そして2012年（平成24年）に防災や救急救助の専門知識を持ち、様々な組織や企業、それに地域でリーダーとして活動できる人材を育てようと防災・救急救助総合研究所が設置された。

現在は全学部の希望者を対象に、地震や台風などのメカニズムや住宅の耐震化や災害情報などの防災の基礎的な知識を学ぶ「防災リーダー養成論」に加えて、AEDの使い方や避難所の運営方法などを実際に経験して身につける「防災リーダー養成論実習」を実施し、受講した学生には、防災士の受験資格を得ることが出来るようにしている。防災は知識を身に付けるだけでなく、それを実践に生かすことが大切だからだ。受講生は昨年度は1000人以上いて、年々増える傾向にある。また学生たちはボランティア活動への関心も高く、一昨年西日本豪雨や熊本地震などの被災地にかけた。



西日本豪雨の被災地での学生のボランティア活動（愛媛県西予市）

2018年（平成30年）に防災リーダー養成論を受講した学生と受講していない学生を比較するかたちで、防災や減災に対する意識の違いを調べた。その結果、受講した学生のほうが日頃の生活で防災や減災を「意識するようになった」「とても意識するようになった」の割合が高かった。また今後の災害でボランティア活動への参加を希望するかと聞いて

た調査でも、受講した学生のほうが「思った」「とても思った」の割合が高い値を示した。

防災教育は自然災害と縁がきれない日本で、自然と折り合いをつけながら、生きていく力を身につけることにつながっている。こうした防災教育を全国の大学や高校などに広げ、将来、それぞれの企業や様々な施設、それに全国の地域社会で防災リーダーになれる人材を一人でも多く育て、この国の防災の裾野を広げていきたい。

教員名：矢守克也

所 属：客員教授・京都大学防災研究所 教授

ここ数年、災害情報、防災教育、地域防災など、広い意味で災害リスクコミュニケーションに関する研究を自分自身で、また共同研究として進めてきた。具体的には、津波避難訓練支援アプリ『逃げトレ』の開発と社会実装、豪雨災害における避難行動に関する「避難スイッチ」と「セカンドベスト避難」の提唱と社会実装などである。

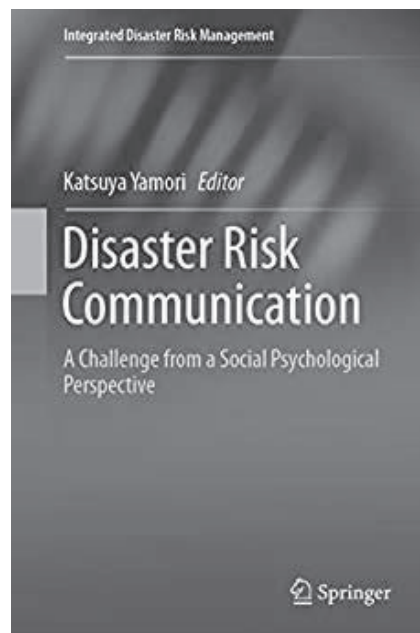
上述の研究群のベースとなる研究として、それよりも以前の時期に、「個別避難訓練タイムトライアル」の開発と社会実装、防災ゲーム「クロスロード」の水平展開、土地のローカリティ特性を反映した「地域気象情報」を住民・行政・専門家が一体となって作る活動、学校に最新鋭の地震計を設置して観測網の稠密化を図るとともに学校防災教育にも役立っている「満点計画学習プログラム」などを実施した。これらの成果について、本年（2020年）、英語で集約した書物を

Springer社から出版した。タイトルは「Disaster Risk Communication: A Challenge from a Social Psychological Perspective」である。

筆者の独断かもしれないが、日本における人文・社会系の防災・減災研究の水準は、世界的に見ても非常に高い。にもかかわらず、言語の壁もあって、国際的な舞台では、その成果は十分に知られておらず、残念ながら評価もあまり高くない。本小著が、そうした状況に風穴をあけるためのささやかな一歩になればと願っている。

なお、上述の『逃げトレ』は、幸い好評をもって社会に迎え入れていただき、広くご利用いただいている。無料でDLしてご利用いただけるので、まずは、下記の公式WEBサイトを参照いただければ幸いである。

* 『逃げトレ』公式WEBサイト→<https://nigetore.jp/>



教員名：吉田明夫

所 属：客員教授

江戸時代、箱根カルデラの西側外輪山を貫通する灌漑のための深良用水が作られて以来、神奈川県内にある芦ノ湖の湖水の利水権は静岡県に属するとされてきた。このことは、神奈川県側で長年、問題とされてきたが、特に、箱根温泉水の起源に関する古典的な論文 (Oki and Hirano, 1970) で、強羅地区から湧出する温泉水のかなりの部分は、芦ノ湖の湖水がカルデラの中央火口丘を通ってくる間に温められたものであるとされたことから、箱根温泉の保全とも関わって湖水の利水権についての懸念が持たれた。

今年3月に *Hydrology* 誌に掲載された芦ノ湖の水収支に関する論文：

Itadera, K and A. Yoshida, Water budget of Lake Ashinoko — Origin of Hakone thermal waters—, *Journal of Hydrology: Regional Studies*, 28, 100682, 2020.

で、私たちは、芦ノ湖の湖水は中央火口丘を通過して東側に流れてきてはいないことを示した。さらに驚くべきことに、芦ノ湖の集水域である中央火口丘西側斜面への降水の大半は芦ノ湖に流れ込まずに、山体内に浸透していることが明らかにされた。集水域からの蒸発散量を差し引いても、中央火口丘への降水の凡そ4割が山体内に浸み込んでいると推定される。上掲論文では、山体内に保留された雨水は温められて東側斜面に流出する温泉水の源になっているほか、大涌谷や早雲山からの噴気となり、更には箱根火山の活動時に観測される群発地震の原因ともなっているという考えを提出している。現在、次の研究課題として、温泉の分布域と群発地震の活動域との間に、なぜ空間的相補性がみられるかについて考察している。

教員名：渡辺俊樹

所 属：客員教授・名古屋大学大学院環境学研究科教授

地震波を用いて地球の内部を「見る」研究を行っています。防災に関連する研究では、地震や火山活動が起きる場所がどのようになっている、なぜ地震・火山噴火が起きるのかを理解するために、まず、そこを「見て」構造や状態を明らかにし、さらに、現象が発生するまでのプロセスを「監視する」ことを目指して研究をしています。

本センターの狩野謙一客員教授をはじめとする研究グループで、富士川河口断層帯の構造や成因、活動履歴を解明する調査研究を実施しています。その一環として、2013年度には南アルプス南端部において観測点数 33 点、4 ヶ月間の自然地震観測を実施しました。多数の観測点を配置して観測した遠地地震や深発地震の波形情報から、地殻内～プレート境界で反射・変換した波形情報に着目してデータ処理によって抽出し、観測地域西側でプレート境界からの反射波を検出しました。この反射波は測線の東側では見えなくなりますが、伊豆弧の衝突による影響であろうと考えています。

2015 年度には富士川河口断層を構成する大宮－入山瀬断層を対象として、星山丘陵を中心に富士市および富士宮市に 60 点の地震観測点を設置し、2015 年 12 月から翌年 4 月まで約 4 ヶ月間の地震観測を実施し、連続地震記録を取得しましたが、観測期間中に発生した地震が少なく、今のところ信頼性のある地下構造を推定することはできていません。

2019 年度には首都大学東京（現在は東京都立大学）の離島の総合防災の研究プロジェクトの一環として、八丈島において計 46 点の地震観測点の設置に協力し、7 ヶ月間の地震観測を実施し、連続地震記録を取得しました。このデータを用いて、火山島下の地震波速度分布の推定と、微小地震の震源の精密決定、散乱体構造やそのモニタリングなどの解析を行っています。

本センターの副担当の生田准教授らとともに、人工震源装置を用いた断層・地表・地殻内部の構造および状態のモニタリングの研究を実施しています。

教員名：井ノ口宗成

所 属：客員准教授・富山大学 都市デザイン学部

2018年より本センターの客員准教授として着任いたしました。情報学を基礎として、災害情報や生活再建支援のあり方の研究、災害時に実施すべき業務分析を通して災害時行動マニュアルの策定等を進めています。その中でも、最も重点的に研究している分野は、被災者生活再建支援における情報システムの活用方法と効果的な業務実施モデルの構築です。

2018年には大阪北部地震、西日本豪雨災害、北海道胆振東部地震が発生しました。2019年には新潟・山形沖地震に始まり、台風15号・台風19号が発生しました。私たちの研究チームでは、効果的かつ合理的な被災者生活再建支援を実現することを目的として、主に以下の2つについて、被災地の中で活動しながら実装し、行政を支援しました。

- ドローンを活用した迅速な屋根被害の把握と被災者への還元

2019年新潟・山形沖地震では、被災地である村上市では一部損壊の家屋が多いものの、その被害は屋根に多く発生していることが推測されました。そこで、ドローンによる空撮を実施し、空撮画像からオルソ画像を作成し、屋根被害の発生場所を特定するとともに総量を迅速に把握しました。この結果は、クラウド型GIS上で被災自治体である村上市と共有し、被害状況に応じた支援策の検討に活用されるとともに、被災者からの要望に応じて各戸の屋根被害状況を提示しました。前者においては、村上市では一部損壊であっても屋根の修繕費を支援する独自の支援策を立ち上げ、これに貢献しました。後者においては、被災者自身の安心感につながるとともに、屋根の修繕の必要性を自身が把握することで修繕が進み、復旧・復興の後押しとなりました。

- 空間解析技術を活用した建物浸水の被災程度の一括認定

2018年西日本豪雨災害の被災地である岡山県倉敷市において、住家の浸水被害状況を効率的に把握するために、浸水深のサンプリング測定とGISを活用した空間解析による浸水深の推定を実施しました。2019年3月には内閣府が示す住家被害認定調査指針において、外力のある浸水により面的に被災した場合は、当該領域を一括して被災度を判定する旨が示されました。これは、倉敷市で実施した方法を住家被害認定調査に適用できるものでした。2019年台風19号の被災地である福島県郡山市においては、一部の地域に限定しましたが、前述の方法を用いて建物の浸水による被災度を一括で認定しました。この方法ですが、空間解析による想定浸水深に一定の傾向が見られず、大きなばらつきが発生する地域もありました。そのため、安定的な想定浸水深が導出された地域に限定して適用しました。この手法が適用されたことで、郡山市では迅速な住家被害認定調査が実現され、被災者の生活再建支援の迅速化に貢献できたと考えています。

教員名：菅原大助

所 属：客員准教授・東北大学 災害科学国際研究所 准教授

地質学的手法による古地震・古津波のほか、数値シミュレーションによる津波土砂移動解析に取り組んでいます。2018～2019年度は、科研費による静岡県内の海岸地形・津波堆積物調査のほか、メキシコ国立自治大学との学術交流による津波堆積物調査（メキシコ・ゲレロ州、2019年1月）、四島交流事業による津波堆積物調査（色丹島、2019年7月6日～7月14日）などに取り組みました。特に色丹島の調査では、島内の数箇所で掘削を行い、津波堆積物の可能性のある地層の分布や特徴に関するデータの収集を行いました。また、台湾の研究者2名との共同研究として、1867年の基隆地震の断層モデル推定に関する論文が、*Journal of Geophysical Research: Earth Surface*に掲載されました。これは、現地で発見された津波堆積物に基づく土砂移動数値解析により、地震断層の位置と滑り量を定量的に評価したものです。2020年3月からは東北大学災害科学国際研究所に異動となりました。今後も引き続き、東北地方をはじめとする国内外で、古地震・古津波の調査研究に取り組んでいく予定です。



色丹島合同調査団(後列左から2番目が筆者)



ゲレロ州津波堆積物調査

教員名：楠城一嘉

所 属：客員准教授・静岡県立大学グローバル地域センター地震予知部門総括・特
任准教授

静岡県のリスク軽減のために、将来の地震や地殻変動に見通しを立てるという目的をもって研究を行っています。併せて、防災施策への提言や防災知識の普及を図る活動を実施しています。

例えば、大小の地震発生割合に注目した断層監視に有効な手法を開発して、カリフォルニア州の地震に応用する研究を実施し、その成果を英科学誌「ネイチャー・コミュニケーションズ」で発表しました¹⁾。今後この手法を改良することで、火山群や富士山の地下の監視などにも応用が期待できると考えています。国内外のメディアを通して報道されており、「こうした情報を知り、改めて日頃の防災の備えを確認してほしい」と訴えました。

また、地震防災の啓発を目的とした活動では、県内各地をめぐる出前講座「静岡で知っておきたい地震と火山と防災」を企画運営しています²⁾。身近な自然の尊さを再確認する一方、防災意識を高めて、防災行動へつなげるきっかけとなるような講座にしたいと思っています。

参考資料

- 1) Nanjo, K.Z. Were changes in stress state responsible for the 2019 Ridgecrest, California, earthquakes?. Nat Commun 11, 3082 (2020). <https://doi.org/10.1038/s41467-020-16867-5>
- 2) 2019年度出前講座第2期「静岡で知っておきたい地震と火山と防災」
https://www.global-center.jp/earthquake_prediction/information/2019/

教員名：秦 康範

所 属：客員准教授・山梨大学地域防災・マネジメント研究センター准教授

2018年西日本豪雨、2019年東日本台風に引き続き、今年も7月豪雨により全国各地で集中豪雨による浸水や土砂災害が発生し、各地で大雨特別警報が発表された。この大雨特別警報は、2013年8月30日から運用がはじまった。大雨特別警報とは、数十年に一度の大雨が予想される場合に発表される気象情報である。しかし、これまでの発表回数をみると、2020年7月21日現在、4回発表された都道府県は2県、3回は2県、2回は6県、1回は22都県、3地方（北海道）となっている。運用開始から7年、地域によっては既に何度も発表されている事実を踏まえれば、ここ数年の雨の降り方は、これまでの降り方とは明らかに異なっていると言えるだろう。

一方、我が国は2008年をピークに人口減少局面に入っており、長期的な人口減少社会を迎えている。今後、人口減少と著しい高齢化が同時に進む。生産年齢人口は減少し、税収の減少が見込まれる一方、社会保障関係予算はますます増大する。インフラ整備の予算は減少することは不可避である。

こうした我が国が置かれた状況を考えると、「災害リスクが低いところに人口を誘導し、良質な住宅ストックを形成する」、「リスクが高い地域の開発は抑制する」、こうした方向が望ましいと考えられる。しかしながら、筆者の試算によれば、洪水浸水想定区域（計画規模）の人口は3540万人、世帯数は1520万世帯にのぼる。また、1995年から2015年まで一貫して増加し続けており、都道府県別に見ると人口は30都道府県で、世帯数は47都道府県で一貫して増加している。つまり、災害リスクの高い地域の宅地開発が全国で行われており、現在も継続しているのである。

このような問題意識を持っていたときに、インターネット上で偶然、河川工学の泰斗である高橋裕東京大学名誉教授の講演録を目にした。全国的に都市水害が多発している状況に対して、1977年河川審議会総合治水対策委員会の答申において「無秩序な宅地化が原因」、「河川整備のみでは対応できない」、「開発規制、避難体制の強化」が指摘されていたのである。今から40年以上も前のことである。今日議論されているようなことが既に指摘されていることに驚愕するとともに、何ら問題は解決しておらず、むしろ当時よりも酷くなっていることに愕然とした。さらに、答申には盛り込まれなかったが、居住の制限や開発規制についても議論されていたのである。2020年8月28日から水害リスクについて不動産取引における重要事項説明が義務付けられる。リスクの周知のみならず、今こそ災害リスクの高い区域の居住制限や開発規制に踏み込む必要があるだろう。繰り返される災害の連鎖を断ち切るために、関係者各位の不退転の覚悟が求められる。

参考文献

高橋裕（2013）、第二次大戦後の水害と治水の論理の変遷、第7回流域治水シンポジウム

教員名：廣井 悠

所 属：客員准教授・東京大学

筆者は現在、2020年4月7日に発表された緊急事態宣言が人々の外出抑制や接触回避行動をどう変化させたか、携帯電話事業者に提供いただいたモバイルデータや社会調査などを用いた分析を行っている。例えば筆者が行った2回の社会調査では、緊急事態宣言は他国で行われたロックダウンとは異なり、これをきっかけに皆が一斉に外出を抑制するような、極端なものではなかったことが示された。図は東京をはじめとした7都府県で「外出を控えた」割合を目的別に示したもののだが、宣言前から既に私用目的の外出を控えていた人も多く、上記7都府県では5月14日の福岡県を皮切りに宣言が段階的に解除されているが、宣言中の外出抑制はほぼ横ばいで、5月中旬から緩やかに外出が増えていることがわかる。これらより、2020年5月以降の新規感染者数減少は「緊急事態宣言の効果」というよりも、宣言前に人々のリスク意識向上等で既に多くの外出自粛がなされており（ただし通勤目的については宣言がそれなりに外出抑制を促し）、それが比較的長期間持続していったこと、さらには発生早期より行われているクラスター対策や新しい生活様式の履行等の効果とみたほうがよい。緊急事態宣言は、そのみでは感染拡大を抑える万能な対策という訳では必ずしもなく、それゆえ宣言による便益の客観的評価も難しそうであることが、この調査からは示唆された。

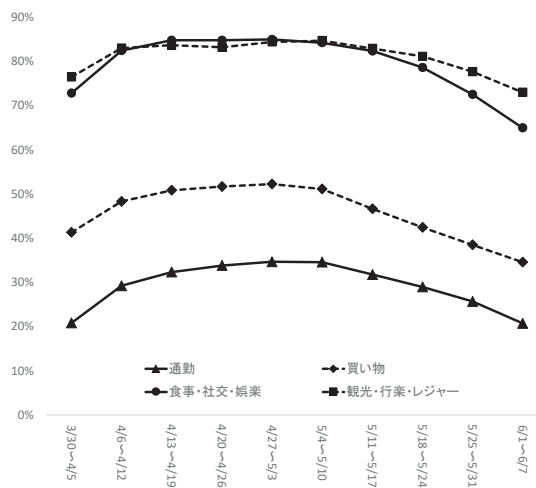
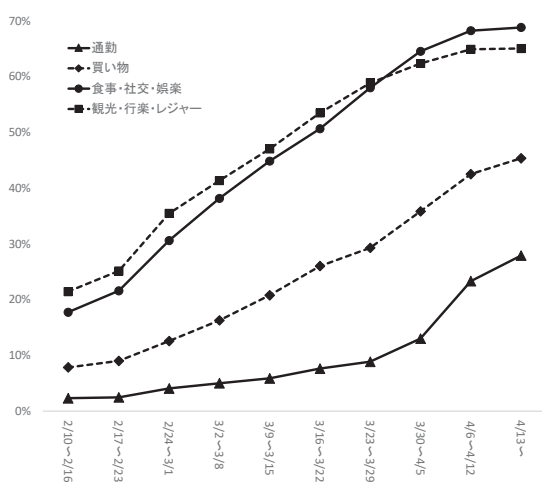


図1 7都府県の外出抑制効果（2020年4月調査，N=1,144）

図2 7都府県の外出抑制効果（2020年6月調査，N=1,056）

教員名：本間基寛

所 属：客員准教授・一般財団法人日本気象協会 専任主任技師

2018～2019年度は、「高解像度アンサンブル雨量予測を活用した災害リスク情報の検討」や「豪雨災害における人的被害ポテンシャルの推定に関する研究」に取り組みました。後者の研究では、平成30年7月豪雨などを対象に、犠牲者の位置データと1kmメッシュでの降雨観測データの関係性を分析し、近年の過去最大値（既往最大値）との比である「既往最大比」を外力指標として使用することで犠牲者発生確率（ポテンシャル）を評価することが可能となることを示しました。これらの成果は日本気象協会での独自の防災気象情報として実務面での活用を進めています。

また、平成30年7月豪雨に関しては、防災総合センター牛山素行教授と日本気象協会との合同で現地調査を実施（2018年7月10～11日）し、東京都内及び静岡市内で調査速報を報告しました。

教員名：松井 務

所 属：客員准教授・国立大学法人 浜松医科大学 地域医療学講座

私の所属する地域医療学講座は、中部電力株式会社による寄附講座です。

静岡県では安全・安心な地域を形成するために、南海トラフ地震などの集団災害に備えた対策を行政、住民などが一体となって進めています。しかし、対策を実行する上で重要な役割を担う医療の実態は、人口 10 万人あたりの医師数が静岡県は全国平均に比べて少なく、さらに二次保健医療圏別にみると中東遠および志太榛原の両医療圏は全国平均の 6 割～7 割程度であるなど、医師不足そして医師の地域偏在が深刻になっています。

医療面からの集団災害への対応は、まずは平常時から地域の各病院が正常に機能し、その上で災害発生を想定した訓練等の準備を継続することが重要です。そこで当講座は、上記の二次医療圏を中心に住民の立場から地域医療を育む住民活動の支援や災害医療（特に原子力災害医療）に関わる人材育成などの活動を行っています。

2.2 研究業績リスト

2.2.1 著書

千木良雅弘, 2016. 地質と災害—応用地質の見方考え方—. 近未来社, 名古屋, 232 pp.

Chague-Goff, C., Goto, K., Sugawara, D., Nishimura, Y., Komai, T., 2018, Restoration measures after the 2011 Tohoku-oki tsunami and their impact on tsunami research. In: Santiago-Fandino, V., Sato, S., Maki, N., Iuchi, K., eds., The 2011 Japan Earthquake and Tsunami: Reconstruction and restoration. Insights and Assessment after 5 Years. Advances in Natural and Technological Hazards Research 47, Springer, Japan, 229-247, 2018.

千木良雅弘. 2018. 災害地質学ノート. 近未来社, 名古屋.

藤井基貴「学習指導案を創る」荒木寿友・藤澤文編著『道德教育はこうすれば〈もっと〉おもしろい』北大路書房、2019年、155頁及び167-172頁。

藤井基貴・荒木寿友編著『新しい教職教育課程・道德』ミネルヴァ書房、2019年。

藤井基貴「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」横須賀薫監修『概説 教職課程コアカリキュラム』ジダイ社、2018年、23-30頁。

藤井基貴「ジレンマ授業」中井仁監修『教育現場の防災読本』京都大学学術出版会、2018年、332-347頁。

藤井基貴「心情円を使った道德授業」『道德用語と授業』東京書籍、2018年、12-13頁。

藤岡 換太郎、フォッサマグナ、講談社ブルーバックス、2018

藤岡 換太郎（監修）、世界でいちばん素敵な 海の教室、株式会社三オブックス、2019

藤岡 換太郎（分担43項目）井田嘉明・木村龍二・鳥海光弘編 地球大百科事典 上 地球物理編、下 地質編、朝倉書店（2019）

二川 雅登:防災・農業のための土壌・培地センシング 暮らしと人を見守る水センシング技術, シーエムシー出版, 2019年6月14日.

原田賢治：静岡の自然災害（岩田孝仁・北村晃寿・小山真人編），静岡新聞社，2020年3月，第IV部静岡県の自然災害と防災，第2章静岡県における津波災害とその対策，pp.172-185.

廣井悠：日本火災学会編 火災便覧第4版，共立出版，2018.11.【共著】

生田領野：静岡の大規模自然災害の科学(岩田孝仁・北村晃寿・小山真人編)，静岡新聞社，2020年（p.51-59）.

今泉文寿:静岡の大規模自然災害の科学(岩田孝仁・北村晃寿・小山真人編),静岡新聞社,2020年,187-197,分担執筆.

井ノ口宗成:日本リスク研究学会 編:「リスク学辞典」丸善出版, 2019.6. (8-19 リスクとレジリエンス, pp.442-445, 分担執筆)

石川宏之「エコミュージアム」『環境キーワード事典』,第一法規株式会社, pp.6403-6406, 2018.12.

- 石川宏之「博物館」・「エコミュージアムとジオパーク」『日本の建築文化事典』,丸善出版, pp.498-501, 2020.1.
- 岩田孝仁, 大学的静岡ガイド, 昭和堂, 2019年3月, 全国を主導してきた静岡の防災, pp.149-161 (分担執筆)
- 岩田孝仁, リスク学辞典, 日本リスク研究学会【編】, 丸善出版, 2019年6月, 自然災害に関する国内の取り組み・ガバナンス, pp.410-411 (分担執筆)
- 岩田孝仁, 静岡の大規模自然災害の科学, 静岡新聞社, 2020年3月, pp.156-167, pp.197-208, (編集, 分担執筆)
- 狩野謙一・北村晃寿, 静岡の大規模自然災害の科学, 静岡新聞社, 2020年, 第II部・第4章 静岡周辺の直下型地震と断層運動, 67-93.
- Kasahara, J. and Y. Hasada, Time lapse approach to monitoring oil, gas, and C2 storage by seismic methods, Elsevier Pub., 201 pp, 2017.
- Kasahara, J., Zhdanov, M., and Mikada, H., editors, “Active geophysical monitoring, 2nd edition”, Elsevier Pub., 615pp., 2019
- 北村晃寿, 静岡の大規模自然災害の科学, 静岡新聞社, 2020年, 第I部・第2章 東北地方太平洋沖地震・貞観地震による津波堆積物, 18-33.
- 北村晃寿・小山真人, 静岡の大規模自然災害の科学, 静岡新聞社, 2020年, 第II部・第1章 静岡県の地質, 38-50.
- 北村晃寿, 静岡の大規模自然災害の科学, 静岡新聞社, 2020年, 第II部・第5章 静岡県における南海・駿河トラフの巨大地震・津波の最新の地質学的知見, 98-115.
- 北村晃寿, 静岡の大規模自然災害の科学, 静岡新聞社, 2020年, コラム 津波と高潮の波形の違い, 34-35.
- 北村晃寿, 静岡の大規模自然災害の科学, 静岡新聞社, 2020年, コラム 静岡県内に見られる安政東海地震の地質学的証拠, 94-97.
- 北村晃寿, 静岡の大規模自然災害の科学, 静岡新聞社, 2020年, コラム 安政東海型地震の発生間隔「東海地震はいつ起きるのか」, 168-171.
- 北村晃寿, 静岡の大規模自然災害の科学, 静岡新聞社, 2020年, コラム 海水準変動, 220-223.
- 小杉素子, リスク認知とバイアス(2): 専門家と市民, 専門家同士, 項目担当: 4-7, リスク学事典, 日本リスク研究学会, 2019
- 小山真人: 静岡の大規模自然災害の科学(岩田孝仁・北村晃寿・小山真人編), 静岡新聞社, 2020年, 255p (分担執筆)
- 小山真人: 火山がつくった天城の風景(第2版)-伊豆半島のジオマップ2-. 伊豆半島ジオパーク推進協議会, 変形A2判, 2019
- 小山真人: 大学的静岡ガイド-こだわりの歩き方. 静岡大学人文社会学部・地域創造学環(編), 昭和堂, 268p, 2019 (分担執筆)
- 小山真人: 伊東市史・通史編「伊東の歴史 I 原始から戦国時代」. 伊東市史編集委員会・伊

- 東市教育委員会（編），伊東市，524 p，2018（分担執筆）
- 小山真人:図説 地球科学の事典. 鳥海光弘ほか（編）朝倉書店，248 p，2018（分担執筆）
- 前田恭伸:日本リスク研究学会（編）リスク学事典，丸善出版，2019（分担箇所：第1章，pp.4-65（編集）；項目1-6, pp.26-31（執筆）；項目12-6, pp.634-635（執筆））
- 三井雄太・石橋秀巳：静岡の大規模自然災害の科学(岩田孝仁・北村晃寿・小山真人編)，静岡新聞社，2020年3月,第Ⅲ部コラム2「巨大地震と火山噴火」(分担執筆).
- 三井雄太: 静岡の大規模自然災害の科学(岩田孝仁・北村晃寿・小山真人編)，静岡新聞社，2020，第1部第1章・第2部第3章・第3部コラム2を分担執筆.
- 村越真：冒険とリスクマネジメント、鈴木康史（編）『近代日本の冒険・探検の社会史 — 集合的経験としての「冒険・探検」とメディア・物語—』せりか書房、(2019)pp.271-275.
- 村越真 読図とナビゲーション、独立行政法人スポーツ振興センター高等学校登山指導用テキスト等編集委員会（編）安全で楽しい登山を目指して：高等学校登山指導者用テキスト。独立行政法人スポーツ振興センター国立登山研修所、(2019)p.52-61.
- 中島直人，村山顕人，高見淳史，樋野公宏，寺田徹，廣井悠，瀬田史彦：都市計画学-変化に対応するプランニング- 学芸出版社，2018.09.【共著】
- 大谷栄治：現代地球科学入門シリーズ 13 地球内部の物質科学，共立出版株式会社，2018年，総ページ数，166
- 大谷栄治：有機・無機材料の相転移ダイナミクス—数理から未来のマテリアル開発まで，（分担執筆）応用トピックス4，相変化と地球内部のダイナミクス，2020.
- 佐藤 健ほか共著，教育現場の防災読本，京都大学学術出版会，2018（第1節 学校と教師の役割を分担執筆）
- 石橋秀巳：静岡の大規模自然災害の科学(岩田孝仁・北村晃寿・小山真人編)，静岡新聞社，2020年3月,第Ⅲ部第2章「富士山と伊豆東部火山群のマグマ供給系」(分担執筆).
- Sugawara, D., Evolution of numerical modeling as a tool for predicting tsunami-induced morphological changes in coastal areas: A review since the 2011 Tohoku Earthquake, In: Santiago-Fandino, V., Sato, S., Maki, N., Iuchi, K., eds., The 2011 Japan Earthquake and Tsunami: Reconstruction and restoration. Insights and Assessment after 5 Years. Advances in Natural and Technological Hazards Research 47, Springer, Japan, 451-467, 2018.
- 谷口宏充，菅原大助，植木貞人，東日本大震災 [災害遺産] に学ぶ 来るべき大地震で同じ過ちを繰り返さないために. 海文堂，191p，2019.
- 渡邊正樹，佐藤 健編著：レジリエントな学校づくり，大修館書店，2019（4.5.学校再開・学校環境に及ぼす影響①学校施設の被害 ②学校施設が避難所に占有された場合を分担執筆）
- 山崎 登:地震予知大転換～最近の地震災害の現場から～,近代消防社,平成30年4月30日.

- Yamori, K. (2020). *Disaster risk communication: A challenge from a social psychological perspective*. Springer. (単編著)
- 矢守克也 (2018) アクションリサーチ・イン・アクションー共同当事者・時間・データー
新曜社 (単著)
- 矢守克也 (2018) 津波てんでんこー「助かる」と「助ける」の融合ー 「防災読本」出版
委員会・中井仁 (監修)「教育現場の防災読本」 京都大学学術出版会 pp.320-332 (分
担執筆)
- 矢守克也 (2018) 防災における予測の不思議なふるまい 山口富子・福島真人 (編著)「予
測がつくる社会」 東京大学出版会 pp.83-110. (分担執筆)

2.2.2 学術論文

- Abe, T., Goto, K., Sugawara, D., Spatial distribution and sources of tsunami deposits in a narrow valley setting - insight from 2011 Tohoku-oki tsunami deposits in northeastern Japan. *Progress in Earth and Planetary Science* 7:7, 2020.
- Ando, M., Kitamura, A., Tu, Y., Ohashi, Y., Imai, T., Nakamura, M., Ikuta, R., Miyairi, Y., Yokoyama Y. and Shishikura, M. 2018. Source of high tsunamis along the southernmost Ryukyu trench inferred from tsunami stratigraphy. *Tectonophysics*, 722, 265-276.
- 安西聡, 風間聡, 峠嘉哉, 平成 27 年 9 月関東・東北豪雨における Instagram データによる河川に対する認識と危険行動の解析, 土木学会論文集 B1 (水工学), Vol.74, No.5, I_1309-I_1314, 2018.11.
- 安西聡, 風間聡, 新しい水質指標と Instagram データの比較, 土木学会論文集 G(環境), Vol.74, No.5, pp. I_387-I_394, 2018.9.7.
- 新井涼允, 豊田康嗣, 風間聡, 確率論的流況推定手法の適応性評価と特性の把握, 水文・水資源学会誌, Vol.32, No.6, pp.301-317, 2019.11.
- 新井涼允, 豊田康嗣, 風間聡, ニューラルネットワークを利用した日本の未観測流域における流況推定, 土木学会論文集 B1 (水工学), Vol.75, No.2, I_307-I_312, 2019.11.
- Arai, N. & Chigira, M. 2018. Rain-induced deep-seated catastrophic rockslides controlled by a thrust fault and river incision in an accretionary complex in the Shimanto Belt, Japan. *Island Arc*, 27, 17, doi: 10.1111/iar.12245.
- Arai, N. & Chigira, M. 2019. Distribution of gravitational slope deformation and deep-seated landslides controlled by thrust faults in the Shimanto accretionary complex. *Engineering Geology*, 260, doi: 10.1016/j.enggeo.2019.105236.
- Chang, Q., Kazama So, Touge Yoshiya, The Impact of Spatial Discretization Scale on Urban Hydrological Modeling Performance and Prediction, E-Proceedings of the 38th IAHR World Congress, SS5, pp.1170-1175, 2019.9.2. DOI:

10.3850/38WC092019-0994.

- Chang, Q., So Kazama, Yoshiya Touge, Shunsuke Aita, The effects of spatial discretization on performances and parameters of urban hydrological model, *Water Science and Technology*, Vol.80, No.3, pp.517-528, 2019. DOI: 10.2166/wst.2019.296
- Chen, H-Y., R. Ikuta*, C-H. Lin, Y-J. Hsu, T. Kohmi, C-C. Wang, S-B. Yu, Y. Tu, T. Tsujii, M. Ando, Back-Arc Opening in the Western End of the Okinawa Trough Revealed From GNSS/Acoustic Measurements, *Geophysical Research Letters* 45/ DOI: 10.1002/2017GL075724, 2018
- 千木良雅弘, 田近淳 & 石丸聡. 2019. 2019年胆振東部地震による降下火砕物の崩壊：特に火砕物の風化状況について. *京都大学防災研究所年報*, 62B, 348-356.
- 千々和詩織・矢守克也 (2020) 長期的な視点に立った学校防災教育の実施と検証に関する試論 *災害情報*, 18, 25-34.
- Emang, G. P., Yoshiya Touge, So Kazama, Assessing NDVI based phenology in different fire severity in the Kamaishi 2017 forest fire, *土木学会論文集 G (環境)*, Vol.75. No.5, pp. I_135-I_140, 2019.
- 藤井基貴・高林真衣「教師の働き方とレジリエンスに関する考察—静岡県 A 市における質問紙調査の分析から—」『中部教育学会紀要』19、2019年、38-53頁。
- 藤井基貴『『現代的な課題』を取り上げた道徳科の教材・授業開発—防災を題材とした『主体的・対話的で深い学び』の実践—』日本道徳教育学会編『道徳と教育』337号、2019年、109-120頁。
- 藤井基貴「静岡の道徳教育」『道徳教育』727号、明治図書、2019年1月、86-87頁。
- 藤井基貴『『考え、議論する道徳』への構造転換—スポーツを題材とした『アスリート道徳』の授業開発—』心理科学研究会編『心理科学』39/2、2019年、33-43頁。
- 藤井基貴・栗島智明「ドイツにおける研究公正と「学問の自由」(1)：ドイツ研究振興協会(DFG)の機能と法制度上の課題」『静岡大学教育学部研究報告(人文・社会・自然科学篇)』No.69、2018年、175-183頁。
- Furuhashi, Yuko, A study on the mental health of Japanese university students by the University Personality Inventory. *Annals of Epidemiology and Public Health* 3, 1-3, 2020 (査読あり)
- Furuhashi, Yuko, Unexpected effect of zolpidem in a patient with attention deficit hyperactivity disorder *Asian Journal of Psychiatry* 44/ 68-69, 2019 (査読あり)
- Furuhashi, Yuko, Sleep related eating disorder as an unexpected effect of zolpidem *Neuroscience and Medicine* 10/ 75-81, 2019 (査読あり)
- 古橋裕子、他:保健センターで診た大学入学後に顕在化した発達障害圏学生について *CAMPUS HEALTH* 56 (1) 403-404, 2019 (査読なし)
- 古橋裕子 他 健康診断を利用した多職種チームによるメンタルヘルス支援 *CAMPUS*

- HEALTH 57 (1) 229-230, 2020 (査読なし)
- Furuhashi, Yuko: An effective intervention for university students with autism spectrum disorder. *Aitana Research*, 129, 2018 (査読あり)
- 古橋裕子 科学研究費助成事業実地状況報告書 平成 31 年度 (査読なし)
- 古橋裕子、里村澄子、他. 保健センターで診た大学入学後に顕在化した発達障害圏学生について *CAMPUS HEALTH* 56 (1) 403-404、2019 (査読なし)
- 古橋裕子 発達障害学生の大学における支援の現状と今後の課題 東海・北陸地方部会報告書 14-15 2018 (査読なし)
- Furuki, H. & Chigira, M. 2019. Structural features and the evolutionary mechanisms of the basal shear zone of a rockslide. *Engineering Geology*, 260, 1-9.
- 二川 雅登, 上村 溪介, 許山 久美子, 平野 陽豊, 渡辺 実, 小松 満, 半導体型 pH センサによる低水分量土壌リアルタイム pH 計測に関する研究, *電気学会論文誌 E (センサ・マイクログマシ部門誌)*, Vol. 138, No. 9, pp.417-422, 2018.
- 二川 雅登, 小松 満, 藤原 優: 高速道路法面地下水監視に向けた高感度小型水分量センサ計測回路の開発, *電気学会論文誌 E (センサ・マイクログマシ部門誌)*, Vol. 139, No.9, pp. 283-288, 2019
- Goltz, J., Nakano, G., Park, H. and Yamori, K. (2020). Earthquake ground motion and human behavior: Using DYFI data to assess behavioral response to earthquakes. *Earthquake Spectra*. [<https://doi.org/10.1177/8755293019899958>]
- Goltz, J., & Yamori, K. (2020). Tsunami preparedness and mitigation strategies. <<https://oxfordre.com/naturalhazardscience/view/10.1093/acrefore/9780199389407.001.0001/acrefore-9780199389407-e-324>>. In *Oxford Research Encyclopedia of Natural Hazard Science*. Oxford University Press. doi: <http://dx.doi.org/10.1093/acrefore/9780199389407.013.324>
- Goto, Hiroaki and U Hiroi, : Trends of Measures in Disaster Recovery Plans:Focusing on the 2011 Great East Japan Earthquake and the 2016 Kumamoto Earthquake, *Journal of Disaster Research*, Vol.15, pp.226-232, 2020. (審査付)
- Gunawardhana, L. N., Ghazi A. Al-Rawas, So Kazama, An alternative method for predicting relative humidity for climate change studies, *Meteorological Applications*, 24, pp.551-559, 2017.7. doi:10.1002/met.1641
- 秦康範 : 激甚化する気象災害に備える (前編) -洪水ハザードマップの活用にあたって留意すべき事項, pp.8-15, 監査研究, 2019.6
- 秦康範 : 増加傾向にある浸水想定区域の人口および世帯数, 月刊下水道, Vol.42, No.7, pp.5-9, 2019.6
- Hapsari, D., Onishi, T., Imaizumi, F., Noda, K., Senge, M. (2019/12) The use of sediment rating curve under its limitations to estimate the suspended load, *Reviews in*

- Agricultural Science, 7: 88-101.
- 原田賢治・峯田純平・瀬尾直樹・金原剛：海岸樹木の津波に対する耐力限界に関する実物試験，土木学会論文集 A1（構造・地震工学），Vol.74, No.4, pp.I_897-I_905, 2018.
- Haraguchi, S., Fujinaga, K., Nakamura, K., Kato, Y., Yamaguchi, A. and Ishii, T. (2018): New geochemical data for back-arc basin basalts from DSDP Leg 58 Sites 442-444 and the ODP Leg 131 Site 808, Shikoku Basin. *Journal of the Geological Society of Japan*, 124, 935-940, doi: 10.5575/geosoc.2018.0026,（査読あり）.
- Hasegawa, D., Watanabe, T., Ito, T., Kano, K., Abe, S., Fujiwara, A., Kouchi, Y., 2018. Seismic interferometry imaging of subsurface structure in the southernmost area of South Japanese Alps, *Proceedings of the 13th SEGJ International Symposium*, S02-P02.
- Hattori, K. & Kano, K., 2018: Gold mineralization in Izu Peninsula, central Japan, during crustal extension in response to double subduction. *Resource Geology*. 69, 167-175. <https://doi.org/10.1111/rge.12192>
- 林 拙郎・山田 孝・川邊 洋：土砂災害を発生させた豪雨の時間的・活動的特性，*自然災害科学*, Vol.38, No. 3, 377-387, 2019.
- 林 拙郎・山田 孝：土砂災害に関する大雨の豪雨度と崩壊個数の関係，*砂防学会誌*, Vol.72, No. 4, 15-20, 2019.
- 林能成，地球科学者の社会的課題への向き合い方～島津康男博士の足取りから考える～，*地学史談話会会報*, vol.50, 31-34, 2018.
- Hiraga, Y., So Kazama, Chaiwat Ekkawatpanit, Yoshiya Touge, Impact of reclamation on the environment of the lower Mekong River Basin, *Journal of Hydrology: Regional Studies*, Vol.18, pp.143-155, 2018.8. doi.org/10.1016/j.ejrh.2018.06.003
- Hirano, Harutoyo, Yusuke Isomura, Masato Futagawa, "Monitoring System with Multimodal Sensor for Electrical Conductivity and Hydrogen-ion Concentration of Causative Agents of Underarm Odor", *Journal of Translational Science*, Volume 5, issue 5, pp. 1-4, 2018.
- Hirano, N., S. Machida, H. Sumino, K. Shimizu, A. Tamura, T. Morishita, H. Iwano, S. Sakata, T. Ishii, S. Arai, S. Yoneda, T. Danhara, T. Hirata (2019): Petit-spot volcanoes on the oldest portion of the Pacific Plate. *Deep-Sea Research Part I* 154, 103142,（査読あり）.
- Hirata, Y. & Chigira, M. 2019. Landslides associated with spheroidally weathered mantle of granite porphyry induced by 2011 Typhoon Talas in the Kii Peninsula, Japan. *Engineering Geology*, 260, doi: 10.1016/j.enggeo.2019.105217.
- 廣井悠，松原龍，上園智美，渡辺竜之：糸魚川市大規模火災における住民の避難行動調査，*都市計画論文集*, No.54-3, pp.1101-1108, 2019.（審査付）

- 廣井悠, 岩見達也, 高梨成子, 樋本圭佑, 北後明彦 : 2016 年熊本地震に伴って発生した地震火災に関する調査, 火災学会論文集, Vol.70, No.1, pp.27-33, 2019. (審査付)
- HIROI, U., Naoya SEKIYA, Shuntarou WARAGAI, Fusae KUKIHARA : Questionnaire Survey on the Difficulty of Attending Work for Commuters in the 2018 Osaka Earthquake, Journal of Disaster Research, Vol.15, pp.212-225, 2020. (審査付)
- Ikuta, D., Ohtani, E., Sano-Furukawa, A., Shibasaki, Y., Terasaki, H., Yuan, L., Hattori, T., Interstitial hydrogen atoms in face-centered cubic iron in the Earth's core, Scientific Reports, vol. 9, 7108, 2019.
- Imaizumi, F., Masui, T., Yokota, Y., Tsunetaka, H., Hayakawa, Y.S., Hotta, N. (2019/8) Initiation and runout characteristics of debris flow surges in Ohya landslide scar, Japan, Geomorphology, 339, 58-69, <https://doi.org/10.1016/j.geomorph.2019.04.026>.
- Imaizumi, F., Effects of terrain on temporal changes in susceptibility of debris flows and associated hydrogeomorphic processes after forest harvesting, In proceedings of 7th International Conference on Debris-Flow Hazards Mitigation, 2019/6.
- Imaizumi, F., Nishii, R., Ueno, K., Kurobe, K., Forest harvesting impacts on microclimate conditions and sediment transport activities in a humid periglacial environment, Hydrology and Earth System Sciences, 23, 155-170, <https://doi.org/10.5194/hess-23-155-2019,2019/1>.
- Imaizumi, F, Nishiguchi, T, Matsuoka, N, Trappmann, D, Markus, S., Interpretation of recent alpine landscape system evolution using geomorphic mapping and L-band InSAR analyses, Geomorphology, 310, 125-137 <https://doi.org/10.1016/j.geomorph.2018.03.013>, 2018/6.
- Inoguchi, Munenari, Atsushi Imai, Keiko Tamura, Possibility of Machine Learning and Classification for Tweeted Image Data to Understand Disaster Damage Situation - A Case Study of 2016 Kumamoto Earthquake -, International Technical Conference on Circuits/Systems, Computers and Communications (ITC-CSCC) 2018, pp.4, 2018.7.
- Inoguchi, Munenari, Keiko Tamura, Kei Horie, Ryota Hamamoto and Haruo Hayashi, Development of Effective Integrated System for Building Damage Inspection under Harmonious Collaboration between Human and ICT - A Case Study of 2018 Hokkaido Eastern Iburi Earthquake -, IEEE Big Data 2018, pp.3503-3508, 2018.12.
- Inoguchi, Munenari, Keiko Tamura, Ryota Hamamoto, Establishment of Work-Flow for Roof Damage Detection Utilizing Drones, Human and AI based on Human-in-the-Loop Framework, IEEE Big Data 2019, pp.4618-4623, 2019.12.
- Inoue, T., Goto, K., Nishimura, Y., Watanabe, M., Iijima, Y., Sugawara, D., Paleo-tsunami history along the northern Japan Trench: evidence from Noda Village, northern Sanriku coast, Japan. Progress in Earth and Planetary Science, 4:42, 2018.

Doi:10.1186/s40645-017-0158-1

- 伊勢正・日高達也・磯野猛・臼田裕一郎・矢守克也 (2020) 状況論的学習観に基づく災害情報システムの学習に関する考察 自然災害科学, 39(1) (2020年5月末発刊)
- 伊勢 正・臼田裕一郎・矢守克也 (2018) 基礎自治体の求める機能に着目した災害情報システムの課題—都道府県と基礎自治体のシステム・ギャップに関する考察— 災害情報, 16, 305-314.
- Ishibashi, H., Yukiko Suwa, Masaya Miyoshi, Atsushi Yasuda, Natsumi Hokanishi: Amphibole-melt disequilibrium in silicic melt of the Aso-4 caldera-forming eruption at Aso Volcano, SW Japan, *Earth, Planets and Space*, 70, 137, 2018
- 石橋秀巳: 火成オリビン中の微量元素に関する近年の研究動向. 静岡大学地球科学研究報告, 46, 9-17, 2019.
- 石橋秀巳・鈴木琉斗: 熱力学的結晶作用シミュレーションによるメルト粘性スケールの信頼性の検討 (序報), 静岡大学地球科学研究報告, 45, 67-76, 2018.
- 石橋秀巳・種田凌也: 苦鉄質マグマの温度が減圧結晶作用と噴火ダイナミクスに及ぼす影響: 伊豆大島 1986年噴火の玄武岩質安山岩メルトの例, 静岡大学地球科学研究報告, 45, 55-66, 2018.
- 石神直子、森俊明、古橋裕子、他 インフルエンザと生活習慣の関係の検討 *CAMPUS HEALTH I56(1)* 288-290、2019 (査読なし)
- 石井輝秋 (2018): 研究航海の実際と野外自然科学 — グローマー・チャレンジャー号と白鳳丸航海—, 深田地質研究所年報, 19, 23-50, (査読なし) .
- 石井輝秋・金子 誠・平野直人・町田嗣樹・松本亜沙子・秋澤紀克・佐藤勇輝・油谷 拓・浅見慶志朗・桂木悠希・坂井俊太・中野幸彦・松崎琢也 (2019): 「新青丸」KS-18-9航海, プチスポット火山ドレッジ研究速報と展望 -- 歴史的大発見: 東北沖太平洋超深海底の爆裂火口 (マール) --, 深田地質研究所年報, 20, 105-128, (査読なし) .
- Itadera, K and A. Yoshida, Water budget of Lake Ashinoko — Origin of Hakone thermal waters—, *Journal of Hydrology: Regional Studies*, 28, 100682, 2020.
- 岩松 暉: 史料にみる桜島大正噴火, 自然災害科学, Vol.38, No.3, 289-306, 2019.
- 井筒潤・楠城一嘉・鴨川仁・織原義明・長尾年恭: 地震災害予測のための地球観測データのデジタルアースによる可視化, 東海大学海洋研究所研究報告, 41, 1-15, 2019.
- Jaboyedoff, M., Chigira, M., Arai, N., Derron, M.H., Rudaz, B. & Tsou, C.Y. 2019. Testing a failure surface prediction and deposit reconstruction method for a landslide cluster that occurred during Typhoon Talas (Japan). *Earth Surface Dynamics*, 7, 439-458, doi: 10.5194/esurf-7-439-2019.
- Januriyadi, N. F., So Kazama, Idham R. Moe, Shuichi Kure, Evaluation of future flood risk in Asian megacities: a case of Jakarta, *Hydrological Research Letters*, Vol.12, No.3, pp.14-22, 2018. DOI: 10.3178/hrl.12.14

- 海堀正博・長谷川祐治・山下祐一・崎田博史・中井真司・桑田志保・平松晋也・地頭菌 隆・井良沢道也・清水 収・今泉文寿・中谷加奈・柏原佳明・加藤誠章・鳥田英司・平川泰之・吉永子規・田中健路・林 拙郎,平成30年7月豪雨により広島県で発生した土砂災害,砂防学会誌,71(4),49-60,2018/11.
- 加治由紀、松本百合子、古橋裕子 他 静岡大学における感染症対策について CAMPUS HEALTH 57 (1) 198-220, 2020 (査読なし)
- Kamada, S., Suzuki, N., Maeda, F., Hirao, N., Hamada, M., Ohtani, E., Masuda, R., Mitsui, T., Ohishi, Y., Nakano, N., Electronic properties and compressional behavior of FeSi alloys at high pressure, *American Mineralogist*, vol. 103, 1959-1965, 2018.
- Kamogawa, M., K. Z. Nanjo, J. Izutsu, Y. Orihara, T. Nagao, and S. Uyeda: Nucleation and cascade features of earthquake mainshock statistically explored from foreshock seismicity, *Entropy*, 21(4), 421, 2019.
- 狩野謙一・宮坂 晃, 2018: 中部日本, 塩嶺累層とその同時代層の層序・構造の対比に基づく信州中～南部地域の前～中期更新世のテクトニクス. 静岡大学地球科学研究報告, 43, 23-53.
- 狩野謙一・小田原 啓・山本玄珠・伊藤谷生. 2019: 富士川河口断層帯, 星山丘陵周辺の1Ma以降のテクトニクス. 静岡大学地球科学研究報告, 46, 19-49.
- Kasahara et al.: Distinct temporal change of waveforms due to precipitation suggesting the near-surface effect revealed by a dense-but-short geophone array and DAS, *Extended Abstract of EAGE*, 2018.
- Kasahara et al., Evaluation of physical meaning of DAS (Distributed Acoustic Sensor) measurements) in comparison to the geophones, *Extended Abstract of SEG*, 2018.
- Kasahara et al., Evaluation of time lapse of the near-surface layer due to precipitation, *Extended Abstract of SEG*, 2018.
- Kasahara and Tsuruga et al., Time-lapse approach to detect possible pre-slip associated with the Nankai Trough mega-earthquake by monitoring the temporal change of the strong seismic reflector at the subducting Philippine Sea Plate, in “2nd edition of Active Geophysical Monitoring”, 425-439, Elsevier Pub., 2019.
- Kasahara and Tsuruga et al., Time-lapse imaging of air injection using the ultra-stable ACROSS seismic source and reverse-time imaging method, in “2nd edition of Active Geophysical Monitoring”, 477-439, Elsevier Pub., 2019.
- Kasahara, J., et al., Accurately controlled and routinely operated signal system time lapse for the field study in the desert area of Saudi Arabia, in “2nd edition of Active Geophysical Monitoring”, 465-475, Elsevier Pub., 2019.
- Kasahara, J., Hasada, Y., Kuzume, H., Fujiiese, Y., Yamaguchi, T., Mikada, H., Seismic Time-lapse Approach to Monitor Temporal Changes in the Supercritical Water

- Reservoir, Proceedings, 44th Workshop on Geothermal Reservoir Engineering, Stanford University, Stanford, CA, 2019.
- Kasahara, J., Hasada, Y., and Yamaguchi, T.: Seismic imaging of supercritical geothermal reservoir using full-waveform inversion method, Proceedings, 44th Workshop on Geothermal Reservoir Engineering, Stanford University, Stanford, CA, 2019.
- Kasahara, J., Hasada, Y, Kuzume, H., Fujise, Y. and Yamaguchi, T. Seismic feasibility study to identify supercritical geothermal reservoirs in a geothermal well using DTS and DAS, EAGE extended abstract, EAGE 2019 Annual meeting, London, 2019.
- Kasahara, J.,Yoko Hasada, Haruyasu Kuzume, Hitoshi Mikada and Yoshihiro Fujise, The second seismic study at the geothermal field in southern Kyushu, Japan using an optical fiber system and surface geophones, PProceedings, 45th Workshop on Geothermal Reservoir Engineering, SGP-TR-216, Stanford University, Stanford, CA, 2020.
- Kasahara, J.,Yoko Hasada and Haruyasu Kuzume, Possibility of high Vp/Vs zone in the geothermal filed suggested by the P-to-S conversion, Proceedings, 45th Workshop on Geothermal Reservoir Engineering, SGP-TR-216, Stanford University, Stanford, CA, 2020.
- Kasahara, J., Tsuruga, K., Hasada, Y., Kunitomo, T., Ikuta, R., Watanabe, T., Yamaoka, K., Fujii, N., 2020. Chapter 5.6 - Time-lapse approach to detect possible preslip associated with the Nankai Trough mega-earthquake by monitoring the temporal change of the strong seismic reflector at the subducting Philippine Sea Plate, Active Geophysical Monitoring (Second Edition), 425-439.
- 加藤恵一・岩崎一孝 (2020) : 浜松市洪水ハザードマップのユニバーサルデザイン化. 2019年度自然災害科学中部地区研究集会予稿集, 1pp.
- Kayama, M., Tomioka, N., Ohtani, E., Seto, Y., Nagaoka, H., Goetze, J., Miyake, A., Ozawa, S., Sekine, T., Miyahara, M., Kazushige, K., Matsumoto, Shoda, N., Hirao, N., Kobayashi, T., Discovery of moganite in a lunar meteorite as a trace of H₂O ice in the Moon's regolith, Science advances, vol. 4, eaar4378, 2018.
- Kazama, S., Koji Sakamoto, Yoshiya Touge, Analysis on Snow Accumulation and Groundwater Resources by a Distributed Hydrological Model, E-roceedings of the 38th IAHR World Congress, Theme D, pp.2504-2509, 2019.9.3. DOI: 10.3850/38WC092019-0921
- Kazama, S., Kengo Watanabe, Estimation of periphyton dynamics in a temperate catchment using a distributed nutrient-runoff model, Ecological Modelling, 367, pp.1-9, 2018.1. doi.org/10.1016/j.ecolmodel.2017.11.006

- 木村浩之、松下 慎、芦沼完太、津布久卓也.付加体深部帯水層での微生物メタン生成とエネルギー生産システムの社会実装. 日本微生物生態学会誌 34 巻, 2 号, 43-48, 2019.
- Kitamura, A., Ina, T., Suzuki, D., Tsutahara, K., Sugawara, D., Yamada, K., Aoshima, A., Geologic evidence for coseismic uplift at ~AD 400 in coastal lowland deposits on the Shizmizu Plain, central Japan. *Progress in Earth and Planetary Science* 6:57, 2019. Doi:10.1186/s40645-019-0305-y
- Kitamura, A., Yamamoto, Y., Yamada, K., Kubo, A., Toyofuku, T., Nakagawa, Y., 2019. Combined analysis of sulfur and carbon contents, and foraminifer as paleoenvironmental indicators in tidal flat sediments on Miura Peninsula, Japan. *Estuarine, Coastal and Shelf Science*. 226, 106256 <https://doi.org/10.1016/j.ecss.2019.106256>
- Kitamura, A., Seki, Y., Kitamura, Y., Haga, T., 2018. The discovery of emerged boring bivalves at Cape Omaezaki, Shizuoka, Japan: evidence for the AD 1361 Tokai earthquake along the Nankai Trough. *Marine Geology*, 405, 114-119.
- Kitamura, A., Ito, M., Ikuta, R., Ikeda, M., 2018. Using molluscan assemblages from paleotsunami deposits to evaluate the influence of topography on the magnitude of late Holocene mega-tsunamis on Ishigaki Island, Japan. *Progress in Earth and Planetary Science*. 5:41. <https://doi.org/10.1186/s40645-018-0200-y>
- Kitamura, A., Ito, M., Sakai, S., Y. Yokoyama, Miyairi, Y., 2018. Identification of tsunami deposits using a combination of radiometric dating and oxygen-isotope profiles of articulated bivalves. *Marine Geology* 403, 57 - 61. <https://doi.org/10.1016/j.margeo.2018.04.003>
- 北村晃寿, 2019. 静岡県下田市の海食台にある巨礫への 2017 年台風第 21 号(typhoon Lan) の高波の影響. 静岡大学地球科学研究報告, 46, 1-4.
- 北村晃寿・山本有夏・狩野謙一, 2019. 静岡県南伊豆町入間海岸に見られる高波で回転した極粗粒巨礫. 静岡大学地球科学研究報告, 46, 5-8.
- Kitamura, A., M. Ito, R. Ikuta, M. Ikeda, Using molluscan assemblages from paleotsunami deposits to evaluate the influence of topography on the magnitude of late Holocene mega-tsunamis on Ishigaki Island, Japan, *Progress in Earth and Planetary Science*, 5:41, 2018
- 北村晃寿, 三井雄太, 石橋秀巳, 森英樹: 伊豆半島南東部静岡県河津町の海岸低地における津波堆積物調査, 静岡大学地球科学研究報告, 45, 1-16, 2018.
- 小林飛文・岩崎一孝 (2018) : 地理空間分析による地域の人口増減に影響を与える要因の分析 —長野県東信地域を対象として—. 情報学ワークショップ 2018 (WiNF2018) 論文集 CD-ROM, 4pp
- 小玉乃理子, 秦康範, 越野修三, 阪本真由美, 宇田川真之, 国崎信江, 花原英徳, 星野涉,

- 斉藤健郎：広域防災拠点と受援対象業務に着目した広域受援計画の検討プロセス ～ 長野県における広域受援計画策定に向けた検討過程 ～，地域安全学会論文集，No.34，pp.103-113，2019
- 小松 満，二川 雅登，藤原 優，田久 勉：小型半導体チップセンサを用いた土中水分量のトモグラフィ計測に関する室内実験，地盤工学会ジャーナル，Vol. 15, No.1, pp. 199-211, 2020.
- Komori, D., P. Rangsiwanichpong, N. Inoue, K. Ono, S. Watanabe, S. Kazama, Distributed probability of slope failure in Thailand under climate change, *Climate Risk Management*, Vol.20, pp.126-137, 2018. doi.org/10.1016/j.crm.2018.03.002
- 小杉素子・馬場健司・田中充：気候変動リスクに関する情報提供の課題：対象者の細分化とそれに応じた情報内容の抽出. 土木学会論文集 G(環境) Vol. 75(5) II_1 - II_7 (2019)
- 小杉素子・馬場健司・田中充：気候変動リスクに対する日本人の態度-対象者の明確化と情報提供の課題-. 土木学会論文集 G(環境), Vol. 74(5) I_41-I_52. (2018)
- 小杉俊・今泉文寿・逢坂興宏・土屋智,土砂変動からみた山地溪流の堰堤整備の効果,中部森林研究,66, 129-132,2018/5.
- 小山真人 (2019) 地球科学者がブラタモリを案内して考えたこと. 月刊地理, 64, NO.8,10-15.
- 小山真人 (2019) 富士山の山体崩壊—想定外の災害にしないために. 月刊地理, 64, NO.7, 40-47.
- 小山真人 (2019) 低頻度巨大災害のリスク評価はいかにあるべきか. 土木学会誌, 104, No.6, 14-17.
- 小山真人・村越 真 (2018) 箱根山の火山活動シナリオ試案とそこに付された噴火確率に対する危険度認知. 火山噴火予知連絡会報, no.121, 130-137.
- 久保田映希, 廣井悠：災害リスクが関東大都市圏の賃貸住宅市場に与える影響-賃料・専有面積による市場区分と地域間の差異に注目して-, 都市計画論文集, No.54-3, pp.1153-1160, 2019. (審査付)
- Kurokawa, A. K., Takahiro Miwa, Hidemi Ishibashi, A simple procedure for measuring magma rheology: *Journal of Disaster Research*, 14, Dr14-4-9769, 2019.
- Kurokawa, A. K., Hidemi Ishibashi, Takahiro Miwa, Futoshi Nanayama: Rheological behavior of water-ash mixtures from Sakurajima and Ontake volcanoes: Implications for lahar flow dynamics, *Bulletin of Volcanology*, 80, 50, 2018.
- 李勇昕・矢守克也 (2020) 津波避難訓練支援アプリ「逃げトレ」の活用法 災害情報 (印刷中)
- 李勇昕・宮本匠・矢守克也 (2019) 当事者研究からみる住民主体の震災復興～防災ゲーム「クロスロード：大洗編」の実践を通じて～ 実験社会心理学研究, 58, 81-94.
- Litasov, K. D., H. Kagi, S. A. Voropaev, T. Hirata, H. Ohfuji, H. ishibashi, Y. Makino, T. B. Bekker, V. S. Sevastyanov, V. P. Afanasiev, N. P. Pokhilenko: Comparison of

- enigmatic diamonds from the Tolbachik arc volcano (Kamchatka) and Tibetan ophiolites: Assessing the role of contamination by synthetic materials, *Gondwana Research*, 75, 16-27, 2019.
- Ma, N., Wang, G., Kamai, T., Doi, I. & Chigira, M. 2019. Amplification of seismic response of a large deep-seated landslide in Tokushima, Japan. *Engineering Geology*, 249, 218-234, doi: 10.1016/j.enggeo.2019.01.002.
- Masuda, T., Omori, Y., Sakurai, R., Miyake, T., Yamanouchi, M., Harigane, Y., Okamoto, A., Michibayashi, K., 2018. Loop energy: A useful indicator of the hardness of minerals from depthsensing indentation tests. *Journal of Structural Geology*, 117, 96-104.
- 増井健志・横田優至・経隆悠・今泉文寿・逢坂興宏・土屋智, 荒廃溪流源頭部における土石流の流動特性と溪床堆積物の堆積状況の関係, *中部森林研究*, 66, 135-138, 2018/5.
- Matsumura, T., Kuwatani, T., Ando, Y., Masuda, T., 2018. Application of the inverse Batschelet distribution to measuring the preferred orientation of tourmaline grains. *Journal of Structural Geology*, 114, 288-293.
- Matsushita, Makoto, Kenta Magara, Yu Sato, Naoya Shinzato, Hiroyuki Kimura: Geochemical and microbiological evidence for microbial methane production in deep aquifers of the Cretaceous accretionary prism. *Microbes and Environments Vol. 33*, 205-213, 2018.
- Mbugua, J. M., Yoshiya Touge, So Kazama, Temur Khujanazarov, Kenji Tanaka, Detection changes in irrigated area using multi-temporal MODIS and land surface model surface temperature within Amu Darya Delta, *土木学会論文集 B1 (水工学)*, Vol.75, No.2, I_277-I_281, 2019.11.
- Mbugua, J. M., Yoshiya Touge, So Kazama, Temur Khujanazarov, Kenji Tanaka, Remote Sensing for the Detection of Salinized Soil Using a Multispectral Sensor in the Zeravshan River Basin, *E-Proceedings of the 38th IAHR World Congress, Theme C*, pp.3635-3641, 2019.9.4. DOI: 10.3850/38WC092019-1452
- Mitsui, Y., Takahiro Kato: Magmatic inflation in 2008-2010 at Mt. Fuji, Japan, inferred from sparsity-promoting L1 inversion of GNSS data, *J. Volcano. Geotherm. Res.*, 378, 29-34, doi:10.1016/j.jvolgeores.2019.04.012, 2019.
- Mitsui, Y.: Elastic interaction of parallel rate-and-state-dependent frictional faults with aging and slip laws: slow-slip faults can sometimes host fast events, *Earth Planets Space*, 70(136), doi:10.1186/s40623-018-0911-8, 2018.
- 満下健太・村越真: 三相因子分析による大学生の小学校の体育的活動に対するリスク認知分析. *リスク研究学会誌*, 28(1), 13-21.(2018)
- Miyahara M., Ohtani E., Nishijima M., and El Goresy A, Olivine melting at high

- pressure condition in the chassignite Northwest Africa 2737, *Physics of the Earth and Planetary Interiors*, vol. 291, 1-11, 2019.
- Morishita, Y., Hammond, N.Q., Momii, K., Konagaya, R., Sano, Y., Takahata, N. and Ueno, H. (2019) Invisible gold in pyrite from epithermal, banded-iron-formation-hosted, and sedimentary gold deposits: Evidence of hydrothermal influence, *Minerals*, 9, 447, doi:10.3390/min9070447.
- 森俊明、山本裕之、古橋裕子、他 大学生における心電図 QTc 間隔と体格変化、運動習慣の関係-体育系サークル所属者を対象とした縦断研究 *CAMPUS HEALTH* 57 (1) 57-59, 2020 (査読なし)
- 森俊明、野上愛里子、古橋裕子、他 学生検診におけるカルシウム過剰以上の頻度と種類についての検討 *CAMPUS HEALTH* 56(1) 149-151、2019 (査読なし)
- Mori, Yasuhumi, Toshihisa Asano, Yasunobu Maeda: Are Social Network Services Effective for Recruiting Volunteers?, *環境科学会誌*, 32(6), 204-213, 2019.
- Mori, Yasuhumi, Toshihisa Asano, Yasunobu Maeda: What prompts volunteer activity - choice or coincidence? Impact of perceived cost-benefit and information source on participation, *The Nonprofit Review*, 19(1&2), 101-109, 2019.
- 向井利明・牛山素行:記録的短時間大雨情報の変遷及び災害発生率,災害情報,,No.16, pp.163-178,2018.
- 村越真・小西岳勝:登山道に対する指導者のリスク特定能力. 教科開発学論集、6,163-170. (2018)
- 村越真・河合美保・鈴木秀志・羽田秀樹:安全教育の実施状況とその規程因としての教員の属性:静岡県西部2市の義務教育教員を対象として. 安全教育学研究,18(1),37-49. (2019)
- 村越真・河合美保:リスクコミュニケーションによるリスクとその共有に対する態度の変容. 教科開発学論集、教科開発学論集,7, 1-10. (2019)
- Murasawa, M., Imaizumi, F., Yokota, Y. (2019/6) Observations on the development and decay processes of debris flows, In proceedings of 7th International Conference on Debris-Flow Hazards Mitigation.
- 内藤有美、山本裕之、古橋裕子、他 学生健康診断時にたんぱく定性検査とクレアチニン補正を同時実施する意義 *CAMPUS HEALTH* 56 (1) 102-104、2019 (査読なし)
- 中口幸太, 小森大輔, 井上亮, 風間聡, 大阪市における内水氾濫頻発区域の分布とその特性, *水文・水資源学会誌*, 31 卷, 1 号, pp.9-16, 2018.1.
- Nakamura, Y., Hidemi Ishibashi, Atsushi Yasuda, Natsumi Hokanishi, Junji Yamamoto: Ultra-magnesian olivine-bearing ultramafic lava blocks within Cenozoic accretionary sediments at Shizuoka, Japan: implications for young, hot tectonic activity beneath the western Pacific Plate, *Lithos*, 324-325, 315-324, 2019.

- 中野元太・矢守克也・杉山高志（2019）教授者と学習者との間の主従関係に基づく主体性形成の一考察：メキシコの中学校と日本の中学校との合同津波避難訓練を通して災害と共生, 3(2), 39-47.
- 中野元太・矢守克也（2018）学校教員の主体性形成を目指した防災教育—メキシコ・シワタネホでのアクションリサーチ— 災害情報 ,16, 235-246.
- 中野元太・矢守克也（2018）行政・災害情報に過依存しない自主防災組織の災害対応実践—エルサルバドル サンペドロ・マサウア市の事例を通して— 災害と共生, 2, 13-24.
- Nakaya, Naoki, Harumi Nemoto, Carine Yi, Ayako Sato, Kotomi Shingu, Tomoka Shoji, Shosuke Sato, Naho Tsuchiya, Tomohiro Nakamura, Akira Narita, Mana Kogure, Yumi Sugawara, Zhiqian Yu, Nicole Gunawansa, Shinichi Kuriyama, Osamu Murao, Takeshi Sato, Fumihiko Imamura, Ichiro Tsuji, Atsushi Hozawa, Hiroaki Tomita : Effect of tsunami drill experience on evacuation behavior after the onset of the Great East Japan Earthquake, *International Journal of Disaster Risk Reduction*, Vol.28, pp.206-213, 2018.
- Nanjo, K.Z.: Were changes in stress state responsible for the 2019 Ridgecrest, California, earthquakes?, *Nature Communications*, 11, 3082, 2020.
- Nanjo, K.Z. Capability of Tokai Strainmeter Network to Detect and Locate a Slow Slip: First Results. *Pure Appl. Geophys.* 177, 2701–2718, 2020.
- Nanjo, K.Z.: J. Izutsu, Y. Orihara, M. Kamogawa, and T. Nagao, Changes in seismicity pattern due to the 2016 Kumamoto earthquakes identify a highly stressed area on the Hinagu fault zone, *Geophysical Research Letters*, 46(16), 9489-9496, 2019.
- Nanjo, K.Z., K. Miyaoka, K. Tamaribuchi, and A. Yoshida: Related spatio-temporal changes in hypocenters and the b value in the 2017 Kagoshima Bay swarm activity indicating a rise of hot fluids, *Tectonophysics*, 749, 35-45.
- Nanjo, K. and A. Yoshida, A b map implying the first eastern rupture of the Nankai Trough earthquakes, *Nature Communications*, 9, Article number: 1117 doi:10.1038/s41467-018-03514-3, 2018.
- Nanjo, K., K. Miyaoka, K. Tamaribuchi, A. Kobayashi and A. Yoshida, Related spatio-temporal changes in hypocenters and the b value in the 2017 Kagoshima Bay swarm activity indicating a rise of hot fluids, *Tectonophysics*, 749, 35-45, 2018.
- Nishii, R., Imaizumi, F., Daimaru, H., Murakami, W., Continuous and large sediment supply in a steep landslide scar, Southern Japanese Alps, *Geomorphology*, 312, 51-59, <https://doi.org/10.1016/j.geomorph.2018.04.002>, 2018/7.
- 西村光史・山本順司・石橋秀巳：輝石温度の冷却速度応答性による海洋リソスフェアの見かけ温度分布. 東洋大学紀要自然科学篇, 63, 41-46, 2019.
- 西村光史・山本順司・石橋秀巳：冷却する海洋リソスフェア中の単斜輝石の化学反応と元素

- 拡散, 東洋大学紀要自然科学篇, 62, 25-31, 2018.
- Noda, Toshihiro, Katsuya Yamori, Kenji Harada: Development of Disaster Response Applications and Improvements in Regional Disaster Prevention Capacity Based on Collaborative Information Use, Journal of Disaster Research, Vol.14, No.2, pp.375-386, 2019.
- Nukazawa, K., Ryosuke Arai, So Kazama, Yasuhito Takemon, Projection of invertebrate populations in the headwater streams of a temperate catchment under a changing climate, Science of the Total Environment, 642, pp.610-618, 2018. doi:10.1016/j.scitotenv.2018.06.109
- Ohtani, E., Yuan, L., Ohira, I., Shatskiy, A., Litasov, K.D., Fate of water transported into the deep mantle by slab subduction, Journal of Asian Earth Sciences, vol.167, 2-10, 2018.
- 岡田郁生・柴田知之・石橋秀巳・杉本健・芳川雅子・竹村恵二: 角閃石の岩石学的特徴をもちいた由布火山第四紀マグマの進化過程, 月刊地球, 号外 69, 160-166, 2018.
- Okada, N. & Yamori, K. (in press). Action research on bosai map cycle: Communications and interactions among stakeholders involved in mapmaking activities. Journal of Disaster Research, 15 (6)
- 岡田夏美・矢守克也 (2019) 児童館を結節点とした地域防災のアクションリサーチ—高知県黒潮町大方児童館を事例として— 地区防災計画学会誌, 16, 43-54.
- 岡田夏美・矢守克也 (2019) 学校防災教育を規定する 4 つのフレームワークに関する評価 — クロスカリキュラム化をめざして— 自然災害科学, 38, 241-256.
- 岡本憲男・今泉文寿・逢坂興宏・守口海・土屋智・杉本宏之・鈴木聡・佐藤慎一・柏原佳明・西村直記, 富士山大沢崩れにおける土砂生産と土石流発生場の特徴, 中部森林研究, 67, 101-104, 2019/5.
- 岡本憲男・守口海・今泉文寿・逢坂興宏・土屋智, 富士山大沢崩れにおける土石流発生・流下状況, 中部森林研究, 66, 133-134, 2018/5.
- 大西正光・矢守克也・大門大朗・柳澤航平 (2020) リグレット感情を考慮した津波避難— リグレットマップ作製の試み— 災害情報, 18, 59-70.
- 大西正光・竹之内健介・本間基寛・金井昌信: 気象情報のサービスプロセスにおける官民の役割に関する研究, 災害情報, No. 17-2, pp. 191-200, 2019.
- 小野恭子・真砂佳史・松永猛裕・矢守克也・野崎洋之・本間基照 (2019) 災害リスク、非定常リスクへの対応～分野を超えた共通知を探る～ リスク研究学会誌 29, 2, 123-127.
- 長田知也・今泉文寿・逢坂興宏, 開析程度の異なる山地流域における降雨流出特性の違い, 中部森林研究, 67, 97-100, 2019/5.
- 長田知也・今泉文寿・逢坂興宏・土屋智, 谷の発達程度の異なる山地小流域間における降雨流出特性の違い, 中部森林研究, 66, 127-128, 2018/5.

- 大谷竜・林能成・橋本学・堀高峰・川端信正・隈本邦彦・岩田孝仁・横田崇・谷原和憲・福島洋・兵藤守・入江さやか, 「南海トラフ地震情報」の社会的影響の評価に関する学際研究プロジェクトの取り組み?どのように「理科」の情報を「社会」に活かすか?, *GSJ 地質ニュース* vol.7, 8, 191-198, 2018.
- 太田裕一、山本裕之、古橋裕子、他 学生相談と外部医療機関の連携について *CAMPUS HEALTH* 57 (1) 289-290, 2020 (査読なし)
- 太田裕一、太田祐子、山本裕之、古橋裕子、他 タブレットを持ち込むことの影響について *CAMPUS HEALTH* 56 (1) 386-387, 2019 (査読なし)
- Phrakonkham, S., So Kazama, Daisuke Komori, Sopha Soliya, Evaluation of Rainfall Probability to Hazard Map in Laos PDR, E-Proceedings of the 38th IAHR World Congress, Theme C, pp.4457-4467, 2019.9.5. DOI: 10.3850/38WC092019-0979
- Phrakonkham, S., So Kazama, Daisuke Komori, Soliya Sopha, Distributed Hydrological Model for Assessing Flood Hazards in Laos, *Journal of Water Resource and Protection*, Vol.11, No.8, pp.937-958, 2019. DOI: 10.4236/jwarp.2019.118056
- Rangsiwanichpong, P., So Kazama, Chaiwat Ekkawatpanit, Luminda Gunawardhana, Evaluation of cost and benefit of sediment based on landslide and erosion models, *CATENA*, Vol.173, pp.194-206, 2019. DOI: 10.1016/j.catena.2018.10.010
- Rangsiwanichpong, P., So Kazama, Luminda Gunawardhana, Assessment of sediment yield in Thailand using revised universal soil loss equation and geographic information system techniques, *River Research and Applications*, Vol.34, Iss.9, pp.1113-1122, 2018.11. DOI: 10.1002/rra.3351
- Roszjar, J.1, Whitehouse, M. J., Terada, K., Fukuda, K., John, T., Bischoff, A., Morishita Y., and Hiyagon, H. (2018) Chemical, microstructural and chronological record of phosphates in the Ksar Ghilane 002 enriched shergottite, *Geochimica et Cosmochimica Acta*, 245, 385-405, doi: 10.1016/j.gca.2018.11.015.
- Sakairi, T., Sakamaki, T., Ohtani, E., Fukui, H., Kamada, S., Tsutsui, S., Uchiyama, H., Baron, A.Q.R., Sound velocity measurements of hcp Fe-Si alloy at high pressure and high temperature by inelastic X-ray scattering, *American Mineralogist*, vol.103, 85-90. 2018.
- 坂元宏司, 風間聡, 峠嘉哉, 流出解析による表面・底面融雪量検討と気象感度分析, *土木学会論文集 B1 (水工学)*, Vol.74, No.5, I_307-I_312, 2018.11.
- 坂本正夫・長谷川美行・狩野謙一・酒井幸雄, 2018: 赤石構造帯北部に発見した黒瀬川帯の構成要素. *伊那谷自然誌論集*, 19, 1-15.
- 桜井愛子, 北浦早苗, 村山良之, 佐藤 健: 地域に根差した災害復興・防災教育プログラムの開発ー石巻市立学校での「復興・防災マップづくり」5年間の実践を踏まえて, *安全教育学研究*, Vol.18, No.1, pp.23-36, 2019.

- Salem, G. S. A., So Kazama, Shamsuddin Shahid, Nepal C. Dey, Impacts of Climate Change on Groundwater Level and Irrigation Cost in a Groundwater Dependent Irrigated Region, *Agricultural Water Management*, Vol.208, pp.33-42, 2018.9. doi.org/10.1016/j.agwat.2018.06.011
- Salem, G. S. A., So Kazama, Shamsuddin Shahid, Nepal C. Dey, Groundwater-dependent irrigation costs and benefits for adaptation to global change, *Mitigation and Adaptation Strategies for Global Change*, Vol.23, pp.953-979, 2018. doi.org/10.1007/s11027-017-9767-7
- Sato, Takeshi, Aiko Sakurai, Yuki Sadaike, Hitoshi Konno, Masahiro Horino, Risa Yanagiya, and Takahisa Mizoi : Sustainable Community Development for Disaster Resilience and Human Resources Development for Disaster Risk Reduction – Katahira-Style Disaster Resilient Community Development -, *Journal of Disaster Research*, Vol.13, No.7, pp.1288-1297, 2018.
- 佐藤 健, 桜井愛子 : 学校と地域との協働に基づいた防災教育教材の創造—大崎市立岩出山小学校の実践事例, *安全教育学研究*, Vol.18, No.1, pp.83-91, 2019.
- Sato, Yu, Hiroyuki Kimura: Temperature-dependent expression of different guanine-plus-cytosine content 16S rRNA genes in Haloarcula strains of the class Halobacteria. *Antonie van Leeuwenhoek* Vol. 112, 187-201, 2019.
- Sato, Y., N. Hirano, S. Machida, J. Yamamoto, M. Nakanishi, T. Ishii, K. Yasukawa, and Y. Kato (2018): Direct ascent to the surface of asthenospheric magma in a region of convex lithospheric flexure. *International Geology Review* 60, 1231-1243, doi: 10.1080/00206814.2017.1379912 (査読あり) .
- 瀬尾直樹・原田賢治・金原剛・風間聡 : 盛土式津波避難施設『命山』と周辺家屋等との離隔距離についての基礎的検討, *土木学会論文集 B2(海岸工学)*, Vol.75, No.1, 1-9, 2019.
- Seo, Naoki, Kenji Harada, So Kazama: Study on design method for mound type tsunami evacuation “Inochiyama”, Part 2, *Proceedings of the 21st congress of International Association for Hydro-Environment Engineering and Research (IAHR), Asia Pasific Division (APD)*, Vol.2, 1059-1067, Yogyakarta, 2-5 September 2018.
- 瀬尾直樹・原田賢治・風間聡 : 盛土式津波避難施設『命山』のアンケート調査—東日本大震災後7年の中新田地区住民意識—, *土木学会論文集 F5(土木技術者実践)*, Vol.74, No.1, 11-26, 2018.
- 瀬尾直樹・原田賢治・金原剛・風間聡 : 盛土式津波避難施設『命山』の天端高設定手法—盛土建設後の浸水解析—, *土木学会論文集 G(環境)*, Vol.74, No.5, I_417-I_424, 2018.
- Sharygin, I.S., Shatskiy, A., Litasov, K.D., Golovin, A.V., Ohtani, E., Pokhilenko, N.P., Interaction of peridotite with Ca-rich carbonatite melt at 3.1 and 6.5 GPa: Implication for merwinite formation in upper mantle, and for the metasomatic origin

- of sublithospheric diamonds with Ca-rich suite of inclusions, *Contributions to Mineralogy and Petrology*, vol. 173, 22, 2018.
- 新藤淳, 村上正浩, 廣井悠, 市居嗣之, 宮田桜子, 黒目剛, 虎谷洸: 新宿駅周辺地域における帰宅困難者一時滞在施設開支援手法の開発, *日本地震工学会論文集*, Vol.19, No.6, p. 6_296-6_305. (審査付)
- 塩崎竜哉・本間基寛・牛山素行: 豪雨時における災害危険度の高まりを推定するための電話通報数の活用について—2014年広島豪雨災害事例による検討—, *災害情報*, No.16, pp.49-60, 2018.
- Shitaoka, Y., Takeshi Saito, Junji Yamamoto, Masaya Miyoshi, Hidemi Ishibashi, Tsutomu Soda: Eruption age of Kannabe volcano using multi-dating: Implications for age determination of young basaltic lava flow, *Geochronometria*, 46, 49-56, 2019.
- 下岡順直・齋藤武士・山本順司・石橋秀巳・三好雅也・早田勉: 複数の年代測定法による噴火活動年代の推定—神鍋スコリア丘への適用—, *月刊地球*, 号外 69, 174-181, 2018.
- 須藤 巧哉・山崎 文雄・松岡 昌志・井ノ口 宗成・堀江 啓・劉 ウェン, 益城町の罹災証明データに基づく 2016 年熊本地震に対する建物被害関数の構築, *日本地震工学会論文集*, 2019 年 19 卷 4 号, p.4_13-4_31, https://doi.org/10.5610/jaee.19.4_13, 2019.8.
- Sugawara, D., Yu, N.T., Yen, J.Y., Estimating a Tsunami Source by Sediment Transport Modeling: A Primary Attempt on a Historical/1867 Normal-Faulting Tsunami in Northern Taiwan. *Journal of Geophysical Research: Earth Surface* 124, 1675-1700, 2019. Doi:10.1029/2018JF004831
- 菅原雄太, 風間聡, 峠嘉哉, レーダー・アメダス解析雨量を用いた豪雨の空間分布特性の分析, *土木学会論文集 B1(水工学)*, Vol.74, No.4, pp. I_343-I_348, 2018.3.7.
- 杉山高志・矢守克也 (2019) 南海トラフ地震の「臨時情報」に対する社会的対応に関する基礎的考察 *地区防災計画学会誌*, 15, 53-60.
- 杉山高志・矢守克也 (2019) 津波避難訓練支援アプリ「逃げトレ」の開発と社会実装—コミットメントとコンティンジェンシーの相乗作用— *実験社会心理学研究*, 58, 135-146.
- Sun, Y and Yamori, K. (2018). Risk management and technology: Case studies of tsunami evacuation drills in Japan. *Sustainability*, *Sustainability* 2018, 10(9), 2982; <https://doi.org/10.3390/su10092982>
- Takahashi, Hiroshi A., Hiroko Handa, Ayumi Sugiyama, Makoto Matsushita, Miyuki Kondo, Hiroyuki Kimura, Maki Tsujimura : Filtration and exposure to benzalkonium chloride or sodium chloride to preserve water samples for dissolved inorganic carbon analysis. *Geochemical Journal* Vol. 53, 305-318, 2019.
- Takahashi, N., So Kazama, The Influence of Antecedent Rainfall to Flashed Flood in a Mountainous River, *E-Proceedings of the 38th IAHR World Congress, Theme E*, pp.2135-2142, 2019.9.3. DOI: 10.3850/38WC092019-1096.

- Takahashi, S., Ohtani, E., Ikuta, D., Kamada, S., Sakamaki, T., Hirao, N., Ohishi, Y.; Thermal equation of state of Fe₃C to 327 GPa and carbon in the core, *Minerals*, vol. 9, 744, 2019.
- Takahashi, S., Ohtani, E., Sakamaki, T., Kamada, S., Fukui, H., Tsutsui, S., Uchiyama, H., Ishikawa, D., Hirao, N., Ohishi, Y., Baron, A. Q. R., Sound velocity of Fe₃C at high pressure and high temperature determined by inelastic X-ray scattering, *Comptes Rendus Geoscience*, vol 351, 190-196, 2019.
- Takahashi, Sou, Masato Futagawa, Kazuhiro Takahashi, Tatsuya Iwata, Kazuaki Sawada, "Highly sensitive glucose measurement using an amplified redox sensor", *Japanese Journal of Applied Physics*, Vol. 59, pp.047002-1-6, 2020.
- 高山佳子、山本裕之、古橋裕子、他 男子大学生の4年間の大学生活における健診データの経時的動向と生活習慣要因との関係 *CAMPUS HEALTH* 57 (1) 77, 2020
- Takeda, H., Goto, K., Goff, J., Matsumoto, H., Sugawara, D., Could tsunami risk be under-estimated using core-based reconstructions? Lessons from Ground Penetrating Radar: GPR - a key first step for palaeotsunami research. *Earth Surface Processes and Landforms* 43 (4), 808-816, 2018. Doi:10.1002/esp.4282
- 竹之内健介・矢守克也・千葉龍一・松田哲裕・泉谷依那 (2020) 地域における防災スイッチの構築ー宝塚市川面地区における実践を通じてー *災害情報*, 18, 47-57.
- 竹之内健介・大西正光・佐山敬洋・本間基寛・矢守克也 (2019) 水害ポテンシャルを有していた非被災地域における意識調査ー平成30年7月豪雨における京都市南部事例ー, *土木学会論文集 F6(安全問題)*, Vol.75, No.2, pp.I_27-I_37.
- 竹之内健介・加納靖之・矢守克也 (2018) 平成29年九州北部豪雨において地域独自の判断基準が果たした役割ー災害時におけるスイッチ機能ー, *土木学会論文集 F6(安全問題)*, pp.31-39.
- 竹之内健介・矢守克也・河田慈人・中北英一・田中耕司・小林拓磨 (2018) 気象情報に対する地域の災害情報としての住民の表現傾向, *自然災害科学*, 37, 109-124.
- 竹之内健介・矢守克也・河田慈人 (2018) 生活防災タイムラインを通じた時系列の災害対応に対する住民意識, *災害情報*, 16(1), 73-84
- Tamura, Keiko, Munenari Inoguchi, Kei Horie, Ryota Hamamoto and Haruo Hayashi, Realization of Effective Team Management Collaborating between Cloud-based System and On-site Human Activities -A Case Study of Building Damage Inspection at 2018 Hokkaido Eastern Iburu Earthquake-, *IEEE Big Data 2018*, pp.3554-3558, 2018.12.
- 田中裕夏子, 風間聡, 多田毅, 山下毅, 小森大輔, 治水安全度を考慮した洪水・高潮リスク評価, *土木学会論文集 B1 (水工学)*, Vol.75, No.2, I_109-I_114, 2019.11.
- 田中裕夏子, 風間聡, 小森大輔, 洪水・高潮複合災害リスク評価, *土木学会論文集 G(環*

- 境), Vol.74, No.5, pp. I_257-I_264, 2018.9.6.
- Tetsuka, H., Goto, K., Ebina, Y., Sugawara, D., Ishizawa, T., Historical and geological evidence for the seventeenth-century tsunamis along Kuril and Japan trenches: implications for the origin of the AD 1611 Keicho earthquake and tsunami, and for the probable future risk potential. In: Dilek, Y., Ogawa, Y., Okubo, Y. (Eds), Characterization of Modern and Historical Seismic-Tsunamic Events, and Their Global-Societal Impacts. Geol. Soc. London Spec. Pub. 501, in press. doi:10.1144/SP501-2019-60
- 峠嘉哉, Grace Puyang Emang, 風間聡, d4PDF と陸面過程モデルを用いた三陸地方における極端な土壌乾燥の将来変化予測, 土木学会論文集 B1 (水工学), Vol.75, No.2, I_1057-I_1062, 2019.11.
- Touge, Y., Grace Puyang Emang, So Kazama, Evaluation of Soil Moisture Dryness Using Land Surface Model in the Case of Forest Fires in Tohoku 2017, E-Proceedings of the 38th IAHR World Congress, Theme C, pp.3822-3828, 2019.9.4. DOI: 10.3850/38WC092019-1808
- 峠嘉哉, 峯岸優好, 長谷川匡, 川越清樹, 風間聡, 裸地小流域を対象とした UAV による地表面温度の連続観測と放射量・土壌水分比較, 土木学会論文集 G (環境), Vol.75, No.5, pp. I_307-I_312, 2019.
- 峠嘉哉, Grace Puyang Emang, 風間聡, 高橋幸男, 佐々木健介, 2017 年東北山林火災における岩手県釜石市・宮城県栗原市の被害概要, 自然災害科学, 39(4), pp.361-370, 2018.
- Tsou, C.Y., Chigira, M., Lin, H.-H. & Huang, W.-K. 2018. Flexural toppling as a causal factor of the rain-induced slope failure in 2016, Hsinchu Prefecture, Taiwan. Journal of the Japan Landslide Society, 55, 39-45.
- 坪内暁子, 内藤俊夫, 土屋陽子, 佐藤 健, 佐々木宏之, 仲田悦教, 向山晴子, 有賀 平, 沖山雅彦, 柳澤吉則, 范 家堃, 佐伯 潤, 大槻公一, 丸井英二, 奈良武司: 新宿区指定避難所地域の要援護者等のリスク低減に向けた研究, 生存科学, Vol.29, pp. 21-43, 2018.
- 坪内暁子, 内藤俊夫, 土屋陽子, 佐藤 健, 佐々木宏之, 仲田悦教, 范 家堃, 佐伯 潤, 大槻公一, 丸井英二, 奈良武司: 新宿の指定避難所周辺地域における調査結果の考察—情報関連のシステム策定に向けて, ARIMASS 研究年報, pp.23-43, 2018.
- Tsuji, S., Yamaoka, K., Ikuta, R., Kunitomo, T., Watanabe, T., Yoshida, Y., Katsumata, A., 2018. Secular and coseismic changes in S-wave velocity detected using ACROSS in the Tokai region, Earth Planets and Space, 70.
- Tsuji, S., K. Yamaoka, R. Ikuta, T. Kunitomo, T. Watanabe, Y. Yoshida, A. Katsumata, Secular and coseismic changes in S-wave velocity detected using ACROSS in the Tokai region, Earth, Planets and Space, 70:146, 2018
- 内田典子, 久保田健吾, 会田俊介, 風間聡, メタバーコーディングと定量 PCR から得た

- 水生昆虫環境 DNA 量と水生昆虫現存量の関係, 土木学会論文集 G (環境工学), Vol.75, No.7, III_281-III_288, 2019.
- 牛山素行・関谷直也:2016 年台風 10 号災害による人的被害の特徴, 自然災害科学, Vol.36, No.4, pp.429-446, 2018.
- 牛山素行・横幕早季:2017 年の豪雨災害による人的被害の特徴, 東北地域災害科学研究, No.54, pp.131-136, 2018.
- 牛山素行・本間基寛・横幕早季・杉村晃一:平成 30 年 7 月豪雨災害による人的被害の特徴, 自然災害科学, Vol.38, No.1, pp.29-54, 2019.
- Watanabe, M., Goto, K., Imamura, F., Kennedy, A., Sugawara, D., Nakamura, N., Tonosaki, T., Modeling boulder transport by coastal waves on cliff topography: Case study at Hachijo Island, Japan. *Earth Surface Processes and Landforms*, 2019. Doi:10.1002/esp.4684
- 山田慶太郎, 風間聡, 会田俊介, 衛星画像を用いたメコン河氾濫原における栄養塩分布の推定, 土木学会論文集 G(環境), Vol.74, No.5, pp. I_103-I_108, 2018.9.5.
- Yamada, Y., So Kazama, Evaluation of Time Series Trend of Total Phosphorus Concentration Distribution in Mekong River Floodplain Using Satellite Images, E-Proceedings of the 38th IAHR World Congress, Theme C, pp.673-680, 2019.9.2. DOI: 10.3850/38WC092019-1316.
- Yamaga, N., Yuta Mitsui: Machine learning approach to characterize the postseismic deformation of the 2011 Tohoku-oki earthquake based on recurrent neural network, *Geophys. Res. Lett.*, 46, 11886-11892, doi:10.1029/2019GL084578, 2019.
- Yamakawa, Y., Hotta, N., Tsunetaka, H., Ohsaka, O., Masaoka, N., Imaizumi, F., Kosugi, K., Investigation of volcanic deposits using a combined penetrometer-moisture probe: Application in Izu-Oshima Volcano, Japan, *International Journal of Erosion Control Engineering*, 11(1), 15-27, 2018/6.
- 山本阿子・高橋智幸・原田賢治:津波堆積物分布の転換点による断層パラメータ推定のための数値実験, 土木学会論文集 B2 (海岸工学), Vol.75, No.2, I_361-I_366, 2019.
- Yamamoto, Ako, Tomoyuki Takahashi, Kenji Harada, Masaaki Sakuraba, Kazuya Nojima : Validation of Sediment Transport Model Using Hydraulic Experiment Data to Assess the Influence of Grain Size and Exerting Force on Tsunami Deposit, *Journal of Societal Safety Sciences*, Vol.9, 3-19, 2019.
- 山本裕之, 森俊明, 古橋裕子, 他 随時血糖値スクリーニングより反応性低血糖が疑われた大学生への一考察 *CAMPUS HEALTH* 57 (1) 71-73, 2020 (査読なし)
- 山本道, 風間聡, 峠嘉哉, 田中裕夏子, 多田毅, 山下毅, 気候変動による洪水被害額の推定における GCM と空間解像度の影響, 土木学会論文集 B1 (水工学), Vol.75, No.2, I_1087-I_1092, 2019.11.

- 山本道, 風間聡, 峠嘉哉, 多田毅, 山下毅, 気候変動による洪水被害に対する緩和策と適応策の評価, 土木学会論文集 G (環境), Vol.75. No.5, pp. I_15-I_24, 2019.
- 矢守克也 (印刷中) 「境界なき災害」ー人文系自然災害科学から見たコロナ禍 自然災害科学
- 矢守克也 (印刷中) 手強い現代版「空気」との戦い (特集: 災害復興研究の展望) 日本災害復興学会誌「復興」
- 矢守克也 (印刷中) 災害復興のパラダイムシフト 日本災害復興学会論文集
- 矢守克也 (2019) 「かすかな当事者性」を求めて (宮本匠 (著) 「人口減少社会の災害復興の課題ー集合的否認と両論併記ー」に対するコメンタリー論文) 災害と共生, 3(2), 20-22.
- 矢守克也 (2019) 対話参加型の災害リスクマネジメント 臨床心理学, 113, 575-579.
- 矢守克也 (2019) 能動的・受動的・中動的に逃げる 災害と共生, 3(1), 1-10.
- 矢守克也 (2019) 書評論文 イヴァン・イリイチ (著) 『コンヴィヴィアリティのための道具』 災害と共生, 3(1), 79-84.
- 矢守克也 (2019) 書評論文 マイケル・ポランニー (著) 『暗黙知の次元』 災害と共生, 3(1), 71-78.
- 矢守克也・浦上滉平 (2019) 津波避難訓練への参加率と実際の災害時の行動の関連性ー高知県四万十町興津地区を事例にー 地区防災計画学会誌, 15, 26-33.
- Yamori, K. (2019). Disaster information from the viewpoint of speech act theory. *Journal of Integrated Disaster Risk Management*, 9, 40-55.
- 矢守克也 (2019) 〈待つ〉時間ー補論: アクションリサーチの〈時間〉ー 災害と共生, 2(2), 1-8.
- 矢守克也 (2019) 書評論文 浦河べてるの家 (著) 「べてるの家の『当事者研究』」 災害と共生, 2(2), 41-45.
- 矢守克也 (2019) 書評論文 野村直樹 (著) 「みんなのベイトソナー学習するってどういうこと?」 災害と共生, 2(2), 47-50.
- 矢守克也・竹之内健介 (2018) マイスイッチ・地域スイッチー平成 29 年九州北部豪雨災害を踏まえてー 地区防災計画学会誌, 11, 21-24.
- 安本真也・牛山素行・関谷直也: 平成 28 年台風 10 号災害における岩泉町での避難行動の分析, 自然災害科学, Vol.37, 特別号, pp.33-46, 2018.
- 横田優至・菊池慧・今泉文寿・逢坂興宏・増井健志・経隆悠・堀田紀文・早川裕弼, 荒廃溪流源頭部における土石流段波の流動形態, 中部森林研究, 67, 105-108, 2019/5.
- 吉田明夫, 南海トラフ地震の予測と防災, 日本地震学会モノグラフ第 5 号「地震発生予測と大震法および地震防災研究」 pp 52-56, 2018.
- 吉田明夫, 地震予測と防災についての雑考, 日本地震学会モノグラフ第 6 号「南海トラフ地震臨時情報: 科学的データや知見の活用」 pp 50-51, 2020.

- Yoshihama, Mieko, Tomoko Yunomae, Azumi Tsuge, Keiko Ikeda, Reiko Masai: 'Violence Against Women and Children Following the 2011 Great East Japan Disaster: Making the Invisible Visible Through Research', *Violence against Women*, Vol.25, Issu 7, pp.862-881, 2018
- 吉原 広太郎, 山本 茂広, 橋本 岳: 多眼カメラを利用した船舶の位置計測精度向上に関する検討, *日本マリンエンジニアリング学会誌* 54(4), pp. 635-643, 2019.
- Yuan, H., Zhang, L., Ohtani, E., Meng, Y., Greenberg, E., Prakapenka, V.B., Stability of Fe-bearing hydrous phases and element partitioning in the system MgO-Al₂O₃-Fe₂O₃-SiO₂-H₂O in Earth's lowermost mantle, *Earth and Planetary Science Letters*, 115714, 2019.
- Yuan, L., Ohtani, E., kuta, D., Kamada, S., Tsuchiya, J., Naohisa, H., Ohishi, Y., Suzuki, A., Chemical Reactions Between Fe and H₂O up to Megabar Pressures and Implications for Water Storage in the Earth's Mantle and Core, *Geophysical Research Letters*, vol.45, 1330-1338, 2018.
- Yuan, L., Ohtani, E., kuta, D., Kamada, S., Tsuchiya, J., Naohisa, H., Ohishi, Y., Suzuki, A., Chemical Reactions Between Fe and H₂O up to Megabar Pressures and Implications for Water Storage in the Earth's Mantle and Core, *Geophysical Research Letters*, vol. 45, 1330-1338, 2018.
- Yuan, L., Ohtani, E., Shibazaki, Y., Ozawa, S., Jin, Zenmin, , Suzuki, A., Frost, D., The stability of anhydrous phase B, Mg₁₄Si₅O₂₄, at mantle transition zone conditions, *Phys. Chem. Min.*, vol. 45, 523-531, 2018.
- Zhao, S., Chigira, M. & Wu, X. 2018. Buckling deformations at the 2017 Xinmo landslide site and nearby slopes, Maoxian, Sichuan, China. *Engineering Geology*, 246, 187-197, doi: 10.1016/j.enggeo.2018.09.033.
- Zhao, S., Chigira, M. & Wu, X. 2019. Gigantic rockslides induced by fluvial incision in the Diexi area along the eastern margin of the Tibetan Plateau. *Geomorphology*, 338, 27-42, doi: 10.1016/j.geomorph.2019.04.008.

2.2.3 学会口頭発表

- 安達稜詠, 秦康範: 宮崎県における津波浸水想定区域内人口の変化, *地域安全学会梗概集*, No.44, pp.29-30, 2019.5
- 足立勝美・柵山徹也・石井輝秋 (2018) : Differentiation and generation processes of alkaline basalts from Seifu Seamount in the Japan Sea. *日本地球惑星科学連合 2018 年大会 (幕張メッセ) [SMP36-P01], 2018/5/21 (火) , (ポスター発表) .*
- Akimoto, N. 2019.08. Urban Redesigns for the Networked Polycentric Compact City in Japan. *International Geographical Union Urban Commission*. Luxembourg.

- 安西聡・風間聡:Instagram の画像による河川空間利用実態調査の代替の検討, 土木学会東北支部技術研究発表会, 仙台, 2019.3.2.
- 青木かおり・小林 淳・西澤文勝・鈴木毅彦: 伊豆諸島テフラのデータベース化を目指してー新島大三山地点の事例. 日本地球惑星科学連合 2018 年大会: SVC41-P32, 2018 年 5 月, 千葉.
- 青木かおり・小林 淳・西澤文勝・村田昌則・鈴木毅彦: 伊豆諸島北部, 新島に分布するテフラの標準層序と特性ー伊豆諸島テフラのデータベース化の一環としてー, 日本第四紀学会講演要旨集 48: 44, 2018 年 8 月, 八王子.
- 青木かおり・小林 淳・村田昌則・鈴木毅彦: 房総沖掘削コア C9010E に介在するテフラ層序ー速報としてー, 日本地球惑星科学連合 2019 年連合大会, 2019 年 5 月, 千葉.
- 青木かおり・小林 淳・西澤文勝・村田昌則・石村大輔・鈴木毅彦: 伊豆諸島北部、新島に分布する第四紀後期テフラの標準層序と岩石学的・地化学的特性ー火山ガラスの主元素組成、斜方輝石、角閃石類の屈折率を中心にー, 日本地球惑星科学連合 2019 年連合大会, 2019 年 5 月, 千葉.
- 青木かおり・小林 淳・村田昌則・鈴木毅彦: 房総沖掘削コア C9010E に介在するテフラ層の特徴と編年, 日本第四紀学会 2019 年大会, 2019 年 8 月, 銚子.
- Aoki, K., Kobayashi, M., Murata, M., Nishizawa, F., Takahashi, T. and Suzuki, T.: Construction of late Quaternary eruption history in and around the Izu Lolcabic Islands, off Tokyo, Ocean Science Meeting, Marine Geology and Sedimentology, 17 February 2020.
- 芦沼完太、松下 慎、木村浩之. 地下圏の脱窒とメタン生成の有機物利用における競合: 菌叢の違いは関係ない? 日本微生物生態学会第 33 回大会、甲府、2019 年 9 月.
- Chigira, M. & Suzuki, T. 2018. Distribution of earthquake-susceptible tephra in Kanto and Tohoku areas: For the earthquake hazard mapping. Japan Geosciences Union 2018 Meeting, Makuhari.
- Chigira, M., Tsou, C.Y. & Higaki, D. 2019. Gigantic landslides aligned along the Kaligandaki River, Nepal Himalaya. Geophysical Research Abstracts (European Geosciences Union), 21, EGU2019-2738.
- 千木良雅弘, S., L. & 松四雄騎. 2018. 2017 年 7 月九州北部豪雨による斜面崩壊の地質. 日本地球惑星科学連合 2018 年大会, 幕張, 5 月 22 日.
- Evans, J. R., Imaizumi, F., Investigating the Relationship Between Tree Height and Landslide Occurrence in the Ikawa Catchment, Central Japan, Japan Geoscience Union 2019, HDS09-05, 千葉市,幕張メッセ,2019/5/27.
- Evans, J. R., Imaizumi, F., Investigating the relationship between tree height and landslide occurrence in the Ikawa catchment, central Japan, PIII-18, 富山市,富山国際会議場,2018/10/2.

- FUJII, Motoki, Hiromichi Kato, Ota Masayoshi, What factors make school bullying more severe? International School Psychology Association, Sep. 2019.
- FUJII, Motoki, Husserl and "KAIZO", Husserl in Japan: Global Studies in Philosophy and Religion, May. 2019.
- FUJII, Motoki, Kazuto YOSHIDA, Development of Sports Integrity Education Program, Preparing for Becoming a Good Athlete: A New Perspective for Raising the Moral Awareness of Youth, Japan Table Tennis Association Sports Science and Medicine Committee International Meeting 2018, Sep. 2018.
- FUJII, Motoki, Moral Education in Japan: Reform and Possibilities, Hokkaido Moral Education Seminar, Aug. 2018.
- 藤岡換太郎・平田大二・高橋直樹・柴田健一郎・西川徹、相模湾とその周辺の海底谷の成因—伊豆・小笠原弧の衝突テクトニクス—、日本第四紀学会、2018年8月
- 藤岡換太郎・山下浩之・高橋直樹、相模湾の相模海丘の玄武岩礫層と沖ノ山堆列の成因について—伊豆弧北端のテクトニクス序説、その2—、日本地質学会、2018年9月
- 藤岡換太郎、海底谷とは何だろう、日本地質学会、2019年9月
- Fulco, Flavia, Munenari Inoguchi, Tomoya Mikami, Cyber-physical disaster drill: preliminary results and social challenges of the first attempts to unify Human, ICT and AI in disaster response, IEEE Big Data 2018, pp.3494-3496, 2018.12.
- Furuhashi, Yuko : The effect of group therapy for Japanese university students with high-functioning ASD and ADHD 19th World Congress of Psychiatry (Lisbon, Portugal 2019年8月22日)
- Furuhashi, Yuko : Evaluation of small group therapy for Japanese university students with High functioning ASD 18th International congress of European Society of Children and Adolescent Psychiatry (Vienna, Austria 2019年6月30日)
- 古橋裕子 他 健康診断を利用した多職種チームによるメンタルヘルス支援 第57回全国保健管理研究集会 (2019年10月9日、札幌コンベンションセンター、北海道、札幌市)
- 古橋裕子、他「保健センターで診た大学入学後に顕在化した発達障害圏学生について」第56回全国大学保健管理研究集会(沖縄 2018年11月)
- Furuhashi, Yuko: Group training program for university students with autism spectrum disorder. 4th International Congress of Clinical and Health psychology on children and Adolescents (Mallorca, Spain, 2018年11月)
- Futagawa, Masato, Keisuke Uemura, Ryuta Oishi, Satoshi Ota, Harutoyo Hirano, "Fabrication of a Stripe-gate Type pH Sensor for Inhibition of Drift in pH Measurement for Long-term Soil Monitoring", The 20th International Conference on Solid-State Sensors, Actuators and Microsystems (Transducers 2019), Sapporo Convention Center, Estrel Berlin – Hotel & Congress Center, Berlin, Germany, June

- 23-27, 2019.
- Fuwa, Yasushi, Masato Futagawa, Mitsuru Komatsu, “Establishment of Technology for Constructing Sensor Networks to Support Safe and Secure Areas in Collaboration with the Local Government”, IEEE International Symposium on Circuits and Systems (ISCAS 2019), Sapporo Convention Center, Sapporo city, Hokkaido, Japan, May 26-29, 2019.
- Goltz, J., Park, H, Nakano, G., and Yamori, K. (2019). Strong Ground Motion and Human Behavior: Using the “Did You Feel It?” Data to Assess Behavioral Response to Earthquakes. The 10th Conference of the International Society for Integrated Disaster Risk Management. Nice, France, Oct 16-18.
- 秦康範, 安達稜詠: 2011年東北地方太平洋沖地震前後における津波浸水想定区域の人口の推移に関する検討, 自然災害科学中部地区研究集会, 自然災害研究協議会中部地区部会, 2020.3
- 秦康範: 長野県防災 Twitter による救助要請の実態, 日本学術会議公開シンポジウム 令和元年台風第19号に関する緊急報告会, 2019.12
- 秦康範: 市区町村別の浸水想定区域内人口の推計, 日本災害情報学会, 第21回研究発表大会予稿集, pp.240-241, 2019.10
- 秦康範, 佐藤唯行, 松崎元, 西原利仁, 目黒公郎: フェーズフリーの概念の具現化: 観光振興と防災対策の融合を目指して, 地域安全学会梗概集, No.44, pp.61-62, 2019.5
- 秦康範, 高橋直也: 地域防災活動の持続可能性に関する調査, 自然災害科学中部地区研究集会, 自然災害研究協議会中部地区部会, pp14-15, 2019.3
- 秦康範, 前田真孝: 全国ならびに都道府県別の浸水想定区域内人口の推移, 日本災害情報学会, 第20回研究発表大会予稿集, pp.24-25, 2018.10
- 秦康範, 佐藤唯行, 松崎元, 西原利仁, 目黒公郎: 防災に関わる新しい概念「フェーズフリー」の提案, 地域安全学会梗概集, No.42, pp.113-115, 2018.5
- Hammond, N.Q., Adomako-Ansah, K., Ishiyama, D., Yamamoto, M., Mizuta, T. and Morishita, Y. (2018) Nature and origin of ore-forming fluids associated with BIF-hosted gold mineralization in the Kraaipan-Amalia greenstone belt, South Africa, Resources for future generations 2018, Vancouver, Canada, 2018.6.16.
- Harada, Kenji, Tomoyuki Takahashi, Ako Yamamoto, Kazuya Nojima, Fumiya Kinone, Tomohiro Horiuchi: Hydraulic experiment on spatial distribution and formation process of tsunami deposits in a flat ground with a cliff topography, 2018 AGU fall meeting, NH41C-0983, Washington D.C., 13 December 2018.
- Harada, Kenji, Tomoyuki Takahashi, Ako Yamamoto, Kazuya Nojima, Masaaki Sakuraba, Junpei Mineta: Hydraulic experiment on spatial distribution of tsunami deposits and hydraulic characteristics of tsunami, AOGS2018, 15th annual meeting,

IG03-D3-PM2-323A-020, Honolulu, Hawaii, 6 Jun 2018.

原口悟・藤永公一郎・中村謙太郎・山口飛鳥・石井輝秋(2018) DSDP Leg58 Site442~444, ODP Leg131 Site808 から掘削された四国海盆基盤岩の再分析と,分析値の特徴. 日本地球惑星科学連合 2018 年大会 (幕張メッセ)「SCG61-P03」2018/5/23 (水), (ポスター発表).

原口悟・藤永公一郎・中村謙太郎・加藤泰浩・山口飛鳥・石井輝秋 (2018) 四国海盆の DSDP, ODP ボーリングによる基盤岩コアの再分析,及び再分析値から見る四国海盆基盤岩の組成分布. 日本地質学会 2018 年度秋季大会,2018 年 09 月 (北海道大学)

長谷川大真, 渡辺俊樹, 伊藤谷生, 狩野謙一, 阿部進, 藤原明, 河内善徳, 南アルプス南端部地域における地下構造の地震波干渉法イメージング, 日本地球惑星科学連合 2018 年大会, 2018 年 5 月.

Hasegawa, D., Watanabe, T., Ito, T., Kano, K., Abe, S., Fujiwara, A., Kouchi, Y., Seismic interferometry imaging of subsurface structure in the southernmost area of South Japanese Alps, The 13th SEGJ International Symposium -What's Next?: Technology for Discovery, Safety and Sustainability, 2018 年 11 月.

橋本 岳, 村上良樹, 遠藤一馬, 橋内伸明: 単眼カメラを用いた実用的な現場計測の基礎的研究, 令和 2 年電気学会全国大会, 3-069, 2020/03.

橋本 岳, 橋本智洋, 山本茂広: ステレオ画像計測のためのマーカー形状・サイズと二値化・重心座標の変動に関する基礎的検討, 2019 年度精密工学会秋季大会学術講演会, C64, 2019/09.

橋本 岳, 山本茂広: 遠距離計測における計測対象の特徴点抽出に関する実験的検討, 日本リモートセンシング学会第 64 回 (平成 30 年度春季) 学術講演会論文集, B-13, 2018/05.

橋本 岳, 山本茂広: パッシブステレオ画像計測における量子化誤差低減法の実験結果, 日本リモートセンシング学会第 64 回 (平成 30 年度春季) 学術講演会論文集, B-14, 2018/05.

橋本智洋, 橋本 岳, 山本茂広: 深層学習を用いた高解像度化手法による自然マーカーにおける対応点探索誤差の軽減, 令和 2 年電気学会全国大会, 3-068, 2020/03.

橋本智洋, 橋本 岳, 山本茂広: 深層学習による画像の高解像度化と対応点探索誤差の軽減, 電子情報通信学会 2019 年総合大会, D-11-19, 2019/03.

林田由那, 佐藤 健, 桜井愛子, 村山良之: 小・中学生の保護者を対象とした学校防災に関する意識調査, 日本安全教育学会第 19 回横浜大会プログラム・予稿集, pp.109-110, 2018.9

林 拙郎・山田 孝: 土砂災害に対応した豪雨度と災害規模の関係 -豪雨度による崩壊個数の把握-, H30 年度砂防学会概要集, 27-28, 2018 年, 5 月.

林 拙郎・山田 孝: 土砂災害に対する豪雨度・豪雨階の意義, 第 37 回日本自然災害学会学術講演会, 139-140, 2018 年, 10 月.

林 拙郎・山田 孝・川邊 洋: 土砂災害発生豪雨の評価と時間特性, H31 年度砂防学会

- 概要集, 221-222, 2019年, 5月.
- 林 拙郎・山田 孝: 土砂災害を発生させた豪雨の時間的・活動的特性, 第38回日本自然災害学会学術講演会, 2019年, 10月.
- 林能成, 日本の地震学および地震防災の発展における20世紀前半に台湾で発生した地震の重要性, 第15回日本地震工学シンポジウム, PS1-01-39, 仙台国際センター, 2018年12月7日.
- 林能成, 地震学者を対象とした南海トラフ地震の事前予測の可能性に関するアンケート調査, 日本地球惑星科学連合大会, 2019年5月26日.
- 林能成, 地震予知の可能性に関する専門家アンケートに対する社会的反応, 日本地震学会講演予稿集, S14-01, 2019年9月18日.
- 日野利洋, 石田風吾, 橋本 岳, 山本茂広: 3次元画像計測システムの微小動きと誤差に関する実験的研究, 令和元年度電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会, B1-6, 2019/09.
- 平峰玲緒奈・石村大輔・青木かおり・小林 淳・鈴木毅彦: 現世海岸における漂流軽石の主成分化学組成からみた給源の推定, 日本地理学会発表要旨集 95: 264, 2019年3月, 川崎.
- Hirano, Harutoyo, Daichi Uematsu, Masato Futagawa, Toshio Tsuji, Haruki Hashimoto, Shinji Kishimoto, Nozomu Oda, Masato Kajikawa, Tatsuya Maruhashi, and Yukihito Higashi, "Development of Depth Extraction System for Earlobe Crease for Supporting Diagnosis of Arteriosclerosis", 40th International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society (EMBC18), July 17-21, 2018, Hawaii Convention Center, Honolulu, Hawaii, USA
- Hirano, Harutoyo, Yusuke Isomura, Toru Tanzawa, and Masato Futagawa, "Monitoring System for Causative Substance of Underarm Odor Using a Multimodal Sensor", IEEE Life Sciences Conference, Oct. 28-30, 2018, Montreal, Quebec, Canada
- 平野陽豊, 植松大智, 二川雅登, 大多哲史, 丹沢徹, 橋本東樹, 岸本真治, 小田望, 梶川正人, 丸橋達也, 東幸仁: 耳朶皺襞の深さを基にした血管内皮機能推定システム, 第58回日本生体医工学会大会, 2019年6月6日-8日, 沖縄コンベンションセンター, 沖縄県宜野湾市.
- Hirano, Naoto, Shiki Machida and Shipboard Scientific Party KS18-09 (2018): Directly ascending asthenospheric melt erupted atop outer rise: the preliminary report of cruise KS-18-09, R/V Shinsei, The AGU 2018 Fall Meeting, V23L-0209, Walter E Washington convention Center -Hall A-C, Washington D.C., 11 Dec 2018, (Poster) .
- 廣井悠, 細川直史, 鹿島真弓: 多様な情報から被害量を即時予測する手法の提案, 日本災害情報学会第21回大会予稿集, pp.72-73, 2019.
- 廣谷志穂・荒井健一・藤田浩司・池島剛・上條孝徳・中村一郎・村松弘一・北沢隆夫・松村昌広・小山真人: 伊豆東部火山群における想定噴火影響範囲と噴火シナリオの見直し.

- 日本火山学会 2019 年秋季大会, B2-15, 神戸市, 2019 年 9 月
- 久田裕史, 藤原優, 二川雅登, 小松満: 盛土の排水対策前後における半導体センサを用いた土中水分量の評価, 第 54 回地盤工学研究発表会, 2019 年 7 月 16 日-18 日, ソニックシティ, 埼玉県さいたま市.
- 久田裕史, 藤原優, 二川雅登, 小松満: 半導体センサを用いた盛土内水分量評価の現地適用性検証, 第 33 回日本道路会議, 2019 年 11 月 7 日-8 日, 都市センターホテル, 東京都千代田区.
- ホア レティ, 前田 恭伸: 日本の生産システムのベトナム拠点への移転に関する研究, 経営情報学会秋季全国研究発表大会 2019, 2019 年 10 月 19 日, 静岡大学, 浜松.
- 本間基寛・牛山素行: 豪雨災害における人的被害ポテンシャルの推定に関する一考察 —平成 30 年 7 月豪雨を事例に—, 第 38 回日本自然災害学会学術講演会, 2019 年 9 月 22 日.
- 本間基寛・増田有俊・辻本浩史・真中朋久: 高解像度アンサンブル雨量予測を活用した災害リスク情報の検討, 日本災害情報学会第 20 回研究発表大会予稿集, 2018 年 10 月.
- 本間基寛・牛山素行: 豪雨災害における人的被害ポテンシャルの推定に関する一考察—平成 30 年 7 月豪雨を事例に—, 第 38 回日本自然災害学会学術講演会講演概要集, 2019 年 9 月.
- 本間基寛・山下啓一・青沼和彦・戸谷洋介・諸原慎之介・リンビンシン・廣木真一・宮間杏香・金子光夫: 要配慮者利用施設を対象とした避難確保計画支援ツールの開発と実証実験, 日本災害情報学会第 21 回研究発表大会予稿集, 2019 年 10 月.
- 福家達也・秋元菜摘, 2019 年 11 月, 位置情報取得による違法駐輪の空間分布の解明と適切な駐輪スペースの特定, 第 17 回情報学ワークショップ P111, 中京大学.
- 福本 壘, 岡野将利, 諏訪拓人, 江目親利, 山口玲子, 佐藤 健: ゲーミングと対話による防災教育の効果とその持続性に関する研究—横浜市港南区芹が谷小学校における 15 ヶ月間の継続調査を事例として—, 日本安全教育学会第 20 回山形大会プログラム・予稿集, pp.88-89, 2019.9
- 百武大葵・秋元菜摘, 2019 年 11 月, 磐田市デマンド型乗合タクシーの運行エリアに関する GIS 分析, 第 17 回情報学ワークショップ P110, 中京大学.
- 飯田浩平, 萩原直明, 橋本 岳, 阿部雅人, 杉崎光一, 山本茂広: 画像を用いた歩道橋のマーカレス振動計測に関する基礎研究, 令和元年度電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会, B1-8, 2019/09.
- 庵 太志・秋元菜摘, 2020 年 03 月, 桜島火山灰が周辺地域の生活環境に与える影響, 2019 年度防災関連学部横断卒論・修論発表会, 静岡大学.
- 池田恵子: 『女性／ジェンダー／多様性の視点』をめぐる地域防災の担い手と住民の認識, 第 6 回震災問題研究交流会 (日本社会学会震災問題研究会), 2020 年 3 月 20 日
- IKEDA, Keiko: 'Building disaster resilient and sustainable community through participation of women: case study of three communities in Shizuoka, Japan',

International ESD Forum :The Role of University and Community to Strengthen School Education in Promoting SDGs Implementation based on ESD, Yogyakarta, November 12-14, 2019

IKEDA, Keiko: 'Shifting Connotation of 'Gender Needs' and 'Leading Women's Roles' in Community-based Disaster Risk Management in Japan', 7th International Symposium on Environmental Sociology in East Asia, Korean Association for Environmental Sociology Seoul National University, 26-28th October, 2019

池田恵子:「ジェンダー・多様性の視点による防災施策進捗の地方差 ～2008年および2017年の全国調査の比較から」, 国際ジェンダー学会 2019年大会, 2019年9月1日

池田恵子:「災害対応・防災を担う女性たち～地域コミュニティの防災体制における位置づけ～」, 第5回震災問題研究交流会(日本社会学会震災問題研究会), 2019年3月18日

池田恵子:「10年の変化の評価の試み(防災・減災と男女共同参画 2017年度自治体調査の結果から)」, 東京大学社会学研究所 第30回社研シンポジウム, 2019年2月1日

IKEDA, Keiko, 'Evolution of Gender and Development Policy and Gender-based Violence in Bangladesh,' Symposium: Protection of Women's Rights in Bangladesh, Symposium of Gender Equality in South Asian Family Law Nagoya University Institute for Advanced Research, Short-term Fellowship Program, Nagoya University, 27th, Jan., 2019

池田恵子:「女性による防災活動の進展 ～地域コミュニティの防災体制類型に着目して～」, 国際ジェンダー学会 2018年大会, 2018年9月2日

池田恵子:「人間の安全保障論とジェンダー研究のこれから」国際ジェンダー学会 2018年大会 シンポジウム I, 2018年9月1日

生田領野, 小平健太郎, 國友孝洋, 渡辺俊樹, 山岡耕春, 勝間田明男, 地すべり地形地における ACROSS 震源を用いた地下状態モニタリング, 日本地球惑星科学連合 2018年大会, 2018年5月.

生田領野・小平健太郎・国友孝洋・渡辺俊樹・山岡耕春・勝間田明男: Seismic velocity monitoring using ACROSS on landslide area, JpGU2018, 2018年5月

生田領野・水野瑚都・陳宏宇・安藤雅孝・香味建: 海底トランスポンダーの切り替えを含む期間の GNSS/音響測地データの解析, JpGU2019, 2019年5月

Ikuta, R., K. Kodaira, M. Ohishi, T. Kunitomo, T. Watanabe, K. Yamaoka, A. Katsumata; Seismic velocity monitoring using ACROSS on landslide area, The 18th Japan-Taiwan International Workshop HGREP Sept.3, 2019年9月

Imaizumi, F., Yamamoto, K., Atsushi, I., Ohsaka, O., Sugimoto, H., Suzuki, S., Sato, S., Kashiwabara, Y., Nishimura, N., Initiation conditions of debris flows in Ohsawa landslide, Mt. Fuji, Japan Geoscience Union 2019, HDS09-10, 千葉市,幕張メッセ,招待講演,2019/5/27.

- 今泉文寿,早川裕弼,経隆 悠,堀田紀文,山岳砂礫堆積域における土石流の発生流下特性,Japan Geoscience Union 2019,MIS20_05,千葉市,幕張メッセ,招待講演,2019/5/27.
- Imaizumi, F., Masui, T., Yokota, Y., Tsunetaka, H., Hayakawa, Y. S., Hotta, N., Ohsaka, O., Tsuchiya, S., Initiation and runout characteristics of debris flow surges in a huge landslide scar, Japan Geoscience Union 2018, HDS07-10, 千葉市,幕張メッセ,2018/5/24.
- 井ノ口 宗成・今井 淳, twitter 投稿画像を用いた屋内外被害の機械分類にかかる基礎研究～2016年熊本地震を事例として～, 電子情報通信学会 安全・安心な生活と ICT 研究会, IEICE-ICTSSL2018-1, No.26, pp.1-4, 2018.5.
- 井ノ口 宗成・真野 栄一・栗原 龍・大崎 雄二, パーソナライズド動画を用いた個人型ハザードマップの提案 ～ "動画で理解!わが家のハザードマップ"プロジェクト ～, 電子情報通信学会 安全・安心な生活と ICT 研究会, IEICE-ICTSSL2018-18, No.132, pp.13-16, 2018.7.
- 井ノ口 宗成・田村 圭子・林 春男, 広域災害の発生直後における被害の概況把握に資する研究 ～ 平成 30 年 7 月西日本豪雨災害を事例として ～, 電子情報通信学会 安全・安心な生活と ICT 研究会, IEICE-ICTSSL2018-34, Vol.118, No.244, pp.49-52, 2018.10.
- Ionguchi, Munenari, Keiko Tamura, Toshiaki Kadono, Implementation of Integrated System with WBS Manager and Action Card Editor for Designing Disaster Response Plan, International Conference on Disaster and Emergency Management (ICDEM2019), pp.1, 2019.3.
- 井ノ口 宗成・田村 圭子・濱本 両太・堀江 啓, ドローンによる空撮画像を活用した屋根被害把握と被災者支援への利用 -2019年山形沖地震における村上市の対応を事例として-, 第 60 回 土木計画学研究発表会, 土木計画学研究・講演集, Vol.60, p.6 (CD-ROM), 2019.11
- Ionguchi,Munenari, Keiko Tamura, Suggestion of Methodology to Detect Building Damage Level Collectively with Flood Depth Utilizing Geographic Information System at Flood Disaster in Japan, International Conference on Disaster and Emergency Management (ICDEM2020), pp.1, 2020.3.
- 石橋秀巳・針金由美子・安田敦・外西奈津美: 富士山宝永噴火の斑レイ岩からクレーサイト捕獲岩. 日本火山学会 2019 年秋季大会, 2019 年 9 月.
- 石橋秀巳・種田凌也・安田敦・外西奈津美・千葉達朗: 伊豆大島 1986 年噴火の斑レイ岩捕獲岩中のメルト包有物, 日本鉱物科学会 2019 年年会, 2019 年 9 月.
- 石橋秀巳・種田凌也・安田敦・外西奈津美: 苦鉄質マグマの噴火様式に及ぼす温度の影響: 伊豆大島 1986 年噴火の例. 日本火山学会 2018 年秋季大会, 2018 年 9 月.
- 石橋秀巳・諏訪由起子・三好雅也・安田敦・外西奈津美: Aso4 珪長質マグマ中の角閃石-ホストメルト間非平衡. 日本鉱物科学会 2018 年年会, 2018 年 9 月.

- 石垣治久、木村浩之、天野幸治. 温泉付随メタンガス発電施設の調査と防災ステーションへの展開. 2019年度自然災害科学中部地区研究集会、静岡、2020年3月.
- 石井輝秋・Patricia Fryer・高橋聡・松崎琢也 (2018): 「しんかい」湧水域(Shinkai Seep Field)及びコニカル海山産ホワイトチムニーの内部構造; CT スキャンと XRF マッピングによる非破壊的観察, ブルーアースサイエンス・テク, 横浜市横浜港大さん橋ホール, 2018年1月16日 (ポスター発表) .
- 石井輝秋・Patricia Fryer・高橋聡・松崎琢也・太田秀 (2018): 「しんかい」湧水域(Shinkai Seep Field)及びコニカル海山産ホワイトチムニーと初島沖シロウリガイの非破壊的観察. 日本地球惑星科学連合 2018年大会 (幕張メッセ) 「BPT05-P03」, 2018/5/24(木), (ポスター発表) .
- 石井輝秋 (2018): 海底物質科学研究における改良型ドレッジの重要性, 日本地質学会第125年学術大会 (2018札幌, 北海道大学): R8.海洋地質講演番号: R8P-10, 2018年09月07日(金) コアタイム: 13:00~14:20, (ポスター発表) .
- Ishii, Teruaki, Shiki Machida and Izumi Sakamoto (2018): Advanced dredge system in Japan for material science on oceanic bedrocks --New dredge system with acoustic transponder and/or deep sea TV camera—, The AGU 2018 Fall Meeting, V23L-0217, Walter E Washington convention Center ·Hall A-C, Washington D.C., 11 Dec 2018, (Poster) .
- 石井輝秋 (2019): 深海冷湧水系を主とする海底地質試料の物質科学的解析と海底地質の関連解明—チムニー, シロウリガイ, マンガンノジュール等の非破壊物質科学— 平成30年度高知大学海洋コア総合研究センター 全国共同利用・共同研究成果発表会, 2019年3月7日, 高知大学, (ポスター発表) .
- 石井輝秋・樹田行弘・坂本泉・町田嗣樹 (2019): 海底基盤岩研究に於けるハイテク・ドレッジの有用性と課題. --海底岩石 のリアルタイムモニタリングドレッジを目指して--, 日本地球惑星科学連合 2019年大会 (幕張メッセ) [SCG56-P29] 個体地球科学複合領域・一般, 海洋底地球科学, 5月27日 (月) (ポスター発表) .
- 石井輝秋・金子 誠・平野直人・佐藤勇輝・町田嗣樹・浅見慶志朗・秋澤紀克・松崎琢也 (2020): プチスポット産火山岩中のマントル及びアセノスフェア由来物質 —東北沖太平洋超深海底の爆裂火口 (マール) の構成岩石 —, 令和1年度高知大学海洋コア総合研究センター 全国共同利用・共同研究成果発表会, 講演要旨集: P-27, 2020年2月27日 (木) , 高知大学, (ポスター発表) .
- 石川宏之「復興まちづくりで減災教育や観光振興に震災遺構を生かす社会関係資本と住民活動のあり方」2018年度日本建築学会大会, 東北大学, 2018.9.
- 石川宏之「東日本大震災後の地域づくりに震災遺構を保存できた要因—仙台市立荒浜小学校と荒浜地区の住宅基礎群を事例として—」2019年度日本建築学会大会, 金沢工業大学, 2019.9.

- 石川宏之「津波災害遺構の保存・解体プロセスと保存できた内的・外的要因—東日本大震災後の三陸ジオパークを事例として—」第 10 回日本ジオパークネットワーク全国大会(大分),エイトピアおおの, 2019.11.
- 石塚隆之・牛山素行: 都道府県による人的被害情報の収集状況について,2018 年度自然災害科学中部地区研究集会,2019 年 3 月 2 日.
- 石塚隆之・牛山素行: 都道府県による人的被害情報の収集状況について(第 2 報),日本災害情報学会第 21 回研究発表大会,2019 年 10 月 19 日.
- 伊藤麻衣・牛山素行: 静岡県における大雨に関する防災気象情報が発表された時の災害発生率,2019 年度自然災害科学中部地区研究集会,2020 年 3 月 7 日.
- 伊藤美和子・西澤文勝・石村大輔・小林 淳・鈴木 毅彦: 伊豆諸島, 神津島火山南部における単成火山群の噴火史. 日本地球惑星科学連合 2018 年大会: SVC41-P34, 2018 年 5 月, 千葉.
- Ito, Y., Cruz-Atienza, V., Ide, S., Husker, A., Mori, N., Hidalgo, J., Hatayama, M., Novelo, D., Yamori, K., Ramos, O., Nakano, G., and Perez, T. (2019). Hazards Assessment of Large Earthquakes and Tsunamis for Disaster Mitigation in the Mexican Pacific Coast. RAUGM 2019, 2019/10/27-11/1.
- Ito,Y.,Cruz, V., Ide, S., Husker, A., Yoshioka, S., Mori, N., Zavala,Jorge, Hatayama, M., Novelo, David., Yamori, K., Zepeda, O.,Nakano, G., and Sánchez, T. (2019). Hazard Assessment of Large Earthquakes and Tsunamis for Disaster Mitigation in the Mexican Pacific Coast, Annual Meeting 2019 Mexican Geophysical Union, Puerto Vallarta, Mexico. Oct, 27 -Nov. 1.
- 伊藤祐貴・秋元菜摘, 2020 年 03 月, 自衛隊による災害派遣・防災訓練の意義と効果, 2019 年度防災関連学部横断卒論・修論発表会, 静岡大学.
- 岩橋くるみ・安田敦・石橋秀巳・外西奈津美: クリスタルクロットを用いたプレ噴火過程の制約: 雲仙平成噴火の例. 日本火山学会 2019 年秋季大会, 2019 年 9 月.
- Iwahori, T., Nakano, G. and Yamori, K. (2019). Practice of Disaster Education in Mexico. «Cultural Tuning» Based on Comparative Study of Public Educational Curriculum Between Japan and Mexico. The 10th Conference of the International Society for Integrated Disaster Risk Management. Nice, France, Oct 16-18.
- 岩堀卓弥・中野元太・矢守克也 (2019) メキシコでの地震・津波防災教育の実践Ⅱ—日墨の地震リスク認知の盲点を相互補完するサイエンスコミュニケーション— 第 38 回日本自然災害学会学術講演会 北海道釧路市 2018/9/21-22
- 岩堀卓弥・中野元太・矢守克也 (2018) 地震学に関する理科教育の日墨比較研究 第 37 回日本自然災害学会学術講演会 仙台市中小企業活性化センター 2018/10/6
- 地福佳広, 飯田浩平, 橋本 岳, 阿部雅人, 杉崎光一, 山本茂広: 画像による遠距離かつ高精度な橋梁の振動計測に関する基礎研究, 電子情報通信学会 2019 年総合大会, D-11-17,

2019/03.

金井昌信・牛山素行・片田敏孝・越山健治・関谷直也・永松伸吾・秦康範・廣井悠・矢守克也：西日本豪雨における小中学校の対応　－実際にどの程度活動レベルを変えたのか－,日本災害情報学会第21回研究発表大会,2019年10月19日.

Kasahara, J., Yoko Hasada, Takashi Yamaguchi Yoshihiro Sugimoto, Yasutomo Yamauchi³, Hiroataka Kawashima, and Kenji Kubota, Quality Evaluation of Optical Fiber DAS and Geophones Applying to Geothermal resources, Descramble Final Meeting Pisa, Italy, 2018年3月28日.

Kasahara, J., Yoko Hasada, Takashi Yamaguchi, Imaging of Supercritical Geothermal Reservoir Using Full Waveform Inversion Method, Descramble Final Meeting Pisa, Italy, 2018年3月28日.

Kasahara et al., Evaluation of fiber optic DAS as a dense seismic array for continuous monitoring of civil engineering structures (口頭発表),地球惑星連合大会,2018年5月.

Kasahara et al.: Time-lapse approach for monitoring of change in the supercritical water zone during drilling operation and production (ポスター),地球惑星連合大会,2018年5月.

Yamauchi et al.: Applicability of the fiber optic DAS (Distributed Acoustic Sensor) to the calculation of surface wave dispersion curves (ポスター),地球惑星連合大会,2018年5月.

Hasada et al.: Comparison of the records by optical fiber DAS (Distributed Acoustic Sensor) and geophone using natural earthquakes (ポスター),地球惑星連合大会,2018年5月.

Kasahara et al: Time-lapse imaging of supercritical geothermal drilling and production using full waveform inversion method (ポスター),地球惑星連合大会,2018年5月.

Kasahara et al.: Feasibility study of super critical water reservoirs for the next generation of clean and renewable energy sources (ポスター),地球惑星連合大会,2018年5月.

Kasahara et al.: Distinct temporal change of waveforms due to precipitation suggesting the near-surface effect revealed by a dense-but-short geophone array and DAS (ポスター),EAGE (ヨーロッパ物理探査学会),2018年6月.

Kasahara, J. and Hasada, Y., Seismic time lapse approach to image the oil, gas and geothermal reservoirs and CO₂ storage zones, Summer workshop: Recent Advance of Borehole Geophysics (口頭発表),SEG (アメリカ物理探査学会),2018年8月.

Kasahara et al., Evaluation of physical meaning of DAS (Distributed Acoustic Sensor) measurements) in comparison to the geophones (ポスター),SEG (アメリカ物理探査

- 学会 2018 年年会) , 2018 年 10 月.
- Kasahara et al., Evaluation of time lapse of the near-surface layer due to precipitation (ポスター) , SEG (アメリカ物理探査学会 2018 年年会) , 2018 年 10 月.
- Kasahara et al.: Seismic Time-lapse Approach to Monitor Temporal Changes in the Supercritical Water Reservoir (口頭) , Stanford Geothermal Workshop 2019, 2019 年 2 月.
- Kasahara et al. Seismic Imaging of Supercritical Geothermal Reservoir Using Full-waveform Inversion Method (口頭) , Stanford Geothermal Workshop 2019, 2019 年 2 月.
- Kasahara J., Current status of the f Seismic Information network in Japan and future tasks, (口頭発表) , Th 3rd Earthquake Forum (韓国、大邱) , 2019 年 3 月 20 日.
- Kasahara J., Yoko Hasada, Haruyasu Kuzume, H., Yoshihiro Fujise, and Hitoshi Mikada, A feasibility study to identify geothermal reservoirs in the Medipolis field in Kyushu using DTS and DAS systems, 2019 年度 地球惑星連合大会、幕張メッセ), 2019 年 5 月 27 日.
- Kasahara J., Yoko Hasada, and Haruyasu Kuzume, A possible geothermal source at around 4 km depth estimated by the seismic observation in Ibusuki geothermal area, 2019 年度 地球惑星連合大会、幕張メッセ), 2019 年 5 月 27 日.
- Kasahara, J., Y. Hasada, Kuzume, H., Fujise, Y, and Yamaguchi, T., Seismic feasibility study to identify supercritical geothermal reservoirs in a geothermal borehole using DTS and DAS s in a geothermal borehole using DTS and DAS, (口頭発表) , 81st EAGE Conference & Exhibition (ロンドン) , 2019 年 6 月 5 日.
- Kasahara, J., Yoko Hasada, Haruyasu Kuzume, Yoshihiro Fujise, Hitoshi Mikada, Feasibility study of seismic imaging of supercritical reservoir(s) using DAS and DTS methods in the Ibusuki geothermal field, (ポスター発表) , 2019 年度 物理探査学会 春季大会(早稲田大), 2019 年 6 月 5 日.
- 笠原 順三、羽佐田 葉子、久詰 陽康、地熱貯留層のイメージングのための全地震波形インバージョン (FWI) (Full-waveform Inversion (FWI) approach to the imaging of geothermal reservoirs)、口頭発表,2019 年度日本地震学会 (京都大学)、2019 年 9 月 16 日.
- 笠原順三、羽佐田葉子、久詰陽康、藤瀬 吉博、三ヶ田均、山本圭吾、南九州のメディポリス地熱地帯における光ファイバーDAS と地表地震計を用いた地震学的研究 (Seismic study using optical fiber and surface seismometers in the Medipolis geothermal field located in southern Kyushu)、ポスター発表、2019 年度日本地震学会 (京都大学)、2019 年 9 月 16 日.
- Kasahara, J., Yoko Hasada, Haruyasu Kuzume, Possibility of low Vp/Vs zone in the

- geothermal filed suggested by the P-to-S conversion, 秋季物理探査学会（盛岡）, 2019年10月30日 2019年度.
- 笠原順三・久詰陽康・羽佐田葉子・藤瀬吉博・北岡諭・松田哲志・三ヶ田均、革新的超臨界地熱場観測技術の研究開発、地熱学会(熊本)、2019年11月21日.
- Kasahara, J., Yoko Hasada, Haruyasu Kuzume, Hiroshi Mikada and Keigo Yamamoto, Seismic approach characterizing geothermal reservoirs using DAS and FWI, The EAGE/BVG/FKPE Joint . . . Workshop on Borehole Geophysics and Geothermal Energy, (口頭発表) ミュンヘン, 2019年11月22日.
- Kasahara, J., Yoko Hasada, Haruyasu Kuzume, Hitoshi Mikada and Yoshihiro Fujise, The second seismic study at the geothermal field in southern Kyushu, Japan using an optical fiber system and surface geophones Stanford Geothermal Workshop (、米国カリフォルニア州 Palo Alto スタンフォード大学) , 2020年2月10日.
- Kasahara, J., Yoko Hasada and Haruyasu Kuzume, Possibility of high Vp/Vs zone in the geothermal filed suggested by the P-to-S conversion, Stanford Geothermal Workshop (、米国カリフォルニア州 Palo Alto スタンフォード大学) , 2020年2月10日.
- Kasahara, J., Yoko Hasada, Haruyasu Kuzume, Hitoshi Mikada, Yoshihiro Fujise, Satoshi Kitaoka and Testsushi Matsuda、2nd seismic and temperature measurements using DAS and DTS measurements at the Medipolis geothermal field, Kyushu, Japan, 地球惑星連合大会 I-Poster, 2020年7月11日.
- Kasahara, J., Yoko Hasada and Haruyasu Kuzume, Geophysical implication of the high Vp/Vs zone at depth of approximately 3.6 km obtained by the DAS measurements at the Medipolis geothermal filed, 地球惑星連合大会 I-Poster, 2020年7月11日.
- 笠間友博・小林 淳: 箱根～北伊豆地域の自然災害の跡を巡る. 2018年度地学教育・アウトリーチ巡検, 日本地質学会関東支部, 2018年8月, 箱根・函南.
- 河辺 賢・堀江 啓・井ノ口 宗成・松岡 昌志・須藤 巧哉・山崎 文雄, 熊本地震の罹災証明データを用いた深層学習による建物被害推定の可能性, 地域安全学会梗概集, No.42, pp.47-48, 2018.5.
- 川辺智士・中家愛梨・林能成, 墓石転倒率から見た2018年大阪府北部の地震における地震動分布の特徴, 日本地震学会講演予稿集, S24-P08, 2018年10月9日.
- 河田慈人・竹之内健介・矢守克也 (2019) 住民・行政・学校・専門家の協働による避難所運営マニュアル作成に関する実践的研究 災害情報学会第21回学会大会 サンポートホール高松 2019/10/19-20
- Kazama, S., Koji Sakamoto, Yoshiya Touge, Analysis on Snow Accumulation and Groundwater Resources by a Distributed Hydrological Model, Theme D, IAHR, Panama, 2019.9.3.

- Kazama, S., Risk Evaluation of Compound Disaster by Storm Surge and Flood in Lowland Areas of Japan, HS13-A003, AOGS, Singapore, 2019.7.31.
- 北村晃寿・山本有夏・原田賢治・豊福高志, 2017年台風21号による高潮堆積物の形成 日本古生物学会, 2020年2月9日.
- 北村晃寿・山本有夏・山田和芳・久保篤史・豊福高志・中川友紀, 三浦半島の現世干潟堆積物に関する堆積学的・地球化学的・古生物学的解析, 日本第四紀学会, 2019年8月24日.
- 北村晃寿・芳賀拓真, 静岡県御前崎の隆起貝層の穿孔貝の種の改訂について, 日本第四紀学会, 2018年8月24日.
- 北村晃寿, 御前崎の隆起貝層の再発見, 日本古生物学会年会, 2018年6月24日.
- 北村晃寿, 御前崎の隆起貝層の再発見, 日本地球惑星科学連合大会, 2018年5月.
- 小林元気・秋元菜摘, 2020年03月, 浜松北部地域における路線バス網の変遷とGISデータ分析 ― 戦後の沿線市町村の産業・集落の変容と関連して ―. 日本地理学会・持続可能な交通システム研究グループ研究会, 駒澤大学.
- 小林 淳・萬年一剛・長井雅史・千葉達朗: 箱根火山神山・大涌谷周辺の火口状地形と噴火堆積物の層序・年代, 日本火山学会 2018年度秋季大会講演予稿集: 210, 2018年9月, 秋田.
- 小林 淳・萬年一剛・山口珠美・長井雅史: 箱根火山神山・大涌谷周辺の火口列とそれらの形成年代の地域性, 水蒸気噴火のメカニズムと予知に関する研究集会, 2019年1月, 小田原.
- 小林 淳・村田昌則・青木かおり・鈴木毅彦: 伊豆諸島 新島火山宮塚山イベント以降の噴火史, 日本火山学会 2018年度秋季大会講演予稿集: 109, 2018年9月, 秋田.
- 小林 淳・村田昌則・西澤文勝・鈴木毅彦: 伊豆諸島神津島火山の最新期の噴火堆積物とその年代. 国際火山噴火史情報研究集会講演要旨集 2018-2: 38-47, 2018年12月, 城南区.
- 小林 淳・西澤文勝・青木かおり・鈴木毅彦: 伊豆諸島, 新島火山中部・北部におけるテフラ層序―火山災害評価の観点からみた噴火履歴の見直しの必要性―. 日本地球惑星科学連合 2018年大会: SVC40-50, 2018年5月, 千葉.
- 小林 淳・西澤文勝・青木かおり・鈴木毅彦: 航空レーザー測量データから作成した高精度DEM データによる伊豆諸島新島および神津島火山の火山地形. 日本地球惑星科学連合 2018年大会: SVC41-P33, 2018年5月, 千葉.
- 小林 淳・青木かおり・村田昌則・西澤文勝・鈴木毅彦: 伊豆諸島新島火山のテフラ層序と最近約2万年間の噴火史, 日本第四紀学会講演要旨集 48: 22, 2018年8月, 八王子.
- 小林 淳・村田昌則・青木かおり・石村大輔・鈴木毅彦: 伊豆諸島新島火山, 大三山及び地内島におけるテフラ層序と間々下浦火山噴出物との対比, 日本地球惑星科学連合 2019年大会: SVC38-02, 2019年5月, 千葉.
- 小林 淳・村田昌則・西澤文勝・鈴木毅彦: 伊豆諸島神津島火山の最新期活動におけるテフラ層序とその噴火史, 日本地球惑星科学連合 2019年連合大会: SVC38-P22, 2019年5月,

千葉.

小林 淳・萬年一剛・山口珠美・長井雅史: 箱根火山中央火口丘上の火口列とその形成年代, 国際噴火史情報研究集会 2019-1: 23-28, 2019年7月, 城南区.

小林 淳・萬年一剛・山口珠美・長井雅史: 箱根火山神山・大涌谷周辺の最新期火口列の形成年代と2015年噴火の位置づけ, 日本第四紀学会2019年大会講演要旨集 49: 24, 2019年8月, 銚子.

小林 淳・萬年一剛・長井雅史・山口珠美: 箱根火山神山・大涌谷周辺の火口列とその火山防災上の意味, 日本火山学会2019年度秋季大会講演予稿集: 88, 2019年9月, 灘区.

小林 淳・村田昌則・西澤文勝・鈴木毅彦: 神津島火山巡検, 日本地質学会関東支部・首都大学東京火山災害研究センター, 2019年11-12月, 神津島.

Kobayashi, M., Mannen, K., Yamaguchi, T. and Nagai, M.: Phreatic eruption history at the latest stage (since ca. 3ka) of Hakone Volcano, Proceedings of the International Workshop on the mechanism of Phreatic Eruption: 10-11, January 2020, Odawara.

小林 淳: 富士・箱根～伊豆諸島北部にかけての爆発的なテフラ噴火史, 関東のテフラー最近の年代観と供給源一, 日本地質学会関東支部, 1-4, 2020年1月, 北区.

Komatsu, Mitsuru, Masato Futagawa, Yasushi Fuwa, "Evaluation of the Calibration Accuracy of Soil Moisture Using a New Microchip Sensor", The 8th International Conference on Geotechnique, Construction Materials and Environment (GEOMATE2018), Nov. 20-22, 2018, Hotel Istana Kuala Lumpur City Centre, Kuala Lumpur, Malaysia, No. 8241, pp.317-322

小西千里, 岩本鋼司, 中嶋勲雄, 渡辺俊樹, 山岡耕春, 下田直之, アクロス震源近傍での3次元常時微動トモグラフィ測定, 物理探査学会第141回学術講演会, 2019年10月.

木下智章・原田賢治: 静岡県地震対策史の作成と地震対策の特徴, 2018年度自然災害科学中部地区研究集会予稿集, pp.8-9, 2019.3.2.

越山健治・牛山素行・片田敏孝・金井昌信・関谷直也・永松伸吾・秦康範・廣井悠・矢守克也: 西日本豪雨における人々の反応—実際にどの程度活動レベルを変えたのか—, 日本災害情報学会第21回研究発表大会, 2019年10月19日.

小杉素子(静岡大学) 農業分野における気候変動リスクの認知と態度, 日本リスク学会第32回大会: 東京工業大学, 2019年11月

小杉素子(静岡大学)・馬場健司(東京都市大)・田中充(法政大学) 気候変動リスクに関する情報提供の課題: 対象者の細分化とそれに応じた情報内容の抽出, 第47回土木学会環境システム研究論文発表会: 東洋大学, 2019年10月

小杉素子(静岡大学)・馬場健司(東京都市大)・田中充(法政大学) 気候変動リスクに対する日本人の態度-対象者の明確化と情報提供の課題-, 第26回地球環境シンポジウム: 長崎大学, 2018年9月

小山真人: 伊豆東部火山群の防災対策の現状と課題—特にハザード評価の見直しについて

- 一. 日本火山学会 2019 年秋季大会, B2-14, 神戸市, 2019 年 9 月
- 小山真人: 1707 年富士山宝永噴火の火口と推移についての新たな作業仮説. 日本地球惑星科学連合 2019 年大会, SVC35-01, 千葉市, 2019 年 5 月
- 小山真人: 地球科学者がブラタモリを案内して考えたこと. 日本地球惑星科学連合 2019 年大会, O01-03, 千葉市, 2019 年 5 月 (招待講演)
- 小山真人・千葉達朗・荒井健一・井戸田秀樹: 火山噴火の基礎知識と建築学への期待. 2018 年度日本建築学会大会特別調査部門パネルディスカッション「建築・都市は火山災害にどう立ち向かうべきか」, 仙台市, 2018 年 9 月
- 小山真人・鶴川元雄: 1987 年 8 月の富士山頂地震は火口陥没未遂か?. 日本地球惑星科学連合 2018 年大会, SVC40-05, 千葉市, 2018 年 5 月
- 小山真人: 富士山の火山防災対策において山体崩壊をどう取り扱うべきか?. 日本地球惑星科学連合 2018 年大会, SVC40-P02, 千葉市, 2018 年 5 月
- Kubota, Haruki, U Hiroi, Takaaki Kato: A Quantitive Comparative Analysis of the Policies Inducing New Residents to Choose Rental Housings at Lower Disaster Risk, International Workshop on Urban Operations Research 2019.
- 久保田映希, 廣井悠: 災害リスクの低い居住を促進する施策の定量的比較分析, 日本災害情報学会第 21 回大会予稿集, pp.136-137, 2019.
- 久保智弘・曾根孝行・小山真人: 火山ハザードとその情報公開状況. 2018 年度日本建築学会大会特別調査部門パネルディスカッション「建築・都市は火山災害にどう立ち向かうべきか」, 仙台市, 2018 年 9 月
- 草苺敏夫, 森 太郎, 定池祐季, 佐藤 健: Local Wiki を活用した地域版防災教育サイトの作成ー宮城県仙台市福住町を対象にー, 日本建築学会北海道支部研究報告集, 92, pp.379-382, 2019.6
- 李勇昕・矢守克也 (2018) 被災地住民と外部支援者との関係性についてー茨城県大洗町の聖地巡礼効果を事例にー 日本災害情報学会 20 周年・日本災害復興学会 10 周年記念合同学会 東京大学 2018/10/27-28
- 李勇昕・矢守克也 (2018) 「被災地ー未災地」交流の意味ー茨城県大洗町と高知県黒潮町ー 日本災害情報学会 20 周年・日本災害復興学会 10 周年記念合同学会 東京大学 2018/10/27-28
- 李勇昕・矢守克也 (2018) 台湾社会から東日本大震災への寄付金の意味とは何か〜「世直し」と「立て直し」の視点を通じて 第 37 回日本自然災害学会学術講演会 仙台市中小企業活性化センター 2018/10/6
- 李勇昕・矢守克也 (2018) 被災地と未災地のインターローカリティ 日本グループ・ダイナミックス学会第 65 回大会 神戸大学 2018/9/8
- Ling, S. & Chigira, M. 2018. Statistical distribution of landslides triggered by the historical strong earthquake in Hachinohe, Japan. Japan Geosciences Union 2018

- Meeting, Makuhari.
- Litasov, K., Sergey Voropaev, Vyacheslav Sevastyanov, Hiroyuki Kagi, Hiroaki Ohfuji, Hidemi Ishibashi, Erik Galimov : Cuboctahedral diamonds from volcanic rocks of Kamchatka: Contamination or growth in unusual environments? JPGU 2018 Meeting , 2018年5月.
- 町田嗣樹・秋澤紀克・浅見慶志朗・石井輝秋・平野直人・YK18-08 航海乗船研究者一同 (2019) : 南鳥島南東方沖のプチスポット火山 : YK18-08 航海速報,ブルーアースサイエンス・テク, 横浜市横浜港大さん橋ホール, 2019年2月20日, (ポスター発表) .
- Maeda, Yasunobu: Which is the First? Comparison of Evaluation Functions for Setting Risk Management, Fifth World Congress on Risk, 2019年5月6日, Cape Town, South Africa.
- Maeda, Yasunobu, Yasuhumi Mori, Toshihisa Asano, and Hiromasa Inuduka: Investigation of volunteer recruitment for environmental activities and use of ICT for it, ISTR Asia-Pacific Regional Conference 2019, 2019年7月15日, Bangkok, Thailand.
- 前田裕太, 渡辺俊樹, 宮町宏樹, 山岡耕春, 國友孝洋, 辻修平, 佐伯晃聖, 2018年3月桜島アークロス稠密観測(序報), 日本火山学会 2018年秋季大会, 2018年9月.
- Mamajiwala, Burhan Yunus, Yasunobu Maeda: The risk of cyber security attacks on autonomous vehicles, Society for Risk Analysis 2019 Annual Meeting, 2019年12月9日, Arlington, USA.
- 益子将和 & 千木良雅弘. 2019. 関東山地三峰地域における線状凹地を間移籍する堆積物. 日本地球惑星科学連合 2019年大会, 幕張, HDS14-P14.
- 増田聖乃, アサノ デービッド, 不破泰, 小松満, 二川雅登, 無線センサーネットワークの端末・中継機における送信タイミング自律調停プロトコルの検討, 電子情報通信学会無線通信システム研究会(RCS), 2018年12月20日-21日, 尾道市市民会館, 広島県尾道市
- 増田俊明, 大森康智: 応力場での変成鉱物の核形成モデル: 板状鉱物及び柱状鉱物の選択配向の予測, 日本地質学会第126年学術大会(2019 山口大会), 2019, 9, 25.
- 松原誠, 西澤あずさ, 青井真, 竹之内耕, 平松良浩, 中川和之: 「防災科研地震だねっと!」の開設と利活用に関するアンケート結果, 日本地球惑星科学連合大会, 2019年5月
- 松原悠・矢守克也・中野元太 (2019) 大規模地震発生後の規範の経時変化に関する基礎的考察 ―生活復旧と経済復旧の両立に向けて― 災害情報学会第21回学会大会 サンポートホール高松 2019/10/19-20
- 松崎元, 佐藤唯行, 秦康範, 西原利仁, 目黒公郎: フェーズフリーの概念とフェーズフリーデザインへの展開, 日本デザイン学会 第65回春季研究発表大会, C3-05, pp.114-115, 2018.6
- 南沢修, 秦康範: 自治体の火山担当者の育成及び火山災害経験者の活用, 日本災害情報学

- 会, 第 21 回研究発表大会予稿集, pp.66-67, 2019.10
- 南沢修, 秦康範: 緊急時の火山防災協議会と火山専門家の役割, 地域安全学会梗概集, No.44, pp.77-78, 2019.5
- 南沢修, 秦康範: 活動火山対策特別措置法の改正点と運用の課題, 日本災害情報学会, 第 20 回研究発表大会予稿集, pp.78-79, 2018.10
- 南沢修, 秦康範: 2014 年御嶽山噴火災害における長野県の対応と復興に向けた支援, 地域安全学会梗概集, No.42, pp.99-101, 2018.5
- 峰松 泰浩, 山本 将也, 大多 哲史, 平野 陽豊, 二川 雅登, 土中水分量広範囲計測に向けた精密時間同期が不要なインピーダンス計測に関する研究, 第 35 回「センサ・マイクロマシンと応用システム」シンポジウム論文集, 2018 年 10 月 30 日-11 月 1 日, 札幌市民交流プラザ, 北海道札幌市
- 三井雄太, 村松雛子, 田中優作: GNSS・GRACE・地震活動が示唆するトンガ海溝の非定常スローイベント, 日本測地学会第 132 回講演会, 2019/10/30.
- Mitsui, Y., Hinako Muramatsu, Yusaku Tanaka: Long-term slow event at the Tonga Trench inferred from GNSS, GRACE, and seismicity, International Joint Workshop on Slow Earthquakes 2019, 2019/9/21.
- 三井雄太, 渡邊識: GNSS データのソフトクラスタリングに基づく伊豆半島基部のブロック境界推定: 東海スロースリップ前後で変化はあったか?, 日本地震学会 2019 年秋季大会, 2019/9/16.
- 三井雄太, 加藤隆寛: GNSS データの L1 インバージョンに基づく 2008-2010 年富士山膨張イベントの力源深さ推定, 日本地球惑星科学連合 2019 年大会, 2019/5/29.
- 三井雄太, 森上竣介: Slow decay of postseismic deformation compared with aftershocks following the 2011 Tohoku-oki Earthquake, 日本地球惑星科学連合 2019 年大会, 2019/5/29.
- Mitsui, Y., Takahiro Kato: Temporal evolution of the slow inflation event and the following transient increase of background seismicity at Mt. Fuji, AGU 2018 Fall Meeting, 2018/12/11.
- 三井雄太, 加藤隆寛: L1 インバージョンに基づく富士山膨張イベントの時間変化の推定, 日本測地学会第 130 回講演会, 2018/10/18.
- 満下 健太・村越 真: 実践経験による山岳リスクイメージの精緻化: 三相因子分析による検討. 認知科学会第 39 回大会.抄録集(2019.9)
- 三輪晟也, 鈴木健太, 日野利洋, 中村香太, 橋本 岳, 黒木孝司, 山本茂広: 法面連続計測への応用を目指した高精度画像計測の対応点探索の改善, 令和元年度電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会, B1-7, 2019/09.
- 三輪晟也, 小野遼太郎, 橋本 岳, 山本茂広: ゼロ平均正規化相互相関法と位相限定相関法による合焦外でのテンプレートマッチング結果への影響評価, 平成 30 年度電気・電子・

情報関係学会東海支部連合大会, I2-3, 2018/09.

宮町宏樹, 高橋浩晃, 青山裕, 椎名高裕, 高田真秀, 一柳昌義, 山口照寛, 小野夏生, 齊藤一真, 伊藤ちひろ, 村井芳夫, 筒井智樹, 井上雄介, 竹井瑠一, 山本希, 平原聡, 中山貴史, 日野亮太, 東龍介, 大友周平, 蔵下英司, 岩崎貴哉, 篠原雅尚, 山田知朗, 阿部英二, 中東和夫, 渡辺俊樹, 前田裕太, 堀川信一郎, 奥田隆, 辻修平, 長谷川大真, 片尾浩, 澁谷拓郎, 三浦勉, 中川潤, 加藤慎也, 山下裕亮, 松島健, 磯田謙心, AgnisTriahadini, 操佳子, 宮町凜太郎, 清水洋, 小林励司, 仲井一穂, 早田正和, 八木原寛, 平野舟一郎, **Seismic refraction and wide-angle reflection experiment in southern Kyushu, Japan: (1) the 2017 exploration report**, 日本地球惑星科学連合 2018 年大会, 2018 年 5 月.

宮町宏樹, 高橋浩晃, 青山裕, 椎名高裕, 高田真秀, 一柳昌義, 山口照寛, 小野夏生, 齊藤一真, 伊藤ちひろ, 村井芳夫, 筒井智樹, 井上雄介, 竹井瑠一, 山本希, 平原聡, 中山貴史, 東龍介, 大友周平, 日野亮太, 阿部英二, 蔵下英司, 岩崎貴哉, 篠原雅尚, 山田知朗, 中東和夫, 渡辺俊樹, 前田裕太, 堀川信一郎, 奥田隆, 辻修平, 長谷川大真, 片尾浩, 澁谷拓郎, 三浦勉, 中川潤, 加藤慎也, 山下裕亮, 松島健, 手操佳子, 宮町凜太郎, 磯田謙心, 清水洋, 小林励司, 早田正和, 仲井一穂, 八木原寛, 平野舟一郎, 田中康久, 川崎慎治, 佐藤紀男, **大規模人工地震探査による始良カルデラ及び周辺域の地殻構造の解明 (2) 予備的成果と 2018 年観測計画**, 日本火山学会 2018 年秋季大会, 2018 年 9 月.

宮町宏樹, 高橋浩晃, 青山裕, 椎名高裕, 田真秀, 一柳昌義, 山口照寛, 小野夏生, 齊藤一真, 伊藤ちひろ, 村井芳夫, 筒井智樹, 井上雄介, 竹井瑠一, 山本希, 平原聡, 中山貴史, 東龍介, 大友周平, 日野亮太, 阿部英二, 蔵下英司, 岩崎貴哉, 篠原雅尚, 山田知朗, 中東和夫, 渡辺俊樹, 前田裕太, 堀川信一郎, 奥田隆, 辻修平, 長谷川大真, 片尾浩, 澁谷拓郎, 三浦勉, 中川潤, 加藤慎也, 山下裕亮, 松島健, 手操佳子, 宮町凜太郎, AgnisTriahadini, 磯田謙心, 清水洋, 小林励司, 早田正和, 仲井一穂, 八木原寛, 平野舟一郎, 田中康久, 川崎慎治, 佐藤紀男, **2018 大規模人工地震探査による南九州下の地殻構造の解明 (2) 予備的成果と 2018 年観測計画**, 日本地震学会 2018 年秋季大会, 2018 年 10 月.

宮町宏樹, 小林励司, 八木原寛, 平野舟一郎, 久保武史, 早田正和, 坂尾健有, 海野直弘, 松島健, 内田和也, 宮町凜太郎, 磯田謙心, AgnisTriahadini, 手操佳子, 神谷義之介, 清水洋, 片尾浩, 澁谷拓郎, 三浦勉, 中川潤, 米田格, 加藤慎也, 為栗健, 瀧下恒星, 仲井一穂, 山下裕亮, 前田裕太, 渡辺俊樹, 堀川信一郎, 松廣健二郎, 奥田隆, 辻修平, 十川直樹, 長谷川大真, 中東和夫, 蔵下英司, 岩崎貴哉, 篠原雅尚, 山田知朗, 阿部英二, 安藤美和子, 田中伸一, 池澤賢志, 佐藤利典, 山本希, 平原聡, 中山貴史, 東龍介, 日野亮太, 大友周平, 鈴木秀市, 筒井智樹, 井上雄介, 竹井瑠一, 多田悠也, 高橋浩晃, 青山裕, 大園真子, 椎名高裕, 高田真秀, 一柳昌義, 山口照寛, 小野夏生, 齊藤一真, 伊藤ちひろ, 薄田悠樹, 村井芳夫, 中垣達也, 田中康久, **人工地震探査による始良カルデラ下の速度構造 (4)**, 日本火山学会 2019 年秋季大会, 2019 年 9 月.

- Miyamoto, S., S. Nagahara, K. Morishima, T. Nakano, M. Koyama, Y. Suzuki: Omnidirectional muography for volcanoes :the plan for first experimental proof in Omuroyama, Shizuoka, Japan. International Conference on Materials and Systems for Sustainability 2019, Nagoya, November 2, 2019
- 宮本成悟・長原翔伍・森島邦博・中野敏行・小山真人・鈴木雄介：全方位ミュオグラフィによる火山観測：～大室山（静岡県伊東市）における実証計画～. 日本火山学会 2019 年秋季大会, A1-09, 神戸市, 2019 年 9 月
- 宮本成悟・長原翔伍・森島邦博・中野敏行・小山真人・鈴木雄介：ミュオグラフィによる大室山スコリア丘の密度構造イメージング～全方位ミュオグラフィ実現に向けた予備観測～. 日本火山学会 2018 年秋季大会, B3-11, 秋田, 2018 年 9 月
- 宮本成悟・長原翔伍・森島邦博・中野敏行・小山真人・鈴木雄介：ミュオグラフィによる大室山スコリア丘の密度構造イメージング～写真乾板を用いた小型観測機によるテスト実験～. 日本火山学会 2018 年秋季大会, P040, 秋田, 2018 年 9 月
- Miyamoto, S., Masato Koyama, Shogo Nagahara, Toshiyuki Nakano, Kunihiro Morishima, and Yusuke Suzuki: CT imaging plan for Omuro monogenetic scoria cone by cosmic-ray muons. European Geosciences Union, General Assembly 2018, Vienna, Austria, April 2018
- 梶井一範, 森下祐一, D.F.Grobler (2019) 南アフリカ共和国ブッシュフェルト複合岩体北リムフラットリーフの酸素炭素同位体比について, 日本質量分析学会同位体比部会 2019, 登別温泉, 2019.11.6.
- 梶井一範, 森下祐一, N. Q. Hammond, D. F. Grobler (2019) 南アフリカブッシュフェルト複合岩体北リム, フラットリーフの鉱物学的特徴; クロム鉄鉱と輝石中の Mg# と Cr# に注目した観察, 資源地質学会第 69 回年会講演会, 東京 (東大小柴ホール), 2019.6.27.
- 森下 祐一 (2020) SIMS による鉄マンガンクラストの微小領域深さ方向分析, 海底マンガ
ン鉱床の地球科学 III -レアメタルと縞々を求めて-, 高知大学, 2020.1.24.
- 森下祐一, N. Q. Hammond, 梶井一範, 小長谷莉未, 佐野有司, 高畑直人, 上野宏共 (2019) 浅熱水性金鉱床および熱水活動を受けた堆積岩胚胎金鉱床中の見えない金, 資源地質学
会第 69 回年会講演会, 東京 (東大小柴ホール), 2019.6.27.
- 森下 祐一 (2018) SIMS 微小領域 Au, Pt 分析と鉄マンガンクラスト試料への適用, 海底マ
ンガン鉱床の地球科学 II -環境・開発・地球史-, 高知大学, 2018.9.29.
- Morishita, Y., Hammond, N.Q. and Ueno, H. (2018) Invisible gold in pyrite and pyrrhotite from epithermal, BIF-hosted and sedimentary gold deposits, 28th Goldschmidt Conference 2018, Boston, USA, 2018.8.16.
- 森保文, 前田恭伸, 浅野敏久: 依頼に係る要因のボランティア活動参加に与える影響,
日本環境共生学会第 22 回(2019 年度)学術大会, 2019 年 9 月 27 日, 北海道斜里町.
- 本山洗矢, 秦康範: GPS 情報を用いた平成 29 年 7 月九州北部豪雨における住民の行動の可

- 視化, 日本災害情報学会, 第 20 回研究発表大会予稿集, pp.32-33, 2018.10
- 向井利明・牛山素行: 過去事例から見た防災気象情報による警戒レベル・警戒レベル相当情報の運用, 日本災害情報学会第 21 回研究発表大会, 2019 年 10 月 20 日.
- MURAKOSSHI, S. & MITSUSHITA, K.: Usability problems and literacy of online maps. *Proceedings of ICC 2019: Tokyo.* (2019.7).
- 村越 真: なぜ「危ない!」と感じるのか?: 知識獲得によるリスクイメージの精緻化. 認知科学会第 39 回大会発表抄録集(2019.9)
- 村田昌則・小林 淳・西澤文勝・石村大輔・鈴木毅彦: 伊豆諸島 神津島火山那智山北部におけるテフラ層序と噴火史. 日本火山学会 2018 年度秋季大会講演予稿集: 209, 2018 年 9 月, 秋田.
- 村田昌則・小林 淳・青木かおり・鈴木毅彦: 伊豆諸島神津島火山の天上山及び櫛ヶ峰におけるテフラ層序とその対比, 日本第四紀学会 2019 年大会, 2019 年 8 月, 銚子.
- 村田昌則・小林 淳・青木かおり・高橋尚志・鈴木毅彦: 伊豆諸島神津島火山穴の山におけるテフラ層序と対比, 日本火山学会 2019 年度秋季大会, 2019 年 9, 灘区.
- 村山良之, 佐藤 健: 東日本大震災の経験と地域の条件をふまえた学校防災教育モデルの創造—石巻市復興防災マップづくり—, 2019 年度日本地理学会春季学術大会, 2019.3
- 村山良之, 小田隆史, 佐藤 健, 桜井愛子, 北浦早苗, 加賀谷 碧: 防災のための地形ミニマム・エッセンシャルズを求めて, 日本地理学会発表要旨集, 2019a, pp.126, 2019.9
- 長原翔伍・宮本成悟・森島邦博・中野敏行・小山真人・鈴木雄介: 大室山での全方位ミュオグラフィに向けたシミュレーションとテスト観測. 日本地球惑星科学連合 2019 年大会, SVC37-P05, 千葉市, 2019 年 5 月
- 中居楓子・矢守克也 (2019) 高知県黒潮町における地区防災アンケートの結果報告: 地区の社会的構造と地区防災計画の成果に着目した地区間比較分析 地区防災計画学会第 5 回大会 大阪市立大学 2019/3/2
- Nakajima, Y., Hidemi Ishibashi, Yuki Kakihata, Natsumi Hokanishi, Katsuyoshi Michibayashi, Atsushi Yasuda: An EBSD study of plagioclase glomerocrysts in Aokigahara lava flow from Fuji volcano, Japan: Implication for their formation process. *JPGU 2018 Meeting*, 2018 年 5 月.
- 中村譲治・倉野康彦・原田賢治: 静岡県地震防災センターで実施した避難所運営ゲーム (HUG) 体験会における参加者の満足度調査, 地域安全学会梗概集, No.45, pp.27-30, 2019, 静岡県立大学, 2019.11.1-2.
- Nakano, G. and Yamori, K. (2019). Fusion of evacuation drill with tsunami inundation simulation -Development and effect of the tsunami educational material-. *RAUGM 2019*, 2019/10/27-11/1.
- Nakano, G. Goltz, J. Park, H., and Yamori, K. (2019). Comparative Analyses of Human Behavioral Response to the Nepal Earthquake of 2015 and the Mexico Earthquake of

2017. The 10th Conference of the International Society for Integrated Disaster Risk Management. Nice, France, Oct 16-18.
- 中野元太・矢守克也 (2019) 防災教育の支援者と被支援者の文化差に関する基礎的考察 第 38 回日本自然災害学会学術講演会 北海道釧路市 2018/9/21-22
- 中野元太・矢守克也 (2018) 防災教育の長期評価に関する基礎的考察 第 37 回日本自然災害学会学術講演会 仙台市中小企業活性化センター 2018/10/6
- Nakano, G., Suwa, S. & Yamori, K., (2018). The “Relaying Effect” of Education for Disaster Risk Reduction: A Case Study in Nuwakot District, Nepal, The 9th Conference of the International Society for Integrated Disaster Risk Management (IDRiM), Sydney, Australia, 2-4 October, 2018.
- 楠城一嘉: 地震活動解析の研究: 熊本地震、リッジレスト地震、東海地震のゆっくり滑り, 研究集会「経験的アプローチによる大地震の確率予測のパフォーマンス調査」, 東京大学地震研究所, 2019 年 2 月 12 日.
- Nanjo, Kazuyoshi: S31F-0479 Seismicity prior to the July 2019 M7.1 Ridgecrest earthquake, AGU 2019 fall meeting, Moscone Center, San Francisco (USA), 9-13 December 2019.
- 楠城一嘉: [S09-05] 2019 年 7 月に南カルフォルニアで起きた M7.1 の地震に先行する地震活動, 日本地震学会 2019 年秋季大会, 京都大学吉田キャンパス, 2019 年 9 月 16-18 日.
- Nanjo, K. Z., J. B. Rundle, T. Sakurada: Development of the earthquake nowcasting method with application to Japan, The 11th International Workshop on Statistical Seismology, The Prince Hakone Lake Ashinoko, Motohakone, Kanagawa, Japan, 18-21 August, 2019.
- NANJO, Kazuyoshi, Masao NAKATANI, Shunichi NOMURA, Toshiyasu NAGAO: A Study of the Relation Between the Occurrence of Large Earthquakes and Time-dependent Decrease in B Value, AOGS 2019, Suntec Singapore Convention & Exhibition Centre, Singapore, 28 July to 2 August, 2019.
- Nanjo, K. Z.: Slow-slip detection capability of the Tokai strainmeter network, AOGS 2019, Suntec Singapore Convention & Exhibition Centre, Singapore, 28 July to 2 August, 2019.
- Nanjo, Kazuyoshi, John B. Rundle, Tetsuo Sakurada: Earthquake nowcasting: further development and application to Japan, 日本地球惑星科学連合 2019 年大会(JpGU 2019), Makuhari Messe (Chiba), 2019 年 5 月 26-30 日.
- 楠城一嘉・宮岡一樹・吉田明夫: 2011 年東北地方太平洋沖地震の震源域北側の大地震発生アセスメント, 日本地球惑星科学連合 2019 年大会(JpGU 2019), Makuhari Messe (Chiba), 2019 年 5 月 26-30 日.

- 楠城一嘉・吉田明夫, 南海トラフ沈み込み帯の地震活動に基づく b 値マップ, 地球惑星科学連合大会, 2018 年 5 月.
- 楠城一嘉・吉田明夫, 富士山直下の低周波地震の b 値解析, 地球惑星科学連合大会, 2018 年 5 月.
- 楠城一嘉・宮岡一樹・吉田明夫, 2011 年東北地方太平洋沖地震の震源域北側の大地震発生アセスメント, 地球惑星科学連合大会, 2019 年 5 月.
- 西林秀晃・中村譲治・原田賢治: 被災後の事業再開にともなう産業廃棄物処理について-排出事業者と処理事業者双方の意識調査-, 2019 年度自然災害科学中部地区研究集会予稿集, pp.8-9, 2020.3.7.
- 西山成哲, 千木良雅弘, 鈴木浩一 & 渡部直喜. 2018. 日本海側新第三系堆積岩地域における山地解体過程と深部流体の関係. 日本地球惑星科学連合 2018 年大会.
- 西澤文勝・小林 淳・村田昌則・鈴木毅彦: 伊豆諸島, 神津島火山中央部の環状地形(那智山火山体)とその形成時期. 日本第四紀学会講演要旨集 48: 67, 2018 年 8 月, 八王子.
- 西澤文勝・伊藤美和子・小林 淳・青木かおり・石村大輔・鈴木毅彦: 伊豆諸島, 神津島火山における爆発的噴火史: 島北部で検出された新たな火砕堆積物群, 日本地球惑星科学連合 2018 年大会: SVC41-51, 2018 年 5 月, 千葉.
- 野口高明・寒河江亮介・石橋秀巳・小竹祥子・鍵裕之・赤坂正秀・木村眞・山口亮: CM コンドライト中の蛇紋岩の $Fe^{3+}/\Sigma Fe$ 比について. 日本鉱物科学会 2018 年年会, 2018 年 9 月.
- 野口高明・寒河江亮介・石橋秀巳・小竹翔子・鍵裕之・赤坂正秀・木村眞・山口亮: $Fe-X_{\alpha}$ X 線吸収端微細構造分析と Fe メスバウアー分光分析にもとづく CM コンドライトの水質変成作用における酸化還元状態の研究. 日本地球惑星科学連合大会 2018 年大会, 2018 年 5 月.
- 小田隆史, 桜井愛子, 村山良之, 佐藤 健, 北浦早苗, 加賀谷 碧: 地図リテラシーとハザード理解-教員研修の評価から-, 日本安全教育学会第 20 回山形大会プログラム・予稿集, pp.42-43, 2019.9
- 小田隆史, 村山良之, 桜井愛子, 佐藤 健, 北浦早苗, 加賀谷 碧: 教職員のハザード理解と防災リテラシー向上のための読図演習, 2019 年度東北地理学会・北海道地理学会秋季学術大会, 2019.9
- Ohtani, E., Sakamaki, T., Fukui, H., Ikuta, D., Ishikawa, D., Uchiyama, H., Tsutsui, S., Baron, A. Q. R., Inelastic x-ray scattering at extreme conditions and its geophysical applications, 11th International Conference on Inelastic X-ray Scattering (IXS2019 (招待講演) (国際学会), 2019, 6.
- Ohtani, E., Ikuta, D., Hirao, N., Sakamaki, T., Inner core as a two phase mixture of the Fe-Ni-Si alloys, AGU2019 Fall meeting (国際学会), 2019, 12.
- Ohtani, E., Ikuta, D., Kamada, S., Sakamaki, T., Hirao, N., B2 phase in the inner core:

- constraints from high pressure experiments, JpGU Meeting 2019 (国際学会), 2019, 5.
- Ohtani, E., Ohira, I., Jackson, J., Ishii, T., Hsieh, W. P., Role of high pressure hydrous phase in lower mantle dynamics, GeoMuenster conference (招待講演) (国際学会), 2019年10月
- Ohtani, E., Role of Hydrogen on Composition, Structure, and Dynamics of the Lower Mantle, Goldschmidt 2019 (招待講演) (国際学会), 2019年9月.
- Ohtani, Eiji, Daijo Ikuta, Asami Sano-Furukawa, Yuki Shibazaki, Hidenori Terasaki, Liang Yuan, Takanori Hattori, In-situ high pressure and temperature neutron diffraction study of the Fe-H system and hydrogen in the planetary core, 2018 American Geophysical Union meeting (国際学会), 2018年12月
- Ohtani, E., Hydrous Phases in TZ and Top of Lower Mantle, Workshop on Intermediate and deep earthquakes: observation and modeling. Collage de France, Paris (招待講演) (国際学会), 2018年10月
- Ohtani, Eiji, Daijo Ikuta, Asami Sano-Furukawa, Yuki Shibazaki, Liang Yuan, Hidenori Terasaki, Takanori Hattori, 2018 International Mineralogical Association general assembly (国際学会),メルボルン, 2018年8月.
- Ohtani, E., Role of hydrogen in the mantle and core, ISHA2018 conference (招待講演) (国際学会), 2018, 6月.
- Ohtani, E., Hydrated mantle transition zone and hydrous magmas in the deep mantle, 2018 JpGU meeting (国際学会), 2018, 5月
- Ohtani, Eiji, Liang Yuan, Itaru Ohira, Anton Shatskiy, Konstantin Litasov, Role of water transported into the deep mantle by subducting slabs, 2018 JpGU meeting (招待講演) (国際学会), 2018, 5
- Ohtani, E., Role of volatiles transported into the mantle transition zone and lower mantle, Workshop on Deep Volatiles, Energy and Environment Summit (招待講演) (国際学会), 2018, 3月
- 岡田夏美・矢守克也 (2019) 児童館における防災活動が地域防災に及ぼす効果に関する研究—黒潮町大方児童館の事例から— 地区防災計画学会第5回大会 大阪市立大学 2019/3/2
- 岡田夏美・矢守克也 (2018) 学校防災教育の課題克服のためのアクションリサーチ 日本災害情報学会20周年・日本災害復興学会10周年記念合同学会 東京大学 2018/10/27-28.
- 岡田夏美・矢守克也 (2018) 学校での防災マップ作成が地域防災活動にもたらす効果—四万十町興津地区を事例として— 第37回日本自然災害学会学術講演会 仙台市中小企業活性化センター 2018/10/6

- 大窪愛・牛山素行・安本真也：NHK 静岡放送局の防災啓発番組の内容分析,2019 年度自然災害科学中部地区研究集会,2020 年 3 月 7 日.
- Ono, Kyoko, Yasunobu Maeda: Introduction of the Risk Analysis Handbook Edited by SRA-Japan, Fifth World Congress on Risk, 2019 年 5 月 8 日, Cape Town, South Africa.
- 小佐野淳平・秋元菜摘, 2020 年 03 月, 浜名湖エリアの観光防災 WebGIS の開発に向けたデータベース構築, 2019 年度防災関連学部横断卒論・修論発表会, 静岡大学.
- Park, H., Goltz, J., Nakano, G., and Yamori, K. (2019). Comparative Analyses of Human Behavioral Response to the Virginia (US) Earthquake of 2011 and the Oklahoma Earthquake of 2016. The 10th Conference of the International Society for Integrated Disaster Risk Management. Nice, France, Oct 16-18.
- Park, H., Nakano, G, Goltz, J., and Yamori, K. (2019). Earthquake Response Behavior: What Do People Do When the Earth Shakes? 44th Annual Natural Hazards Research and Applications Workshop, Boulder, US. 2019/7/14-17.
- Roszjar, J.1, Whitehouse, M. J., Terada, K., Fukuda, K., John, T., Bischoff, A., Morishita Y., and Hiyagon, H. (2018) The dynamic history of Mars – adding another puzzle piece from the analysis of Ca-phosphates in martian meteorites, Austrian Geosciences Conference, Vienna, Austria, 2018.9.24.
- 坂口祐一, 大石裕也, 鈴木健太, 三輪晟也, 日野利洋, 橋本 岳, 黒木孝司, 山本茂広：3 次元画像計測による法面連続計測の高機能化に関する実験的研究, 電子情報通信学会 2019 年総合大会, D-11-18, 2019/03.
- 坂平文博, 廣井悠：リアルタイム災害連関図を作成する方法の検討ー新聞記事を用いた因果データベースの拡充ー, pp.96-97, 日本災害情報学会第 21 回大会予稿集, 2019.
- 桜井愛子, 村山良之, 佐藤 健, 北浦早苗：地形図・地形分類図を活用した防災教育プログラムの開発と課題, 2018 年度東北地理学会春季学術大会, pp. 171, 2018.5
- 桜井愛子, 村山良之, 佐藤 健, 北浦早苗：学校・地域・行政の協働による地域防災力向上のための防災人材育成モデルの開発～宮城県石巻市における「石巻モデル」構築に向けて～, 日本安全教育学会第 19 回横浜大会プログラム・予稿集, pp.107-108, 2018.9
- SAKURAI,Aiko., Takeshi.SATO,Yoshiyuki.MURAYAMA：Seven Years'Development of Disaster Education Program at Public Schools in Ishinomaki-City,Miyagi,Japan, Abstract for 11th ACHE INTERNATIONAL WORKSHOP AND EXPO ON SUSTAINABLE TSUNAMI DISASTER RECOVERY 2018, pp. 29-30, 2018.10
- 桜井愛子, 村山良之, 佐藤 健, 北浦早苗：災害復興教育プログラムの効果検証, 日本安全教育学会第 20 回山形大会プログラム・予稿集, pp.54-55, 2019.9
- Sakurai, Aiko, Takashi Oda, Yoshiyuki Murayama and Takeshi SATO: Development Of A Teacher Training Program For Understanding Community Disaster Risk By Utilizing Geographic Maps, Abstract for 12th ACHE INTERNATIONAL

WORKSHOP AND EXPO ON SUSTAINABLE TSUNAMI DISASTER RECOVERY
2019, pp.28, 2019.11

佐々木由佳、佐藤 悠、岡野憲司、木村浩之、本田孝祐. 有機性廃棄物の二次資源化に向けた天然菌叢と好熱性アセトジェンの共培養系の確立. 環境バイオテクノロジー学会 2019年度大会、大阪、2019年6月.

佐藤 健, 佐藤大介, 柴山明寛: 地域に根差した防災教育のための地震史料のアーカイブ化, 日本安全教育学会第19回横浜大会プログラム・予稿集, pp.111-112, 2018.9

Sato, H.P. & Chigira, M. 2018. Detection of landslide surface deformation in Min Jiang watershed, China using PALSAR-2 InSAR image. Japan Geosciences Union 2018 Meeting, Makuhari.

Sato, T., Chigira, M. & Matsushi, Y. 2018. Tephrostratigraphy and the formative processes of halloysite that control landslide sites by earthquakes: Landslides of tephra induced by 2016 Kumamoto earthquake. Japan Geosciences Union 2018 Meeting, Makuhari.

佐藤 健: 東日本大震災による南三陸町における医療施設の被害と医療救護活動, 地域安全学会東日本大震災特別論文集, NO.7, pp15-18, 2018.7

佐藤 健, 桜井愛子, 定池祐季, 柴山明寛, 丸谷浩明: 仙台市における「がんばる避難施設」の社会的意義と東北大学への導入, 第37回日本自然災害学会学術講演会講演概要集, pp. 183-184, 2018.10

佐藤 健, 柴山明寛, 桜井愛子, 増田 聡: 仙台市地域防災リーダーによる地域に根差した防災活動, 第15回日本地震工学シンポジウム, pp.3059-3064, 2018.12

佐藤 健, 桜井愛子, 定池祐季: 片平子どもまちづくり隊による防災まちづくり, 日本安全教育学会第20回山形大会プログラム・予稿集, pp.80-81, 2019.9

佐藤 健: 持続可能な防災まちづくりと防災人材育成に関する研究, 第56回自然災害科学総合シンポジウム講演論文集, pp.45-52, 2019.9

佐藤 健, 定池祐季: 東北大学基礎ゼミにおける「ぼうさい宝探しゲーム(東北大学片平キャンパス版)」の開発と実践, 第38回日本自然災害学会学術講演会講演梗概集, pp.27-28, 2019.9

佐藤 悠、佐々木由佳、登木耕陽、岡野憲司、木村浩之、本田孝祐. 有機性廃棄物の二次資源化に向けた天然菌叢とアセトジェンの共培養システムの開発. 第71回日本生物工学会大会、岡山、2019年9月.

柴田伊廣, 中川和之: 熊本地震と地震痕跡の保護, 日本地震学会秋季大会, 2018年10月

塩崎竜哉・牛山素行: 「大雨警報(浸水害)の危険度分布」と実際の浸水状況の比較 - 2017年8月17~19日の岐阜県多治見市での大雨を事例として -, 第37回日本自然災害学会学術講演会, 2018年10月7日.

塩崎竜哉・杉村晃一・牛山素行: 豪雨時における災害危険度の高まりを推定するための電

- 話通報数の活用について -2017年7月九州北部豪雨時の検討-, 日本災害情報学会第20回研究発表大会, 2018年10月28日.
- 白石和也, 渡辺俊樹, リバースタイム法による地殻構造の受動的地震波イメージング: 西南日本プレート沈み込みモデルの例, 物理探査学会第141回学術講演会, 2019年10月.
- 菅原大助・西村 裕一・高清水 康博・圓谷 昂史・千葉 崇: 千島海溝沿いの津波と国後島太平洋沿岸のイベント砂層に関する検討, 日本地球惑星科学連合大会, 2018年5月22日.
- 菅原大助: 伊豆半島南部入間の地形と津波の関係についての考察, 国際火山噴火史情報研究集会, 2018年7月22日.
- Sugawara D., Nishimura Y., Takashimizu Y., Razjigaeva N.G., Ganzey L.A., Lebedev I., Borisov R.: Reconstruction of earthquakes and tsunamis in the Japan Sea using sedimentary deposits in the Primorye coast, Russia: implication from numerical modeling, 10th BIENNIAL WORKSHOP on JAPAN-KAMCHATKA-ALASKA SUBDUCTION PROCESSES (JKASP-2018), August 22, 2018.
- 菅原大助・今井健太郎・岡田真介・前田拓人: 津波堆積物に基づく津波規模評価の試み: 南海トラフ地震の例, 日本地球惑星科学連合2019年大会(幕張メッセ), 2018年5月30日.
- 杉村晃一・牛山素行: 大雨に関する災害危険度認知と避難行動意向 ~西日本豪雨前後における住民意識の変化, 日本災害情報学会第21回研究発表大会, 2019年10月19日.
- 杉山高志・矢守克也 (2019) 要配慮者に対する訓練参加促進の方策についての考察 災害情報学会第21回学会大会 サンポートホール高松 2019/10/19-20
- 杉山高志・矢守克也 (2019) 避難訓練における内発的発展の可能性 地区防災計画学会第5回大会 大阪市立大学 2019/3/2
- Suresh, Pooja Pragati, Yasunobu Maeda: Review of environmental impacts of plastic ban and risks hindering plastic recycling in Japan, Society for Risk Analysis 2019 Annual Meeting, 2019年12月9日, Arlington, USA.
- 諏訪由起子・石橋秀巳・外西奈津美・安田敦: 角閃石-斜長石共存関係から探る流紋岩質単成火山のマグマだまりプロセス: 伊豆カワゴ平火山の例. 日本火山学会 2018年秋季大会, 2018年9月.
- 陶山雄介, 阪田暁正, 曾我大介, 渡辺俊樹, 相澤隆生, PS 検層の品質改善に向けた現地試験結果, 平成30年度日本応用地質学会研究発表会, 2018年6月.
- 陶山雄介, 阪田暁正, 曾我大介, 渡辺俊樹, 相澤隆生, PS 検層における記録波形の品質改善, 第53回地盤工学研究発表会, 2018年7月.
- 鈴木健太, 三輪晟也, 大石裕也, 日野利洋, 石田風吾, 外岡 凌, 山本茂広, 橋本 岳: 土砂災害の予兆検知に向けた計測対象の形状変化を考慮した高精度3次元計測の実験的検討, 2019年度精密工学会秋季大会学術講演会, C65, 2019/09.

- 鈴木健太, 大石裕也, 坂口祐一, 橋本 岳, 福島 淳, 石田篤徳, 山本茂広: 自然マーカーを用いた 3 次元画像計測の法面連続計測に関する実験的研究, 平成 30 年度電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会, I2-4, 2018/09.
- 鈴木 睦代, 杉本 等, 鈴木 康之, 一ノ瀬 元喜, 前田 恭伸: スポーツ栄養学を情報科学で価値化する, 経営情報学会秋季全国研究発表大会 2019, 2019 年 10 月 19 日, 静岡大学, 浜松.
- 鈴木毅彦 & 千木良雅弘. 2018. 湿潤変動火山帯に位置する日本列島の地震時流動性地すべりポテンシャル評価に向けた地形・地質学的データの整備. 日本地球惑星科学連合 2018 大会.
- 鈴木毅彦・小林 淳・西澤文勝・白井正明: 埼玉県, 元荒川沿い沖積低地の発達過程, 再堆積軽石および放射性炭素年代からの検討, 日本第四紀学会講演要旨集 48: 21, 2018 年 8 月, 八王子.
- 鈴木毅彦・小林 淳・西澤文勝・白井正明: 埼玉県東部沖積低地における潜在的火山泥流災害の評価, 日本地理学会発表要旨集 95: 137, 2018 年, 川崎.
- Suzuki, T., Kobayashi, M., Nishizawa, F., Aoki, K., Ishimura, D. and Nakayama, D.: Recent progress and perspective in tephrochronological studies for eruption histories of Quaternary volcanoes in north Izu Islands, off Tokyo Metropolitan Area, Japan. Crossing New Frontiers INTAV International Field Conference on Tephrochronology “Tephra Hunt in Transylvania” Book of Abstracts: 99-100, June 2018, Moieciu de Sus, Romania.
- 鈴木毅彦・小林 淳・西澤文勝・青木かおり・石村大輔・伊藤美和子・中山大地: 伊豆諸島北部における第四紀火山の噴火史研究レビューと今後の課題, 日本地球惑星科学 2018 年大会: SVC41-49, 2018 年 5 月, 千葉.
- 高林真衣・藤井基貴「静岡県における教師の働き方に関する考察-A 市におけるアンケート調査の分析から-」中部教育学会、2018 年 6 月。
- 高橋那奈・林能成, 静岡県における 1707 年宝永地震の震度分布の再検討, 歴史地震研究会 大分大会, J:COM ホルトホール大分, 2018 年 9 月 23 日.
- 高井彬名, 秦康範: 緊急地震速報を用いた抜き打ち型避難訓練の児童の対応行動に関する一考察, 日本災害情報学会, 第 20 回研究発表大会予稿集, pp.138-139, 2018.10
- Takenouchi, K. and Yamori, K. (2019). Practical Research on Development of “Disaster Response Switch.” The 10th Conference of the International Society for Integrated Disaster Risk Management. Nice, France, Oct 16-18.
- Takenouchi, K. and Yamori, K. (2019). Trial of Disaster Response Switch: When do residents take action against water-related disasters? 4th Global Summit of Research Institutes for Disaster Risk Reduction, Kyoto University, 2019/3/13-15.
- 竹之内耕, 茨木洋介, 小河原孝彦, 宮島宏, 松原誠, 西澤あずさ, 青井真, 平松良浩, 中川和

- 之:糸魚川ジオパークにおける「防災科研地震だねっと!」を利用した糸魚川-静岡構造線についての学習例,日本地球惑星科学連合大会,2019年5月
- 田宮子良, 廣井悠, 加藤孝明: 防災講演会の内容分析とその効果に関する研究, 日本災害情報学会第21回大会予稿集, pp.140-141, 2019.
- Tamura, Keiko, Munenari Inoguchi, Michiyo Tsuji, Developing Methodology of Constructing the Unified Action Plan for External and Internal Risks in University, 21st International Conference on Disaster and Emergency Management, 2019.3.5-6.
- 田村 圭子・井ノ口 宗成, 応援・受援の枠組みに基づいた効果的な住家被害認定調査の調査計画策定-2018年北海道胆振東部地震における安平町を事例として-, 第60回 土木計画学研究発表会, 土木計画学研究・講演集, Vol.60, p.4 (CD-ROM), 2019.11.
- Tamura, Keiko, Munenari Inoguchi, Developing Methodology of Enhancing Participatory Activities of Business Continuity Management Process in University, International Conference on Disaster and Emergency Management (ICDEM2020), pp.1, 2020.3.
- 田中捺希・秋元菜摘, 2020年03月, 静岡大学浜松キャンパスの防災対策と避難所としての実態, 2019年度防災関連学部横断卒論・修論発表会, 静岡大学.
- 田中 靖也、平野 陽豊、二川 雅登、大多 哲史:高調波解析による磁気粒子イメージングにおける解像度向上,日本材料学会東海支部第14回学術講演会, 2020年3月2日, 静岡大学浜松キャンパス, 静岡県浜松市.
- 種田凌也・石橋秀巳・外西奈津美・安田敦:玄武岩質メルトの結晶作用と分化の非平衡過程. 日本火山学会 2019年秋季大会, 2019年9月.
- 谷村圭一、上村溪介、大多哲史、平野陽豊、二川雅登:長期計測を目指したストライプゲート型 pH センサの最適動作条件の確立,令和元年度電気学会 E 部門総合研究会, 2019年7月1日-2日, ずずかけ台大学会館, 東京工業大学ずずかけ台キャンパス, 神奈川県.
- 谷村 圭一, 上村 溪介, 大多 哲史, 平野 陽豊, 二川 雅登:ストライプゲート型半導体 pH センサによるドリフト抑制の実現,第36回「センサ・マイクロマシンと応用システム」シンポジウム論文集, 2019年11月19日-11月21日, アクトシティ浜松, 静岡県浜松市.
- 寺岡佑起、長屋昇吾、安富啓太、平野陽豊、川人祥二、二川雅登:水分量・イオン濃度センサ用フィードバック型インピーダンス計測回路チップの製作,令和元年度電気学会 E 部門総合研究会, 2019年7月1日-2日, ずずかけ台大学会館, 東京工業大学ずずかけ台キャンパス, 神奈川県.
- 寺岡 佑起, 長屋 昇吾, 安富 啓太, 大多 哲史, 平野 陽豊, 川人 祥二, 二川 雅登:土壌過渡応答特性を利用した土中水分量・イオン濃度計測システムの開発,第36回「センサ・マイクロマシンと応用システム」シンポジウム論文集, 2019年11月19日-11月21日, アクトシティ浜松, 静岡県浜松市.
- Togashi, S, Kita, N.T., Tomiya, A. and Morishita, Y. (2019) Magmatic evolution

- estimated from trace elements in plagioclase from Procellarum KREEP terrane breccias, 50th Lunar and Planetary Science Conference, Texas, USA, 2019.3.18.
- 渡嘉敷唯之, 前田恭伸: 福祉施設の現状を踏まえた災害対策の在り方, 2019 年度第 32 回日本リスク学会年次大会, 2019 年 11 月 24 日, 東京.
- 坪内暁子, 内藤俊夫, 土屋陽子, 佐藤 健, 佐々木宏之, 奈良武司, 土屋 勝, 栗原卯多子, 村岡信二, 金子政己, 矢野勝之, 仲田悦教: 副都心新宿の指定避難所をモデルとした災害対策 4W1Hの把握と対策の見える化, 日本安全教育学会第 19 回横浜大会プログラム・予稿集, pp.75-76, 2018.9
- 坪内暁子, Fan Chia-Kwung, 佐藤 健, 仲田悦教, Cheng Po-Ching, Lee Yuarn-Jang, Chou Chia-Mei, 佐々木宏之, 内藤俊夫, 奈良武司: 私立高の教職員を対象とした防災教育に関する日台比較調査, 日本安全教育学会第 20 回山形大会プログラム・予稿集, pp.106-107, 2019.9
- 津布久卓也, 木村浩之. 嫌気性地下水に含まれる水素発生型発酵細菌を利用した水素ガス生成システムの構築. 日本微生物生態学会第 33 回大会, 甲府, 2019 年 9 月.
- 辻原 諒・小木曾哲・佐野貴司・石橋秀巳: “箱根東京軽石噴火” の噴火準備過程. 日本地球惑星科学連合大会 2019 年大会, 2019 年 5 月.
- 辻修平, 山岡耕春, 國友孝洋, 渡辺俊樹, 生田領野, ACROSS による地震波伝播特性の振幅変化と走時変化の同時推定, 日本地球惑星科学連合 2019 年大会, 2019 年 5 月.
- Tsuji, S., Yamaoka, K., Ikuta, R., Kunitomo, T., Watanabe, T., Yoshida, Y. & Katsumata, A., Secular and Coseismic Changes in S-wave Velocity Detected Using ACROSS along the Nankai Trough Subduction Zone, Japan. 27th IUGG General Assembly, Montreal, Canada, 2019.7.8-18
- 月ヶ瀬恭子・山崎 登: 国士舘大学における防災教育の現状と今後の展望, 日本災害情報学会, 2019 年 10 月 19 日.
- 經隆悠, 堀田紀文, 今泉文寿, 早川裕弌, 増井健志, 流域源頭部の土石流発生降雨パターンが示す土砂流出の長期的なサイクル-静岡県安倍川大谷崩での観測事例-, 平成 30 年度砂防学会概要集, p.13-14, 米子市, 米子コンベンションセンター BiG SHiP, 2018/5/16.
- 津田宜幸, 前田恭伸: 静岡県の浜岡地域原子力災害広域避難計画の検証研究, 2019 年度第 32 回日本リスク学会年次大会, 2019 年 11 月 24 日, 東京.
- 上村 溪介, 大石 竜太, 大多 哲史, 平野 陽豊, 二川 雅登: 長期 pH 計測に向けたストライプゲート型 pH センサの提案, 平成 30 年電気学会 E 部門総合研究会, pp. 5-8, 奈良県文化会館, 2018 年 7 月 12 日-13 日, 奈良県奈良市
- 上村 溪介, 大石 竜太, 大多 哲史, 平野 陽豊, 二川 雅登: 感応膜ドリフト抑制に向けたストライプゲート型半導体 pH センサの開発, 第 35 回「センサ・マイクロマシンと応用システム」シンポジウム論文集, 2018 年 10 月 30 日-11 月 1 日, 札幌市民交流プラザ, 北海道札幌市

浦上滉平・矢守克也（2019）避難訓練への参加率と実際の災害時の行動の関連性—高知県
四万十町興津地区を事例に— 地区防災計画学会第5回大会 大阪市立大学 2019/3/2

牛山素行：平成30(2018)年7月豪雨による人的被害等についての調査(速報)(2018/10/6版),
第37回日本自然災害学会学術講演会,2018年10月6日.

牛山素行：近年の豪雨災害による家屋流失と人的被害の関係(序報),第37回日本自然災害学
会学術講演会,2018年10月7日.

牛山素行・本間基寛・横幕早季・杉村晃一：平成30年7月豪雨による人的被害の特徴(序
報),日本災害情報学会第20回研究発表大会,2018年10月27日.

牛山素行：複数の調査による水害危険度に対する住民の認識,第38回日本自然災害学会学術
講演会,2019年9月22日.

牛山素行：風水害犠牲者の傾向から見た「立退き避難」の難しさ,日本災害情報学会第21回
研究発表大会,2019年10月19日.

牛山素行:2019年台風19号による人的被害の特徴(速報),令和元年度東北地域災害科学研究
集会,2019年12月26日.

牛山素行：2019年台風19号による犠牲者発生場所の特徴,日本地理学会2020年春季学術
大会,2020年3月28日.

和田弘貴・牛山素行：昭和41年台風4号による伊東市での災害,2019年度自然災害科学中
部地区研究集会,2020年3月7日.

渡辺俊樹,伊藤谷生,狩野謙一,阿部進,藤原明,河内善徳,富士川河口断層帯における稠
密面的アレイで観測された自然地震記録を用いた構造解析,日本地球惑星科学連合2018
年大会,2018年5月.

渡辺俊樹,地震データの干渉法イメージングに関する検討,物理探査学会第139回学術講演
会,2018年10月.

渡辺俊樹,長谷川大真,伊藤谷生,狩野謙一,阿部進,藤原明,河内善徳,地震波干渉法イメ
ージングによって推定された南アルプス南端部地域下の地下構造,日本地球惑星科学連
合2019年大会,2019年5月.

渡辺俊樹,白石和也,弾性波リバースタイム・マイグレーションに基づく受動的地震波イメ
ージングの像構成に関する基礎的検討,物理探査学会第141回学術講演会,2019年10
月.

矢部頼子,森下祐一(2019)酸素・炭素同位体比から推定する菱刈鉱床熱水系,日本質量分
析学会同位体比部会2019,登別温泉,2019.11.5.

矢部頼子,森下祐一(2019)酸素・炭素同位体比から推定する菱刈鉱床熱水系,資源地質学
会第69回年会講演会,東京(東大小柴ホール),2019.6.27.

山口 富治,二川 雅登,長谷川 有貴,竹井 義法,南戸 秀仁:自然のための水センシング技
術,平成30年電気学会E部門ケミカルセンサ/バイオ・マイクロシステム合同研究会,IT
ビジネスプラザ武蔵,2018年11月26日,石川県金沢市

- Yamamoto, Ako, Tomoyuki Takahashi, Kenji Harada: Numerical Experiment of Tsunami Sand Deposits Affected by Fault Conditions in a Simple Topography, the 27th General Assembly of the International Union of Geodesy and Geophysics/IUGG2019, JP05d, IUGG19-1816, Montreal, Canada, 12 July 2019.
- Yamamoto, Ako, Tomoyuki Takahashi, Kenji Harada, Kazuya Nojima, Masaaki Sakuraba: Numerical Experiment on Validation of Tsunami Sediment Transport Model for Various Sand Grains Using Hydraulic Experiment Data, AOGS2018, 15th annual meeting, IG03-D3-PM2-323A-019, Honolulu, Hawaii, 6 Jun 2018.
- 山本阿子・高橋智幸・原田賢治：土砂移動モデルを用いた断層パラメータと配置による津波堆積物形成に関する数値実験，地球惑星連合 2019 年大会，HDS13-15，幕張メッセ国際会議場，2019.5.29.
- 山本阿子・高橋智幸・原田賢治・櫻庭雅明・野島和也：水理実験データから得られた粒径と反射波による津波堆積物への影響に関する数値実験，地球惑星連合 2018 年大会，HDS10-28，幕張メッセ国際会議場，2018.5.24.
- 山本有夏・北村晃寿・久保篤史・山田和芳・豊福高志，活動縁辺域の沿岸泥地における堆積環境の同定のための古生物学的・地球化学的指標の検討，日本古生物学会，2019 年 1 月 26 日.
- 山本有夏・北村晃寿・山田和芳，三浦半島江奈湾干潟の堆積物中の CNS 元素分析，日本地球惑星科学連合大会，2018 年 5 月
- 山岡耕春，佐伯晃聖，辻修平，藤田英輔，宮町宏樹，渡辺俊樹，國友孝洋，八木原寛，生田領野，為栗健，井口正人，地震計アレイとアクロスで捉えた 2015 年桜島マグマ貫入にともなう地震波伝播特性の変化，日本地球惑星科学連合 2018 年大会，2018 年 5 月.
- Yamazaki, Fumio, Takuya Suto, Munenari Inouguchi, Kei Horie, Wen Liu, Analysis of building damage in Mashiki Town due the 2016 Kumamoto, Japan, earthquake, the 16th European Conference on Earthquake Engineering, 2018.6.21.
- Yamazaki, Fumio, Takuya Suto, Masashi Matsuoka, Kei Horie, Munenari Inouguchi, Wen Liu, Statistical Analysis of Building Damage in Japan based on the 2016 Kumamoto Earthquake, 17th U.S.-Japan-New Zealand Workshop on the Improvement of Structural Engineering and Resilience Queenstown, New Zealand, 2018.11.14.
- 山崎 文雄・須藤 巧哉・堀江 啓・松岡 昌志・井ノ口 宗成・劉 ウェン，益城町の罹災証明データに基づく木造建物の被害関数構築の試み，第 15 回日本地震工学シンポジウム，日本地震工学会，GO11-01-08，pp.1883-1891，2018.12.8.
- 矢守克也・杉山高志（2020）「防災＝福祉」を旗印にした地区防災計画ー「新しい知覚」としての福祉ー」 地区防災計画学会第 6 回大会 兵庫県立大学 2020/3/7
- 矢守克也・杉山高志・小西慶哉（2019）被災地のミュージアム／未災地のミュージアムー

- “ふだん”と“まさか”の弁証法— 日本災害復興学会 2019 年度鳥取大会 鳥取大学,2019/11/9-10
- Yamori, K. (2019). An Interdisciplinary Research on the Development and Social Implementation of a New Tool for Tsunami Evacuation Drill.” (Invited keynote speech) The 10th Conference of the International Society for Integrated Disaster Risk Management. Nice, France, Oct 16-18.
- Yamori, K. (2019). Disaster Information from the Viewpoint of Speech Act Theory: Constative, Performative, and Declarative Utterances. The 10th Conference of the International Society for Integrated Disaster Risk Management. Nice, France, Oct 16-18.
- Yamori,K. (2019). How to promote quick evacuation against tsunami?: Local people-centered countermeasures in the aftermath of the 3.11 Great Tohoku Earthquake and Tsunami in 2011. The 10th Conference of the International Society for Integrated Disaster Risk Management. Nice, France, Oct 16-18.
- Nakano,G & Yamori,K. (2019). Fusion of Evacuation drill with tsunami inundation simulation –Development and effect of the tsunami educational material, Annual Meeting 2019 Mexican Geophysical Union, Puerto Vallarta, Mexico. Oct17-Nov1.
- 矢守克也 (2019) 能動的・受動的・中動的に逃げる 第 38 回日本自然災害学会学術講演会 北海道釧路市 2018/9/21-22
- Yamori, K. (2019). An Interdisciplinary Research on the Development and Social Implementation of a New Tool for Tsunami Evacuation Drill. PICS SECURES project, Kick-off meeting, DPRI, Kyoto University, June 6-7, 2019.
- 矢守克也 (2019) 南海トラフ地震「臨時情報」と地区防災計画 地区防災計画学会第 5 回大会 大阪市立大学 2019/3/2
- 矢守克也 (2018) 「世直し」・「立て直し」・「やり直し」—四川大地震から 10 年を経て— 日本災害情報学会 日本災害情報学会 20 周年・日本災害復興学会 10 周年記念合同学会 東京大学 2018/10/27-28
- 矢守克也 (2018) 西日本豪雨における京丹波町上乙見地区の避難事例 日本災害情報学会 日本災害情報学会 20 周年・日本災害復興学会 10 周年記念合同学会 東京大学 2018/10/27-28
- 矢守克也 (2018) 災害研究と災害報道のパラダイム・チェンジャーそのための 5 つの視点— 日本災害情報学会 20 周年・日本災害復興学会 10 周年記念合同学会 東京大学 2018/10/27-28
- 矢守克也・李勇昕 (2018) 「X がない、Y が X です」—疎外論から見た地域活性化・災害復興戦略— 日本災害情報学会 20 周年・日本災害復興学会 10 周年記念合同学会 東京大学 2018/10/27-28

- 矢守克也 (2018) 対話的な災害リスク・コミュニケーションの手法 日本リスク研究学会
第 31 回年次大会 コラッセ福島 2018/11/11
- Yamori, K. & Lee, F. (2018). Development and real-world trials of Nige-Tore, a
smartphone app for tsunami evacuation drills: Synergistic effects between
commitment and contingency. The 14th Aisa Pacific Conference on Disaster Medicine,
Kobe, 2018/10/16.
- Yamori, K. (2018). Educacion en Japon para prevencion de desastres por tsunami (日本
における津波防災教育) JICA-SATREPS: Riesgo de Tsunami 「メキシコ沿岸部の巨
大地震・津波災害の軽減に向けた総合的研究」津波セミナー Westin Resort & Spa
Puerto Vallarta, Puerto Vallarta, Mexico, 2018/10/15
- Yamori, K. (2018). Development and social implementation of smartphone app
“Nige-Tore” for improving tsunami evacuation drill: A synergy effect between
“commitment” and “contingency.” The 9th International Society for Integrated
Disaster Risk Management. Sydney, Australia, 2018/10/3.
- Yamori, K. (2018). Data for empirical science, Data for implementation science. Panel
Discussion: The role of hazard, vulnerability, and risk data in urban and policy
development. The 9th International Society for Integrated Disaster Risk
Management. Sydney, Australia, 2018/10/3.
- 矢守克也 (2018) 「私たちの町には美術館がありません、美しい砂浜が美術館です」 シン
ポジウム「地域コミュニティ研究のこれから」 日本心理学会第 82 回大会 東北大学
2018/9/25
- 矢守克也 (2018) 〈待つ〉時間 神戸大学 日本グループ・ダイナミクス学会第 65 回大
会 神戸大学 2018/9/8
- Yamori, K. (2018). Development and social implementation of smartphone app
“Nige-Tore.” International Conference for the Decade Memory of the Wenchuan
Earthquake with the 4th International Conference on Continental Earthquakes and
the 12th General Assembly of the Asian Seismological Commission. Chengdu, China,
2018/5/14. (Invited speech)
- 安本真也・牛山素行・片田敏孝・金井昌信・越山健治・関谷直也・永松伸吾・秦康範・廣
井悠・矢守克也 (2019) 西日本豪雨における企業の対応—実際にどの程度活動レベルを
変えたのか—災害情報学会第 21 回学会大会 サンポートホール高松 2019/10/19-20
- 安本真也・牛山素行・片田敏孝・金井昌信・越山健治・関谷直也・永松伸吾・秦康範・廣
井悠・矢守克也：西日本豪雨における企業の対応 —実際にどの程度活動レベルを変え
たのか—, 日本災害情報学会第 21 回研究発表大会, 2019 年 10 月 19 日.
- 安本真也・牛山素行：水害時の避難における情報行動—どのようなメディアや情報が役立
ったのか—, 2019 年度自然災害科学中部地区研究集会, 2020 年 3 月 7 日.

- 安本真也, 牛山素行, 片田敏孝, 金井昌信, 越山健治, 関谷直也, 永松伸吾, 秦康範, 廣井悠, 矢守克也: 西日本豪雨における企業の対応—実際にどの程度活動レベルを変えたのか—, 日本災害情報学会第 21 回大会予稿集, pp.36-37, 2019.
- Yokoyama, O. & Chigira, M. 2018. スレート地帯の重力斜面変形と地震による深層崩壊. 日本地球惑星科学連合 2018 年大会, 幕張.
- Yokoyama, O. & Chigira, M. 2019. Formative processes of uphill-facing scarps by gravitational flexural toppling. *Geophysical Research Abstracts (European Geosciences Union)*, 21, EGU2019-12183.
- 米澤 渉・秋元菜摘, 2019 年 11 月, 浜松市の創造都市と情報系人材・産業の空間的集積, 第 17 回情報学ワークショップ P112, 中京大学.
- Zhao, S., Chigira, M. & Wu, X. 2018. Geology and geomorphology of the 2017 Xinmo landslide and its preceding gravitational slope deformation at Maoxian, Sichuan, China. *Japan Geosciences Union 2018 Meeting*.

2.2.4 その他の著作物

- 藤井基貴 「p4c で探究の教室を開こう」『教室の窓』Vol.2、東京書籍、2018 年、2-3 頁。
- 藤井基貴 「『考え、議論する道徳』の実現に向けて」『楷樹』62、3-4 頁。
- 藤岡 換太郎: 技術・理論・観測が織りなす地球ドラマ、BRUTUS、2018
- 藤岡 換太郎 (監修): 日本を二分する謎めいた溝 フォッサマグナ、ニュートン、2019 年 5 号
- 秦康範: 特別講演 大規模災害への備え, 山梨医学, Vol.47, pp.1-11, 2020.2
- 秦康範 (監修): やまなし防災ブック 2019, ParuPi, 2019.8
- 秦康範: 『防災・減災』思想を普段の生活に~フェーズフリーな社会の実現に向けて, 月刊公明, pp.14-19, 2019.6
- 秦康範: 抜き打ち避難訓練のすすめ, 四国における防災教育の普及を目指して, 国土交通省四国地方整備局, pp.1-3, 2019.3
- 秦康範: 御嶽山火山マイスター, CIDIR Newsletter, No.45, 2019.1
- 秦康範 (監修): やまなし防災ブック 2018, ParuPi, 2018.8
- 秦康範: 地震や火山リスクと社会, 信頼性フォーラム リスク評価の再考, 日本材料学会, 2018.5
- 林能成, 書評: 東京は世界最悪の災害危険都市 (水谷武司著, 東進堂), 日本地震学会ニュースレター, 71 巻 NL4 号, p.19, 2018.
- 林能成, 高密度地震観測網の恩恵と維持費のバランス, 日本災害情報学会ニュースレター, 2018.
- 本間基寛・小越久美: 気象データを活用した需要予測の共有化による食品ロス削減の取り組み, 包装技術, Vol.56, No.5, pp.449-453, 2018

- 池田恵子:「防災を担う女性たち——地域コミュニティの防災体制における位置づけ——」,
第5回震災問題研究交流会研究報告書, 9-14 頁, 2019
- 池田恵子:「皆の願い・・・災害時にも安全安心に暮らしたい ～災害時の性暴力・DV 防
止対策～」, 近代消防 Vol.57 no.12, 98-101 頁, 2019
- 池田恵子:「日本の防災施策にこそ求められる『人間の安全保障』の観点」, 学術の動向, Vol.
24, no. 6, 16-19 頁, 2019
- 池田恵子:「男女共同参画の視点による避難所運営」, 季刊消防防災の科学, No.135, 28-31
頁, 2019
- 池田恵子:「ジェンダーの視点から見る災害」, 性の健康, Vol.17, No.3, 5-10 頁, 2018
- 井ノ口 宗成, 全国初の取り組み サイバー・フィジカル防災訓練, 広報つばめ, 燕市, 平成
30年8月15日号, pp.2-3, 2018.8.
- 井ノ口 宗成, 全国初のサイバーフィジカル防災訓練 2018年7月新潟県燕市において, 平
成30年度版 地域防災データ総覧, 一般財団法人 消防防災科学センター, pp.17-26,
2019.3.
- 井ノ口 宗成, 静的・動的情報による効果的な対応のための災害インテリジェンス, 高速道
路と自動車, 高速道路調査会, Vol.62, No.3, pp.15, 2019.3.
- 石橋秀巳:新刊紹介「マグマの発泡と結晶化 火山噴火過程の基礎 (寅丸敦著)」, 岩石鉦
物科学, 48, 143, 2019.
- 石川宏之「復興まちづくりで減災教育や観光振興に震災遺構を生かす社会関係資本と住民
活動のあり方」2018年度日本建築学会大会学術講演梗概集, pp.51-54, 2018.9.
- 石川宏之「東日本大震災後の地域づくりに震災遺構を保存できた要因—仙台市立荒浜小学
校と荒浜地区の住宅基礎群を事例として—」2019年度日本建築学会大会学術講演梗概集,
岩田孝仁, 静岡県地域の地震防災の現状と課題, 日本地震工学会誌, 第34号, pp.22-25,
2018年6月.
- 岩田孝仁, 減災から防災社会へ 自治体の防災力をいかに高めるか, 議会と自治
体, No.246, pp.48-60, 2018年10月.
- 岩田孝仁, 本番を迎えた自治体の南海トラフ地震対策～自治体危機管理担当者の心得～,
自治体・企業の防災担当者のための防災ハンドブック 2019, pp.2-11, 日刊工業新聞
社, 2019年3月
- 岩田孝仁, 恒常化する風水害に自治体はどう向き合うか, 自治体・企業の防災担当者のため
の防災ハンドブック 2020年度, 日刊工業新聞社, pp.8-15, 2020年3月
- 岩田孝仁, 2019/04/01 日本災害情報学会 News Letter, No.77, 南海トラフ地震の臨時情報
地域の課題山積み
- 岩田孝仁, 2019/06/01 東京大学 CIDIR News Letter 南海トラフ地震 自治体が抱える地
域課題
- 狩野謙一, 2019:赤石岳～聖岳～上河内岳～茶臼岳 稜線の岩に大地の営みを知る. 山と溪

- 谷, 2019-08, p.91.
- 風間聡:提言「22世紀の国づくり」から考える22世紀に誇る土木論説・オピニオン土木学会誌 104(8), pp.56, 2019.8.
- 風間聡:最上川水系の河川整備の現状とこれから河川 2018年10月号 No.867, 2018.
- 風間聡:近年の豪雨災害の発生状況と土木学会による調査,土木学会誌,Vol.103, No.3, pp.8-11, 2018.
- 木村浩之:分野別トピックス グリーンバイオ分野. 静岡大学超領域推進本部ニュースレター、2019.
- 木村浩之:温泉水で分散型エネルギー生産システムの創成. CHUSAI TIMES、2018.
- 木村浩之:BEYOND THE 微生物生態学. 日本微生物生態学会誌、2018.
- 木村浩之:温泉メタンガス発電システムの開発と実用化. 静岡大学環境報告書, 2018.
- 木村浩之:研究者紹介. 静岡大学超領域推進本部ニュースレター、2018.
- 北村晃寿, 2019. 津波の発生した季節を貝殻から解明. Isotope News 2月号, 18-21.
- 小松 満, 二川雅登, 藤原 優, 田岸宏孝:半導体センサを用いた土中水分分布の計測技術,地盤工学会誌 技術紹介 Vol. 67, No. 7, (Ser. No. 738), pp. 30-31, 2019年7月号
- 小山真人 (2020) 世界遺産・富士山の噴火史と防災. 日本学術会議中部地区会議ニュース, no.148, 9-10.
- 小山真人 (2020) 伊豆ジオめぐり (10) 松崎の大地の物語 誇るべき歴史と人材育成. SERI Monthly, no.657, 36-37.
- 小山真人 (2020) 伊豆ジオめぐり (9) 南伊豆の大地の物語 海から眺める伊豆の成り立ち. SERI Monthly, no.656, 38-39.
- 小山真人 (2019) 伊豆ジオめぐり (8) 丹那の大地の物語 活断層と向き合った人間社会. SERI Monthly, no.654, 38-39.
- 小山真人 (2019) 伊豆ジオめぐり (7) 沼津の大地の物語 津波被害を乗り越えた町. SERI Monthly, no.653, 38-39.
- 小山真人 (2019) 伊豆ジオめぐり (6) 狩野川の大地の物語 地形が生んだ宿命と治水. SERI Monthly, no.652, 36-37.
- 小山真人 (2019) 伊豆ジオめぐり (5) 下田の大地の物語 海と陸が会う場所. SERI Monthly, no.651, 36-37.
- 小山真人 (2019) 伊豆ジオめぐり (4) 天城の大地の物語 最新測量がさぐる謎の地形. SERI Monthly, no.650, 38-39.
- 小山真人 (2019) 伊豆ジオめぐり (3) 西伊豆の大地の物語 地上で見られる海底火山. SERI Monthly, no.649, 42-43.
- 小山真人 (2019) 伊豆ジオめぐり (2) 伊東の大地の物語 消えた湖と「赤牛」の伝説. SERI Monthly, no.648, 42-43.
- 小山真人 (2019) 伊豆ジオめぐり (1) 湯ヶ島の大地の物語 文豪を惹きつけた土地の秘密.

SERI Monthly, no.647, 40-41.

小山真人 (2018) 伊豆半島の地域資源とジオパーク ジオパークは地域の未来を変えるか? 静岡大学地域課題解決支援プロジェクト成果報告書, no.378-84.

中川和之,災害から命や暮らし、地域を守る＝長野で地区防災計画が成果、北九州でも新計画,時事通信「特別情報」,2019年11月22日配信

中川和之,覚悟を持って、この豊かな地に暮らすために,日本ジオパークネットワーク 10周年記念誌,P26-27,2019年11月

中川和之,地学劣等生だからこそこのジオパーク審査員,牧陵新聞 37号(横浜緑ヶ丘高校同窓会誌),P10,2019年7月

中川和之,大地が支える持続可能な地域社会＝ジオパークの運動のいま(9)「みんなで話し合う」と「変える覚悟」を基本的なハードルに: 専門員らで「合宿」し、チェックリスト作成,時事通信「地方行政」,10884号,P16-18,2019年4月25日

中川和之,大地が支える持続可能な地域社会＝ジオパークの運動のいま(8)市町村長同士の議論でジオパークの意義を共有: 隠岐での第4回全国大会で初の首長セッション,時事通信「地方行政」,10880号,P14-16,2019年4月11日

中川和之,災害取材・防災のプロが提言「企業は平時から情報公開を」,「広報会議」2019年4月号特集 災害リスク 広報が備えておくべきこと,P43-45,2019年4月

中川和之,災害報道の今昔とこれからの役割,「メディア展望」(新聞通信調査会),No686号,P21-27,2019年2月

中川和之,情報の「つながり」から、人の「つながり」へ＝「TEAM 防災ジャパン」,広報ぼうさい(内閣府),2018年春号,P12-13,2019年3月

中川和之,大地が支える持続可能な地域社会＝ジオパークの運動のいま(4)世界と地域から学んで分かった価値: 保全の重要性や運営組織の大切さも理解: 現地審査は支援策,時事通信「地方行政」,10859号,P14-16,2019年1月17日

中川和之,大地が支える持続可能な地域社会＝ジオパークの運動のいま(3)審査を担当する委員もよく分からなかったジオパーク: ガイドラインにない防災教育の重要性は世界にも通用,時事通信「地方行政」,10856号,P17-19,2018年12月20日

中川和之,大地が支える持続可能な地域社会＝ジオパークの運動のいま(2)財政難のユネスコ、当初は消極的だった日本政府: 国内は学会と自治体のタッグでスタート,時事通信「地方行政」,10852号,P15-17,2018年12月6日

中川和之,大地が支える持続可能な地域社会＝ジオパークの運動のいま(1)201 市町村がネットワークで運動を進め、学協会が価値を支える,時事通信「地方行政」,10847号,P12-14,2018年11月15日

中川和之,首長自ら覚悟を決め、住民にも覚悟を求めるために、被災経験を伝える＝消防庁「防災・危機管理トップセミナー」資料から,危機管理レビュー・地域における防災と災害対応-自助・共助・公助の現状と今後のあり方,Vol.9,p63-74,2018年3月

- 佐藤 健ほか共著, 教育時評, 学校教育研究所, NO.46, 2018 (特集 4 災害に強い学校づくりのための施設整備の変遷と残された課題を分担執筆)
- 佐藤 健ほか共著, ふくしま放射線教育・防災教育実践事例集, 福島県教育委員会, 2018 (特別寄稿 これからの防災教育の方向性について～防災教育は郷土を理解し、郷土を愛する教育～)
- 佐藤 健ほか共著: 大災害時代, 中央公論, 2020.2, 143(3), pp.66-70 (東日本大震災の教訓 災害科学国際研究所からの発信を分担執筆)
- 菅原大助: 大井川扇状地のなりたちと人々の暮らし, グリーンパワー (488), 15, 2019.
- 竹下光士(監修・狩野謙一), 2020: Geoscape, Japan:ジオスケープ・ジャパンー地形写真家と巡る絶景ガイド. 山と溪谷社, 224p.
- 牛山素行: 「防災気象情報の原理」より「その情報の読み方」の説明を, 気象業務はいま(気象白書), 2018, , pp.13-15, 2018.
- 牛山素行: 近年の風水害人的被害から考えること, 市政, Vol.67, No.5, pp.34-36, 2018.
- 牛山素行: 豪雨災害と防災情報を巡る誤解と実態, 都市問題, Vol.109, , pp.54-63, 2018.
- 牛山素行: 西日本豪雨報道を客観的に見る 勧告、指示の認識や匿名化に課題, 月刊 Journalism, No.342, pp.58-66, 2018.
- 山崎 登:連載 知って備えよう地域防災,国民生活センター「ウェブ版国民生活」, 2018年12月号から2019年6月号.
- 山崎 登:防災教育の目指すもの,視聴覚教育, 865号, 2019年11月号.
- 矢守克也 (2020) 文理工融合の防災研究の魅力 千里ライフサイエンス振興財団ニュース No.89, 19.
- 矢守克也 (2020) 「考えたくない事態」について考えることの功罪 「考えたくない事態にどう対応するか?—災害への備えとネガティブ・ケイパビリティ—」(有田伸著) 東京大学社会科学研究所危機対応学ホームページ [https://web.iss.u-tokyo.ac.jp/crisis/pub/review-1-2/13.html]
- 矢守克也 (2020) 巻頭言: 「たいせつなもの展」 地区防災計画学会誌, 17
- 矢守克也 (2020) 豪雨災害対策を進めるための3つのブリッジ 消防防災の科学, 139. 13-17.
- 矢守克也 (2020) 避難訓練を考え直す 危機管理レビュー, 11, 35-44.
- 矢守克也 (2019) 「ふだん」と「まさか」 守山市教育研究所「教育研究所だより」, 216, 1
- 矢守克也 (2019) 自助・共助・公助の再定義. 地域コミュニティの防災力向上——インクルーシブな地域防災 研究調査報告書 (pp.176-185). ひょうご震災記念21世紀研究機構研究調査部.
- 矢守克也 (2019) 本当に人の命を守る避難訓練: 心理学と防災学の融合 「京大曼荼羅: 京都からの挑戦—地球社会の調和ある共存に向けて」報告書 73-89. 京都大学地域研究事務部総務掛

- 矢守克也 (2019) 平成大災害史 防災研究者たちが見た 30 年 (災害対応・制度など) 防災研ニューズレター, 91, 4-5.
- 矢守克也 (2019) 理系と文系の知識を総動員し、津波に立ち向かう：防災人間科学の可能性 東進タイムズ大学学部研究会ダイジェスト号, Vol.6 p.18-19.
- 矢守克也 (2019) 巻頭言：第 5 回大会シンポジウム「地区防災計画と女性の視点」を振り返って 地区防災計画学会誌, 15, 1.
- 矢守克也 (2019) 防災業界の統計数値問題 ひょうご震災記念 21 世紀研究機構 Hem21 OPNION, 53, 1.
- 矢守克也・竹之内健介・大西正光・佐山敬洋・本間基寛 (2019) 豪雨災害について考えるための FACP モデル 京都大学防災研究所 (編) 平成 30 年 7 月豪雨災害調査報告書 pp.91-92
- 矢守克也 (2019) 防災・減災につなげる報道：「常識」を根本的に見直そうー新しい方向性を模索するための 5 つの提案ー 新聞研究, 813, 32-35.
- 矢守克也 (2019) 防災・減災、復旧・復興から見た鉄道～計画運休と被災による廃線～ 汎交通, 平成 30 年度 4 号 8-11.
- 矢守克也 (2019) 危機・マネジメント・リスクー語源に学ぶ本質 学校運営, 694, 8-11.
- 矢守克也 (2019) 防災・減災のための心理学 (12)：津波避難訓練支援アプリ「逃げトレ」 防災, 424, 12-15.
- 矢守克也 (2018) 巻頭言：空振りと素振り 地区防災計画学会誌, 13, 1.
- 矢守克也 (2018) 理系と文系の知識を総動員し、津波に立ち向かう：防災人間科学の可能性 東進タイムズ大学学部研究会ダイジェスト号, pp.48-51.
- 矢守克也 (2018) 津波避難訓練支援アプリ「逃げトレ」の開発と社会実装 京都大学防災研究所年報 A, 61, 24-27.
- 矢守克也 (2018) 防災・減災のための心理学 (11)：西日本豪雨と大阪北部地震の経験から, 防災, 423, 12-15.
- 矢守克也 (2018) 防災・減災のための心理学 (10)：地区防災計画のポテンシャル 防災, 422, 12-15.
- 矢守克也・岡部大介 (2018) ゲームによるインターローカリティのデザインーコミュニティの越境・横断と対話の場の創出ー 質的心理学会教育環境のデザイン分科会活動記録 p54-61.
- 矢守克也 (2018) 空振り・FACP モデル・避難スイッチ 消防防災の科学, 134, 7-11
- 矢守克也 (2018) 書評「ダチョウのパラドックス：災害リスクの心理学」 學燈, 115(4), 52-53
- 矢守克也 (2018) 自著を語る「アクションリサーチ・イン・アクション」 心理学ワールド, 83, 42.
- 矢守克也 (2018) 黒潮町の言葉を通して防災とまちづくりについて考える 歴史都市防災論文集, 12, 1-6.

- 矢守克也 (2018) 万華鏡の光と陰 書評:「協働知創造のレジリエンスー隙間をデザイン」
(清水美香著、京大出版会、2015年) 質的心理学研究, 17, 234-235.
- 矢守克也 (2018) 防災・減災のための心理学 (9): 事故の季節感 防災, 421, 14-17
- 矢守克也 (2018) 学びの現場から FILE# 共通教育科目 現代を生きる (災害から自分や
家族を守る) ACTIVE 福岡大学, 60, 25-26
- 矢守克也・竹之内健介・加納靖之 (2018) 避難のためのマイスイッチ・地域スイッチ京都
大学防災研究所「2017年九州北部豪雨災害調査報告書」 99-102.
- 矢守克也 (2018) 防災・減災のための心理学 (8): 新語・流行語でふりかえる防災・減災
この3年 防災, 420, 13-16.
- 矢守克也 (2018) 巻頭言: フット・アウト・ザ・ドア 地区防災計画学会誌, 11, 2.
- 矢守克也 (2018) 災害・選挙・祭りー台風21号と学会大会ー 災害情報学会ニュースレタ
ー, 72, 2
- 矢守克也 (2018) ゲーミング手法を用いた防災教育ー「クロスロード」と「ぼうさいダッ
ク」ー 建築防災, 2018-1, 16-20.
- 吉田明夫, 2015年箱根山水蒸気噴火, 気象庁火山業務教科書, 参考編 2.2, 2019.

2.2.5 受賞

- 岩田孝仁, 平成30年防災功労者防災担当大臣表彰, 2018/09/13
- Akimoto, N., Young Researcher Grant, 2019.08. Urban Redesigns for the Networked
Polycentric Compact City in Japan. International Geographical Union Urban
Commission. Luxembourg.
- 藤井基貴, 兵庫県等主催「1.17 防災未来賞 (ぼうさい甲子園)」優秀賞 (2020年1月受賞)
- 藤井基貴, 兵庫県等主催「1.17 防災未来賞 (ぼうさい甲子園)」優秀賞 (2019年1月受賞)
- 藤井基貴, 静岡大学学長賞表彰 (2019年3月)
- 秦康範, 日本災害情報学会 廣井賞 (学術的功績分野), 2018.10
- 廣井悠, Best Teaching Award 東京大学工学部 (2019)
- 木村浩之. 第4回日本微生物生態学会奨励賞 (2018年7月13日)
- 小山真人, 2018年伊豆半島ジオパーク推進協議会功労者表彰, 2018年.
- Maeda, Yasunobu, 2018 Presidential Merit Award, Society for Risk Analysis, 2018年12
月4日.
- Mitsui, Y., Change the world 2018 (for Mitsui and Yamada (2017) in Earth Planets, and
Space), 2018/6.
- 中川和之, 防災功労者防災担当大臣表彰, 2019年9月9日
- 大谷栄治: IMA (国際鉱物学連合) メダル: 2019年11月1日: 国際鉱物学連合の最高の
賞, 2年ごと1名の受賞
- 大谷栄治: 日本地球惑星科学連合・三宅賞: 2018年4月10日: 日本地球惑星科学連合の

賞：地球化学・宇宙科学での優れた業績に対して授与
佐藤 健, 東北大学「減災ポケット「結」プロジェクト」, ジャパン・レジリエンス・アワード (強靱化大賞) 2018 金賞 (教育機関部門) 受賞, 2018.3.20
Suresh, Pooja Pragati and Yasunobu Maeda, 2019 Best Poster Award, Society for Risk Analysis, 2019 年 12 月 10 日.
Tamura, Keiko and Munenari Inoguchi, The International Conference on Disaster and Emergency Management (ICDEM2019) : Best Presentation Award, 2019.3.
山崎 登, 防災功労者内閣総理大臣表彰, 2018 年 9 月.
矢守克也 逃げトレ開発チーム (代表: 矢守克也) 経済産業省グッドデザイン賞金賞 (“逃げトレ”) (2018 年 10 月 30 日)
矢守克也 国際総合防災学会実践科学賞 (2018 年 10 月 3 日)
矢守克也 兵庫県功労者 (防災功労) (2018 年 5 月 18 日)

2.2.6 特許等

- 出願日：2015 年 3 月 4 日
特許番号：特許第 6537595 号 (登録日：2019 年 6 月 14 日)
名称：電位制御装置、電位制御方法、計測装置及び計測システム
発明者：二川雅登、清水裕太

- 出願日：2015 年 8 月 28 日
特許番号：特許第 6569901 号 (登録日：2019 年 8 月 16 日)
名称：半導体装置の製造方法および半導体装置
発明者：二川雅登、草野健一郎

- 出願日：2018 年 5 月 31 日
出願番号：特願 2018-104495
名称：イオン濃度計測装置
発明者：二川雅登
出願人：静岡大学

- 出願日：2018 年 10 月 22 日
出願番号：特願 2018-198529
名称：土壌評価センサ、土壌評価システム及び土壌評価センサ用の電極及びインピーダンス特性を得る装置
発明者：二川雅登
出願人：静岡大学

- 国際出願日：2019年2月26日
国際出願番号：PCT/JP2019/007354
名称：水素ガス生成方法、水素ガス生成システム、並びに、水素ガス及びメタン生成システム
発明者：木村浩之

3 学内教育活動

3.1 新入生セミナー

静岡大学では新入生全員を対象として、「大学生活における健康管理に関する啓発」、「防災意識の涵養と防災教育に関する啓発」、及び「ハラスメントに関する啓発」を目的として、「健康・安全・安心・快適な大学生活講座」を実施している。同講座は、全新入生が受講する「新入生セミナー」という科目の一部として実施されている。

当センターでは、同講座の一部として、「防災のすすめ」というタイトルで講義を分担している。2018年度より、静岡地区は1回30分、浜松地区は1回45分で行われるようになった。主な講義内容は下記の通りである。また、静岡県危機管理部の協力を得て、静岡県発行の「地震防災ガイドブック」を参考資料として配付している。

災害と防災 「災害の時にどうするか」が防災ではない 様々な外力で被害が生じている 世界の震源分布 東海・東南海・南海地震の発生史 地震による被害 地震の建物倒壊は古い建物で主に生じている 津波の発生 津波による被害	原因別死者数 洪水災害 土砂災害 高波による被害 避難とは避難所へ行くことだけではない 災害は主として起こりうる場所で発生する 重ねるハザードマップ ハザードマップを見るとき注意点 身近な備えについて
---	--

図 2019年度新入生セミナーで使用した主なスライドのタイトル

2019年度は、静岡キャンパス 1185名、浜松キャンパス 785名が受講している。講義は、静岡地区9回、浜松地区6回で、生田准教授(副担当)、牛山教授(専任)、原田准教授(専任)、小杉特任准教授の4名で分担実施した。

3.2 全学教育科目「地震防災」

地震防災はさまざまな分野にまたがる総合科学であり、数十年にわたり地震に対する注意が呼びかけられ、対策が進められてきた静岡県で生活する学生にとってこれを学ぶことは極めて重要である。この講義は、(1)地震を中心に、災害をもたらす自然現象(ハザード)の基本的なメカニズムと、災害との関係について理解することができる。(2)地震災害を主な例として、被害を軽減するための技術、社会的な制度の現状と課題について理解することができる。(3)社会の一員として活動していく中で、日々の仕事や日常生活の中に、防災に関する視点を持てるようになる、などの知識、態度を身につけることを目標とし、2004年度から開講されている。全学部の学生が受講可能な「学際科目」の一つとなっている。講師陣は大学の研究者ばかりでなく、行政やメディア関係者など幅広い分野で地震防災に関係している人が担当している。2009年度からは浜松キャンパスでの開講もはじまり、2018、2019年度は前期に静岡と浜松で各1講座、後期に静岡(昼間および夜間)の2講座、年間で合計4講座が開講された。受講者は計例年数百人におよんでいる。

以下に一例として2019年度・静岡地区(前期)の講義内容一覧を掲げる。

開講日	タイトル	担当者	所属
2019/4/12	地震学の基礎 1	生田領野	静大
2019/4/19	地震学の基礎 2	三井雄太	静大
2019/4/26	テクトニクスと地震活動	増田俊明	静大
2019/5/10	災害時の心のケア	小林朋子	静大
2019/5/17	地震による災害：津波災害	原田賢治	静大
2019/5/24	地震による災害：建物災害	小林研治	静大
2019/5/31	地震による災害：土砂災害	今泉文寿	静大
2019/6/ 7	地震予知	堀 高峰	JAMSTEC
2019/6/14	地震防災行政	岩田孝仁	静大
2019/6/21	地震災害史	武村雅之	名古屋大
2019/6/28	地震災害のリスク認知	村越 真	静大
2019/7/ 5	災害報道	荒川修平	テレビ東京
2019/7/12	市民防災	横幕早季	静大
2019/7/19	災害時の医療	山本裕之	静大
2019/7/26	様々な自然災害	牛山素行	静大

3.3 全学教育科目「地域社会と災害」

学際科目「地震防災」は、科目立ち上げ時の経緯や、静岡において特に地震災害に対する関心が高いこともあり、内容が地震関係に偏ってしまっていることが課題となっていた。静岡県においても災害は地震だけではなく、また、学生が卒業後に全国、全世界に活躍の場を移すことを考えれば、地震以外の災害に対する教育が必要であることは当然のことである。そこで、地震災害については「地震防災」で学ぶこととして、地震以外の様々な災害を対象に、災害を考えるための基礎的な考え方や、災害をもたらす現象のメカニズム、災害による被害を軽減するための技術や制度について理解し、社会の一員として、当事者意識を持って災害に備える事ができる人材の育成を目的として、2010年度から静岡キャンパスで「地域社会と災害」を開講した。「地震防災」と同様、全学部の学生が受講可能な学際科目の一つとしての開講である。受講者は、2018年度約160人、2019年度約150人などとなっている。「地震防災」は15回すべてで担当者が代わるオムニバス形式だが、「地域社会と災害」では、防災総合センター専任教員2人、兼任教員1人、客員教員2人、教育研究支援員(以下の一覧では「支援員」)2人の計7名が分担する形式としている。

以下に2019年度の講義内容一覧を掲げる。

開講日	タイトル	担当者	所属
2019/10/ 7	自然災害科学概論 1	牛山素行	静大
2019/10/16	自然災害科学概論 2	牛山素行	静大
2019/10/21	地震災害	原田賢治	静大
2019/10/28	津波・高潮災害	原田賢治	静大
2019/11/11	火山災害	石橋秀巳	静大
2019/11/18	風水害 1	牛山素行	静大
2019/11/25	風水害 2	牛山素行	静大
2019/12/ 2	ハザードマップ	牛山素行	静大
2019/12/ 9	警報と避難	牛山素行	静大
2019/12/16	原子力災害医療	松井 務	浜松医大
2019/12/23	地域社会と災害	矢守克也	京都大
2020/ 1/ 6	行政と災害対応	牛山素行	静大
2020/ 1/20	防災行政実務	杉村晃一	静岡市(支援員)
2020/ 1/27	災害情報	牛山素行	静大
2020/ 2/ 3	災害と身近な暮らし	横幕早季	静大(支援員)

3.4 全学教育科目「地球科学」

全学教育科目「地球科学」では、地球をシステムととらえ、地球の活動を理解するとともに、地球の活動により人間社会へもたらされる災害のメカニズムや地球上に暮らす我々の社会と自然の関わりについて理解し、その課題について考えることを目的としている。主な内容は以下のとおりである。「地球科学」は全学教育科目-現代教養科目-個別分野科目（自然科学分野）として、静岡キャンパスの全学生を対象に開講されており、平成30年度164名、令和元年度147名の履修登録受講者であった。全学教育科目「地球科学」は、平成24年度より防災総合センター原田准教授が全15回を担当している。

- 地球科学概論
- 地球システム（気圏、水圏、地圏、生物圏、人間圏）
- 流体地球、固体地球
- 物質循環
- サブシステムの相互作用
- 人間社会と地球環境
- 地球システムと自然災害
- 防災・減災

3.5 全学教育科目「社会資本マネジメント論」

防災の地域づくりには私たちが暮らす社会が持続的に発展しかつ安全で暮らしやすい社会であることが重要である。静岡大学には都市計画や防災まちづくりを専門的に学ぶ既存コースがなく、このため街づくりなど中長期を見据えた視点で防災施策を議論する基礎的な学習が困難であった。本講座では静岡県交通基盤部の全面的な協力のもとで、2016年度より開講した。私たちの生活を支える道路や公園など社会資本の意義、それに関する行政・関連産業の仕組みと役割及び事業の企画から完成後の維持管理に至る一連の流れを理解し、どのようなマネジメントが必要か、また、社会資本を利用する住民などとの合意形成に何が必要か、さらに安全な地域社会づくり、街づくり、防災施設としての事前復興の考えなどを学び、社会資本整備に関わるマネジメントやまちづくりを実践していく上での考え方や基礎的知識を習得することができる。

講師は、静岡県交通基盤部の各分野で実務を扱う専門家が専門分野ごとにオムニバス形式で講義を行う。受講生は、理学部、農学部、人文社会学部、教育学部、地域創造学環と大谷キャンパスの全学部にまたがっている。

以下に2019年度の講義内容の一覧を掲げる。

社会資本マネジメント論 (2019 後期 月 5.6)				
①	ガイダンス	10/7	静岡大学防災総合センター長	岩田 孝仁
②	社会資本概要	10/16	建設技術監理センター 技監	柳原 一貴
③	社会資本重点計画(社会インフラの進め方)	10/21	建設政策課 班長	伊豆川 誠人
④	社会資本の維持管理計画(アセットマネジメント)	10/28	建設政策課 班長	伊豆川 誠人
⑤	住民参加と合意形成(協働のまちづくり)	11/11	建設技術監理センター 班長	小嶋 健彦
⑥	社会資本整備における広報(静岡どぼくらぶ)	11/18	建設政策課 主任	山田 紘子
⑦	景観形成	11/25	景観まちづくり課 班長	勝山 敏司
⑧	環境保全への取組み	12/2	建設技術企画課 班長	石野 巧
⑨	港湾概論と清水港における国際クルーズ拠点の形成	12/9	港湾局長	杉山 雄二
⑩	防災対策概論Ⅰ(事前復興行動計画)	12/16	土木防災課 班長	松下 隆太
⑪	防災対策概論Ⅱ(静岡方式)	12/23	河川企画課 班長	津島 康弘
⑫	GIS とその活用	1/6	建設技術企画課 班長	杉本 直也
⑬	持続可能な都市の形成(コンパクト+ネットワーク)	1/20	都市計画課 主幹	漆畑 諭佳
⑭	交通ネットワーク(陸・海・空)	1/27	建設政策課 班長	岩崎 伸昭
⑮	全体総括	2/3	静岡大学防災総合センター長	岩田 孝仁

3.6 全学教育科目「公共施設デザイン論」

静岡大学には土木・建築を専門に学ぶ既存コースがなく、このため防災施策の中でもハード面での耐震工学や土木工学、水利工学などを学生が学ぶ機会は限定的である。この解消のため、静岡県交通基盤部の全面的な協力のもとで、私たちの暮らしを支える道路、橋梁、河川、海岸、港湾、砂防など様々な公共施設の整備にあたっての計画段階から設計、施工に関する考え方、さらに都市計画や交通計画の手法について実践事例を交えて学ぶことにより、耐震や防災、安全なまちづくりなどをデザインする上での基礎を身につける科目として2016年度より開講した。

講師は、静岡県交通基盤部の各分野で実務を扱う専門家が専門分野ごとにオムニバス形式で講義を行う。受講生は、理学部、農学部、人文社会学部、教育学部、地域創造学環と大谷キャンパスの全学部にまたがっている。

以下に2019年度の講義内容の一覧を掲げる。

公共施設デザイン論 (2019 前期 金3・4)				
①	ガイダンス	4/12	静岡大学防災総合センター長	岩田 孝仁
②	公共事業の概要	4/19	建設技術監理センター 技監	柳原 一貴
③	河川計画と設計 I	4/26	河川企画課 班長	佐藤 純一郎
④	河川計画と設計 II	5/10	河川整備課 班長	露木 靖
⑤	海岸保全計画と設計	5/17	河川企画課 班長	津島 康弘
⑥	砂防施設計画と設計	5/24	砂防課 班長	佐野 裕庸
⑦	急傾斜地崩壊対策計画と設計	5/31	砂防課 班長	油井 克之
⑧	道路計画と設計 I	6/7	道路整備課 班長	真鍋 和敬
⑨	道路計画と設計 II	6/14	道路整備課 班長	山下 高詳
⑩	橋梁設計 I	6/21	道路整備課 班長	伊藤 彰浩
⑪	橋梁設計 II	6/28	道路整備課 班長	伊藤 彰浩
⑫	舗装計画と設計	7/5	道路保全課 班長	城内 佐知夫
⑬	港湾・漁港計画と設計	7/12	港湾局長	杉山 雄二
⑭	都市計画	7/19	都市計画課 班長	大村 光英
⑮	交通計画	7/26	都市計画課 班長	杉山 一之

3.7 全学教育科目「リスクコミュニケーション」

本科目は、浜松地区で「静岡大学防災マイスター称号制度」をスタートさせるにあたり、必修科目として2016年度より開講している。

(1) 科目概要

本科目は、自然災害を含む日常生活の中のリスクについて、個人や家庭や社会としてどのように対処するかを受講生が主体的に考えられるようになることを目指す。

現代社会は、直接的・局所的・短期的なリスクだけでなく、間接的・広域・長期的かつ複雑な因果関係を伴うリスクが増大してきている。それらのリスクを理解し、適切に管理するためには、科学的なリスク評価の視点だけでなく、多様な利害関係者の視点が必要とされる。本科目は、講義と演習を通して多様なステークホルダーが関与してリスク問題を考えるためのリスクコミュニケーションに関する知識を習得し、その社会的機能やリスクマネジメントへの寄与についても理解を深めることを目標としている。そのため、この科目は、理学や工学分野におけるリスク管理やリスク評価に関する内容、人間の認知や情報処理の特徴やバイアスに関する心理学や認知科学分野の内容、地域コミュニティや利害関係者とのコミュニケーションのあり方に係わる内容などから構成される。

2019年度の講義内容一覧は、以下の通りである。

- 1 ガイダンス：生活の中のリスク 小杉素子（静大）
- 2 リスクへのアプローチ 小杉素子（静大）
- 3 リスク認知と情報処理過程 小杉素子（静大）
- 4 リアリティの共有とコミュニケーション 小杉素子（静大）
- 5 演習① リスクメッセージの作成 小杉素子（静大）
- 6 火山のハザードマップの作られ方を学ぶ 村越 真（静大）
- 7 防災とインフラ整備 鈴木康之（静大）
- 8 災害・防災とコミュニティ 笹原 恵（静大）
- 9 災害リスクコミュニケーション 前田恭伸（静大）
- 10 地震とプレートテクトニクス 増田俊明（静大）
- 11 社会問題としてのリスク 小杉素子（静大）
- 12 集団意思決定と信頼 小杉素子（静大）
- 13 演習②-1 30年後の浜松市 小杉素子（静大）
- 14 演習②-2 30年後の浜松市 小杉素子（静大）
- 15 総括：リスクとともに暮らす 小杉素子（静大）

3.8 大学院総合科学技術研究科共通科目「津波工学特論」

「津波工学特論」は、平成 27 年度より大学院総合科学技術研究科（修士課程）で開講されており、研究科コースに関わらず選択することができる研究科共通科目となっている。本科目は、防災総合センター原田准教授が全 15 回を担当している。主な内容は下記のとおりである。「津波工学特論」では、現象としての津波、津波災害の特徴、津波防災対策について理解することを目的としている。総合科学技術研究科理学専攻、農学専攻の大学院生を対象に、平成 30 年度は 10 名、令和元年度は 6 名の受講者であった。

1. 津波の特性と理論
 - 1.1 津波の波源、規模、強度
 - 1.2 津波の発生メカニズム、地震と津波
 - 1.3 津波の伝播・遡上特性
2. 津波の被害
 - 2.1 津波による被害の分類
 - 2.2 津波の波力、流水力、浮力、揚圧力、漂流物衝突力
3. 津波の予測
 - 3.1 津波発生モデルの理論
 - 3.2 津波伝播モデルの理論
 - 3.3 津波の数値解析手法
4. 津波対策
 - 4.1 津波対策の手法と歴史
 - 4.2 現在の総合的な津波対策

3.9 大学院総合科学技術研究科共通科目「災害情報学特論」

「災害情報学特論」は、当センター専任教員(牛山素行教授)が担当する大学院総合科学技術研究科共通科目として、2015年度から開講された。防災のために必要とされる情報が「災害情報」であり、幅広いものが含まれる。現代は多くの災害情報が存在しているが、実際の災害時に十分活用されていないことがしばしば問題となる。本講では、自然災害に関わる様々な情報を読み解き、活用する上で知っておくべき「災害情報の性質」を理解することを目標としている。災害情報を活用する上で必要な基礎知識を、主に講義・演習形式で解説している。後半では各自事例地を設けて調査レポートをとりまとめる課題を出題し、最終回を報告会とした。

以下に 2019 年度の主な講義内容を掲げる。

- 災害と防災の基礎的概念
- 専門的情報を専門外の人に伝える
- 最近の自然災害事例から
- 地域の災害特性を知ることが重要
- 災害の素因と被害
- 情報の誤差や精度
- リスク認知と流言
- 地形情報と災害
- 防災気象情報の現状
- 防災気象情報に関するワークショップ
- 自然災害に関わる基礎的なデータベース
- 豪雨災害による人的被害の傾向
- 災害情報に関わる厳しい現実
- 地域調査とその報告

3.10 静岡大学防災マイスター称号制度（静岡地区）

1) 防災マイスター称号認定とは

本学では地域の防災力向上に貢献するため、これまでも全学を対象に地震防災の授業や新入生セミナーにおける防災についての講演会を実施してきた。「防災マイスター称号付与制度」はこうした防災に関する授業を有機的に結びつけ、一定レベルの防災知識を備えた学生を養成して社会に送り出す事業であり、平成 23 年度よりスタートした。初年度は波及効果が高いと考えられる教員養成を念頭におき、教育学部で試行的に実施した。おりしも、2011 年は東日本大震災が発生し、防災に対する教育の有効性が強く意識されたこともあり、防災についての大学の取り組みの先進的事例として、本制度は全国的にも関心を集めた。

2012 年度からは、静岡キャンパスの人文社会科学部、理学部、農学部にも対象を広げた。また 2018 年度からは浜松キャンパスにも対象を広げた(3.11 参照)。2019 年度終了時点で、静岡大学防災マイスターは 102 名、ふじのくに防災マイスター（後述）は 96 名となった。マイスターを社会に送り出してから 8 年がたち、修了生たちの今後教育・行政その他の現場での活躍が期待されるとともに、防災総合センターとしてその活動を支援したり、活用を考えることが、今後の課題だと考えられる。

2) 防災マイスター称号付与の条件

防災マイスター称号取得のためには、必修 7 単位、選択 5 単位以上の計 12 単位以上の履修が求められている。必修は共通科目の「地震防災」「地域社会と防災」「災害のリスク危機マネジメント」に加えて、教育学部で開講している「学校におけるリスク管理」「防災科学実習」が指定されている。このうち「学校におけるリスク管理」「防災科学実習」は必修、その他の科目は 4 単位の選択必修となっている。これらの科目では、地震発生に関する自然科学的な知識のみでなく、自然災害のリスクや防災について広く考えるための人文社会系の授業も含まれている。

選択科目（例）は、教育学部、農学部、理学部の科目も指定されているが、人文社会科学部については教育学部の聴講となっている。修了時には、受講した授業などを踏まえ、卒業後の職場や地域で、得た知識やスキルをどう生かすかをまとめたレポートを義務づけ、学習内容の整理を促している。

3) 平成 31 年度の実施状況と今後

31 年度には、新たに 36 名の登録があり、31 年度の登録在籍数は 81 名であった。年度末に修了したものは 3 名であった。学環の創設とともに、防災関係の講義が増えたことを踏まえて、今後必修、選択必修科目の見直しによる、全ての学部でのより受講しやすいカリキュラムの整備が必要になっていると考えられる。

4) 県知事認証について

静岡県による認証「静岡県ふじのくに防災マイスター」の条件を満たす静岡大学防災マイスターは、マイスター取得後、県が主催する1日の講習を受講することで、上記の認証も受けられる。30年度は10名が取得し、31年度は3名が取得した。

3.11 静岡大学防災マイスター称号制度(浜松地区)

浜松地区では、2016年度から「防災マイスター称号制度」をスタートした。称号付与の条件は静岡地区と同一であり、12単位以上（必修単位3単位以上、選択必修4単位以上、選択5単位以上）の履修が必要である。

履修科目は表3-11の通りである。必修科目の「リスクコミュニケーション」については、2016年度より新規科目として設定し、「防災科学実習」は静岡地区の教育学部で開講されているものとほぼ同一の構成で、浜松地区では学際科目として設定された。選択必修および選択科目については、情報学部および工学部から、自然災害の現象やメカニズムだけでなく、防災や減災に関わる技術や地域コミュニティや政策まで幅広い分野の科目が指定されている。

マイスター申請登録学生は最終学年で受講した授業などをふまえ、卒業後の職場や地域で、得た知識やスキルをどう活かすかをまとめるレポートを提出し、浜松地区では2018年度に2名が修了した。

表3-11 令和元年度防災マイスター取得申請者用の履修科目リスト

学部・学科	科目名	単位	年次	
●必修科目 (3単位)				
学際	リスクコミュニケーション	2	2年	小杉素子ほか
学際	防災科学実習 (通年)	1	3年	小杉素子ほか
●選択必修科目 (4単位以上)				
学際 (浜松)	地震防災	2	3年	小杉素子ほか
学際	静岡県の防災・減災と原子力	2	2年	大矢恭久ほか
全学 (浜松)	地球科学	2	3年	森下祐一
全学 (浜松)	進化と地球環境	2	2年	増田俊明
工学部	安全工学	2	3・4	戸田三津夫
●選択科目 (5単位以上)				
工・機械工学	材料力学 I (必)	2	1年	吉田健吾
	確率・統計 (必)	2	2年	岡本正芳
	環境工学 (選)	2	3年	齋藤隆之
	経営システム工学 (選)	2	4年	立岡浩一
工・電気電子	確率統計 <情報エレクトロニクス(必)>	2	2年	大内浩司
	<エネルギー・電子制御(選)>	2	3年	和田忠浩
	数値シミュレーション	3	3年	丹沢徹ほか
	<情報エレクトロニクス(必)>			
	経営システム工学 (選)	2	4年	立岡浩一
	技術者倫理	1	4年	橋本岳
	センサ工学 <情報エレクトロニクス(選)>	2	4年	坂田肇
工・電子物質	電気法規および施設管理	2	4年	宇佐見英三
	<エネルギー・電子制御(選)>			
	環境工学 <電子物理デバイス(選)>	2	3年	須田聖一
	<材料エネルギー化学(選必)>			
工・化学バイオ	経営システム工学 (選)	2	4年	立岡浩一
	数値計算法 <電子物理デバイス(選必)>	2	3年	伊藤哲
	技術者倫理 (必)	1	3年	須藤雅夫
	移動現象論 I (必)	2	2年	立元雄治
	環境化学 <環境応用化学(必)>	2	2年	岡島いづみ

	<バイオ応用工学(選)>			
工・数理システム	確率統計 (選)	2	1年	佐藤一憲
	リスク分析 (選)	2	3年	前田恭伸
	経営システム工学 (選)	2	4年	立岡浩一
	技術者倫理 (選)	2	3年	守田智
情報学部	統計学入門	2	1年	荒木由布子
	社会モデル	2	2年	高口鉄平
	社会調査論	2	1年	藤岡伸明
	コミュニティ・デザイン論	2	2年	笹原恵ほか
	web デザイン論	2	2年	杉山岳弘
	都市デザイン論	2	2年	秋元菜摘
	都市・地域政策論	2	3年	中澤高師ほか
	自治体行政論	2	3年	笹原恵ほか
学際	わが街・浜松の市政	2	2年	中澤高師

4 プロジェクト・関連行事

4.1 「ふじのくに防災フェロー養成事業」

4.1.1 事業の概要

(1)はじめに

近年、様々な形での防災関係の人材育成の取り組みが各地で行われつつある。静岡県では、平成8年から防災士養成講座を実施し、これまでに静岡県ふじのくに防災士（平成22年度に「静岡県防災士」を改名）を1250名輩出している。この講座の受講生は自治体・企業等での防災に関する実務に従事している防災実務者が多いことが特徴で、ふじのくに防災士取得者は相当数が実務にあたっている。

一方、同講座では講師による講義を聴く座学が中心で「広く浅い」基礎知識の習得にとどまる。防災実務の現場では地域特性・時代特性等、個々の状況にあわせた科学的・技術的知見の応用力が要求されるが、対応できる人材もその育成の場も少ない。そこで、静岡大学は静岡県と連携して平成22(2010)年度より、文部科学省の科学技術戦略推進費(平成25年度からは「社会的システム改革と研究開発の一体的推進事業」)による地域再生人材創出拠点の形成事業「災害科学的基礎を持った防災実務者の養成」として「ふじのくに防災フェロー養成講座」構築に着手した。

戦略推進費による講座運営は2014年度で終了し、その後は静岡県および静岡大学からの予算拠出によって運営している。

(2)講座の概要

この講座では自治体や企業等で災害・防災に関する実務に従事している者を対象にする。災害発生後の危機管理ノウハウにとどまらず、災害の事前予防を目指して、地域の特性を理解し、科学的専門知識とその情報を読み解ける実践的応用力の習得を目標とする。

それぞれ原則1科目1日の形で開講される24科目(2019年度実績、年度により若干変動する)の「講義・実習」と、担当教員による指導により個別の研究テーマの結果をとりまとめる「修了研修」を本講座のカリキュラムの主軸とした。講座修了は、①講義実習科目を必修科目2科目、基礎系科目1科目以上、応用系科目1科目以上、実習系科目1科目以上、合計10科目以上履修、②修了研修の内容を学会等の専門的な研究発表の場で発表(もしくは発表の具体的な予定がある)、③地域防災セミナーに1回以上出席の3条件を満たすことで判定する。講義・実習はインターネット経由で視聴できるシステムを用意し、開講日に出席できない場合、3科目まではネット経由の受講を出席と認めた。受講期間は1年間を基本とし、最長で1年間の期間延長(合計で2年間)は認めるものとした。

募集人数は10名程度で、応募資格として下記(A)及び(B)の要件の双方を満たすこととしている。

(A)次のいずれかに該当する者

- ・ 行政機関、企業、学校等において、業務として防災に関わる実務経験を有する者
- ・ 内閣府「防災スペシャリスト養成研修」(地域別総合防災研修を含む)を1コース以上受講している者
- ・ 防災関連の学部・学科を卒業又は防災関連の大学院修士課程以上を修了若しくは在学中の者
- ・ 「静岡県防災士」、「ふじのくに防災士」または日本防災士機構による「防災士」の称号を有する者
- ・ その他ふじのくに防災フェロー養成講座実施委員会が適当と認める者

(B)行政機関、企業、学校等において、防災に関わる業務に従事している者

- ・ 例えば、市町村や県の防災関連部局(危機管理系部局のほか土木・教育・福祉なども含む)の職員、企業の防災担当者、防災報道に携わっている者、ライフライン系企業や防災関連コンサルタント企業等の社員、学校で防災教育に携わっている教職員など。
- ・ 「業務に従事」とは、その仕事に従事することにより、主たる生活上の収入を得ている者を指す。例えば、地域の自主防災組織への関与は「業務」とは見なさない。
- ・ 現在防災関連の業務に従事している者のほか、行政機関職員等で今後防災関係部署に配属される可能性のある者や、防災関連の大学院に在学中の大学院生など、今後防災関連の業務に従事する予定がある者も対象とする。

受講者の選考は提出された出願書類の内容を元にした一次選考、口頭試問及び面接を行う二次選考による。なお、入学料及び受講料は2015年度までは無料として来たが、2016年度より有料化した。毎年12月下旬～1月上旬に応募を受け付け、2月に選考作業を行っている。2014年度までは3月より講義開始としていたが、年度をまたぐことで不都合が多かったことから2015年度からは4月から開始としている。

講義・実習は、下表のような科目をほぼ隔週土曜日の終日に開講している。話を聞くだけの形式ではなく、計算・作図等数値や物理的・質的データを用いた作業を伴い、毎回課題提出をもとめている。なお、2019年度からカリキュラムを見直し、講義科目、実習科目を明確に分けたほか、開始時の「入門演習」と、修了直前の「専門演習」を設け、いずれも必修とした。また、科目構成は随時見直しを続けている。

表1 防災フェロー養成講座講義・実習科目開講スケジュール(2019年度)

科目名	科目群	担当者	開講日
入門演習	必修	牛山素行	2019/4/6
気候学	基礎系	木村圭司	2019/4/13
津波工学	基礎系	原田賢治	2019/4/27
コミュニケーション論	応用系	関谷直也	2019/5/18
災害社会学	応用系	矢守克也	2019/6/1
統計法	基礎系	村越 真	2019/6/8
火山学	基礎系	小山真人・鶴川元雄	2019/6/22
リスク論	応用系	鈴木清史	2019/6/29
地理情報演習	実習系	岩崎一孝	2019/7/13
砂防学	基礎系	土屋 智	2019/7/20
地震学	基礎系	笠原順三	2019/8/3
企業防災と事業継続論	応用系	紅谷昇平	2019/8/17
地震工学	基礎系	秦 康範	2019/8/31
都市防災概論	応用系	廣井 悠	2019/9/14
地理学演習	実習系	近藤昭彦	2019/9/28
河川工学	基礎系	風間 聡	2019/10/5
地震計測実習	実習系	林 能成	2019/10/26
地質学演習	実習系	狩野謙一	2019/11/9
建築防災学	応用系	佐藤 健	2019/11/23
地域調査演習	実習系	牛山素行	2019/12/7
強震動・地震災害史	応用系	武村雅之	2019/12/21
防災法制度	応用系	中川和之	2020/1/11
防災実務実習	実習系	岩田孝仁	2020/1/17
専門演習*	必修	牛山素行	2020/1/25
			2020/2/22

修了研修では、受講生と担当教員とのディスカッションにより、特定の研究テーマを決めて取り組む。2018、2019年度に発表されたテーマを下記に列挙する。受講生の居住地や実務に関連したものが多い。

2019年3月修了者

- 静岡県の特例支援学校における学校安全に関する教職員の意識・実態とその課題
- 都道府県による人的被害情報の収集状況について

- 静岡県地震対策史の作成と地震対策の特徴

2020年3月修了者

- NHK 静岡放送局の防災啓発番組の内容分析
- 浜松市洪水ハザードマップのユニバーサルデザイン化
- 福祉施設の現状を踏まえた災害対策の在り方
- 水害時の避難における情報行動 — どのようなメディアや情報が役立ったのか —
- 昭和41年台風4号による伊東市での災害
- 温泉付随メタンガス発電施設の調査と防災ステーションへの展開
- 静岡県における大雨に関する防災気象情報が発表された時の災害発生率
- 静岡県の浜岡地域原子力災害広域避難計画の検証研究
- 被災後の事業再開にともなう産業廃棄物処理について - 排出事業者と処理業者双方の意識調査 -

(3)応募・終了の状況

2020年3月末現在で、10期生までの募集・選考が終了している。1期53人、2期43人、3期35人、4期34人、5期28人、6期16人、7期14人、8期13人、9期10人、10期10人の応募者があり、それぞれ22人、20人、21人、20人、17人、11人、7人、7人、6人、4人を受講生として受け入れた。このうち8期までは2020年3月末時点で最長受講期間が終了しており、1期20人、2期17人、3期14人、4期13人、5期10人、6期11人、7期4人、8期7人が修了認定された。9期はすでに4人が修了、2人が受講中である。2020年3月末時点で、のべ135人が受講し、うち100人が修了、6人が受講中となっている。

受講者の所属を受講開始時点で分類すると図1となる。市町村、国、県といった行政機関からの受講生が各年とも概ね半数を占めるが、企業等からの受講生も少なくない。なお、「企業」41人のうち、指定公共機関もしくは指定地方公共機関の関係者が14人を占めている。

受講生の居住地は静岡県内が多いが、各年共に県外からの受講生も少なくない。県外としてはこれまでに、秋田県、宮城県、茨城県、千葉県、東京都、神奈川県、愛知県、岐阜県に居住する受講生を受け入れており、広い範囲から受講生が集まっている。

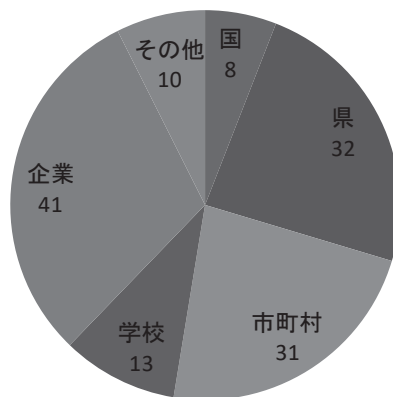


図1 受講者の所属

(4)修了後の対応

まず、受講生および関係教員との連絡を図る目的で、メーリングリストを講座開始直後から運用している。修了後も特に本人からの申し出が無い限りリストから削除していない。修了生から、防災関係の行事案内などが流されるケースもあり、関係者の連絡網として機能しつつある。

当初は、修了後に開講の講義・実習科目は受講できないこととしていたが、受講生からの意見を参考にリカレントの狙いも含め、2014年度から「科目受講制度」を新設し、講義内容を紹介するブログ記事を作成することを条件に、年間3科目までの受講を認める事になった。2018年度からはさらなる活性化のため、年間の受講科目数の上限を撤廃した。なお、地域防災セミナーについては、開講当初から修了生も自由に出席できることとしている。また、各担当教員によっては、開講しているゼミに修了生の出席を認めているケースもある。

2014年度からは、本講座修了生らと静岡大学のさらなる連携を図ることを目的として、「静岡大学教育研究支援員」の制度を新設し、これまでに修了生ら9人を任命し、修了研修や講義・実習科目の実施に協力してもらっているほか、研究、普及活動を教員と共同実施している。また、一部の支援員は、全学共通科目「地震防災」「地域社会と災害」の講義も担当している。

このほか修了生は、各職場において様々な活躍をしており、詳細は次項「受講生の活動報告」に挙げる。

(5)今後の展望

本講座では、受講対象を現役の防災実務者に限定したが、開講後5年間にわたり1年当たり10人程度と想定した受講者数をはるかに上回る旺盛な応募が広域から続き、防災実務

者に対してある程度の魅力を持った内容となっていることが示唆される。修了後も継続的に本講座関係教員、修了生らとの交流が行われ、静岡大学を拠点とする防災に関する人的ネットワークが構築されつつあると断言していい。

現在、喫緊かつ重大な課題は運営資金の確保策である。2020年時点では、静岡県および静岡大学からの予算拠出によって運営し、2016年度からは1人12万円の受講料徴収を行っているが、厳しい状況が続いている。2018年度からは、内閣府「防災スペシャリスト養成研修」との連携、2019年度からは静岡県「行政職員防災講座」との連携など、講座内容の更新を予定しているほか、今後も継続的に講座の見直しを計画している。今後、さらに講座の継続、発展を目指したいと考えている。

4.1.2 シンポジウム

本事業の成果や今後の展望について議論するため、定期的にシンポジウムを開催している。2018年度は下記シンポジウムを実施した。

(1)「災害科学的基礎を持った防災実務者の養成」(ふじのくに防災フェロー養成講座)2018年度称号授与式・シンポジウム

日時：2019年3月16日(土) 13:30～16:30

場所：静岡大学 静岡キャンパス 大学会館3階ホール

内容：

- 2018年度ふじのくに防災フェロー称号授与式
- ふじのくに防災フェロー養成講座 最近の概況報告
ふじのくに防災フェロー養成講座運営主幹 牛山 素行
- 基調講演
『新しい時代』の防災対策～『平成』の次の時代、どう防災を進化させるか～
静岡県危機管理監 杉保 聡正
- ふじのくに防災フェロー 活動報告会
報告者(1)：有友 春樹 (2015年3月修了・日本ミクニヤ株式会社)
報告者(2)：井口 雄亮 (2017年3月修了・浜松市役所)
報告者(3)：藤田 通孝 (2014年3月修了・静岡県御前崎港管理事務所)

なお、2019年度については、シンポジウムに代えて、2020年3月21日(土)に「岩田孝仁教授(本センター長)最終講義」と合わせる形で、ふじのくに防災フェロー称号授与式、ふじのくに防災フェロー養成講座最近の概況報告を実施する予定だったが、新型コロナウイルス感染症の流行を考慮し、すべて中止となった。

4.1.3 受講生の活動報告

氏名：青島 晃

所属：静岡県立磐田南高等学校

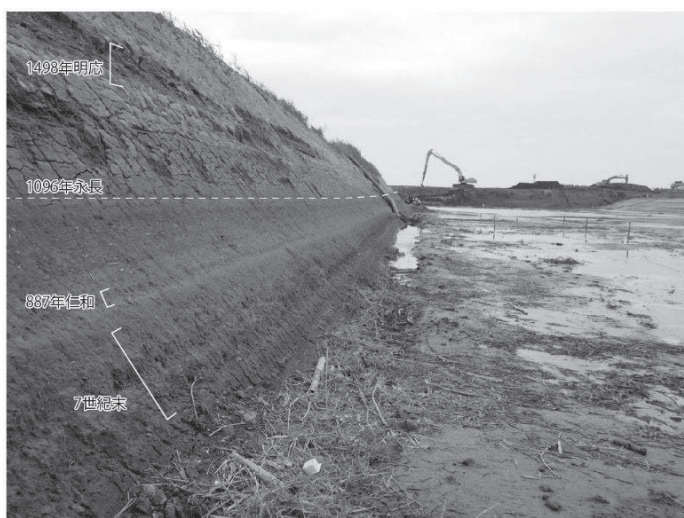
県立高等学校の地学の教員として理科教育、防災教育に取り組んでいます。1981年から中遠行政センターの委託を受け、「昭和19年東南海地震に学ぶ」（1981）を始め、「昭和19年東南海地震の記録」（1982）、「写真で見る東南海地震」（1994）などの冊子の編集を中心になって行いました。また、磐田北高校では静岡県地震予知観測学習モデル校、浜松北高校、磐田南高校では地学部顧問として地震観測や歴史地震の研究を指導し、日本学生科学賞で内閣総理大臣賞を受賞するなど、指導力を発揮しました。

研究活動では、1944年東南海地震を対象とした約40,000件にも及ぶアンケート調査を静岡県西部地域や三重県南部地域で実施したり、歴史地震による液状化や津波の痕跡を地質学的手法により研究を行ったりしてきました。2011～2012年には、袋井市の液状化対策委員として、ハザードマップ作成のために、昭和東南海地震で発生した液状化の記録を提供しました。また、2019年7月には「1944年東南海地震による静岡県西部地域の軍需工場の被害」が歴史地震研究会の「歴史地震」に掲載されました。

http://www.histeq.jp/kaishi/HE34/HE34_155_165_Aoshima.pdf

さらに、2019年11月には、産業技術総合研究所地質調査総合センター活断層・火山研究部門副研究部門長の藤原治博士ほかとの共著により“Tsunami deposits refine great earthquake rupture extent and recurrence over the past 1300 years along the Nankai and Tokai fault segments of the Nankai Trough, Japan”が“Quaternary Science Reviews”に掲載されました。

<https://reader.elsevier.com/reader/sd/pii/S0277379119303749?token=54807528ADD7DCBEA1A99666BFF8C1C51740AB82FD92623A7DBD9117E8523E668069A912229D0110D245DC18307EBE2E>



https://www.aist.go.jp/aist_j/press_release/pr2019/pr20191119/pr20191119.html

図 太田川の河川改修工事で現れた津波堆積物

津波堆積物は主に砂層からなり、上下の地層（粘土層）よりも風雨による侵食に弱いため、溝状に窪んでいる。地層断面の高さは約4.5 m。

産業技術総合研究所のプレス発表資料（2019/11/19 掲載）から引用。

https://www.aist.go.jp/aist_j/press_release/pr2019/pr20191119/pr20191119.html

氏 名：有友春樹

所 属：一般財団法人河川情報センター

ふじのくに防災フェロー養成講座第4期生として、静岡大学原田賢治准教授ご指導のもと、「市町村の津波避難計画の設定条件に関する特徴の比較検討」として津波避難計画の設定条件の調査を行いました。

当時は、建設コンサルタント会社にて、主にソフト防災の分野である計画策定（地域防災計画、職員行動マニュアル、エリア防災計画等）および防災訓練（下水道BCP訓練、大規模土砂災害訓練、火山災害訓練等）支援業務を実施していました。また、民間企業の事業継続計画（BCP）策定支援業務では、作成手順の提案からワークショップの実施、訓練支援を行っておりました。

これらの活動について、2019年3月にふじのくに防災フェロー育成講座シンポジウム「2018年度称号授与式・シンポジウム」において活動報告をさせていただきました。

現在は、一般財団法人河川情報センターに所属し、風水害の防災対策に注力しており、主に「ハザードマップの周知・利活用のための支援検討」や「マイ・タイムラインの全国展開の支援」を担当しております。

※「マイ・タイムライン」とは、洪水のような進行型災害が発生した際に、「いつ」「何を
するのか」を整理した個人の防災計画です。

氏 名：石塚隆之

所 属：千葉県 防災危機管理部 危機管理課

ふじのくに防災フェロー養成講座第8期生として、2018年度に牛山教授のご指導のもとで「都道府県による人的被害情報の収集状況」についての調査をテーマとして同講座を修了し、2019年度には日本災害情報学会で口頭発表を行いました。

また、同学会では口頭発表のほか、平成30年西日本豪雨災害調査団として被災3県（岡山県・広島県・愛媛県）の各自治体等を訪問調査し、『平成30年西日本豪雨に関する調査報告書』の執筆の一部を担当しました。また、第21回学会大会運営委員会として運営にも携わりました。

2020年度から2年ぶりに現所属に復帰し、令和元年台風15号等における千葉県の被災状況を踏まえ新設された組織に配置となりました。現在、県の災害対応能力向上業務に従事していますが、中でも県防災情報システムの改修を中心とした情報の取り扱いに関するハード・ソフト両面での整備と、そのためのルール作りが業務の中心となっています。特にルールの部分は講座修了のため行った調査そのものであり、引き続き県の担当者として自分の業務を調査対象として継続していきたいと考えています。

最後に私的な活動ですが、主に公務員が集まって社会的活動を行う団体に防災部門が発足し、その勉強会の講師の依頼がありました。団体のメンバーは防災に携わることが多いメンバーなので、私がふじのくに防災フェロー養成講座で学んだ内容をいくらかでも提供できればと考え引き受けました。しかし、残念ながらいまのところ新型コロナウイルスの影響で実施は未定です。

氏 名：大窪 愛

所 属：NHK 静岡放送局

NHK 静岡放送のキャスターとして、防災・災害報道に従事しています。

ふじのくに防災フェロー養成講座では、牛山素行教授のご指導のもと、「NHK 静岡放送局の防災啓発番組の内容分析」を修了研修のテーマとし、2019 年度に発表しました。防災フェローで学んだことを生かし、キャスターを務める番組「たっぷり静岡」（平日午後 6 時 10 分～7 時）で、防災に関するニュースや特集の取材・制作を行っています。修了研修で調査した防災啓発番組「いのちを守る防災ボイス」は、2020 年度も制作を担当し、テレビ・ラジオで毎日放送しているほか、放送史用の資料作りにも取り組んでいます。

今後も放送を通じて、静岡県の防災に寄与していきたいと考えております。

氏 名：小椋 明

所 属：藤枝市役所 上水道課

ふじのくに防災フェロー5期生として、防災に関する知識を習得させていただき、地元地域や職場において活用できるように進めて来ました。

毎年、市民の方々に災害時における水道施設や水道管が破損を想定し、水道水の供給が途絶え給水活動を行う際に給水等でご支援をいただくための講座を行い、水道職員と市民の方々と防災の知識を共有しています。

2019年10月の台風第19号により水道管路の折損被害が発生した熱海市への派遣要請があり、上水道課から私や他の職員が交代で現地に行き給水活動を行い、実際に被害にあわれた地元の方々や他の支援活動を行った自治体職員との意見交換が行え、防災に関する知識や活動方法について検討すべき課題が分かりました。

2020年はコロナウイルス感染予防のため通常の業務以外にも次亜塩素酸水等の配布を市民の方々に行っていますが、このような状況下において梅雨前線による大雨や台風の上陸による災害が発生した際の避難所運営を行うために必要な情報管理や給水活動に通ずる防災知識の習得を課題にしていきます。

氏 名：塩崎竜哉

所 属：多治見市役所

豪雨災害時において、自治体が避難に関する情報の提供や応急対応を迅速に行うため、危険度が高まった地区を的確に把握する手法について研究をしています。

これまで、2011年9月に岐阜県多治見市で発生した豪雨災害や2014年8月広島豪雨災害時の記録から、行政機関への電話通報数と降水量・実被害の関係を調査し、地域ごとに集計した通報数の増大は当該地域の災害危険度の高まりを示す指標になることを明らかにしてきました。

災害時における電話通報については、自治体の災害対応を阻害する一因として取り上げられがちですが、こうした特性が活用できれば、災害対策の強化につながるものと考えられます。

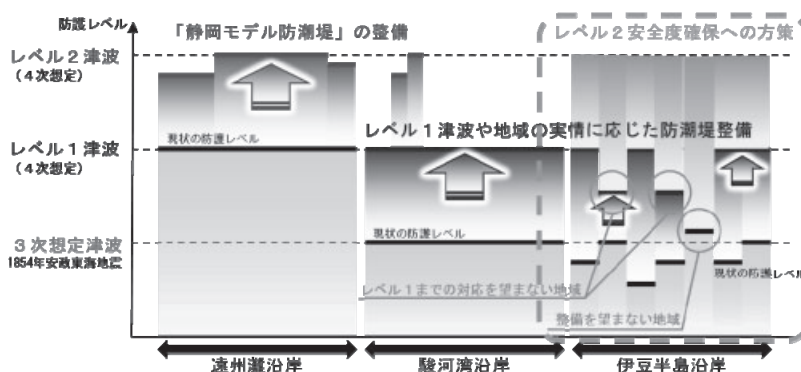
今後については、他の事例における調査を行うとともに、2017年から運用が開始された「警報の災害分布」など他の指標と電話通報数の関係などについても調査し、自治体が災害時に運用できる仕組みを確立したいと考えています。

氏 名：菅沼忠嗣

所 属：静岡県下田土木事務所

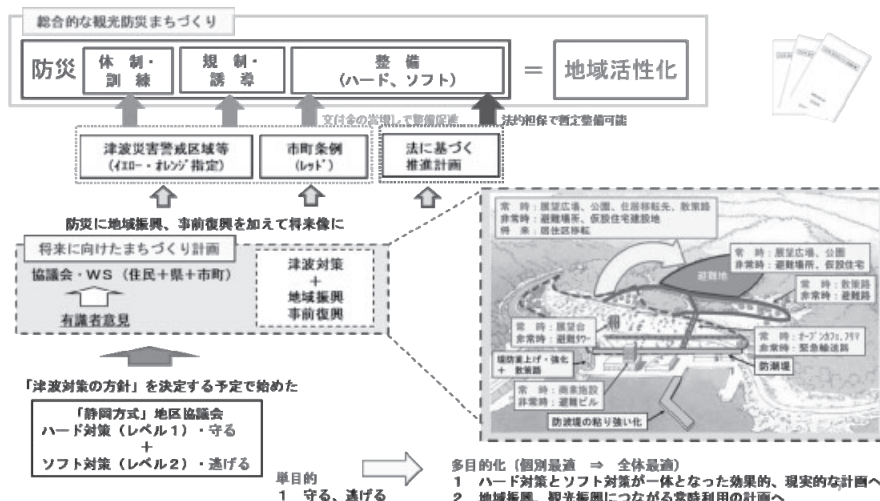
静岡県では、平成 26 年度より「静岡モデル」として L1 津波高さに対する施設整備（国の交付金対象）や、地域・民間の資金を投入した L1 津波高さを超える施設整備を推進してきました。しかし、伊豆半島南部地域では平地が少なく海岸近くを生業としている漁業や観光業従事者が 8 割を超える地域となっているため、津波対策施設整備の地域合意が進まない状況でした。このため、新たな合意形成のプロセスを取り入れ、将来に目を向けた“まちづくり”の一つのアイテムとして「防災も！」考えるとのスタンスに変え、L2 安全度確保のための合意形成を図ることとした。

【静岡県内の津波対策イメージ】



【合意形成のためのスキーム】

合意形成できていない地区の意見の競合は、津波対策施設の要・不要、防護ライン・高さによるものであった。ここでの課題は、①リスクコミュニケーションの共有が図れていない②「将来に望むまちの姿」が見えていない。という点であると感られた。このため、「生業や各地区の特性や状況に合わせ、合意形成の図り方を変える。」「住民目線で地区が望む姿や地域活性化を取入れ、総合的な観光防災まちづくりとして「地区の将来像」を共有する。」ことを主眼に賀茂地域「静岡方式推進検討会」や管内 23 地区の地区協議会を進めることとした。これにより、「津波災害警戒区域」の指定や「津波防災地域づくり法に基づく推進計画」の策定も促進された。



氏 名：津島俊介

所 属：気象庁予報部予報課

2018年度は気象研究所企画室で研究者の主に科研費取得、執行に関する補助事務を行った。2019年は気象庁予報部予報課気象防災推進室にて、防災気象情報の主に表示に関する改善業務や、広報や普及に関する業務を行った。

研究活動については、2014～2017年度に継続して行っていた台風の勢力と死者・行方不明者の関係について行った調査研究について、資料追加及び整理を行った。今後は引き続き調査研究結果を論文等、成果としてまとめたうえで、被害として評価する指標を広げることや、勢力の指標についても検討を深めたい。

氏 名：中谷泰三

所 属：静岡県中部地域局 危機管理課

「ふじのくに防災フェロー養成講座」第6期生として、2016年度から受講させていただきました。修了研修が完了したのが2017年度だったため、修了も2017年度となりました。

自分は、防災フェロー養成講座を受講したことによって、信頼できるデータ・情報に基づいて判断や予測するクセを身につけることができたように思います。むろん、自分は研究者ではないので、できることには限界がありますが、行政職員としては、確実にレベルアップできたのではないかと考えています。

気象警報発表時や災害時等における所属組織の体制運営は、現在の自分の主要な職務ですが、気象庁、防災情報提供システム、河川水位関係の各サイト等を通じて得られる情報を職場の方々に伝えるなどして、かなり早い段階からしっかりと対応してもらえるようにしています。また、以前は、ごく限られた情報等をもとに、ややもすれば感覚的な判断をしてしまうことすらあったように思いますが、現在はそのような姿勢とは決別しました。

防災フェロー養成講座で得られたものは知識や情報にとどまらず、牛山先生や素晴らしい専門家の方々とつながりも、自分にとっては大きな財産です。最近はある個人的な研究をしているため参加できていないのですが、一段落したら再び「刺激的最新情報満載」の牛山ゼミに加えていただき、自分の職務能力の向上を図ることができれば、大変ありがたく存じます（ゼミでは、情報や知識をいただくばかりで、自分からはほとんど何も提供できていないのがとても心苦しいのですが…）。

牛山先生、メンバーの皆様、今後ともよろしく願いいたします。

氏 名：長崎良夫

所 属：静岡県立西部特別支援学校

ふじのくに防災フェロー養成講座第7期生として、小山真人教授、村越 真教授の御指導の下で「静岡県の特別支援学校における学校防災に関する教職員の实態とその課題」について研究しました。

その研究を2019年日本学校教育相談学会静岡県支部の研究発表会で発表しました。併せて、その研究を静岡教弘教育研究実践論文に応募し佳作となりました。

現在は、一般社団法人みらいTALKの方たちと共に障害をもつ子と家族のための防災サバイバルキャンプを実施、運営できるように所属する特別支援学校教員、地区の方たちと連携して防災に関する活動を進めています。

氏 名：向井利明

所 属：名古屋地方気象台

2016年度から2018年度までは長野地方気象台に、2019年度からは名古屋地方気象台に勤務しています。

ふじのくに防災フェロー養成講座第4期受講生として、牛山素行教授のご指導のもと、「記録的短時間大雨情報」と災害との関係について調査し、2014年10月の日本災害情報学会第16回学会大会等で口頭発表しました。その後、このテーマについて大幅に加筆したものを「記録的短時間大雨情報の変遷及び災害発生率」という論文にまとめ、2018年7月発行の日本災害情報学会誌「災害情報 NO.16」に掲載されました。

2019年3月の「避難勧告等に関するガイドライン」（内閣府）改定に伴い「警戒レベル」が導入され、気象庁等が発表する防災気象情報についても、警戒レベルや警戒レベル相当情報に位置づけられました。このことを踏まえ、牛山素行教授のご指導のもと、愛知県における過去の大雨事例を用いたシミュレーションや統計的分析により、警戒レベル等の運用上の特徴や課題を抽出しました。その成果は、2019年10月の日本災害情報学会第21回学会大会において「過去事例から見た防災気象情報による警戒レベル・警戒レベル相当情報の運用」と題して口頭発表しました。

2018年11月には、長野市で開催された「内閣府防災スペシャリスト養成研修（地域別総合研修／長野）」において、「地域の災害特性」と題して、長野県の災害特性、防災気象情報とその活用などについての講演を行いました。

2019年11月には、公益社団法人日本気象学会中部支部と一般財団法人日本気象予報士会東海支部が主催する「気象サイエンスカフェ in 名古屋」において、気象キャスターとの対談形式にて、「雨の予測」から“防災の情報”へと題した講演を行いました。「予想雨量200ミリ」などの雨の情報が、土砂災害に警戒などの災害の予測情報に変換され、避難勧告等の防災対応の情報を経て、実際の避難行動等に結びつくというプロセスと各段階での課題等を説明しました。

2018年度、2019年度「ふじのくに防災フェロー養成講座 地域防災セミナー」において、「近年の防災気象情報の改善とその活用」と題して話題提供を行いました。

長野地方気象台においても名古屋地方気象台においても、地元報道機関や気象キャスターとの連携を強化し、防災気象情報に関する勉強会を実施してきました。この取組は「防災気象情報の伝え方に関する検討会（第5回）」（2020年1月 気象庁）で紹介されました。

これからも、気象庁の防災情報の利用促進や改善につながる調査、気象防災に関する普及啓発などに取り組んで行きたいと思っております。

氏 名：安本真也

所 属：東京大学大学院学際情報学府

ふじのくに防災フェロー養成講座第8期受講生として、牛山素行教授のご指導のもと、「水害時の避難における情報行動—どのようなメディアや情報が役立ったのか—」と題し、過去の水害後に実施されたアンケート調査に関する研究結果を俯瞰し、住民への避難情報の伝達に役立ったメディア、住民の避難行動のきっかけ情報を調査した。その成果を2019年度自然災害科学中部地区研究集会において発表した（研究集会は新型コロナウイルスの流行に伴う状況を考慮し、中止）。その結果、最も多くの研究で「役立ったメディア」とされたのが、消防団や役場の人、近所の人などからの口伝であった。次いで、防災行政無線や広報車、サイレンといった、屋外からの避難情報の伝達手段であった。また、避難行動のきっかけ情報は人や場所、その時の状況によって異なるため、避難行動へと誘うための決定的なきっかけ、正解はないという結果が得られた。

そして現在は、博士論文の執筆を行っている。現代では、科学技術の発展と共に、高精度な災害のシミュレーションや想定（たとえば地震の発生確率やハザードマップ、被害想定）が可能となってきた。だが、そうした情報が効果的に防災で活用できているとは言えない。そこで、NHKが2019年12月1～8日にかけて首都直下地震を題材として行ったキャンペーン放送「体感 首都直下地震」をテーマとし、防災に関する情報の効果的な伝達のあり方を研究する。このキャンペーンはテレビ番組だけではなく、ホームページやTwitter、LINEといった多様なメディアを介して実施されたものであった。現在は、番組放送の前後で3波のパネル調査を実施し、LINEに関するビッグデータと併せて得られたデータの分析を行っている。

氏 名：渡邊浩喜

所 属：静岡県特別支援学校長会

2016年度「ふじのくに防災フェロー養成講座」第6期を修了し、引き続き、「特別支援学校における防災力の向上」を目的とした調査研究を進めた。

2018年度は静岡県特別支援学校長会会長(静岡県立中央特別支援学校長)、2019年度は静岡県特別支援学校長会事務局長(静岡県教育委員会教職員サポート事業相談員)として、さらに2018年度から大学院の学生として学びながら、継続した調査研究活動等を実施。

(1) 大規模災害時情報伝達ネットワーク(静岡市内)の実証実験(2018年5月)

大規模災害発生時には携帯電話等によるリアルタイムでの情報伝達が困難であるため、簡易無線に外部アンテナをつけ静岡市内を走行するスクールバスと各特別支援学校(基地局)とを結ぶ実証実験を実施。通常1～2km程度の送受信もアンテナ設置により半径10km以上の範囲で送受信を確保した。一部、市内東部地区は、旧東海道薩埵峠を挟み、通信が困難な地域が見られが、この地域については、携帯電話のデータ通信に使用する周波数帯で音声会話が可能な通信機器の使用をもって代替することを確認した。

(2) 大規模災害対策状況調査(2018年5月)

各特別支援学校が策定している防災対策マニュアルの状況について調査した。

(3) 台風24号による大規模停電対応調査(2018年10月)

台風24号による大規模停電における特別支援学校の対応について調査。ライフラインの問題に加え、医療的ケアが必要な児童生徒等への対応、交通信号機が機能しない中で学校の運営についての課題が確認された。

(4) 南海トラフ地震に伴う津波浸水域とスクールバスの運行の状況調査(2019年2月)

県内を走行するスクールバスの運行リスク(津波浸水域を中心に土砂災害、液状化等)の対応準備状況について調査した。

(5) 特別支援学校における危機管理対応マニュアル作成のための資料を改訂(2019年3月)

2017年3月に県教育委員会が策定したマニュアル策定のための資料について、特別支援学校長会監修により、南海トラフ地震に対応した資料に改訂した。

(6) 大規模災害時情報伝達ネットワーク(静岡市内)の運用(2019年5月)

2018年度に実証実験を実施した情報伝達ネットワークの運用を開始。今後、順次県内特別支援学校に整備して行くこととなった。

(6) 大規模災害を想定した特別支援学校における防災力について調査研究(2019年10月)

事業継続、事業再開に注目した特別支援学校の総合的防災力について調査研究を実施。大学院修士研究として継続中。

(7) 大規模地震発生時における教職員参集体制の現状と課題を整理(2020年3月)

福祉避難所運営等を視野に入れた大規模災害発生時の特別支援学校教職員の参集体制について、県教育委員会と協議し対応について一部改正した。

4.1.4 受講生の研究成果・社会的活動

(1)著書

安本真也, 2019, 原子力発電所事故後の福島県産品に対する評価基準と地域メディア, 丹波史紀・清水晶紀 編著, ふくしま原子力災害からの複線型復興, 一人ひとりの生活再建と「尊厳」の回復に向けて, ミネルヴァ書房, pp.181-213. (共著)

(2)学術論文

青島晃・土屋光永・野嶋宏二・松井孝友,1944年東南海地震による静岡県西部地域の軍需工場の被害,歴史地震,Vol.34,155-165,2019.

青島晃・樽松宏征・大場英司,歴史地震による津波の教材化と防災教育,第35回山崎賞高等学校教員の部,2019.

青島晃・小野寺秀和・加藤国雄,浜松市北区奥山の枕状溶岩,静岡地学,Vol.118,iii,2018.

Fujiwara, O., Aoshima, A., Irizuki, T., Ono, E., Obrochta, S., Sampei, Y., Sato, Y. and Takahashi, A., Tsunami deposits refine great earthquake rupture extent and recurrence over the past 1300 years along the Nankai and Tokai fault segments of the Nankai Trough, Japan, Quaternary Science Reviews, Vol.227, 2020.

Kitamura, A., Ina, T., Suzuki, D., Tsutahara, K., Sugawara, D., Yamada, K. and Aoshima, A., 2019, Geologic evidence for coseismic uplift at -AD 400 in coastal lowland deposits on the Shimizu Plain, central Japan, Progress in Earth and Planetary Science, Vol.6, No.57, 2019.

向井利明・牛山素行:記録的短時間大雨情報の変遷及び災害発生率,災害情報, No.16, pp.163-178,2018.

丹波史紀・佐藤慶一・サトウタツヤ・清水晶紀・関谷直也・廣井悠・除本理史・安本真也, 2020, 東京電力福島第一原子力発電所事故にともなう長期避難の実態—2017年第2回双葉郡住民実態調査—, 東京大学大学院情報学環紀要 情報学研究・調査研究編, No.36, pp.1-65.

安本真也・田中淳・関谷直也, 2020, 自治体による漁港を中心とした漁業地域における津波対策の現状, 東京大学大学院情報学環紀要 情報学研究・調査研究編, No.36, pp.67-105.

安本真也・石濱陵・森野周・関谷直也, 2020, 南海トラフ地震および「南海トラフ地震に関連する情報」への対応:静岡県と高知市の住民アンケート調査より, 東京大学大学院情報学環紀要 情報学研究・調査研究編, No.36, pp.107-153.

安本真也・石濱陵・森野周・関谷直也, 2020, 「南海トラフ地震に関連する情報」に対する住民の反応, 災害情報 No.18. pp.95-105. (査読付)

安本真也・田中淳・関谷直也, 2019, 漁港における津波対策の現状と課題—沿岸部自治体の悉皆調査結果より—, 日本自然災害学会 vol.38, 特別号, pp.109-122. (査読付)

安本真也・関谷直也, 2018, なぜ北海道と近畿地方において福島県産品に対する不安感が

高いのか—地方紙による議題設定に着目して—, 地域安全学会論文集 No.33, pp.127-136. (査読付)

安本真也・牛山素行・関谷直也, 2018, 平成 28 年台風 10 号災害における岩泉町での避難行動の分析, 日本自然災害学会 vol.37, 特別号, pp.33-45. (査読付)

(3)学会口頭発表

青島晃・内山綾花・廣岡慎・柳沢拓海・山口立人, 浜名湖北方のカルスト地形に見られるカレンの形態, 第四紀学会, 2018 年 8 月 24 日.

有友春樹, 伊藤剛, 水上雄介, 太田敏之, 鈴木雅史, 向井正大, 森野香織, 鮎川一史, 原田一平: 大規模水害から逃げ遅れゼロを目指すための大田区のマイ・タイムライン取り組み事例の紹介, 日本災害情報学会 第 21 回学会大会予稿集, p208-209, 2019 年 10 月

有友春樹, 高橋亨輔, 岩本祐子, 井面仁志, 白木渡: 対応行動データベースを活用したマイ・タイムラインにおける台風災害時避難の学習方法の検討, 日本災害情報学会 第 20 回学会大会予稿集, 2018 年 10 月

花島誠人, 有友春樹, 崔青林, 臼田裕一郎: 地震の災害対応現場における情報共有に関する基礎的な調査分析-平成 28 年熊本地震を事例として-, 2018 年地域安全学会梗概集 vol42, p63-64, 2018 年 5 月

石垣治久・木村浩之・天野幸治, 温泉付随メタンガス発電施設の調査と防災ステーションへの展開, 2019 年度自然災害科学中部地区研究集会, 2020 年 3 月 7 日

石塚隆之・牛山素行: 都道府県による人的被害情報の収集状況について (第 2 報), 日本災害情報学会, 2019 年 10 月

石塚隆之・牛山素行, 都道府県による人的被害情報の収集状況について, 2018 年度自然災害科学中部地区研究集会, 2019 年 3 月 2 日

伊藤麻衣・牛山素行, 静岡県における大雨に関する防災気象情報が発表された時の災害発生率, 2019 年度自然災害科学中部地区研究集会, 2020 年 3 月 7 日

加藤恵一・岩崎一孝, 浜松市洪水ハザードマップのユニバーサルデザイン化, 2019 年度自然災害科学中部地区研究集会, 2020 年 3 月 7 日

木下智章・原田賢治, 静岡県地震対策史の作成と地震対策の特徴, 2018 年度自然災害科学中部地区研究集会, 2019 年 3 月 2 日

松原龍, 有友春樹, 岸川英樹: 平成 30 年 7 月豪雨被災者における実際の避難行動に関する一考察, 2018 年地域安全学会梗概集 vol43, p169-170, 2018 年 11 月

向井利明・牛山素行: 過去事例から見た防災気象情報による警戒レベル・警戒レベル相当情報の運用, 日本災害情報学会第 21 回学会大会, 2019 年 10 月 20 日.

長崎良夫, 静岡県の特別支援学校における学校安全に関する教職員の意識・実態とその課題, 日本学校教育相談学会 静岡県支部 第 3 回研究会大会, 2018 年 2 月 17 日

中村譲治・倉野康彦・原田賢治: 静岡県地震防災センターで実施した避難所運営ゲーム

- (HUG) 体験会における参加者の満足度調査, 地域安全学会, 2019年11月.
- 西林秀晃・中村譲治・原田賢治, 被災後の事業再開にともなう産業廃棄物処理について—排出事業者と処理業者双方の意識調査—
- 大窪愛・牛山素行・安本真也, NHK 静岡放送局の防災啓発番組の内容分析, 2019年度自然災害科学中部地区研究集会, 2020年3月7日
- 塩崎竜哉・牛山素行:「大雨警報(浸水害)の危険度分布」と実際の浸水状況の比較 —2017年8月17~19日の岐阜県多治見市での大雨を事例として—, 第37回日本自然災害学会学術講演会講演概要集, pp.137-138, 2018年10月7日.
- 塩崎竜哉・杉村晃一・牛山素行: 豪雨時における災害危険度の高まりを推定するための電話通報数の活用について —2017年7月九州北部豪雨時の検討—, 日本災害情報学会第20回研究発表大会予稿集, pp.36-37, 2018年10月28日.
- 杉村晃一・牛山素行: 大雨に関する災害危険度認知と避難行動意向~西日本豪雨前後における住民意識の変化, 日本災害情報学会第21回研究発表大会, 2019年10月19日.
- 渡嘉敷唯之・前田恭伸, 福祉施設の現状を踏まえた災害対策の在り方, 2019年度第32回日本リスク学会年次大会, 2019年11月24日
- 津田宜幸・前田恭伸, 静岡県の浜岡地域原子力災害広域避難計画の検証研究, 2019年度第32回日本リスク学会年次大会, 2019年11月24日
- 和田弘貴・牛山素行, 昭和41年台風4号による伊東市での災害, 2019年度自然災害科学中部地区研究集会, 2020年3月7日
- YASUMOTO, Shinya, Current state and issues of the wide-area evacuation plans after the Fukushima Daiichi nuclear power station accident, 2019 SNU-UT-NCCU JOINT SYMPOSIUM, IBK Communication Center, Seoul National University, 2019年11月22日. (口頭発表)
- 安本真也・牛山素行・片田敏孝・金井昌信・越山健治・関谷直也・永松伸吾・秦康範・廣井悠・矢守克也, 西日本豪雨における企業の対応 —実際にどの程度活動レベルを変えたのか—, 日本災害情報学会第21回学会大会, サンポートホール高松, 2019年10月19日. (口頭発表)
- 安本真也・牛山素行, 水害時の避難における情報行動—どのようなメディアや情報が役立ったのか—, 2019年度自然災害科学中部地区研究集会, 静岡大学, 2020年3月7日. (口頭発表)
- 安本真也・石濱陵・森野周・関谷直也, 「南海トラフ地震に関連する情報」に対する住民の対応—静岡市と高知市の地区比較より—, 日本災害情報学会第20回学会大会(日本災害情報学会20周年記念大会・日本災害復興学会10周年記念大会合同大会), 東京大学本郷キャンパス, 2018年10月27日. (ポスター発表)
- 安本真也・石濱陵・森野周・関谷直也, 「南海トラフ地震に関連する情報」に対する住民の対応—避難に対する意識に着目して—, 日本災害情報学会第20回学会大会(日本災害情

報学会 20 周年記念大会・日本災害復興学会 10 周年記念大会合同大会), 東京大学本郷
キャンパス, 2018 年 10 月 28 日. (口頭発表)

(4)その他の著作物

なし.

(5)受賞

安本真也,2018 年度日本災害情報学会河田賞 (優秀口頭発表賞), 2018 年 10 月 28 日

安本真也,2018 年度日本災害情報学会阿部賞 (優秀ポスター発表賞), 2018 年 10 月 27 日

(6)特許等

なし.

(7) 外部・公開講演会等

青島晃,磐田市減災啓発推進事業講演会,磐田市,磐田市豊田支所,2018 年 7 月 30 日.

有友春樹,ふじのくに防災フェロー育成講座シンポジウム「2018 年度称号授与式・シンポジ
ウム」における活動報告,静岡大学総合防災センター,静岡市,2019 年 3 月 16 日

小林正人,地震防災講義「浜松市の防災対策」講師,静岡大学浜松キャンパス,浜松市,2018 年
7 月 20 日.

小林正人,地域政策概論(防災)「政策の実施 命、財産を守る現場から」講師,浜松学院大学,
浜松市,2019 年 1 月 10 日.

向井利明, 内閣府防災スペシャリスト養成研修 (地域別総合研修/長野), 内閣府, 長野県
長野市, 2018 年 11 月 8 日.

向井利明, 関東農政局長野県拠点研修会, 関東農政局長野県拠点, 長野県長野市, 2019 年
3 月 13 日.

向井利明, 東海四県三市防災・危機管理に関する連絡会議での講演, 愛知県, 愛知県名古屋
市, 2019 年 5 月 22 日.

向井利明, 電力気象連絡会東海地方委員会気象講演会, 電力気象連絡会東海地方委員会,
愛知県名古屋市, 2019 年 5 月 27 日.

向井利明, 尾張地方防災連絡会議での講演, 愛知県尾張県民事務所, 愛知県名古屋市, 2019
年 6 月 24 日.

向井利明, とよはし防災リーダー養成講座での講演, 愛知県豊橋市, 愛知県豊橋市, 2019
年 7 月 20 日.

向井利明, 日本気象予報士会東海支部例会での講演, 一般社団法人日本気象予報士会東海
支部, 愛知県名古屋市, 2019 年 7 月 20 日.

向井利明, 第 12 回中部運輸局鉄軌道保安連絡会議での講演, 中部運輸局, 愛知県名古屋市,

2019年8月23日.

向井利明, 令和元年度索道技術管理者研修会での講演, 中部運輸局, 愛知県名古屋市, 2019年10月2日.

向井利明, 道路除雪講習会での講演, 一般社団法人日本建設機械施工協会中部支部, 愛知県名古屋市, 2019年11月13日.

向井利明, 気象サイエンスカフェ in 名古屋での講演, 公益社団法人日本気象学会中部支部・一般財団法人日本気象予報士会東海支部, 愛知県名古屋市, 2019年11月17日.

向井利明, 中部の港湾における高潮・暴風対策検討委員会での講演, 中部地方整備局, 愛知県名古屋市, 2020年1月20日.

塩崎竜哉, 行政職員防災講座フォローアップ講座, 静岡県, 静岡大学学生会館, 2020年2月13日

菅沼忠嗣, 町民対象「逃げログ」, 南伊豆町湊区, 2019.2.17.

杉村晃一, 静岡市防災講演会, 静岡市, 清水テルサ, 2019年2月2日.

杉村晃一, 東海圏減災研究コンソーシアム第6回シンポジウム, 東海圏減災研究コンソーシアム, じゅうろくプラザ, 2019年5月11日.

杉村晃一, 第37回防衛セミナー, 防衛省南関東防衛局, MIRAIE リアーン, 2019年6月23日.

杉村晃一, 静岡市防災講演会, 静岡市, 静岡市市民文化会館, 2019年11月9日.

(8) マスメディア・新聞等への掲載

青島晃, 静岡第一テレビ, news every. しずおか, 2020年3月10日.

青島晃, 静岡第一テレビ, 地震防災チェック, 2020年3月7日.

青島晃, 静岡第一テレビ, THE COMPASS～防災の羅針盤～, 2020年3月7日.

青島晃, 静岡県袋井土木事務所広報誌, てくてく太田川 No19, 太田川上流の砂鉄, 2020年3月1日.

青島晃, 静岡朝日テレビ, 歴史的大地震の証拠を発見?, 2019年11月25日.

青島晃, 静岡放送, 9世紀末県西部に津波の痕跡, 南海トラフ巨大地震の解明に期待, 2019年11月25日.

青島晃, NHK 静岡放送局, 7～9世紀の東海地震津波の痕跡, 2019年11月20日.

青島晃, 中日新聞朝刊, 磐田に東海地震津波痕跡, 磐田南高生が大発見, 2019年11月20日.

青島晃, 中日新聞夕刊, 津波痕跡磐田で確認, 2019年11月19日.

青島晃, 静岡県袋井土木事務所広報誌, てくてく太田川 No18, 太田川の洪水の歴史, 2019年3月1日.

小林正人, SBS テレビ イブアイ しずおか 防災最前線「家庭でできる浸水対策”土のう”の作り方と効果」出演, 浜松市, 2019年6月5日.

向井利明, NHK 名古屋放送局ラジオ第一・夕刊ゴジらじ, 警戒レベルと警戒レベル相当情

報, 2019年6月26日.

向井利明, 愛媛新聞, 日本災害情報学会第21回学会大会での発表, 2019年10月21日.

菅沼忠嗣, 静岡第一テレビ 11:40~「地震防災チェック」 逃げ地図, 2019.3.2.

菅沼忠嗣, 静岡第一テレビ 11:40~「地震防災チェック」 ロゲイニング, 2019.3.9.

杉村晃一, NHK 総合 たっぷり静岡, 要配慮者利用施設の避難確保計画, 2018年4月19日.

杉村晃一, NHK 総合 防災ボイス, 水害に備える, 2018年6月11日.

杉村晃一, SBS イブアイ静岡, 課題を検証、専門家が見た豪雨現場, 2018年7月12日.

杉村晃一, テレビ静岡 プライムニュース, 豪雨災害 県内の危険性は, 2018年7月17日.

杉村晃一, 静岡第一テレビ news every 静岡, 西日本豪雨の教訓, 2018年7月17日.

杉村晃一, NHK 総合, たっぷり静岡, 西日本豪雨を受け水防関係者が対策協議, 2018年7月19日.

杉村晃一, テレビ静岡 プライムニュース, 特集西日本豪雨1か月, 2018年8月6日.

杉村晃一, 静岡朝日テレビ とびっきり静岡, 西日本豪雨に学ぶ, 2018年9月5日.

杉村晃一, NHK 総合 たっぷり静岡, 西日本豪雨で周知不足、静岡市がハザードマップ活用の説明会, 2018年9月19日.

杉村晃一, 静岡第一テレビ news every 静岡, 静岡市 新ハザードマップを説明, 2018年9月19日.

杉村晃一, 静岡朝日テレビ とびっきり静岡, 西日本豪雨教訓に ハザードマップ説明会, 2018年9月19日.

杉村晃一, SBS イブアイ静岡, 静岡市の豪雨対策 ハザードマップを強化へ, 2018年9月19日.

杉村晃一, テレビ静岡 プライムニュース, 新ハザードマップ公表 静岡市, 2018年9月19日.

杉村晃一, NHK 総合 たっぷり静岡, 巴川ハザードマップ改定で説明会, 2019年2月22日.

杉村晃一, 静岡第一テレビ news every 静岡, 帰宅困難者対策, 2019年2月22日.

杉村晃一, SBS イブアイ静岡, 改訂「ハザードマップ」最大規模の降雨を想定, 2019年2月22日.

杉村晃一, 静岡第一テレビ 防災特番, THE COMPASS ~防災の羅針盤~, 2019年3月16日.

杉村晃一, 静岡第一テレビ 地震・防災チェック, 住民対象の防災講座, 2019年3月16日.

杉村晃一, 静岡新聞, 南海トラフ巨大地震「半割れ」時の対応, 2019年4月12日.

杉村晃一, 静岡第一テレビ 地震・防災チェック, 住宅の耐震補強 補助制度, 2019年4月20日.

杉村晃一, SBS イブアイ静岡, 風水害の避難 情報を整理, 2019年5月15日.

杉村晃一，SBS SBS スペシャル，未完の避難情報 南海トラフ地震立ちはだかる壁，2019年5月26日。

杉村晃一，NHK 総合 たっぷり静岡，丸子川流域ハザードマップの住民説明会，2019年6月25日。

杉村晃一，静岡第一テレビ news every 静岡，大雨警戒レベルとは，2019年6月27日。

杉村晃一，静岡第一テレビ news every 静岡，記録的豪雨で避難指示 命を守るためのどうすれば？，2019年7月5日。

杉村晃一，静岡第一テレビ 地震・防災チェック，水害に備えるハザードマップとは？，2019年7月6日。

杉村晃一，NHK 総合 たっぷり静岡，南海トラフ巨大地震事前避難は“浸水想定区域の高齢者”方針，2019年10月17日。

杉村晃一，SBS ORANGE 6，静岡最新浸水被害マップ，2019年11月11日。

杉村晃一，テレビ静岡 ただいま！テレビ，氾濫“切迫していた”県内河川，2019年11月12日。

杉村晃一，静岡第一テレビ news every 静岡，犠牲者が出た現場で何が…，2019年11月14日。

杉村晃一，NHK総合 たっぷり静岡，静岡市 南海トラフ臨時情報で2600人を事前避難に，2020年1月28日。

杉村晃一，SBS ORANGE 6，静岡市「臨時情報」で高齢者など津波の事前避難，2020年1月28日。

杉村晃一，静岡第一テレビ NNN ストレイトニュース，静岡市でハザードマップ説明会，2020年2月13日。

杉村晃一，NHK 総合 NHK ニュース，静岡市が新ハザードマップ説明会，2020年2月13日。

杉村晃一，静岡朝日テレビ とびっきり！静岡，台風時の避難行動を時系列で確認 静岡市で勉強会，2020年2月13日。

杉村晃一，NHK 総合 たっぷり静岡，新洪水ハザードマップ どう使う？，2020年2月14日。

杉村晃一，静岡第一テレビ THE COMPASS～防災の羅針盤～，南海トラフ巨大地震に立ち向かう，2020年3月7日。

杉村晃一，日本テレビ ZIP！，南海トラフ地震に備えて 静岡 最新の取り組み，2020年3月10日。

(9) 公的な委員会等

小林正人，「竹原市災害対策本部」災害マネジメント総括支援員，竹原市役所，広島県竹原市，2018年7月9日-14日，7月23日-29日。

向井利明, 長野県水防協議会幹事, 2016年度～2018年度.
向井利明, 長野県国民保護協議会幹事, 2016年度～2018年度.
向井利明, 長野県交通安全対策会議幹事, 2016年度～2018年度.
向井利明, 長野県長野市防災会議幹事, 2016年度～2018年度.
向井利明, 乗鞍岳火山防災協議会幹事, 2016年度～2018年度.
向井利明, 焼岳火山防災協議会幹事, 2016年度～2018年度.
向井利明, 御嶽山火山防災協議会幹事, 2016年度～2018年度.
向井利明, 新潟焼山火山防災協議会幹事, 2016年度～2018年度.
向井利明, 草津白根山火山防災協議会幹事, 2016年度～2018年度.
向井利明, 浅間山火山防災協議会幹事, 2016年度～2018年度.
向井利明, 弥陀ヶ原火山防災協議会幹事, 2016年度～2018年度.
向井利明, 天竜川上流水防連絡会幹事, 2016年度～2018年度.
向井利明, 焼岳火山噴火緊急減災対策砂防計画検討会委員, 2016年度～2018年度.
向井利明, 浅間山火山噴火緊急減災対策砂防計画検討会委員, 2016年度～2018年度.
向井利明, 御嶽山火山噴火緊急減災対策砂防計画検討会委員, 2016年度～2018年度.
向井利明, 乗鞍岳火山噴火緊急減災対策砂防計画検討会委員, 2016年度～2018年度.
向井利明, 千曲川・犀川水防連絡会幹事, 2016年度～2018年度.
向井利明, 千曲川・犀川大規模氾濫に関する減災対策協議会幹事, 2016年度～2018年度.
向井利明, 長野県各10圏域大規模減災協議会幹事, 2017年度～2018年度.
向井利明, 長野県農業気象協議会委員, 2016年度～2018年度.
向井利明, 長野県総合土砂災害対策推進連絡委員会委員, 2016年度～2018年度.
向井利明, 長野県防災会議幹事, 2016年度～2018年度.
向井利明, 木曾川洪水予報連絡会委員, 2019年度～.
向井利明, 中部の港湾における高潮・暴風対策検討委員会委員, 2019年度～.

(10) 学会活動

有友春樹, 土木学会教育企画部門教育企画・人材育成委員会 シビルNPO推進小委員会(土木と市民社会をつなぐフォーラム準備会)委員, 2018年4月～
有友春樹, 日本材料学会信頼性部門委員会関東地区常任幹事, 2018年4月～
石塚隆之, 日本災害情報学会 平成30西日本豪雨災害調査団 調査団員, 2018年10月から
2019年9月まで
向井利明, 公益社団法人日本気象学会中部支部幹事, 2019年度.
安本真也, 日本災害情報学会学会大会委員, 2019年12月～

4.2 静岡県行政職員防災講座

4.2.1 静岡県行政職員防災講座

2019年度より静岡県危機管理部と、静岡大学防災総合センターが協力して、静岡県行政職員防災講座を開講することとなった。この講座のカリキュラムは、内閣府が実施している「防災スペシャリスト養成研修」(東京開催・2日間10コース・年2回)に準じている。昨今災害が続発する中、現場で防災実務に当たる行政職員の役割は重要性を増している。一般向け「防災教育」「防災人材育成」はよくいわれるところだが、地域での防災知識普及を推進する核となるべき自治体等の防災担当職員は、防災実務に関する特別なトレーニングを受けているわけではなく、厳しい環境下で職務に従事している。こうした方々に対する支援策の一つとして、こうした研修機会の充実は重要性が高いものと考え、実施に至った。

前項の「ふじのくに防災フェロー養成講座」の入門編的な内容であり、同講座との連携を図る意味で、「静岡県行政職員防災講座」(令和元年度)の受講者は、1科目分の履修を免除することとしている。

2019年度は、11月28～29日の日程で、静岡県庁を会場に実施され、一部参加を含め、静岡県内の市町職員、県職員計67人が受講した。

講義内容は下記の通りだった。

11月28日

防災基礎総論	牛山 素行 (静岡大学)
防災行政概要	西村 徹 (内閣府 地方訓練担当)
災害法体系	伊藤 翔太 (内閣府 総括担当)
防災計画	西山 直人 (内閣府 防災計画担当)
被災者支援の枠組み (災害救助法と仮設住宅)	内閣府
地震・火山災害の基礎	宮原 寿夫 (静岡地方気象台)
風水害の基礎	牛山 素行 (静岡大学)
静岡県の防災行政	静岡県危機管理部

11月29日

警報避難の枠組み	佐藤 啓 (内閣府 調査企画担当)
被災者支援の枠組み(避難生活支援)	赤司 智一 (内閣府 被災者行政担当)
被災者支援の枠組み(生活再建支援)	佐藤 稔希 (内閣府 事業推進担当)
災害対応過程と態度を学ぶ【演習】	竹本 加良子 (サイエンスクラフト)・牛山 素行 (静岡大学)
全体討論 (ふりかえり)	竹本 加良子 (サイエンスクラフト)・牛山 素行 (静岡大学)

4.2.2 フォローアップ研修

静岡県行政職員防災講座は、2018年度以前は静岡県単独主催で実施しており、これら既修者に対するフォローアップ研修も、2019年度からは静岡県危機管理部と、静岡大学防災総合センターが協力して行うこととなった。

2019年度は、2020年2月13日に、静岡大学を会場として実施し、県職員を中心に13人が受講した。当日の講義内容は下記の通りだった。

「2019年度の風水害をふりかえって」

静岡大学防災総合センター教授 牛山素行

「愛媛県西予市における平成30年7月豪雨災害とその対応」

愛媛県西予市役所総務企画部危機管理課長 谷川和久

「平成30年7月豪雨時の西予市への電話通報の分析」

岐阜県多治見市役所総務部税務課 塩崎竜哉

(ふじのくに防災フェロー、静岡大学防災総合センター教育研究支援員)

4.3 自然災害科学中部地区研究集会

京都大学防災研究所を事務局とする自然災害研究協議会は、各地区に部会をおいている。同協議会中部地区部会では、2011年度から毎年度末に「自然災害科学中部地区研究集会」を開催している。この集会は、中部地区の災害、防災関係研究者、技術者、学生などが研究成果を発表するもので、一般的な学会に準ずる集会である。発表に際して、会員登録等の必要はなく、中部地区に在勤していない者でも参加、発表が可能である。静岡大学防災総合センターは、この研究集会の実施事務局となっており、毎年3月上旬に静岡市内で開催している。

2018、2019年度には下記の概要で開催された。なお、2019年度については、新型コロナウイルス感染症の流行対策のため研究集会の開催は中止し、予稿集の刊行をもって実施に代えること(紙面開催)とした。

2018年度自然災害科学中部地区研究集会

主催：自然災害研究協議会中部地区部会・静岡大学防災総合センター

期日：2019年3月2日(土)

場所：静岡大学 静岡キャンパス 大学会館3階ホール

発表件数：7件

2019年度自然災害科学中部地区研究集会(※紙面開催)

主催：自然災害研究協議会中部地区部会・静岡大学防災総合センター

期日：2020年3月7日(土)

場所：静岡大学 静岡キャンパス 大学会館3階ホール

発表件数：10件

4.4 しずおか防災コンソーシアム・ふじのくに防災学講座

静岡県では県危機管理部、教育委員会および静岡大学、浜松医科大学、静岡県立大学、静岡文化芸術大学、東海大学、常葉大学の県内 6 大学、気象台、報道機関各社を加えた「しずおか防災コンソーシアム」が平成 21 年 4 月に発足した。このコンソーシアムは、県内の防災に携わる研究者と専門家等の多面的な交流や情報発信を目的としており、その一環として、静岡県地震防災センターを会場として、市民向け公開講座「しずおか防災コンソーシアム地域連携土曜セミナー」を、おおむね 1 ヶ月に 1 回のペースで定期的に開催している。コンソーシアムの準備段階からこのセミナーは始まり、平成 20 年度から平成 23 年度までに 45 回開催し、平成 23 年度からは「ふじのくに防災学講座」と名称を変え、今後も継続の予定である。防災総合センターでは、静岡県地震防災センターと連携してこのセミナーの運営に当たっている。平成 22 年度からは、参加 6 大学と静岡県がそれぞれ持ち回りで担当回を持つ形で運営している。静岡県の防災研究者、防災行政関係者、市民の定期的な交流の場として定着しつつある。

平成 30 年度～令和元年度までのセミナー一覧

- 107 回「富士山はどうしてそこにあるのか」 H30.5.19
- 108 回「防災教育・研修教材展～防災教育・研修に関する教材の制作とその実践～」 H30.6.16
- 109 回「かつて南からやってきた伊豆半島は、今どう動いているのか？」 H30.7.21
- 110 回「2038 年南海トラフの巨大地震」 H30.9.15
- 111 回「静岡県を守る学際的な自然災害予測研究～富士山(3776m)から駿河湾(-2500m)まで、火山・地震・津波・雷ほか～」 H30.10.20
- 112 回「南海トラフ地震に関連する情報について」 H30.11.4
- 113 回「予防医学の観点から考える自然災害が起こる前と起こった後の健康危機管理」 H30.12.15
- 114 回「南海巨大地震の過去と今を解き明かす-地球深部探査船「ちきゅう」の成果から-」 H31.1.19
- 115 回「防災におけるユニバーサルデザインを考える」 H31.2.16
- 116 回「地震防災と地理情報」 H31.3.16
- 117 回「『危険度分布』等の防災気象情報の最新の動向」 R1.5.18
- 118 回「2018 年 インドネシアの津波災害から学ぶこと（見過ごされている非地震性津波への備え）」 R1.6.22
- 119 回「土砂災害はいつどこでおきるのか？～土砂災害の実態と対策～」 R1.7.20
- 120 回「南海トラフ巨大地震への政府対応策の課題と最近の当該地域の地震活動変化―内閣府作業部会に参加して―」 R1.9.14
- 121 回「富士山での安全・防災研究最前線」 R1.10.12
- 122 回「『南海トラフ地震臨時情報』への対応」 R1.11.16
- 123 回「災害医療の基本原則と多様性」 R1.12.21
- 124 回「富士山噴火と我が国の火山防災」 R2.1.18
- 125 回「行動・実践につなげるためのリスクコミュニケーションのイロハ」 R2.2.15
- 126 回（新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止） R2.3.28

4.5 しずおか防災コンソーシアム勉強会

静岡防災コンソーシアム構成機関の担当者が最新の防災関連情報の共有と専門家との意見交換を行う勉強会を開催している。

(参考) 静岡防災コンソーシアム構成機関

静岡大学、浜松医科大学、静岡県立大学、静岡文化芸術大学、常葉大学、東海大学

静岡県、静岡県教育委員会、静岡地方気象台

静岡新聞、中日新聞静岡総局

NHK 静岡放送局、静岡放送、静岡第一テレビ、静岡朝日テレビ、テレビ静岡

第 6 回 2018 年 6 月 6 日 19:30~20:30

テーマ 災害リスクコミュニケーションの秘訣

講師 京都大学防災研究所巨大災害研究センター

教授 矢守克也

参加者 71 名

会場 静岡県地震防災センター大会議室



第 7 回 2018 年 11 月 8 日 19:30~20:30

テーマ 震災伝承と防災啓発の未来

～地元紙の責務と連携協働の輪～

講師 河北新報社 防災・教育室長 武田真一

参加者 49 名

会場 静岡県地震防災センター大会議室



第 8 回 2019 年 1 月 21 日 19:30~20:30

テーマ 南海トラフ沿いの異常現象 新たな防災対応は

講師 内閣府政策統括官(防災担当)付

企画官(調査・企画担当) 高橋伸輔

参加者 72 名

会場 静岡県庁別館危機管理センター



4.6 防災総合センター主催シンポジウム等

2018、2019 年度中に、当センターが主催したシンポジウム等としては下記がある。

4.6.1 「平成 30 年 7 月豪雨による災害・現地調査速報会」

主催：静岡大学防災総合センター

開催日：2018 年 8 月 9 日(木)

時間：13 時 00 分～16 時 00 分

場所：静岡県地震防災センター ないふるホール (2 階)

内容：

1. 平成 30 年 7 月豪雨の特徴と被災地現地調査の報告

本間基寛(日本気象協会・静岡大学防災総合センター客員准教授)

2. 平成 30 年 7 月豪雨による人的被害の概要・

平成 30 年 7 月豪雨時の住民の防災情報利用・避難行動の調査(速報)

牛山素行(静岡大学防災総合センター教授・副センター長)

3. 自治体防災行政の観点から

杉村晃一(静岡市役所・静岡大学防災総合センター教育研究支援員)

全体進行・総括

岩田孝仁(静岡大学防災総合センター教授・センター長)

4.6.2 他頁で報告した主催行事の再掲

2018 年度自然災害科学中部地区研究集会

主催：自然災害研究協議会中部地区部会・静岡大学防災総合センター

期日：2019 年 3 月 2 日(土)

場所：静岡大学 静岡キャンパス 大学会館 3 階ホール

「災害科学的基礎を持った防災実務者の養成」(ふじのくに防災フェロー養成講座)2018 年度称号授与式・シンポジウム

日時：2019 年 3 月 16 日(土) 13:30～16:30

場所：静岡大学 静岡キャンパス 大学会館 3 階ホール

2019 年度自然災害科学中部地区研究集会(※紙面開催)

主催：自然災害研究協議会中部地区部会・静岡大学防災総合センター

期日：2020 年 3 月 7 日(土)

場所：静岡大学 静岡キャンパス 大学会館 3 階ホール

発表件数：10 件

京都大学防災研究所を事務局とする自然災害研究協議会は、各地区に部会をおいている。同協議会中部地区部会では、2011年度から毎年度末に「自然災害科学中部地区研究集会」を開催している。この集会は、中部地区の災害、防災関係研究者、技術者、学生などが研究成果を発表するもので、一般的な学会に準ずる集会である。発表に際して、会員登録等の必要はなく、中部地区に在勤していない者でも参加、発表が可能である。静岡大学防災総合センターは、この研究集会の実施事務局となっており、毎年3月上旬に静岡市内で開催している。

2018、2019年度には下記の概要で開催された。なお、2019年度については、新型コロナウイルス感染症の流行対策のため研究集会の開催は中止し、予稿集の刊行をもって実施に代えることとした。

2018年度自然災害科学中部地区研究集会

主催：自然災害研究協議会中部地区部会・静岡大学防災総合センター

期日：2019年3月2日(土)

場所：静岡大学 静岡キャンパス 大学会館3階ホール

発表件数：7件

2019年度自然災害科学中部地区研究集会(※開催中止)

主催：自然災害研究協議会中部地区部会・静岡大学防災総合センター

期日：2020年3月7日(土)

場所：静岡大学 静岡キャンパス 大学会館3階ホール

発表件数：10件

4.7 東海圏減災研究コンソーシアム

(1) 東海圏減災研究コンソーシアムとは

東海圏減災研究コンソーシアムとは、南海トラフ巨大地震、巨大台風や集中豪雨による風水害、洪水などの災害による被害を最小限に抑えることを目標に掲げ、東海圏に位置する6つの国立大学法人の防災・減災関連センターが協力・協働する場として、平成25年3月3日に設立されたものである（詳細は、<http://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/consortium/index.html>）。

本コンソーシアムに参加する各大学はそれぞれ得意な研究・教育分野を持ち、また各大学はそれぞれが位置する地域や市民と密接な関わりを持っている。このような各大学の特質や長所を有機的に連携させ、東海圏全体の防災・減災力を総合的に向上させるため、本コンソーシアムでは各大学の代表者による幹事会、実務委員会に加え、ハザード評価専門部会、被害予測専門部会、減災技術開発専門部会、地域防災力向上専門部会、人材育成・活用専門部会、そして情報基盤整備専門部会の6つの専門部会を設置している。

防災総合センターは、本コンソーシアムに参画し、地域社会における防災・減災について大学の枠を越えて各大学と連携して研究を推進している。

(2) コンソーシアム参加の各大学のセンター

岐阜大学地域減災研究センター

静岡大学防災総合センター

名古屋大学減災連携研究センター

名古屋工業大学高度防災工学センター

豊橋技術科学大学安全安心地域共創リサーチセンター

三重大学地域圏防災・減災研究センター

(3) 活動実績

2018－2019年度の活動としては、幹事会および実務委員会の開催、各専門部会（ハザード評価専門部会、被害予測専門部会・減災技術開発専門部会、地域防災力向上専門部会、人材育成・活用専門部会、情報基盤整備専門部会）の研究会において研究内容や災害事例についての情報交換や連携を行った。また、参加する各大学が主催する報告会を共催として協力した。

2018年5月11日に、じゅうろくプラザ(岐阜県)にて「防災人材教育」をテーマに第6回シンポジウムを開催した。また、2019年10月20日に名古屋コンベンションホール(愛知県)において、「大学連携による地域防災への貢献：その現状と課題」としてシンポジウムを開催した。なお、このシンポジウムは「ぼうさい国体@NAGOYA」のセッションとして行われた。

4.8 「静岡の大規模自然災害の科学」刊行

1978年に成立した大規模地震対策特別措置法（大震法）に基づき、静岡県全域の市町村は地震防災対策強化地域に指定されてから40年余りが経過した。この間に、1995年に兵庫県南部地震が起き、さらに2011年3月11日には日本観測史上最大の東北地方太平洋沖地震と巨大津波が発生し、東北地方太平洋沿岸地域で甚大な被害が出た。これを教訓に、国は南海トラフ沿いで発生する最大クラスの巨大地震・津波については、千年に一度あるいはそれよりもっと発生頻度が低いものであるが、仮に発生すれば甚大な被害をもたらす「あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震・津波」を想定した。

この想定に基づき、静岡県は地震被害想定を見直し、2013年に公表した第四次地震被害想定第二次報告では、下田市などではレベル2の津波高が25mと想定された。その結果、従来に比べて、想定される被害規模は格段に大きくなったため、静岡県民の防災意識は大きく変わり、地域社会に多大な影響が出ている。そのため、静岡県各地で低頻度大規模自然災害に関する調査が行われ、研究成果が蓄積されてきた。そこで、静岡大学防災総合センター長の岩田孝仁教授の退職記念行事の一つとして、「静岡の大規模自然災害の科学」の刊行を企画した。

岩田教授は、30年以上にわたり静岡県の防災・危機管理行政に携わり、防災学の分野における優れた成果を残し地域防災力の向上に貢献するとともに、南海トラフの巨大地震に関する国の防災行政へ有用な提言も行ってきた。これらの功績を称え、岩田教授は「平成30年防災功労者防災担当大臣表彰」を授与されている。岩田教授のご退職の機に、同人と防災総合センターの研究者・関係者で、静岡県における大規模自然災害の防災に少しでも貢献したいと考え、岩田教授、小山教授と北村教授が編者を務め、本学の教員を中心に、静岡県の海溝型地震、内陸型・直下型地震、津波、火山噴火、土砂災害に関する科学的知見とその防災対策についてまとめ、静岡新聞社から2020年3月21日に本書を刊行したのである。

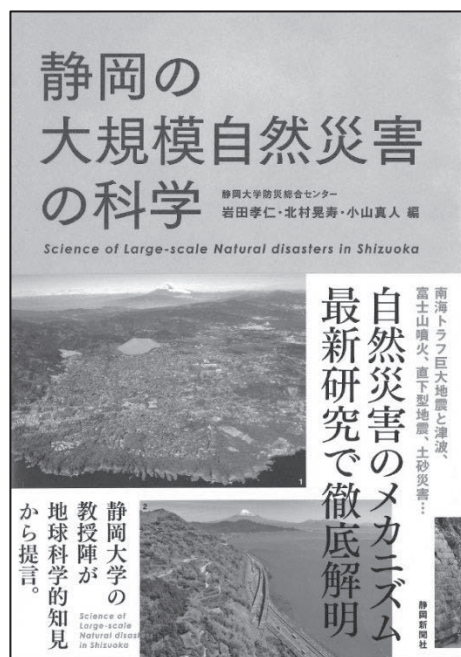
本書は4部構成で、第1部で、東北地方太平洋沖地震と巨大津波を解説し、第2部で、静岡県の地質、地震、活断層、過去4000年間の津波の発生履歴を解説した。第3部で、富士山と伊豆東部火山群の火山活動とそれらの活動に対する防災対策を解説し、最後の第4部では、1978年の大震法の制定の経緯からその後の防災対策、土砂災害、そして温泉メタンガスを利用した地域防災拠点について解説した。

本書についてはすでに以下の学術誌から書評が出されている。早稲田大学の山田和芳教授（元ふじのくに地球環境史ミュージアム）により第四紀研究 59(3)に、名古屋大学の道林克禎教授（元静岡大学教授）により地学雑誌 129(3)に、松本仁美氏により静岡地学(121)に掲載された。これらの書評の中で、松本氏から、日本列島の大陸プレート（北アメリカプレート、ユーラシアプレートとアムールプレートなど）の扱いが、著者によって異なるので、相違についての解説があったほうが良いとご指摘いただいた。全く、その通りであり、次の機会に改善したい。

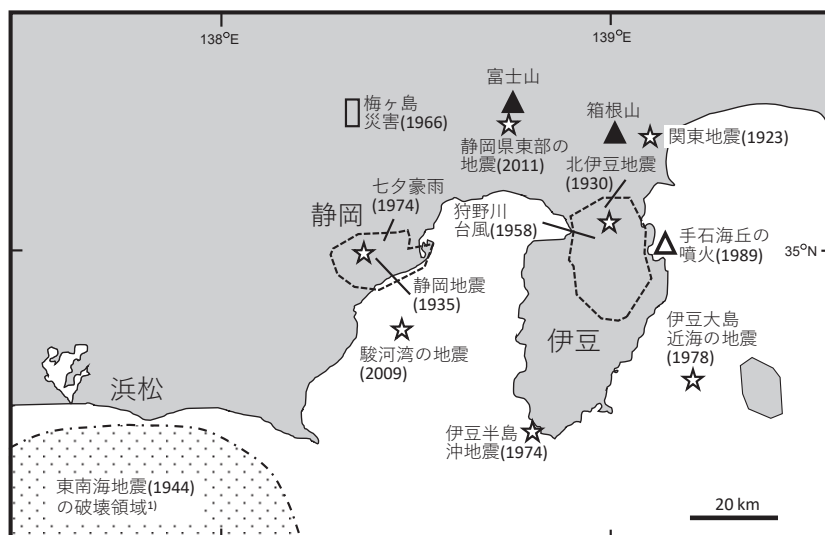
そして「次の機会」とは、本書で収録できなかった気象災害や液状化現象などの自然災害に加えて、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)との複合災害についての最新の知見をまとめた内容となると思われる。

なお、本書は 256 ページであるが、2020 年 4 月に本学に発足した未来社会デザイン機構からの出版助成で、本体価格が 1600 円という手頃な価格での提供が可能となったので、同機構に御礼申し上げます。

本書の表紙



本書で扱った静岡県内の近年 100 年間の自然災害の分布図



静岡の大規模自然災害の科学 (ISBN978-4-7838-0555-7) A5 版 256 ページ 静岡新聞社
2020 年 3 月 21 日発売

4.9 減災地域協働モデルの社会実装と検証（SIP 課題⑦-1 サブテーマ 3）

本プロジェクトは、戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）のうちの、「レジリエントな防災・減災機能の強化」の課題⑦-1 サブテーマ 3 として防災総合センターが行ったものである。

戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）とは、総合科学技術・イノベーション会議が司令塔機能を発揮し、府庁の枠や旧来の分野の枠を超えたマネジメントに主導的な役割を果たすことで科学技術イノベーションを実現するための国家プロジェクトで、日本国民や経済・産業力にとって重要な 11 の課題についてイノベーションを目指している。

このうちの一つ「レジリエントな防災・減災機能の強化」では、リアルタイムに災害情報の共有をする仕組みを作り上げ、その情報を災害発生時の災害対応実施機関で共有し応急対策の迅速化・効率化に貢献することを目標に、予測・予防・対応に関する 7 つのテーマに取り組んだ。

課題⑦「地域連携による地域災害対応アプリケーション技術の研究開発」のうちの一つ、課題⑦-1「産業集積地・津波リスク想定地のレジリエンス向上」では南海トラフ巨大地震に対する大規模災害を念頭に産業集積地や津波リスク想定地を対象とした地域のレジリエンスの向上を目指して西三河、高知県、静岡市などをフィールドとした 3 つのサブテーマで実施した。

防災総合センターはこのサブテーマ 3 として、静岡市をフィールドとした減災地域協働モデルの検証を行った。2014 年度から名古屋大学が行ったサブテーマ 1「地域協働と情報連携による地域密着型減災シンクタンク構想」によって構築されたモデルを元に、静岡エリアで基礎自治体を含む産官連携の実現を可能とする『場』の構築を推進する社会実装実験を実施した。また、静岡での適用をもとに西三河モデルの標準化も目指す。2018 年度は、ワークショップ時に取り扱う地域を前年度より西方に拡大し、静岡市から富士市までを含めたより広い地域での議論を行った。また、プロジェクションマッピングを用いて床面に大きく GIS 情報を映し出し、適宜映し出す情報を切り替えることで理解と議論を深めることも工夫した。

・ワークショップ

日時：平成 30 年 11 月 22 日（木） 14 時 30 分～17 時 30 分

場所：静岡県地震防災センター TSUNAMI シアター・大会議室



5 社会的活動

5.1 外部・公開講演会等

秋元菜摘 2019/11. 「地域防災 GIS」(研究展示・参加型イベント). テクノフェスタ. 静岡大学浜松キャンパス

渥美公秀・尼子剛志・上野武利・貫牛利一・矢守克也・太田博 2020 パネルディスカッション「震災から 25 年～今後の災害に備え、つなげていくために～」 NVNAD 設立 25 周年記念のつどい 西宮市役所東館 8 階大ホール 2020/2/1

千木良雅弘. 2018. 九州北部豪雨によって発生した斜面災害の実態とその原因について. 京都大学防災研究所 公開講座, アクロス福岡. 2018 年 10 月 2 日

千木良雅弘. 2018. 最近の斜面災害の特徴について. 長崎県地質調査業協会技術講習会, 長崎県建設技術センター. 2018 年 10 月 23 日

Chigira, M. 2019. Recent large landslides in Asian countries and their background (invited). 12th Asian Regional Conference of International Association of Engineering Geology and Environment. The Korean Society of Engineering Geology, Jeju, Korea, 5.

Chigira, M., Sato, T., Matsushi, Y. & Suzuki, T. 2018. Landslides induced by the 2016 Kumamoto earthquake and its application to future earthquake-induced landslides (Invited). The 5th International symposium on Mega earthquake induced geo-disasters and long term effects, Chengdu, 7-8.

Chigira, M., Malaysia-Japan International Institute of Technology における Geohazards 授業 (2018 年 5 月 28 日から 31 日、2019 年 2 月 24 日から 3 月 2 日)

千木良雅弘. 国際地盤工学会アジア会議において、Geohazards の授業を行った (2019 年 10 月 13 日)

藤井基貴、教育史学会、大会実行委員として、静岡大学、2019 年 9 月 28 日、29 日

藤井基貴、国際フッソール・カンファレンス、大会実行委員長として、静岡大学、2019 年 5 月 30 日～6 月 1 日

藤岡 換太郎、朝日カルチャーセンター、フォッサマグナ、新宿住友ビル、2019 年 6 月

藤岡 換太郎、朝日カルチャーセンター、フォッサマグナ 1-3、新宿住友ビル、2019 年 10 月、11 月、12 月

古橋裕子、技術職員対象メンタルヘルス研修会 講師 2018 年 8 月

古橋裕子、シンポジウム 第 45 回東海・北陸地方部会 座長 2018 年 7 月

二川雅登、日本土壌肥料学会 2019 年度静岡大会、一般社団法人 日本土壌肥料学会 2019 年度静岡大会運営委員会、静岡大学 農学部、2019 年 9 月 5 日

二川雅登、浜松工業会科学技術交流会 2020 静岡、公益財団法人 浜松科学技術研究振興会、グランディエール ブケトーカー、2020 年 2 月 7 日

秦康範, 地域防災コーディネーター養成講座 講師, 伊那市, 2020.2.23

秦康範, 基調講演, 山梨県災害時民間協力体制連絡調整会議, NPO 法人山梨県ボランティア協会, 2020.2.10

秦康範, 甲斐の国・防災リーダー養成講座 講師, 山梨県, 2019.11.17

秦康範, 甲斐の国・防災リーダー養成講座 講師, 山梨県, 2019.11.13

秦康範, 研修会 講師, 山梨放送・山梨日日新聞社, 2019.10.21

秦康範, 講演会 講師, 公益財団法人中山報恩会, 2019.9.21

秦康範, 初任者研修 講師, 山梨県総合教育センター, 2019.8.8

秦康範, 防火・防災講演会 講師, 甲府地区広域行政事務組合消防本部, 2019.7.12

秦康範, 研修会 講師, 甲府市教育委員会, 2019.5.25

秦康範, コーディネーター, 御嶽山噴火災害から5年 火山との共生と木曾地域の振興, 地域安全学会, 2019.3.24

秦康範, 特別講演, 山梨県医師会, 2019.2.8

秦康範, 御嶽山火山防災学習会 講師, 御嶽山火山防災協議会, 木曾町, 2019.2.1

秦康範, パネリスト, 土木学会安全問題討論会 パネルディスカッション「事業継続という観点からの土木技術」, 2018.11.18

秦康範, 甲斐の国・防災リーダー養成講座 講師, 山梨県, 2018.11.16

秦康範, 甲斐の国・防災リーダー養成講座 講師, 山梨県, 2018.11.9

秦康範, 講師, 山梨アカデミックサロン, 2018.10.27

秦康範, パネリスト, 2018 鹿児島防災シンポジウム「記録的大雨から命を守れ」, NHK 鹿児島放送局・MBC 南日本放送, 2018.9.20

秦康範, 講師, 木曾地域防災気象セミナー, 長野県木曾地域振興局, 2018.9.3

秦康範, 教職員研修 講師, 阿南町, 2018.8.8

秦康範, 初任者研修 講師, 山梨県総合教育センター, 2018.7.27

秦康範, 教育院研修 講師, 中央市教育委員会, 2018.7.24

秦康範, 防災講演会 講師, 山梨大学教育学部附属特別支援学校, 2018.7.20

秦康範, 防災研修会 講師, 阿南町, 2018.7.12

秦康範, 講師・コーディネーター, 第55回関東ブロック郡市区町村社協職員合同研究議会 第6分科会「災害時の社協力を育む」, 山梨県社会福祉協議会, 甲府市, 2018.7.10

秦康範, 防災講演会 講師, 北杜市社会福祉協議会, 2018.5.27

秦康範, 地震防災講演会 講師, 長野県地震対策強化地域連絡協議会, 2018.5.18

原田賢治, 伊豆市, 伊豆市“海と共に生きる”観光防災まちづくり, 小中一貫校も考える会, アドバイザー, 伊豆市立土肥小中一貫校, 2020/2/7.

原田賢治, 「南海トラフ地震臨時情報」を生かした防災対応を地域で考える会, 第3回, アドバイザー, 河津町浜地区公民館, 2019.12.3.

原田賢治, 「南海トラフ地震臨時情報」を活かした防災対応を地域で考える会, 第3回, ア

ドバイザー，湖西市新居地域センター，2019.11.27.

原田賢治，「南海トラフ地震臨時情報」を活かした防災対応を地域で考える会，第3回，アドバイザー，伊豆市土肥支所，2019.11.14.

原田賢治，伊豆市親子向け防災講座，液状化実験，伊豆市旧土肥小学校，2019.11.3.

原田賢治，「南海トラフ地震臨時情報」を生かした防災対応を地域で考える会，第2回，アドバイザー，河津町浜地区公民館，2019.10.30.

原田賢治，「南海トラフ地震臨時情報」を活かした防災対応を地域で考える会，第2回，アドバイザー，湖西市新居地域センター，2019.10.15.

原田賢治，「南海トラフ地震臨時情報」を活かした防災対応を地域で考える会，第2回，アドバイザー，伊豆市土肥支所，2019.10.10.

原田賢治，令和元年度ふじのくに防災士養成講座 B コース，「津波防災，静岡県第4次地震被害想定における津波被害想定の実状とその対策」，静岡県立大学，2019.10.5.

原田賢治，令和元年度静岡市技術職員研修（防災講座），海の波の特性について，静岡市上下水道庁舎，2019.9.26.

原田賢治，令和元年度ふじのくに防災士養成講座 A コース，「津波防災，静岡県第4次地震被害想定における津波被害想定の実状とその対策」，静岡県立大学，2019.9.11.

原田賢治，「南海トラフ地震臨時情報」を活かした防災対応を地域で考える会，第1回，アドバイザー，伊豆市土肥支所，2019.9.10.

原田賢治，「南海トラフ地震臨時情報」を活かした防災対応を地域で考える会，第1回，アドバイザー，河津町浜地区公民館，2019.9.6.

原田賢治，「南海トラフ地震臨時情報」を活かした防災対応を地域で考える会，第1回，アドバイザー，湖西市新居地域センター，2019.9.4.

原田賢治，創立70周年記念静岡大学・読売新聞連続市民講座2019，「自然災害と防災対策」，あざれあ（静岡県男女共同参画センター），2019.7.6.

原田賢治，静岡県環境資源協会令和元年度定時総会記念講演，「静岡県の防災対応について」，静岡県産業経済会館，2019.6.25.

原田賢治，平成30年度ふじのくに防災士養成講座 B コース，「津波防災，静岡県第4次地震被害想定における津波被害想定の実状とその対策」，静岡県地震防災センター，2018.9.22.

原田賢治，沼津市立沼津高校上級学校模擬授業，「静岡県の地震被害想定とその対策」，沼津市立沼津高校，2018.9.20.

原田賢治，平成30年度ふじのくに防災士養成講座 A コース，「津波防災，静岡県第4次地震被害想定における津波被害想定の実状とその対策」，静岡県立大学，2018.9.11.

原田賢治，静岡県管路維持協同組合年次総会特別講演，静岡県第4次地震被害想定における津波被害想定の実状とその対策，クーポール会館，2018.6.1.

橋本 岳：人の両眼のようなステレオ画像計測の特長とその活用を御紹介，アカデミック

- ナイト第6回，中部圏イノベーション推進機構，ナゴヤイノベーションズガレッジ（名古屋市），2019年12月12日．
- 林 拙郎：土砂災害からみた最近の豪雨の評価，防災推進国民大会2019セッション，日本学術会議講演会シンポジウム／第8回防災学術連携シンポジウム，名古屋，2019年10月．
- 林能成，地震予知による防災の夢と現実，平成30年度実施土木学会第52回夏期講習会，関西大学高槻ミュージックキャンパス，2018年8月21日
- 本間基寛，気象学分野における人工知能（AI）応用セミナー，台湾中央気象局，中華民国台北市，2018年6月12日
- 本間基寛，平成30年7月豪雨現地調査速報会，日本気象協会，東京都豊島区，2018年8月3日
- 本間基寛，「知」の集積と活用の中 産学官連携協議会主催シンポジウム「十勝から発信！！農業×技術×オープンイノベーションが拓く未来」，農林水産省，帯広市，2018年10月3日
- 本間基寛，RENKEI Researcher Workshop: Building Japan-UK Research Collaboration on Climate Change，東京都千代田区，2018年11月29日
- 本間基寛，日本災害情報学会20周年記念シンポジウム「防災における“住民の主体性”」，日本災害情報学会，東京都文京区，2019年5月11日
- 本間基寛，令和元年度中越市民防災安全大学，公益社団法人中越防災安全推進機構，2019年8月31日
- 本間基寛，フードファクトリー2019セミナー「食品ロス抑制のためのICTを用いた情報共有の実証事業について」，フードファクトリー2019，東京都江東区，2019年9月12日
- 本間基寛，Asia Pacific Climate Service Workshop，台湾中央気象局，中華民国台北市，2019年10月28～29日
- 本間基寛，食品ロス削減全国大会 in 徳島，徳島県，徳島県徳島市，2019年10月30日
- 本間基寛，フジテックス物流セミナー「需要予測で生まれる物流の付加価値」，株式会社フジテックス，東京都新宿区，2019年11月27日
- 本間基寛，サステナブルブランド国際会議2020 横浜，株式会社博展・Sustainable Life Media, Inc.，2020年2月19～20日
- 池田恵子，第27回自治労連東海北信ブロック女性部講演会（講演「ジェンダーの視点から見る災害」），自治労連東海北信ブロック女性部，愛知県豊橋市，2020年2月22日
- 池田恵子，「広島における女性の防災取り組みへのエンパワメントを支える」ワークショップ（講演「ジェンダー視点から見る 防災の現状と課題」），広島大学・UNITAR（国際連合訓練調査研究所），広島県広島市，2020年2月11日
- 池田恵子，令和元年度きょうと男女共同参画センター防災事業（講演と演習「男女共同参画・多様性の視点 で備える防災の基本」），ウィングス京都・京都府男女共同参画セン

ターらら京都, 京都府京都市, 2020年2月1日

池田恵子, 令和元年度 静岡市東部生涯学習センター 女性防災リーダー養成講座 (1回目「災害時の困りごと: 性別によって異なる防災の視点」 3回目「みんなで考える地域防災の課題と解決策」), 静岡市東部生涯学習センター, 静岡市, 2020年1月21日, 2月4日

池田恵子, 清水岡生涯学習交流館 防災セミナー (講演とワークショップ「多様化する避難形態と避難生活の課題 男女共同参画の視点から」), 清水岡生涯学習交流館, 静岡市, 2020年1月17日

池田恵子, 阪神・淡路大震災 25年記念事業 シンポジウム「女性の視点から災害支援を考える (講演「災害とジェンダー」～被害は平等ではない～), ウィメンズねっとうこうべ, 兵庫県神戸市, 2020年1月13日

池田恵子, 災害 (復興)・防災と 男女共同参画に関する講師養成研修 (講義「国際動向・国内政策と現状」, 「災害時における女性への暴力防止」, 「女性関連施設の役割とこれから」など), 高知県男女共同参画センターそーれ, 全国女性会館協議会, 高知県高知市, 2019年12月13日, 14日

池田恵子, Jo-Shizu (静岡女性) 防災講座 (ワークショップ「私の声を地域に活かす 地域活動への扉」), アイセル 21 (静岡市 女性会館) 静岡市, 2019年12月7日

池田恵子, 令和元年度あざれあ地域協働事業 (講演「子どもと一緒に取り組む地域防災」), 中田・馬淵女性防災ネット, 静岡市, 2019年11月30日

池田恵子, 地域の防災女子カパワーアップ講座 (令和元年度 地域で活躍する女性防災リーダー育成事業) (講義「男女共同参画の視点での 避難所運営・避難生活支援」), 静岡県男女共同参画センター, 裾野市, 2019年11月10日

池田恵子, 令和元年度静岡県ふじのくに防災士養成講座 B コース (講義「男女共同参画の視点からの防災」), 静岡県危機管理部, 静岡市, 2018年11月9日

池田恵子, 令和元年度地域団体活動推進事業 (講演「男女共同参画の視点で災害に強い地域づくり ～避難生活の課題に取り組む～」), 藁科生涯学習センター, 静岡市婦人団体連絡会, 静岡市, 2019年11月9日

池田恵子, 御前崎市防災講演会 (講演「地域における女性防災 ～男女共同による防災を目指して～」), 御前崎市役所, 御前崎市, 2019年11月7日

池田恵子, 令和元年度地域団体活動推進事業 (講演「男女共同参画の視点で災害に強い地域づくり ～避難生活の課題に取り組む～」), 伝馬町小学校, 静岡市婦人団体連絡会, 静岡市, 2019年11月1日

池田恵子, とよた男女共同参画センター 男女共同参画セミナー (講演「多様な視点で考える防災・減災 もしものときの困りごと」), とよた男女共同参画センター, 愛知県豊田市, 2019年10月19日

池田恵子, 令和元年度地域団体活動推進事業 (講演「男女で取り組む防災」), 長田西小学

校, 静岡市婦人団体連絡会, 静岡市, 2019年9月11日

池田恵子, 令和元年度静岡県ふじのくに防災士養成講座 A コース (講義「男女共同参画の視点からの防災」), 静岡県危機管理部, 静岡市, 2019年9月11日

池田恵子, 令和元年度男女共同参画の視点での防災講座 (長岡市) (講演とワークショップ「災害時だからこそ安心・安全に暮らしたい! -災害時の性暴力・DV とその対策-」), 長岡市男女共同参画センター, 新潟県長岡市, 2019年9月4日

池田恵子, しみずかがやき塾第25期 (講演「女性こそ主役に 災害への備えと避難生活に必要な女性の視点」), しみずかがやき塾運営委員会, 静岡市, 2019年8月17日

池田恵子, 令和元年度焼津市市民防災リーダー育成講座 (講演「多様な人々の視点による 避難生活への備えと」とワークショップ), 焼津市危機管理課, 焼津市, 2019年8月6日

池田恵子, 第24回清溪セミナー (講演と演習「女性の視点を生かした 災害に強い地域づくり」) 日本青年館, 東京都新宿区, 2019年7月26日

池田恵子, 令和元年度女性消防団員勉強会 (講演「避難生活の課題と 女性の視点による対応」), 静岡県女性消防団員連絡協議会, 静岡市, 2019年7月6日

池田恵子, 湖西市女性防災講座 (講演「避難生活の課題と 女性の視点による対応」とワークショップ), 湖西市危機管理課, 湖西市, 2019年6月29日

池田恵子, 平成31年度富山県男女共同参画推進員全体研修会「男女共同参画に関する講演会」(講演「男女共同参画の視点で取り組む 防災・減災」), 富山県, 富山県富山市, 2019年4月20日

池田恵子, 常総市男女共同参画講演会 (講演「男女共同参画の視点で災害に強い地域づくりを」), 常総市, 茨城県常総市, 2019年3月16日

池田恵子, 第26回自治労連東海北信ブロック女性部講演会 (講演「ジェンダーの視点から見る災害」), 自治労連東海北信ブロック女性部, 三島市, 2019年3月9日

池田恵子, 高島市災害ボランティア活動連絡協議会 講演会 (講演とワークショップ「災害を生きのびる! 高齢者・障がい者・女性・子供の視点から」), 高島市災害ボランティア活動連絡協議会, 2019年2月17日

池田恵子, 日本弁護士連合会 香川県弁護士会との地方交流会「災害・防災と国際人権」(講演「災害時支援の国際基準にみる ジェンダー・多様性配慮」), 日本弁護士連合会, 香川県高松市, 2019年2月22日

池田恵子, 地震防災マップづくり～美和地区の危険な場所、知っていますか?～ (第2回 防災の情報を共有しよう! 講義「避難行動要支援者の避難・避難生活」とワークショップ助言), 静岡市北部生涯学習センター美和分館, 2019年2月16日

池田恵子, 平成30年度津市女性職員活躍セミナー (市職員研修) (講演とワークショップ「女性の視点による 防災・災害対応の推進」), 津市役所, 三重県津市, 2019年2月5日

池田恵子, 平成30年度地域と学校が連携した防災教育事業「防災講演会」(講演「災害時

- の多様性への配慮と安全な地域づくり」), 茨城県教育委員会・公益財団法人茨城県教育財団・茨城県鹿行生涯学習センター, 茨城県行方市, 2019年1月23日
- 池田恵子, 茨城県男女共同参画推進リーダーセミナー(講演とワークショップ「災害時だからこそ安心・安全に暮らしたい!ー災害時のDV・性暴力とその対策ー」), 茨城県教育委員会・茨城県教育財団・茨城県女性プラザ, 茨城県行方市, 2019年1月22日
- 池田恵子, 災害(復興)・防災と男女共同参画に関する講師養成研修(講義「国際動向・国内政策と現状」、「女性関連施設の役割とこれから」など), 全国女性会館協議会, 福岡県春日市, 2019年1月12-13日
- 池田恵子, 静岡県地域で活躍する女性防災リーダー育成事業(講義「男女共同参画の視点での避難所運営・避難生活支援」), 静岡県男女共同参画センター, 榛原郡吉田町, 2018年12月15日
- 池田恵子, 第12回サクスフォーラム(福岡県飯塚市)(講演「防災・減災に取りくむ地域づくりをめざして ~今、私ができることは~」), サクスフォーラム実行委員会, 福岡県飯塚市, 2018年12月1日
- 池田恵子, 平成30「地域女性リーダー養成セミナー」(講演「誰もがよりよく生きるために ~多様な視点で考える防災~」とワークショップ), 佐賀県立男女共同参画センター, 佐賀県佐賀市, 2018年12月2日
- 池田恵子, 沖縄県防災啓発研修(地域防災組織リーダー向け研修「男女双方の視点で考える避難所運営・避難生活」), 沖縄県自治研修所, 沖縄県那覇市, 2018年12月19日
- 池田恵子, 静岡県市町人権教育連絡協議会研修会(講演「災害時の人権擁護」), 静岡県教育委員会, 菊川市, 2018年11月27日
- 池田恵子, 平成30年度島根県県民向け公開講座(講義とワークショップ「災害時だからこそ安心・安全に暮らしたい!ー災害時のDV・性暴力とその対策ー」), 島根県女性相談センター・しまね女性センター, 島根県松江市, 2018年11月13日
- 池田恵子, 日本防災士会研修会(研修「地区防災計画と男女共同参画 ~地区防災計画に女性の視点を~」), 日本防災士会, 東京都江戸川区, 2018年11月10日
- 池田恵子, 平成30年度大垣市防災ひとづくり塾(講演「地域に暮らす多様な人々の視点で災害に備えよう」と避難生活ワークショップ), 大垣市, 岐阜県大垣市, 2018年11月4日
- 池田恵子, 香川県男女共同参画協働事業講演会 ~男女共同参画の視点に立った防災体制の確立~(講演「女性・多様な人々の視点を生かした災害対応と防災体制」), 香川県婦人団体連絡協議会, 香川県高松市, 2018年10月30日
- 池田恵子, 平成30年度福岡県女性による元気な地域づくり応援講座事業・かま元気塾「私の防災準備講座」(講義「みんな(男女)の力で!災害に備える・命を守る」と避難生活ワークショップ), みんな(男女)のできる防災実行委員会, 2018年10月28日
- 池田恵子, 平成30年度静岡県ふじのくに防災士養成講座Bコース(講義「男女共同参画の

視点からの防災」)、静岡県危機管理部、静岡市、2018年10月27日

池田恵子、平成30年度地域と学校が連携した防災教育事業「地域防災に関する講演会」(講演「災害時の避難所運営」)、茨城県行方市立玉造中学校、2018年10月22日

池田恵子、清水区船越生涯学習交流館講座(災害対策 いざというときの心構え)(第2回目「性別・多様な人々の視点で考える 地域の防災体制」講義とワークショップ)、越生涯学習交流館、2018年10月18日

池田恵子、平成30年度防災研修会(講義「災害時における介護支援専門員としての他機関との連携」とワークショップ)、掛川市介護支援専門員連絡協議会、掛川市、2018年10月11日

池田恵子、平成30年度駿河区地域の人材育成事業 するが女子防災講座 ～私の声が地域で生きる～(4回目講義「災害時に女性や子どもを守るために 一わたしたちができること」とワークショップ)、駿河区役所・アイセル21、静岡市、2018年10月1日

池田恵子、平成30年度新発田市第2回男女共生市民講座 新潟県女性財団地域セミナー in 新発田「今こそ学ぼう 地域の防災力 女性・男性の視点で考える」(講演〔1〕性別・多様な人々の視点で見る災害」と演習ほか)、新潟女性財団・新発田市、新潟県新発田市、2018年9月26日

池田恵子、フォローアップ研修「まちを守るのは私。防災女子カパワーアップ講座」(講義「男女共同参画の視点での 避難運営・避難生活支援について」)、静岡県男女共同参画課、静岡市、2018年9月19日

池田恵子、平成30年度静岡県ふじのくに防災士養成講座 A コース(講義「男女共同参画の視点からの防災」)、静岡県危機管理部、静岡市、2018年9月12日

池田恵子、第8回名古屋市近隣市町村防災担当者会議(講演「男女共同参画の視点による防災・復興～現場に導入・定着させるために～」)、名古屋市、愛知県名古屋市、2018年9月7日

池田恵子、平成30年焼津市市民防災リーダー育成講座(講演「多様な人々の視点による 避難生活への備え」)、焼津市危機管理課、焼津市、2018年7月31日

池田恵子、静岡県平成30年度人権啓発指導者養成講座(講演「講義9 多様な人々の視点で考える防災・災害対応」)、静岡県教育委員会、静岡市、2018年7月27日

池田恵子、滋賀県Gネットしが 平成30年度「さんかく塾」(講演とワークショップ「いざというときに備える! ～誰もが安全・安心な避難所を作るために～」)、G ネットしが・滋賀県立男女共同参画センター、滋賀県近江八幡市、2018年7月21日

池田恵子、静岡県助産師会 災害時支援助産師養成講座(講演とワークショップ「女性の視点から見た避難所の課題と対策について」)、静岡県助産師会、静岡市、2018年6月30日

池田恵子、森町防災講演会(講演「～人権的視点から考える～ いざというとき避難所で安全・安心に過ごすために」)、森町、周智郡森町、2018年6月29日

池田恵子, 富士発・女(ひと)と男(ひと)のフォーラム 平成30年度富士市男女共同
参画推進事業(講演とワークショップ「災害時だからこそ安全に安心して暮らしたい! 一
災害時の女性と子どもへの暴力対策」), 女性ネットワーク富士・きらり交流会議・富
士市, 富士市, 2018年6月24日

池田恵子, 湖西市平成30年度第1回女性防災講座(講演とワークショップ「男女双方の視
点で考える 避難生活」), 静岡県湖西市危機管理課, 湖西市, 2018年6月23日

生田領野, る・く・る de ラボ, 静岡科学館る・く・る, 2018年8月

生田領野, 吉田町シニアカレッジ, 吉田町生涯学習課, 吉田町中央公民館, 2019年8月

生田領野, る・く・る de ラボ, 静岡科学館る・く・る, 2019年8月

生田領野, サイエンスカフェ, 静岡科学館る・く・る, 静岡生涯学習センターアイセル 21,
2020年1月

今泉文寿, 国土交通省富士砂防事務所 大規模土砂災害を想定した合同演習「富士山周辺に
おけるスラッシュ雪崩の発生・流下特性と対策」, 富士宮市役所, 2020年1月29日.

今泉文寿, 静岡県地質調査業協会地盤技術講習会「山地における不安定土砂の堆積状況と土
砂移動」, ペガサート, 2019年7月19日.

今泉文寿, ふじのくに防災学講座「土砂災害はいつどこでおきるのか? ~土砂災害の実態と
対策~」, 静岡大学, 2019年7月20日.

今泉文寿, 静岡県防災講演会「静岡県東部地域における地質特性と土砂災害の事例、対策」,
静岡県総合健康センター, 2019年2月17日.

今泉文寿, 平成30年度森林土木事業技術講習会「富士山周辺の土砂災害の特徴」, 静岡駅ビ
ルパルシェ, 2019年2月1日.

井ノ口宗成, 自主防災アドバイザー研修会, 富山県防災・危機管理課, 富山県広域消防防災
センター, 2018.4.14.

井ノ口宗成, 防災エキスパート東京・八王子支部支部大会, 中日本ハイウェイ・エンジニア
リング東京 株式会社, 本社会議室, 2018.6.13.

井ノ口宗成, 平成30年度第1回防災危機管理検討会, 南砺市, 南砺市防災センター,
2018.6.21.

井ノ口宗成, 平成30年度 防災に関する講習会, 高速道路調査会, 高速道路調査会会議室,
高速道路調査会, 高速道路調査会会議室, 2018.7.3.

井ノ口宗成, 被災者台帳に関する講演会, 金沢市総務局資産税課, 金沢市役所, 2018.7.31.

井ノ口宗成, 災害時の地域社会サービス, 富山大学社会貢献課, 大学コンソーシアム富山,
2018.8.22.

井ノ口宗成, 平成30年度第1期 防災スペシャリスト養成講座「警報避難」コース, 内閣
府(防災担当), 有明の丘基幹の広域防災拠点施設, 2018.9.27~9.28.

井ノ口宗成, 防災授業, 燕市立小池小学校, 同校 体育館, 2018.9.29.

井ノ口宗成, 第6回 富山県地域研究会「地域防災フォーラム」, 東京大学 地震研究所, ボ

ルファート富山, 2018.10.22.

井ノ口宗成, 平成 30 年度 幹事会, 水害に強い信濃川下流域づくり推進協議会, 新潟県自治会館, 2018.12.3.

井ノ口宗成, 平成 30 年度富山県防災士養成研修, 富山県防災局, 富山県農協会館, 2019.1.12.

井ノ口宗成, 平成 30 年度行政人材育成研修, あいち・なごや強靱化共創センター, 名古屋大学, 2019.1.15.

井ノ口宗成, 平成 30 年度群馬県危機管理フェア, 群馬県, 群馬県庁, 2019.1.18.

井ノ口宗成, セコム IS 研究所 防災セミナー, セコム株式会社, セコム SC センター, 2019.1.29.

井ノ口宗成, 平成 30 年度 第 2 期 防災スペシャリスト養成講座「警報避難」コース, 内閣府 (防災担当), 有明の丘基幹的広域防災拠点施設, 2019.2.21~2.22.

井ノ口宗成, メンテ東北 防災の日講演会, ネクスコ・メンテナンス東北, ホテルメトロポリタン仙台, 2019.3.11.

井ノ口宗成, The 2019 International Training Workshop for Natural, Natural Science and Technology Center for Disaster Reduction, 当センター・ホール, 2019.4.30.

井ノ口宗成, 被災者生活再建支援シンポジウム, 東京都豊島区, 南大塚ホール, 2019.8.7.

井ノ口宗成, 令和元年度 第 1 期 防災スペシャリスト養成講座「警報避難」コース, 内閣府 (防災担当), 有明の丘基幹的広域防災拠点施設, 2019.9.12~9.13.

井ノ口宗成, 学術情報メディアセンターセミナー, 京都大学企画, 京都大学学術情報メディアセンターセミナー, 2019.9.27.

井ノ口宗成, 令和元年度「防災スペシャリスト養成研修(有明の丘)第 1 期」/「対策立案コース」, 内閣府, 有明の丘基幹的広域防災拠点施設, 2019.10.11.

井ノ口宗成, 2019 年度 防災に関する講習会, 高速道路調査会, 高速道路調査会会議室, 2019.11.11.

井ノ口宗成, 北陸 4 大学連携「まちなかセミナー」, 金沢大学地域共創推進課, 金沢大学サテライト・プラザ, 2019.11.24.

井ノ口宗成, 第 12 回特別講演セミナー「地域づくりと G 空間情報」, にいがた GIS 協議会, にいがた GIS 協議会, ホテル日航新潟, 2020.1.16.

井ノ口宗成, 令和元年度「防災とボランティア週間」防災講演会, 北陸地域づくり協会, ボルファート富山, 2020.1.20.

井ノ口宗成, 自主防災シンポジウム 2020in 五泉, 五泉市, 五泉市福社会館, 2020.1.25

井ノ口宗成, 令和元年度 第 2 期 防災スペシャリスト養成講座「警報避難」コース, 内閣府 (防災担当), 有明の丘基幹的広域防災拠点施設, 2020.2.22~2.23.

井ノ口宗成, 弥陀ヶ原火山セミナー, 富山大学, 富山大学理学部 C202 教室, 2020.2.27.

井ノ口宗成, 令和元年度原子力防災マップ作成 WS, 氷見市社会福祉協議会, 久目地区交流

館, 2020.3.5.

石橋秀巳, 静岡大学キャンパスミュージアム公開講座 2019, 静岡大学, 静岡大学, 2019 年 10 月.

石橋秀巳, 静岡大学キャンパスミュージアム公開講座 2018, 静岡大学, 静岡大学, 2018 年 10 月.

岩松 暉, 鹿児島県地質調査業協会青年部会研修会, 鹿児島県地質調査業協会, 鹿児島市, 2018 年 8 月 23 日.

岩松 暉, 東京地学協会特別講演会, 東京地学協会, 熊本市, 2018 年 10 月 13 日.

岩松 暉, 鹿児島県宅建業協会例会, 鹿児島県宅建業協会, 鹿児島市, 2019 年 6 月 20 日.

岩松 暉, 防災士研修会, 日本防災士機構, 豊見城市, 2019 年 7 月 28 日.

岩松 暉, 防災士研修会, 日本防災士機構, 熊本市, 2019 年 11 月 24 日.

岩崎一孝:「地震防災と地理情報 -地理情報システム (GIS) とその地震防災への応用-」
第 116 回ふじのくに防災学講座, 静岡県地震防災センター, 静岡大学大学会館, 2019 年 3 月 16 日.

岩田孝仁, 名古屋市区長研修会「大規模地震の備える危機監理」, 2018/04/27

岩田孝仁, 全国市町村議会議員研修「大規模災害への備え～防災危機管理行政の役割を考
える」, 2018/05/15

岩田孝仁, 静岡県鐵構工業組合総会研修「減災から防災社会へ」, 2018/05/16

岩田孝仁, 測量の日記念講演会「減災から防災社会へ」, 2018/06/06

岩田孝仁, 政策研究大学院大学 講師「南海トラフ地震にどう向き合うか」, 2018/06/13

岩田孝仁, 静岡大学・読売新聞連続市民講座「減災から防災社会へ 想像力の欠如に陥ら
ない防災を」, 2018/06/30

岩田孝仁, 神奈川県立高校 PTA 連合会研修大会 講演「防災減災教育の推進 減災から防
災社会へ」, 2018/07/01

岩田孝仁, 自治体危機管理学会定例研究会「大震法を踏まえ不確実な地震予測情報への対
応をどう考えるか」, 2018/07/04

岩田孝仁, AIG 損保地震対策セミナー「減災から防災社会へ 来るべき南海トラフ地震へ
の備え」, 2018/07/09

岩田孝仁, 静岡県焼津警察署署員研修「地域防災の現場から」, 2018/07/31

岩田孝仁, 地震学会教員免許講習「防災から減災社会へ」, 2018/08/24

岩田孝仁, 静岡県 LP ガス協会支部別講習会「減災から防災社会へ」, 2018/08/28

岩田孝仁, 静岡県建設産業団体連合会 建設産業構造改善推進の集い「減災から防災社会
の構築へ」, 2018/09/14

岩田孝仁, 西伊豆町町民防災会議講演 「想像力の欠如に陥らない防災を」, 2018/10/13

岩田孝仁, 監査役全国会議 文化講演 「減災から防災社会へ」, 2018/10/17

岩田孝仁, 監査役全国会議 文化講演 「減災から防災社会へ」, 2018/10/19

岩田孝仁, 内閣府防災スペシャリスト養成講座 コーディネーター・講師, 2018/10/23～
24

岩田孝仁, 出前講義 静岡県立湖北高等学校 3 年生, 2018/11/02

岩田孝仁, 講義 静岡県立科学技術高等学校生徒, 2018/11/06

岩田孝仁, 出前講義 静岡市立高等学校, 2018/11/08

岩田孝仁, 浜松工業会ホームカミングデー 講演「減災から防災社会の構築」, 2018/11/10

岩田孝仁, 原子力緊急時災害対策研修会 基調講演「減災から防災社会の構築」, 2018/11/24

岩田孝仁, 京都大学生存圏研究所シンポジウム 講演「減災から防災社会の構築」,
2018/11/30

岩田孝仁, 神奈川県経営者協会 講演「減災から防災社会の構築」, 2018/12/05

岩田孝仁, 鳥海山火山防災協議会 講演「減災から防災社会の構築」, 2018/12/07

岩田孝仁, 静岡市治水交流資料館 (かわなび) 防災講座「減災から防災社会の構築」,
2018/12/08

岩田孝仁, 静岡県警察災害対策職員研修, 2018/12/12

岩田孝仁, 福岡県市町村長危機管理ラボ 講演「大規模災害に備える危機管理 減災から
防災社会へ」, 2019/01/25

岩田孝仁, 地域防災力向上シンポジウム静岡 (主催: 消防庁、静岡県他) 基調講演 「減
災から防災社会の構築」, 2019/02/03

岩田孝仁, 内閣府防災スペシャリスト養成講座 総合監理コースコーディネーター・講師 ,
2019/02/07～08

岩田孝仁, 伊東市議会議員防災研修会 講演「減災から防災社会の構築」, 2019/02/13

岩田孝仁, コミュニティ FM 東海地区協議会 講演「減災から防災社会の構築」, 2019/03/15

岩田孝仁, 中日懇話会 講演「減災から防災社会へ」, 2019/03/22

岩田孝仁, 静岡ロータリークラブ例会講演、「南海トラフ巨大地震 臨時情報にどう備え
るか」, 2019/04/15

岩田孝仁, 熱海市市民大学講座「熱海の今を知る」、「減災から防災社会の構築へ」,
2019/05/22

岩田孝仁, 長野県地震対策強化地域連絡協議会 地震防災講演会、「減災から防災社会の構
築へ～南海トラフ地震の防災対策は～」, 2019/05/23

岩田孝仁, 藤枝市 防災講演会, 「減災から防災社会へ 想像力の欠如に陥らない防災を」,
2019/06/08

岩田孝仁, 静岡県自治会連合会 防災講演, 「減災から防災社会へ 想像力の欠如に陥らな
い防災を」, 2019/06/21

岩田孝仁, 東京大学大学院総合防災情報研究センター(CIDIR)災害情報研究会 講演 南海
トラフ地震～自治体が抱える地域課題～, 2019/07/04

岩田孝仁, 静岡県・浜松市・静岡大学土木分野産官学連携 WS,セッション発表「減災から

防災社会の構築へ」,2019/07/09

岩田孝仁, 清水経済人倶楽部 講演「減災から防災社会の構築へ」, 2019/07/18

岩田孝仁, 気象庁職員研修「火山防災対策概論」, 2019/07/31

岩田孝仁, 静岡県立富士宮東高等学校出前授業「減災から防災社会の構築へ」, 2019/08/30

岩田孝仁, ふじのくに防災士養成講座「減災から防災社会の構築へ 想像力の欠如に陥らない防災を」, 2019/09/03

岩田孝仁, 伊東市女性連盟「減災から防災社会の構築へ」, 2019/09/04

岩田孝仁, 浜松市社会福祉協議会災害ボランティア講習「減災から防災社会へ」, 2019/09/21

岩田孝仁, 政策研究大学院大学 防災講座「南海トラフ地震と富士山防災」, 2019/09/26

岩田孝仁, 御前崎災害支援ネットワーク防災講演「南海トラフ巨大地震の防災 想像力の欠如に陥らない防災を」, 2019/09/28

岩田孝仁, 防災スペシャリスト養成研修, 2019/10/03~04

岩田孝仁, 静岡銀行静友会防災講演「減災から防災社会の構築へ」, 2019/10/08

岩田孝仁, 静岡県立がんセンター防災講演 「迫りくる南海・相模トラフ地震 危機への対応は」, 2019/10/10

岩田孝仁, 静岡県立三島南高校出前授業「減災から防災社会へ」, 2019/10/15

岩田孝仁, 浜松市釣橋川流域防災講座「減災から防災社会へ」, 2019/10/16

岩田孝仁, 日本技術士会中部本部静岡県支部 地域産学官と技術士との合同セミナー技術が守る防災・減災への挑戦 「減災から防災社会へ 想像力の欠如に陥らない防災を」, 2019/11/16

岩田孝仁, 南部町防災研修会「減災から防災社会の構築へ」, 2019/11/19

岩田孝仁, 大学等環境安全協議会技術分科会特別講演「防災教育と研究を通して地域社会への貢献」, 2019/11/21

岩田孝仁, 浜松市防災学習講座「減災から防災社会へ」, 2019/12/04

岩田孝仁, 静岡県警察災害対策職員研修, 2019/12/10

岩田孝仁, 気象予報士会神奈川県支部研修会, 2019/12/14

岩田孝仁, 静岡県立湖北高校防災授業, 2020/01/10

岩田孝仁, 防災スペシャリスト養成研修, 2020/01/30~31

岩田孝仁, 浜松市自治会連合会 防災講演「想像力の欠如に陥らない防災」, 2020/02/04

岩田孝仁, 熱海市自主防災講演会「想像力の欠如に陥らない防災」, 2020/02/05

岩田孝仁, 産業安全対策シンポジウム講演「想像力の欠如に陥らない防災」, 2020/02/19

岩田孝仁, 静岡県, 第23回水シンポジウム2018in ふじのくに・沼津 第2分科会 パネラー. 2018/08/23

岩田孝仁, 関西学院大学災害復興制度研究所, 海トラフ巨大地震への備え 高台まちづくりの展望と課題 パネル討論, 2018/09/26

岩田孝仁, 公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構, 自治体災害対策全国会議パネ

ルディスカッション第1部 座長, 2018/11/07
 岩田孝仁, 静岡県ボランティア協会, 災害時における行政とボランティアの連携のあり方
 シンポジウム 座長, 2018/12/13
 岩田孝仁, 伊豆半島ジオパーク協議会 伊豆東部火山噴火から 30 年 パネルディスカッ
 ション, 2019/07/19
 岩田孝仁, 第 65 回日本母親大会分科会 12「災害に強い街づくり」助言者, 2019/08/24
 岩田孝仁, 南海トラフ地震地域「防災・減災」シンポジウム「情報と行動が命を救う」パ
 ネルディスカッションコーディネーター, 2019/11/30
 岩田孝仁, 道路と防災シンポジウム パネルディスカッション パネラー, 2020/02/21
 狩野謙一・宮坂 晃: 諏訪湖周辺の地質から信州中・南部の最近 200 万年間の地殻変動を探
 る. 飯田市美術博物館・自然講座, 2018 年 5 月
 狩野謙一・宮坂 晃: 北部・南部フォッサマグナ接合域の更新世テクトニクスー北部フォ
 ッサ南部の中央隆起帯と小諸帯からの知見ー(招待講演). 日本地質学会中部支部 2018 年
 年会(山梨大会), 山梨大学教育学部(甲府), 2018 年 6 月
 片田敏孝・矢守克也・中豊司・多田英夫 2020 パネルディスカッション NHK 鹿児島・
 南日本放送防災シンポジウム 2020「命を守る避難とは～巨大災害時代の備え～」
 2020/2/9 みなみホール
 風間聡, 気候変動下の水災害とその適応, 阿武隈川 100 周年事業 気候変動に対する適応策
 を考えるシンポジウムー気候変動と阿武隈川流域圏の将来像ー, 福島, 2019.7.25. (基
 調)
 Kazama, S., Estimation of flood damage in Japan with different resolution, 29th
 Workshop on Sustained Simulation Performance, Sendai, 2019.3.20.
 風間聡, 気候変動の影響と適応に向けて, 洪水, 気候変動に対する適応を考えるシンポジ
 ヴウムー阿武隈川のこれからを考える意見交換会ー, 福島, 2018.7.13.
 吉川肇子・矢守克也 2019 事例報告 クロスロードのつどい全国大会 横手高校
 2019/12/7
 木村浩之, グリーンサイエンスカフェ in 浜松, 静岡大学グリーン科学技術研究所, 浜松,
 2019 年 10 月 19 日.
 木村浩之, 「発酵と代謝研究会」令和元年第 1 回勉強会, 一般財団法人バイオインダストリ
 ー協会, 東京, 2019 年 7 月 12 日.
 木村浩之, 静岡県環境ビジネス協議会講演会, 静岡県環境ビジネス協議会, 静岡, 2019 年
 7 月日.
 木村浩之, 講習会「バイオマス/廃棄物等由来水素生産技術の開発・実証動向と展望」, 技術
 情報センター, 東京, 2019 年 6 月 21 日.
 木村浩之, 静岡化学工学談話会令和元年総会および第 55 回静岡コロキウム 講演会, 静岡
 化学工業談話会, 静岡, 2019 年 6 月 18 日.

木村浩之, 日本土壤肥料学会中部支部第 98 回例会・中部土壤肥料研究会第 108 回例会, 日本土壤肥料学会, 静岡, 2018 年 11 月 29 日、招待講演.

木村浩之, 静岡大学・中日新聞連携講座 2018「静岡大学の現在」, 静岡大学、中日新聞東海本社, 浜松, 2018 年 11 月 13 日.

木村浩之, 第 11 回アクセラレーション技術発表討論会, 電子情報通信学会, 日南, 2018 年 9 月 7 日、招待講演.

木村浩之. 地球ダイナミクスと微生物メタン生成 ～微生物生態学から新エネルギーの社会実装まで～. 日本微生物生態学会第 32 回大会、沖縄、2018 年 7 月、奨励賞受賞講演.

木村浩之, 名古屋工業大学バイオ活用土木環境システム研究会, 名古屋工業大学研究協力会, 名古屋, 2018 年 6 月 15 日.

北村晃寿 静岡県における南海トラフの巨大地震・津波の最新知見, 放送大学公開講座, 浜松, 2019 年 7 月 13 日

北村晃寿 地球環境史学 静岡地震津波研究のいま, ふじのくに地球環境史ミュージアム 平成 30 年度オムニバス授業, ふじのくに地球環境史ミュージアム, 2018 年 12 月 23 日

北村晃寿 「人と水害」過去・現在・未来, 地盤工学会関東支部, 中央大学 2018 年 11 月 17 日

北村晃寿 平成 30 年度市民大学リレー講座「災害と向き合う」 大地が伝える津波と地震の記憶～静岡・清水平野の津波堆積物調査から～, 静岡市, アイセル 21, 2018 年 11 月 3 日

北村晃寿 「焼津市における津波堆積物調査について」 出張講義 焼津市, 焼津市小川公民館, 2018 年 6 月 30 日

北村晃寿, 先島諸島における津波堆積物の“埋蔵地”の発見, 日本地球惑星科学連合大, 2018 年 5 月.

小林 淳: 富士・箱根, 伊豆諸島火山の噴火による災害予測とその対策, 首都大学東京オープンユニバーシティ講座『日本列島の火山』, 2018 年 4 月, 千代田区.

小林 淳: 神津島火山の成り立ち一数万年前に遡る爆発的噴火の歴史一, 観光まちづくりの支援アドバイザー派遣事業, 神津島観光協会, 2020 年 1 月, 神津島.

小林 淳: 火山ハザードマップの見方・読み方について, 静岡県ふじのくに防災士フォローアップ研修, 静岡県危機管理部, 2020 年 2 月, 葵区.

小林 淳: 神津島“火山”の恵み一長年の噴火活動によって創出された資源, 観光まちづくりの支援アドバイザー派遣事業, 神津島観光協会, 2020 年 3 月, 神津島.

小山真人, 2018 年 10 月 20 日 第 129 回静岡県東部医学会学術講演会, 富士宮市, 「火山がつくった世界遺産・富士山の噴火史と防災」

小山真人, 2018 年 11 月 14 日 富士宮市民カレッジ, 富士宮市, 「富士山の災害予測と防災」

小山真人, 2018 年 11 月 17 日 静岡大学理学部同窓会・地学同窓会合同ホームカミングデイ科学講演会, 静岡市, 「南から来た大地の物語～伊豆半島ジオパーク～」

小山真人,2018年11月21日 富士宮市民カレッジ, 富士宮市, 「富士山の保全と伊豆半島ジオパーク」

小山真人,2018年11月7日 富士宮市民カレッジ, 富士宮市, 「富士山の成り立ちと特徴」

小山真人,2018年3月10日 第3回伊豆半島ジオパーク学術研究発表会, 三島市, 講評

小山真人,2018年3月3日 SBS プロモーション・静岡新聞社・静岡放送・静岡県文化プログラム推進委員会主催まちめぐり&座談会「"未"被災地のための防災アートは可能か?」, 三島市・函南町

小山真人,2018年4月18日 伊豆半島ジオパーク世界認定記念式典と記者会見, 伊豆市

小山真人,2018年6月17日 富士山樹空の森主催・世界文化遺産富士山登録5周年記念イベント, 御殿場市, 「火山がつくった世界遺産・富士山」

小山真人,2018年6月28日 伊豆東部火山群火山防災協議会コアメンバー会議, 伊東市, 伊豆東部火山群の特性と防災上の課題

小山真人,2018年6月28日 伊豆東部火山群防災協議会コアグループ会議の現地視察(大室山と一碧湖)

小山真人,2018年6月30日 ふじのくに防災フェロー講座2018年度講義, 静岡市, 「火山学」

小山真人,2018年6月9日 NHK静岡放送局主催: 第7回災害情報研究会, フィールドワーク&講義「活火山・富士山を知る」, 富士宮市・御殿場市

小山真人,2018年6月9日 NHK静岡放送局主催: 第7回災害情報研究会, 講義&意見交換「火山災害時、放送局は何を伝えるか」, 御殿場市

小山真人,2018年7月13日 静岡県立科学技術高校, 出前授業「ジオパークとは何か、静岡県の自然災害と防災、静岡大学地域創造学環の紹介」

小山真人,2018年7月19日 浜松大平台高校, 出前授業「浜松ジオパーク」が開く地域の未来

小山真人,2018年7月24日 静岡大学教育学部附属浜松小学校, 5・6年生林間学校, 宝永山と宝永火口

小山真人,2018年8月19日 静岡大学教員免許状更新講習, 浜松市, 「火山と地震がつくった静岡県の大地」

小山真人,2018年8月22日 伊東市民生委員児童委員協議会地域福祉部会研修会, 伊東市, 「もしも伊豆東部火山群が噴火したら」

小山真人,2018年8月26日 ながいずみセミナー第4回講座, 長泉町, 「富士山噴火と巨大地震～予測と対策の現状」

小山真人,2018年8月4日 静岡大学・読売新聞連続市民講座2018・どんな時代だったのか～平成の静岡～第2回, 静岡市, 「静岡の大地が語る言葉を読み解く～世界遺産・富士山と伊豆半島ジオパーク～」

小山真人,2018年9月19日 2018年度ふじのくに防災士養成講座A・Bコース合同, 静岡

市,「火山災害一般と静岡県の活火山」

小山真人,2019年10月18日火曜会主催伊豆半島見学会,伊豆市

小山真人,2019年10月20日伊豆半島ジオパーク推進協議会主催:伊豆半島ジオガイド養成講座野外実習(南伊豆エリア)

小山真人,2019年10月26日浜松市学校生活協同組合主催「学びの遠足」バスツアー2019「奇跡の湖・浜名湖」(第2回),浜松市・湖西市

小山真人,2019年10月5日2019年度ふじのくに防災士養成講座Bコース,静岡市,「火山災害一般と静岡県の活火山」

小山真人,2019年11月16日伊豆半島ジオパーク推進協議会,伊豆市,伊豆半島ジオガイド養成講座「伊豆半島の自然災害特性～ジオパークと防災」

小山真人,2019年11月17日放送大学静岡学習センター公開講演会,三島市,「火山がつくった世界遺産・富士山」

小山真人,2019年11月29日日本学術会議中部地区会議学術講演会,静岡市,「世界遺産・富士山の噴火史と火山防災」

小山真人,2019年11月8日浜松市立光が丘中学校区健全育成会講演会,浜松市,「浜松の大地の物語～地域資源と防災の観点から～」

小山真人,2019年12月2日共同通信系マスメディア第2回富士山噴火勉強会,富士宮市,「富士山の火山防災対策～現状と課題」

小山真人,2019年2月2日平成30年度ふじのくに地域・大学コンソーシアム大学連携講座「静岡で知っておきたい地震と火山と防災」,下田市,「伊豆の大地の物語 ジオパークと防災」

小山真人,2019年3月16日第4回伊豆半島ジオパーク学術研究発表会,三島市,講評

小山真人,2019年3月17日大学的静岡ガイド出版記念シンポジウム,静岡市,「まち歩きのスズメ・こだわりの歩き方」

小山真人,2019年5月15日伊豆半島ジオガイド協会講演会,伊豆市,「伊豆半島ジオパークの新たなジオストーリー」

小山真人,2019年5月23日富士市民大学,富士市,「富士山の生い立ちと噴火史」

小山真人,2019年6月22日ふじのくに防災フェロー講座2019年度講義,静岡市,「火山学」

小山真人,2019年6月23日伊豆半島ジオガイド協会伊東エリア野外研修会(小川沢の巨大地すべりと化石湖、払火山)

小山真人,2019年6月2日NPO法人富士山測候所を活用する会,東京都,「火山がつくった世界遺産・富士山」

小山真人,2019年6月6日富士市民大学,富士市,「富士山の災害予測と防災」

小山真人,2019年7月19日伊豆東部火山群防災協議会・伊豆半島ジオパーク推進協議会「伊東沖海底噴火30周年記念シンポジウム～火山を楽しみ、上手にお付き合いするため

に、伊東市、「伊東沖海底噴火から 30 年～伊豆東部火山群防災のあゆみと課題」

小山真人,2019 年 7 月 24 日 ふじのくに地球環境史ミュージアム企画展「伊豆半島 驚異の環境」, 静岡市, 「伊豆の大地の物語～伊豆東部火山群と伊豆半島ジオパーク」

小山真人,2019 年 7 月 5 日 浜松工業高校, 出前授業「浜松・浜名湖ジオパーク」が開く地域の未来

小山真人,2019 年 8 月 13 日 浜松市学校生活協同組合主催「学びの遠足」バスツアー2019「奇跡の湖・浜名湖」, 浜松市・湖西市

小山真人,2019 年 8 月 7 日 静岡大学社会教育主事講習, 静岡市, 「世界遺産とジオパーク」

小山真人,2019 年 8 月 8 日 静岡県教育研究会理科教育研究部夏季研究大会, 掛川市, 「静岡の大地の物語」

小山真人,2019 年 9 月 10 日 2019 年度ふじのくに防災士養成講座 A コース, 静岡市, 「火山災害一般と静岡県の活火山」

前田恭伸, 静岡市社会福祉協議会リスクマネジメント研修会「事故とヒヤリハット」, 静岡市社会福祉協議会, 静岡, 2019 年 6 月 21 日

前田恭伸, 未来の科学者養成スクール「KJ 法入門」, 静岡大学, 静岡, 2019 年 8 月 3 日.

前田恭伸, 令和元年度静岡大学社会教育主事講習「リスクマネジメントと防災教育」, 静岡大学, 静岡, 2019 年 8 月 15 日.

正木明・矢守克也・下間登代子 2020 トークショー講演：過去から学ぶ防災・減災、共生社会における防災・減災 次世代につなぐ防災&減災フォーラム ハグミュージアム 2020/1/12

松井 務、焼津市立総合病院シンポジウム、焼津市立総合病院、焼津市、2019 年 10 月 2 日

松井 務、医療と介護の総合的な確保に向けてのシンポジウム、医療と介護シンポジウム 開催実行委員会・静岡県、静岡市、2019 年 11 月 30 日

三井雄太, 静岡大学・読売新聞連続市民講座 2019, 静岡県男女共同参画センター, 2019/11/2.

三井雄太, 第 109 回ふじのくに防災学講座, 静岡県地震防災センター, 2018/7/21.

森下祐一 (2019) 地質学を基盤とした IRMS・SIMS 研究, 日本質量分析学会同位体比部会 2019, 登別温泉, 2019.11.5.

森下 祐一 (2019) 高品位金鉱床探査に資する微小領域分析技術, 日本鉱業振興会研究助成研究成果報告会, 東京 (東京ガーデンパレス) 2019.11.1.

森下祐一 (2019) 鉱石中に潜在する見えない金・白金の微小領域分析, 日本地質学会第 126 年学術大会, 山口大学, 2019.9.24.

森下祐一 (2018) 高品位金鉱床探査に資する微小領域分析技術, 日本鉱業振興会研究助成研究成果報告会, 東京 (東京ガーデンパレス), 2018.11.2.

村越真、安心登山のための読図講習 (初級)、静岡大学公開講座、2018 年 5 月 19 日

村越真、全国遭難対策協議会、文科省等主催、2018年7月11日

村越真、登山研修所サテライトセミナー、国立登山研修所、2018年7月22日：

村越真、全国安全登山指導者研修会東日本地区、国立登山研修所、2018年9月15-17日

村越真、全国安全登山指導者研修会西日本地区、国立登山研修所、2018年11月17-19日

村越真、「安心登山のための読図講習（中級）」、静岡大学公開講座、2018年10月7日（日）

村越真、佐々木大輔デナリ大滑降（聞き手）、国立登山研修所友の会、2018年10月21日

村越真、オリジナルマウンテンマラソン（安全管理マネージャー）、2018年11月10-11日

村越真、登山研修所サテライトセミナー、国立登山研修所、2018年12月2日

村越真、アジアオリエンテーリング選手権（香港：シニアイベントアドバイザー（国際連盟よりの監督官））、2018年12月22～26日

村越真、山岳救助隊研修会、静岡市消防局、2019年1月16日

村越真、「安心登山のための読図講習（中級）」、静岡大学公開講座、2019年5月6日

村越真、全国遭難対策協議会、文部科学省、2019年7月5日

村越真、登山研修所サテライトセミナー、国立登山研修所、2019年7月14日

村越真、初心者向け登山講座「山へ行こうよ、安全登山のすすめ、静岡市南部生涯学習センター、2019.7月21日

村越真、オリジナルマウンテンマラソン（安全管理マネージャー）、OMM、2018年11月9-10日：

村越真、登山研修所サテライトセミナー、国立登山研修所、2019年11月17日

中川和之、第3回通信指令シンポジウム「大規模災害時の通信指令とマスコミ対応：その役割を果たし、日常からの質の向上を図る」、通信指令シンポジウム実行委員会、帝京平成大学沖永記念ホール、2020年2月8日

中川和之、横須賀市職員研修「自主防災活動の現状とこれから：覚悟を持って地域で動ける市民を育てよう」、横須賀市、横須賀市役所職員厚生会館、2020年1月29日

中川和之、2020世界災害語り継ぎフォーラム分科会「ジオパークと語り継ぎ」共同座長、2020世界災害語り継ぎフォーラム実行委員会、こうべまちづくり会館、2020年1月25日

中川和之、大学と地域の防災・減災集会2019冬「2019年の風水害の特徴と課題 後手後手のその場対応を避け、「餅は餅屋」と「協働」で＝放置すれば斥力が働く人間社会を科学でつなげよう」、かながわ人と智をつなぐ防災・減災ネットワーク、関東学院大学 金沢八景キャンパス、2019年12月21日

中川和之、伊豆大島ジオパーク情報連絡会「すぐにバラバラになる人間社会相手にジオパークのこれからをどうしますか？ 一緒に考えて下さい」、伊豆大島ジオパーク推進委員会、大島町役場、2019年12月16日

中川和之、大島町役場職員全体研修「災害時の報道と自治体の対応 突然の噴火にも向き合える島を作るために」、大島町、大島町役場、2019年12月16日

中川和之、安城市市民企画講座「大地震発生、そのときのためにどう、そなえるか？ 防災教

育はいま」,安城市教育委員会,安城市文化センター、2019年10月26日

中川和之,ぼうさいこくたい 2019 緊急セッション「台風災害緊急情報共有の会」コーディネーター,内閣府ぼうさいこくたい 2019 実行委員会,名古屋コンベンションホール,2019年10月19日

中川和之,ぼうさいこくたい 2019TEAM 防災ジャパン「防災情報を正しく楽しくお伝えするために」コメンテーター,内閣府ぼうさいこくたい 2019 実行委員会,名古屋コンベンションホール,2019年10月19日

中川和之,木更津市職員研修「災害救助法の徹底活用のために 何でも出来る救助法がなぜ使われないか なぜ経験が活かされないのか 2019年4月 防災担当大臣レクから」,木更津市,木更津市役所,2019年9月22日

中川和之,TEAM 防災ジャパンオンラインミーティング in 東京ワークショップ支援総括,内閣府,DMM本社イベントスペース,2019年8月3日

中川和之,時事通信自治体防災セミナー防災・危機管理カンファレンスパネルディスカッション「南海トラフ地震を見据えたこれからの災害対策」コーディネーター,時事通信社,時事通信ホール,2019年7月19日

中川和之,第8回減災連携研究センターシンポジウムパネルディスカッション「減災館5年-平成の災害教訓を振り返り令和の減災社会実現を目指す」コーディネーター,名古屋大学減災連携研究センター,名古屋大学減災館減災ホール,2019年6月14日

中川和之,名古屋大学減災連携研究センター・防災科学技術研究所研究交流会「報道は、自然災害について何を伝えてきて、これから何を伝える役割を持つのか?」、「災害法制度の変遷・救助・救援を中心に」,名古屋大学減災連携研究センター,名古屋大学減災館減災ホール,2019年5月18日

中川和之,JICA アルメニア国クライシス・コミュニケーション及び災害危機管理における啓発向上プロジェクトセミナー「リスクコミュニケーションとクライシスコミュニケーション 日本の経験から」ワークショップコーディネーター,JICA,アルメニア国非常事態省,2019年5月14日

中川和之,横浜・栄防災ボランティアネットワーク総会「2018年の全国の災害と栄区 決して人ごとではありません」,横浜・栄防災ボランティアネットワーク,横浜市栄区役所,2019年4月20日

中川和之,内閣府 防災・減災に関する懇談会「災害救助法の徹底活用のために 何でも出来る救助法がなぜ使われないか なぜ経験が活かされないのか」,内閣府,内閣府合同庁舎,2019年4月5日

中川和之,SIP 防災シンポジウム 2019 パネルディスカッション「SIPが変えるこれからの防災~災害時の Society 5.0 を目指して」パネリスト,内閣府・科学技術振興機構 (JST) ,イイノホール&カンファレンスセンター,2019年3月8日

中川和之,防災科学技術研究所平成30年度成果発表会パネルディスカッション「今さら聞け

ないS I P 4 Dのすべて」・パネリスト「状況認識の共有に必要な情報≠マスコミ報道
うまくいっていることも伝わらない」,防災科学技術研究所,東京国際フォーラム,2019年
2月22日

中川和之,TEAM 防災ジャパン第3回オンラインミーティング in 湘南進行・コーディネー
ター,内閣府,茅ヶ崎市コミュニティーホール,2019年2月2日

中川和之,内外情勢調査会広島中央支部例会「自主防災活動の現状とこれから＝地球温暖化
時代の豪雨災害にどう備えるか」,内外情勢調査会広島中央支部,広島エアポートホテル,
2018年12月4日

中川和之,内外情勢調査会呉支部例会「自主防災活動の現状とこれから＝地球温暖化時代の
豪雨災害にどう備えるか」,内外情勢調査会呉支部,シティプラザ すぎや,2018年12月4
日

中川和之,公益財団法人新聞通信調査会・定例講演会「報道は、自然災害について何を伝え
てきてこれから何を伝える役割を持つのか?」,公益財団法人新聞通信調査会,プレスセン
ター,2018年11月30日

中川和之,土佐清水ジオパーク構想 審査結果報告会「なぜ、私はジオパークをやってきた
のか? みなさんはどうしたいのか?」,土佐清水ジオパーク構想,土佐清水市立中央公民
館,2018年11月10日

中川和之,酒田市 iJAMP セミナー「災害と危機管理＝伝え手の経験から自治体に求められる
こと-「いざ」に備え、(住民を)情報の「受け手」から「つなぎ手」へ-鳥海山・飛島ジ
オパークの運動でボトムアップ!」,酒田市,酒田市役所,2018年11月

中川和之,三陸ジオパーク南部ブロック設立総会「世界が「三陸ジオパーク」に期待してい
ること、やっけて行くべきこと＝「10周年」の後を見据えて」,三陸ジオパーク,釜石シビ
ックホール,2018年10月3日

中川和之,ぼうさいこくたい 2018 日本ジオパークネットワーク主催セッション「大地の恵
みを知り、地元を愛し、怖がらせない防災」進行・コーディネーター,内閣府,東京ビッグ
サイト会議棟,2018年9月14日

中川和之,TEAM 防災ジャパンオンラインミーティング全国大会 in ぼうさいこくたい進
行・コーディネーター,内閣府,そなえりあ食堂,2018年9月13日

中川和之,ぼうさいこくたい 2018 日本地震学会主催セッション「首都直下地震 何が分か
って、何が分からないのか。皆さんの疑問にトコトンお答えします」進行・コーディネ
ーター,内閣府,東京ビッグサイト会議棟,2018年9月13日

中川和之,三陸ジオパーク北部ブロック会議設立総会「世界が「三陸ジオパーク」に期待し
ていること、やっけて行くべきこと＝「10周年」の後を見据えて」,三陸ジオパーク,久慈
市役所会議室,2018年9月5日

中川和之,米国海軍病院船マーシー東京寄港記念シンポジウム「我が国の大規模災害時に
おける災害医療への示唆を得る」コーディネーター,内閣府,ヒルトン東京,2018年6月19

日

中川和之,中国地方整備局広報対応実践セミナー「受け手に合わせてメディアを使い分け＝マスコミも使って上手に情報発信」,中国地方整備局,中国地方整備局中国技術事務所,2018年6月14日

中川和之,中国地方整備局危機管理広報セミナー「災害・危機管理時の情報発信のあり方」ワークショップ,中国地方整備局,中国地方整備局中国技術事務所,2018年5月11日・21日

中川和之,内外情勢調査会広島中央支部、呉支部例会「どうつきあうか 地球温暖化と自然災害」,内外情勢調査会広島中央支部、呉支部,広島エアポートホテル、呉阪急ホテル,2018年3月19日

中川和之,TEAM 防災ジャパン第2回オンラインミーティング進行,内閣府,日比谷公園・水と森の市民カレッジ,2018年2月24日

中川和之,JICA 研修「防災意識の啓発・向上」「マスメディアと防災啓発」,JICA・アジア防災センター,時事通信社会議室,2018年2月5日

楠城一嘉: ビッグデータ解析による地震とリスク評価に関する考察, 関西サイエンス・フォーラム 公開講演会「地震予知研究の現状と将来」～防災先進県静岡に学ぶ～, 大阪大学中之島センター, 2019年11月11日,招待講演.

楠城一嘉: 地震活動度研究の最前線, 日本地震予知学会, 東海大学高輪校舎, 2019年12月25-26日,招待講演.

楠城一嘉: 「地震・地震予知について学ぼう! ～今、『はまとく』の地下で何が起きているのか?～」, 静岡県立浜松特別支援学校(浜松), 2020年1月31日.

楠城一嘉: 静岡の自然の豊かさを学び、防災を学ぶ, 防災スクール in 県大 2019(静岡県立大学防災ボランティアクラブ防' z), 静岡県立大学(静岡), 2019年6月30日.

楠城一嘉: 日本における防災対策や技術の現状と(中国との)協力可能性, 日中植林・植樹国際連帯事業, ホテルイースト 21 東京, 2019年12月9日.

楠城一嘉: 伊豆の自然を知り、地震を学び、防災を考える, 2019年度出前講座 第2期「静岡で知っておきたい地震と火山と防災」, 下田市民文化会館(小ホール), 2020年1月17日.

楠城一嘉: 地震の基礎から、防災対応の最新動向まで 焼津の地下で何が起きているかを学ぶ, 2019年度出前講座 第2期「静岡で知っておきたい地震と火山と防災」, 大井川公民館, 2020年2月6日.

大谷栄治, 「はやぶさ II で探る太陽系と生命誕生の秘密」, 仙台市天文台市民講演会, 仙台市天文台, 仙台市, 2019年1月20日

岡田夏美・矢守克也 2019 防災だより作成授業 四万十町興津中学校 2019/7/17

岡田夏美・原夕紀子・舟橋宗毅・矢守克也 2019 防災学習会コメント 四万十町興津小学校 2019/7/6

岡田夏美・矢守克也 2019 地震についての学習 京都府京丹波町下山小学校 2019/6/18
岡田夏美・矢守克也 2019 地震についての学習 鳥取県日野町根雨小学校 2019/6/11
太田千尋・吉川肇子・矢守克也・和田幸一郎 気象災害とクロスロードのシンカ クロス
ロードのつどい全国大会 横手高校 2019/12/7
大山武人・三日月大造・福島直央・西澤宏文・井上麻子・矢守克也 2020 パネルディス
カッション「県民に真に届く防災情報伝達について」 滋賀県災害広報シンポジウム「水
害から県民を守る情報の伝え方を考える」 滋賀県庁 2019/12/16
大山武人・江藤沙織・菊池真以・豊口佳之・宮本和宏・矢守克也 2019 パネルディスカ
ッション「野洲川の恵みと水災害を想定した安全なまちづくり」 野洲川放水路通水 40
周年記念「いのちを守る自主防災シンポジウム」 守山市民ホール 2019/9/15
佐藤健, 平成 30 年度「地域と共に創る放射線・防災教育推進事業」第 1 回運営協議会, 福
島県教育委員会, 福島市, 2018.4.24
佐藤健, 第 54 回 IRIDeS 金曜フォーラム, 東北大学災害科学国際研究所, 仙台市, 2018.6.22
佐藤健, 平成 30 年度地域福祉活動実践者研修会, 仙台市社会福祉協議会宮城野区事務所,
2018.7.3
佐藤健, 平成 30 年度石巻市学校防災フォーラムパネルディスカッション, 石巻市教育委員
会, 石巻市, 2018.8.10
佐藤健, 平成 30 年度地域と共に創る放射線・防災教育推進事業[地区別研究協議会](県北地
区), 福島県教育委員会県北教育事務所, 伊達市, 2018.8.20
佐藤健, 第 9 回震災対策技術展(東北) パネルディスカッション, 第 9 回震災対策技術展(東
北) 実行委員会, 仙台市, 2018.8.30
佐藤健, 富谷市立成田東小学校東北大学プロジェクト「結」出前授業, 東北大学, 富谷市,
2018.9.13
佐藤健, 内閣府防災スペシャリスト養成研修, 内閣府, 東京都江東区, 2018.9.26
佐藤健, 東松島市立矢本西小学校東北大学プロジェクト「結」出前授業, 東北大学, 東松
島市, 2018.9.27
佐藤健, 日本自然災害学会オープン・フォーラム, 日本自然災害学会, 仙台市, 2018.10.8
佐藤健, 山元町立坂元小学校東北大学プロジェクト「結」出前授業, 東北大学, 宮城県山
元町, 2018.10.17
佐藤健, 平成 30 年度仙台市地域防災リーダー (SBL)養成講習会, 仙台市危機管理室, 仙台
市, 2018.10.20 および 2018.10.24
佐藤健, 学びのまち仙台市民カレッジ市民プロデュース講座, 仙台市生涯学習支援センタ
ー, 仙台市, 2018.10.27
佐藤健, 美里町議会行財政・議会活性化調査特別委員会研修会, 美里町議会, 宮城県美里
町, 2018.11.15
佐藤健, 平成 30 年度未来へつなぐ学校と地域の安全フォーラム, 宮城県教育委員会, 岩沼

市, 2018.11.22

佐藤健, 第一回せんだい市民会議新庁舎を考える「市民と専門家による仙台市役所本庁舎建替えシンポジウム」, 仙台市, 仙台市, 2018.11.26

佐藤健, 学都仙台コンソーシアムサテライトキャンパス公開講座, 学都仙台コンソーシアム, 仙台市, 2018.12.1

佐藤健, 仙台市南光台小学校東北大学プロジェクト「結」出前授業, 東北大学, 仙台市, 2018.12.4

佐藤健, 平成 30 年度女性防災指導員等交流セミナー, 宮城県総務部危機管理課, 仙台市, 2018.12.18

佐藤健, 学都仙台コンソーシアムサテライトキャンパス講座仙台学 2019, 学都仙台コンソーシアム, 仙台市, 2019.2.9

佐藤健, 茨木市立公立小学校教頭会研修会, 茨木市立公立小学校教頭会, 仙台市, 2019.2.13

佐藤健, 内閣府防災スペシャリスト養成研修 (第 2 期), 内閣府, 東京都江東区, 2019.2.14

佐藤健, 第三回仙台ラウンドテーブル 討論「地域コアとなる市役所を育む」, 仙台市, 仙台市, 2019.4.23

佐藤健, 平成 31 年度「地域と共に創る放射線・防災教育推進事業」第 1 回運営協議会, 福島県教育委員会, 福島市, 2019.4.24

佐藤健, 令和元年度「地域と共に創る放射線・防災教育推進事業」第 2 回運営協議会, 福島県教育委員会, 福島市, 2019.5.30

佐藤健, 登米市立佐沼小学校東北大学プロジェクト「結」出前授業, 東北大学, 登米市, 2019.6.3

佐藤健, 仙台市泉区内 SBL 研修会, 仙台市, 仙台市, 2019.6.19

佐藤健, 仙台市立幸町小学校東北大学プロジェクト「結」出前授業, 東北大学, 仙台市, 2019.6.20

佐藤健, 令和元年度女性防災指導員等交流セミナー, 宮城県総務部危機対策課, 仙台市, 2019.7.1

佐藤健, みやぎボイス 2019 討論, みやぎボイス連絡協議会, 仙台市, 2019.7.6

佐藤健, 気仙沼本吉地区婦人防火クラブ連合会「防火のつどい」, 気仙沼本吉地区婦人防火クラブ連合会, 宮城県南三陸町, 2019.7.7

佐藤健, 「The School Challenge」キックオフ講演会, ジュニア・アチーブメント日本, 東京都墨田区, 2019.8.29

佐藤健, 令和元年度学校安全指導者養成研修, 独立行政法人教職員支援機構, つくば市, 2019.9.9

佐藤健, 内閣府防災スペシャリスト養成研修, 内閣府, 東京都江東区, 2019.9.10

佐藤健, 仙台市地域防災リーダー (SBL)新規養成講習会, 仙台市危機管理室, 仙台市, 2019.10.26

佐藤健, 第2回世界防災フォーラム一般公開セッション, 宮城教育大学, 仙台市, 2019.11.10

佐藤健, 防災主任研修会地域別研修会 (仙台教育事務所管内), 宮城県教育委員会仙台教育事務所, 2019.11.27

佐藤健, 令和元年度学都仙台コンソーシアムサテライトキャンパス公開講座, 学都仙台コンソーシアム, 仙台市, 2019.11.30

佐藤健, 令和元年度「地域と共に創る放射線・防災教育推進事業」第3回運営協議会, 福島県教育委員会, 福島市, 2020.1.15

佐藤健, 宮城教育大学附属小学校3年生防災教室, 宮城教育大学附属小学校, 仙台市, 2020.1.17

佐藤健, 公開講座わがまち防災・減災実践講座講演会, 仙台市太白区中央市民センター, 仙台市, 2020.1.18

佐藤健, 令和元年度みやぎ防災ジュニアリーダー養成研修会講義II, 宮城県教育委員会, 多賀城市, 2020.1.25

佐藤健, 第28回全国救急隊員シンポジウム, 救急振興財団, 仙台市, 2020.1.31

佐藤健, 内閣府防災スペシャリスト養成研修(第2期), 内閣府, 東京都江東区, 2020.2.14

菅原大助「地形と地層から読み取る津波の歴史」異ライオンズクラブ, 2018年4月26日.

菅原大助「津波災害の実態と予測: 東日本大震災から南海トラフ巨大地震へ」静岡県地学会(静岡大学), 2018年6月17日.

菅原大助「地震のメカニズムと南海トラフ地震」静岡市北部生涯学習センター, 2018年10月20日.

菅原大助「津波災害の予測と実態: 東日本大震災と南海トラフ巨大地震」富士市医師会学術講演会(富士市医師会), 2018年10月31日.

菅原大助「大井川流域の地形」藤枝市駿河台藤枝市もったいない運動協賛事業森づくり研修会, 2019年2月16日.

菅原大助「地層からわかる過去の大津波～地震災害の低減にむけて～」BiVi キャン公開講座 2019年12月8日(日) 13:30～15:00

竹之内健介・松田哲裕・泉谷依那・矢守克也 2020 総括コメント 川面地区自主防災会学習会(令和元年度第3回) 宝塚市御殿山会館 2020/2/24

竹之内健介・松田哲裕・泉谷依那・矢守克也 2019 総括コメント 川面地区自主防災会学習会(令和元年度第2回) 宝塚市御殿山会館 2019/9/15

竹之内健介・松田哲裕・泉谷依那・矢守克也 2019 総括コメント 川面地区自主防災会学習会(令和元年度第1回) 宝塚市御殿山会館 2019/7/14

竹之内健介・矢守克也 2018 宝塚市川面地区防災ワークショップ(第4回): 地区防災計画をもとに災害対応を考える 宝塚市御殿山会館 2018/11/25

牛山素行,(静岡市)風水害対策説明会,静岡市,静岡市,2018年4月19日.

牛山素行,国土交通大学校 専門課程 水災害予報・水防企画研修,国土交通大学校,小平

市,2018年4月24日.

牛山素行,国土交通大学校 土砂災害防止対策〔警戒避難等〕研修,国土交通大学校,小平市,2018年5月15日.

牛山素行,(鹿児島県)土砂災害防止の集い 2018,鹿児島県市町村社会基盤整備推進協議会・鹿児島県,鹿児島市,2018年5月16日.

牛山素行,とよはし防災リーダー養成講座,豊橋市,豊橋市,2018年6月30日.

牛山素行,北海道防災・危機管理トップセミナー,北海道・一般財団法人消防科学総合センター,山形市,2018年7月13日.

牛山素行,長崎県防災推進員養成講座,長崎県,長崎県対馬市,2018年7月22日.

牛山素行,豪雨災害に関する市町担当者緊急対策会議,静岡県,静岡市,2018年7月30日.

牛山素行,気象庁予報課談話会,気象庁,千代田区,2018年8月3日.

牛山素行,「平成30年7月豪雨」現地調査速報会,日本気象協会,豊島区,2018年8月3日.

牛山素行,(静岡)防災気象講演会,静岡地方气象台,静岡市,2018年8月4日.

牛山素行,静岡大学防災総合センター 現地調査速報会,静岡大学防災総合センター,静岡市,2018年8月9日.

牛山素行,日本気象学会中部支部公開気象講座,日本気象学会中部支部,名古屋市,2018年8月24日.

牛山素行,宮代町防災講演会,埼玉県宮代町,埼玉県宮代町,2018年9月1日.

牛山素行,静岡県ふじのくに防災士養成講座,静岡県,静岡市,2018年9月6日.

牛山素行,防災学術連携体シンポジウム「西日本豪雨災害の緊急報告会」,防災学術連携体,東京都港区,2018年9月10日.

牛山素行,防災スペシャリスト養成研修,内閣府,東京都江東区,2018年9月20日.

牛山素行,静岡県ふじのくに防災士養成講座,静岡県,静岡市,2018年9月23日.

牛山素行,大村市総合防災訓練講演会,長崎県大村市,長崎県大村市,2018年9月29日.

牛山素行,静岡県建設業労働災害防止大会,建設業労働災害防止協会静岡県支部,静岡市,2018年10月12日.

牛山素行,長崎県防災推進員養成講座,長崎県,長崎県雲仙市,2018年10月20日.

牛山素行,石川県消防団長・消防長合同研修会,石川県,金沢市,2018年10月25日.

牛山素行,日本災害情報学会20周年記念大会・日本災害復興学会10周年記念大会合同大会 記念シンポジウム「災害における『検証』とは何か?」,日本災害情報学会,東京都文京区,2018年10月26日.

牛山素行,平成30年度研修「災害発生直後における対応」,全国建設研修センター,東京都小平市,2018年10月31日.

牛山素行,島根県自主防災リーダー研修会,島根県,松江市,2018年11月10日.

牛山素行,消防職員専科教育警防科,静岡県消防学校,静岡市,2018年11月14日.

牛山素行,消防職員幹部教育中級幹部科,静岡県消防学校,静岡市,2018年11月15日.

牛山素行,消防長研修会,全国消防長会近畿支部・東近畿支部,大阪市,2018年11月16日.

牛山素行,福井県防災士養成講座,福井県,福井県南越前町,2018年11月17日.

牛山素行,日本地質学会関東支部シンポジウム「せまりくるジオハザードー関東の自然災害ー」,日本地質学会関東支部,新宿区,2018年11月18日.

牛山素行,(岩手県)災害情報協議会,東北地方整備局岩手河川国道事務所,盛岡市,2018年11月22日.

牛山素行,女性リーダーのためのマネジメント研修,全国市町村国際文化研修所,大津市,2018年11月28日.

牛山素行,福井県防災士養成講座,福井県,福井県小浜市,2018年12月1日.

牛山素行,加盟社社会部長・報道部長会議,共同通信社,港区,2018年12月6日.

牛山素行,仙台市ライフライン防災情報ネットワーク勉強会,仙台市ライフライン防災情報ネットワーク,仙台市,2018年12月18日.

牛山素行,岩手県防災・危機管理トップセミナー,岩手県・消防庁,盛岡市,2019年1月22日.

牛山素行,防災スペシャリスト養成研修,内閣府,東京都江東区,2019年1月24日.

牛山素行,高知市防災講演会,高知市,高知市,2019年1月27日.

牛山素行,陸前高田市防災会議,岩手県陸前高田市,岩手県陸前高田市,2019年2月21日.

牛山素行,周防大島町防災講演会,山口県周防大島町,山口県周防大島町,2019年2月24日.

牛山素行,静岡市大里生涯学習センター講演会,静岡市大里生涯学習センター,静岡市,2019年3月3日.

牛山素行,菊川市防災講演会,菊川市,菊川市,2019年3月3日.

牛山素行,静岡県西部地域局防災講演会,静岡県,浜松市,2019年3月6日.

牛山素行,刈谷市防災講演会,愛知県刈谷市,愛知県刈谷市,2019年3月19日.

牛山素行,地すべり学会関西支部シンポジウム,地すべり学会関西支部,大阪市,2019年4月11日.

牛山素行,国土交通大学校 土砂災害防止対策〔警戒避難等〕研修,国土交通大学校,小平市,2019年5月15日.

牛山素行,国土交通大学校 専門課程 水災害予報・水防企画研修,国土交通大学校,小平市,2019年5月21日.

牛山素行,高岡市防災講演会,高岡市,高岡市,2019年5月29日.

牛山素行,静岡県東部地域大規模氾濫減災協議会,国土交通省沼津河川国道事務所,沼津市,2019年6月4日.

牛山素行,滋賀県土砂災害防止月間講演会,滋賀県,大津市,2019年6月5日.

牛山素行,中国地方防災研究会講演会,中国地方防災研究会,広島市,2019年6月11日.

牛山素行,奈良県防災講演会,奈良県,奈良市,2019年6月15日.

牛山素行,群馬県市町村長トップセミナー,群馬県・一般財団法人消防科学総合センター,前橋市,2019年6月17日.

牛山素行,全国防災・危機管理トップセミナー,内閣府・消防庁,千代田区,2019年7月3日.
牛山素行,とよはし防災リーダー養成講座,豊橋市,豊橋市,2019年7月6日.
牛山素行,高知市防災ひとづくり塾,高知市,高知市,2019年7月11日.
牛山素行,袋井市防災講演会,袋井市,袋井市,2019年7月27日.
牛山素行,下伊那教育会夏季研修講座,下伊那教育会,飯田市,2019年7月29日.
牛山素行,「ポスト「京」重点課題4「観測ビッグデータを活用した気象と地球環境の予測の高度化」第5回シンポジウム」,海洋研究開発機構,台東区,2019年8月8日.
牛山素行,鹿児島県防災啓発研修,鹿児島県・一般財団法人消防科学総合センター,鹿児島市,2019年8月29日.
牛山素行,静岡県ふじのくに防災士養成講座,静岡県,静岡市,2019年9月4日.
牛山素行,防災スペシャリスト養成研修,内閣府,東京都江東区,2019年9月5日.
牛山素行,防災スペシャリスト養成研修,内閣府,東京都江東区,2019年9月6日.
牛山素行,沼津市民大学,沼津市,沼津市,2019年9月7日.
牛山素行,防衛問題セミナー沼津市民大学,北海道防衛局,旭川市,2019年9月19日.
牛山素行,静岡県ふじのくに防災士養成講座,静岡県,静岡市,2019年10月6日.
牛山素行,長崎県防災推進員養成講座,長崎県,長崎県佐世保市,2019年10月26日.
牛山素行,消防職員専科教育警防科,静岡県消防学校,静岡市,2019年10月28日.
牛山素行,令和元年度研修「災害発生直後における対応」,全国建設研修センター,東京都小平市,2019年10月30日.
牛山素行,消防職員幹部教育中級幹部科,静岡県消防学校,静岡市,2019年11月09日.
牛山素行,福井県防災士養成講座,福井県,福井県小浜市,2019年11月10日.
牛山素行,全国市議会議長会 建設運輸委員会,全国市議会議長会,千代田区,2019年11月12日.
牛山素行,富士市防災講演会,静岡県富士市,静岡県富士市,2019年11月16日.
牛山素行,福井県防災士養成講座,福井県,福井県越前市,2019年11月17日.
牛山素行,浜松市東区地域福祉講演会,浜松市東区地域福祉講演会実行委員会,浜松市,2019年11月20日.
牛山素行,長崎県防災推進員養成講座,長崎県,長崎県五島市,2019年11月23日.
牛山素行,静岡県行政職員防災講座,静岡県・静岡大学防災総合センター,静岡市,2019年11月28日.
牛山素行,静岡県行政職員防災講座,静岡県・静岡大学防災総合センター,静岡市,2019年11月29日.
牛山素行,島根県自主防災リーダー研修会,島根県,島根県大田市,2019年12月1日.
牛山素行,気象庁予報課談話会,気象庁,千代田区,2019年12月5日.
牛山素行,福井県防災士養成講座,福井県,福井市,2019年12月8日.
牛山素行,令和元年台風第19号に関する緊急報告会,防災学術連携体,港区,2019年12月24日.

日.

牛山素行,防災スペシャリスト養成研修,内閣府,東京都江東区,2020年1月16日.

牛山素行,防災スペシャリスト養成研修,内閣府,東京都江東区,2020年1月17日.

牛山素行,(岩手県)災害情報協議会,東北地方整備局岩手河川国道事務所,盛岡市,2020年2月10日.

牛山素行,静岡県保険医協会総会,静岡県保険医協会,浜松市,2020年2月11日.

牛山素行,静岡県行政職員防災講座フォローアップ研修,静岡県・静岡大学防災総合センター,静岡市,2020年2月13日.

渡辺俊樹,地震を知る・地震を探る,美郷カレッジ「探(さがす・さぐる)」,秋田県美郷町,2019年9月14日.

山崎 登,平成30年度社会福祉大会,長野県大町市主催,長野県大町市,2019年1月23日.

山崎 登,平成30年度 鬼怒川・小貝川流域の水防活動講演会,鬼怒川・小貝川上下流減災対策協議会主催,茨城県筑西市,2019年2月28日.

山崎 登,水災害防止フォーラム,埼玉県川越市・日本損害保険協会主催,埼玉県川越市,2019年3月9日.

山崎 登,三陸防災復興プロジェクト,岩手県主催,岩手県大船渡市,2019年7月19日.

山崎 登,伊勢湾台風60年シンポジウム 台風と高潮,気象庁主催,東京大手町,2019年9月14日.

山崎 登,仙台枠組みから考える企業の防災,防災教育普及協会主催,東京大学,2019年12月3日.

山崎 登,ザ・防災フォーラム,埼玉新聞社・日本損害保険協会主催,埼玉県大宮市,2020年1月11日.

山崎 登,中国地方防災研究会,国土交通省中部地方整備局主催,広島市,2020年1月27日.

矢守克也 2020 「防災マップ」:これまでとこれから 四万十町立興津小学校令和元年度学習発表会&防災学習会 2020/2/22

矢守克也 2020 地域のつながり、近所の人との助け合い 防災学習会 高知県本山町立吉野小学校 2020/1/29

矢守克也 2020 アクションリサーチの魅力と課題 兵庫教育大学 FD 研究会 兵庫教育大学 2020/1/27

矢守克也 2020 マイ避難カード作成ワークショップ 芦屋市朝日ヶ丘集会所 2020/1/25

矢守克也 2020 主体的に逃げるための実践避難術～「避難スイッチ」「セカンドベスト」～ 京都府議会危機管理・建設交通常任委員会 京都府議会 2020/1/16

矢守克也 2020 講演:平成の災害に学ぶ災害への備え 次世代につなぐ防災&減災フォ

- ーラム ハグミュージアム 2020/1/12
- 矢守克也 2019 社会科学からの話題提供リアルタイム情報を避難に活かす 京都大学防災研究所令和元年度重点課題ワークショップ 京都大学防災研究所連携研究棟 2029/12/25
- 矢守克也 2019 豪雨災害対策を進めるための3つのブリッジ 地区防災計画学会・京都大学矢守研究室共同シンポジウム「台風19号等の教訓と地区防災計画」 キャンパスプラザ京都 2019/12/21
- 矢守克也 2019 総括コメント 社会貢献学会公開シンポジウム「阪神・淡路大震災から四半世紀：災害報道のあり方を再考する」 神戸学院大学 2019/12/14
- Yamori, K., 2019. Educación para la Prevención y Mitigación de Riesgos de Desastres que une la Escuela y la Comunidad: “Milagro de Kamaishi” y los Resultados del Barrio de Okitsu. SATREPS-Mexico プロジェクト普及セミナー Dreams Acapulco Resort & Spa メキシコアカプルコ 2019/11/28
- Yamori, K., 2019. Medidas contra Tsunami en localidades turísticas: Ejemplos de localidades turísticas del Japón. メキシコゲレロ州イスタパ観光協会 2019/11/26
- Yamori, K., 2019. Autoapoyo, Apoyo mutuo, Apoyo público: Fundamento de la Prevención de Desastres en Japón メキシコゲレロ州シワタネホ市役所 2019/11/25
- 矢守克也 2019 パネルディスカッション「地域と民間企業等との協働による津波防災」TKP 市ヶ谷カンファレンスセンター 2019/11/5
- 矢守克也・片田敏孝・窪田亀一・浦田友香・大西勝也 2019 パネルディスカッション 第5回黒潮町地区防災計画シンポジウム 大方高校体育館 2019/11/2
- 矢守克也 2019 住民参加型の災害リスク・コミュニケーションの理論と実践 台湾大学 2019/10/29
- 矢守克也 2019 住民参加型の災害リスク・コミュニケーションの理論と実践 台湾南投県水土保持局 2019/10/28
- 矢守克也 2019 大きな地震。津波に備える小さな一歩 和歌山県すさみ町津波防災講演会 すさみ町総合センター 2019/10/26
- 矢守克也 2019 土砂災害学習まとめ 四万十町立興津小学校 2019/10/10
- 矢守克也 2019 ゲーミング手法を活用した防災・減災ワークショップ人防令和元年度「災害対策専門研修」 人と防災未来センター 2019/10/8
- 矢守克也 2019 防災ゲーム「クロスロード」で「被災」について学ぶ 「ワークショップ現代日本社会2」 同志社大学 2019/10/7
- 矢守克也 2019 黒潮町における地区防災計画について 高知県黒潮町砂浜美術館 2019/10/14
- 矢守克也 2019 地区防災計画づくりの実践 2019/9/18 ひょうご講座「防災・復興（多発する災害からいのちと暮らしを守る）」 兵庫県民会館 2019/9/18

- 矢守克也 2019 いつ、どこへ逃げればよいのか～近年の豪雨災害に学ぶ最新避難術～
野洲川放水路通水 40 周年記念「いのちを守る自主防災シンポジウム」 守山市民ホール
2019/9/15
- 矢守克也 2019 平成の災害に学ぶ災害への備え 京都大学公開講座春秋講義 京都大学
百周年時計台記念館 2019/9/8
- 矢守克也 2019 防災用語の「常識」を疑う 阿武山地震観測所「防災セミナー」 京都
大学防災研究所阿武山地震観測所 2019/9/7
- 矢守克也 2019 防災スイッチに関して 河川財団水防災研修 淀川河川事務所中央流域
センター 2019/8/7
- 矢守克也 2019 ようこそ阿武山地震観測所へ 黒潮町大方高校・中学校京都大学訪問事
業 京都大学防災研究所阿武山地震観測所 2019/8/2
- 矢守克也 2019 「クロスロード」で学ぶ防災・減災のキホン 京都府高等学校家庭科研
究会京都テルサ 2019/8/1
- 矢守克也 2019 かんじんなことは目に見えない：「津波てんでんこ」というソーシャルキ
ャピタル 地区防災計画学会・ソーシャルキャピタル研究会共催シンポジウム「地区防
災計画づくりとコミュニティのソーシャルキャピタル」 日本大学法学部 2019/7/27
- 矢守克也 2019 総括コメント 黒潮町土砂災害対策令和元年度第 2 回ワークショップ
(拳ノ川地区) 黒潮町こぶしの里 2019/7/23
- 矢守克也 2019 総括コメント 黒潮町福祉避難所協議会 黒潮町役場 2019/7/22
- 矢守克也 2019 総括コメント 黒潮町土砂災害対策令和元年度第 2 回ワークショップ
(伊与喜地区) 伊与喜小学校 2019/7/22
- 矢守克也 2019 臨時情報に関するコメント 興津小学校 PTA 協議会 四万十町興津小
学校 2019/7/6
- 矢守克也 2019 南海トラフ地震の「臨時情報」について 高槻市けやきの森市民大学
2019 年春講座 高槻市立生涯学習センター 2019/6/29
- 矢守克也 2019 文理工融合の防災研究の魅力と課題 日本工学アカデミー関西支部第 2
回講演会～自然災害から社会をまもる 京都大学吉田キャンパス 2019/6/25
- 矢守克也 2019 ゲーミング手法を活用した防災・減災ワークショップ 人と防災未来セ
ンター令和元年度春期「災害対策専門研修」 人と防災未来センター 2019/6/19
- 矢守克也 2019 防災と××の連携 黒潮町地区防災計画プロジェクト職員研修会 黒潮
町役場 2019/6/4-5
- 矢守克也 2019 シンポジウム「まちづくりに包含される〈助かる社会〉とは」コーデ
イナー ひょうご震災記念 21 世紀研究機構「地域コミュニティの防災力の向上シンポ
ジウム」 ホテルモントレ姫路 2019/6/3
- 矢守克也 2019 災害社会学 静岡大学「令和元年度ふじのくに防災フェロー養成講座」
静岡大学 2019/6/1

- 矢守克也 2019 近年の災害に学ぶ災害リスク・コミュニケーション 消防防災科学センター「防災啓発中央研修会」日本消防会館（ニッショウホール） 2019/5/30
- 矢守克也 2019 防災教育：3つの視点 日本建築家協会近畿支部セミナー「これからの防災教育：専門家が果たすべき役割とは」 大阪産業創造館 2019/5/25
- 矢守克也 2019 「いつ・どこに」逃げる？ 高知県本山町連合小学校修学旅行防災学習人と防災未来センター 2019/5/22
- 矢守克也 2019 主体的に逃げるための実践避難術～「避難スイッチ」「セカンドベスト」～ 令和元年度「地域住民の防災力の向上～平時からの取組～」講座 全国市町村国際文化研修所 2019/5/21
- 矢守克也 2019 総括コメント 黒潮町土砂災害対策令和元年度第 2 回ワークショップ（拳の川地区） こぶしの里 2019/5/19
- 矢守克也 2019 総括コメント 黒潮町土砂災害対策令和元年度第 2 回ワークショップ（伊与喜地区） 伊与喜小学校 2019/5/18
- Yamori, K. 2019. Development and social implementation of smartphone app “Nige-Tore” for improving tsunami evacuation drill: Synergistic effects between “commitment” and “contingency.” Guest lecture. International Institute for Applied Systems Analysis. 2019/3/20
- 矢守克也 2019 被災から復興へ：私たちは何を学んだか 熊本地震復興再生会議連続シンポジウム第 8 回「熊本地震 3 年：教訓を明日へ」 熊本日日新聞社 2019/3/16
- 矢守克也 2019 シンポジウム「南海トラフ地震地域「防災・減災」シンポジウム 2019ー情報と行動が命を救うー」コーディネーター 徳島グランヴィリオホテル 2019/3/12
- 矢守克也 2019 本当に人の命を守る避難訓練：心理学と防災学の融合 第 14 回 京都大学附置研究所・センターシンポジウム「京都からの挑戦ー地球社会の調和ある共存に向けて」 えんてつホール 2019/3/9
- 矢守克也 2019 主体的に逃げるための実践避難術～「避難スイッチ」「セカンドベスト」～ 京都市平成 31 年消防記念日防災講演会 立命館大学朱雀キャンパス 2019/3/3
- 矢守克也 2019 被災者の語り部グループにおけるアクションリサーチ 東日本・家族応援プロジェクトシンポジウム「被災と復興の証人とこれから」 立命館大学大阪いばらきキャンパス 2019/2/24
- 矢守克也 2019 「逃げトレ」訓練の検証と津波防災について 堺市浜寺津波避難訓練 堺市浜寺中学校 2018/2/24
- 矢守克也 2019 総括コメント 興津小学校防災学習発表会 四万十町興津小学校 2019/2/23
- 矢守克也 2019 災害情報／報道を根本的に考え直すための 7 つの提案 関西地区マスコミ倫理懇談会平成 30 年度第 2 回例会 AP 大阪会議室 2019/2/15
- 矢守克也 2019 災害をめぐる時間について考えてみませんか 兵庫県立大学特別講義

兵庫県立大学神戸防災キャンパス 2019/2/5

矢守克也 2019 総括コメント 川面地区自主防災会学習会 宝塚市御殿山会館
2018/2/3

矢守克也 2019 防災について勉強しよう 四万十町興津小学校 2019/1/30

矢守克也 2019 地域の災害、いつ押す避難スイッチ！ 本山町吉野小学校 2019/1/29

矢守克也 2019 南海トラフ地震：「臨時情報」って何？ 四万十町興津地区防災勉強会
興津小学校 2019/1/28

矢守克也 2019 被災地 OARAI と未災地 KUROSHIO の交流勉強会 黒潮町と大洗町と
研究者 2019/1/28

矢守克也 2019 最近の災害事例に学ぶ防災・減災の知恵 大阪 VMAT (大阪府獣医師会)
学術講習会 大阪 ECO 動物海洋専門学校

矢守克也 2019 趣旨説明 京都大学防災研究所重点課題ワークショップ 京都大学防災
研究所 2019/1/9

矢守克也・竹之内健介 2018 いつ・どこに逃げるのかーFACPモデルとともにー 京
都大学防災研究所西日本豪雨災害調査報告会 京都大学防災研究所 2018/12/20

矢守克也 2018 地域・学校・家庭の連携で進める南海トラフ地震・津波対策 平成30年
度中土佐町PTA連合会講演会 中土佐町交流会館 2018/12/9

矢守克也 2018 地区防災力の向上に向けた地区防災計画づくり ひょうご防災リーダー講
座 人と防災未来センター 2018/12/8

矢守克也 2018 地区防災計画を考えるための3つのキーワードー「避難スイッチ」「セカ
ンドベスト」「空振り改メ素振り」ー 2018年度地区防災計画学会・日本大学危機管理
学部共同シンポジウム「西日本豪雨等の教訓と地域防災力・災害復興活動」 日本大学
三軒茶屋キャンパス 2018/12/1

矢守克也 2018 自前の避難スイッチをもとう！ー2018年西日本豪雨の経験からー 第9
回高知県防災気象講演会 高知県総合あんしんセンター 2018/11/28

矢守克也 2018 「逃げトレ」とは 大阪府中央区避難訓練 大阪府津波高潮ステーショ
ン・大阪西御堂 2018/11/20

矢守克也 2018 南海トラフ地震：「事前情報」って何？ 京都大学阿武山観測所サポータ
ー学習会 京都大学阿武山地震観測所 2018/11/12

矢守克也 2018 興津地区で災害に備えるために 四万十町興津小学校 2018/11/8

矢守克也 2018 南海トラフ地震：「事前情報」って何？ 四万十町興津地区ぐるみの会例
会 四万十町興津小学校 2018/11/7

矢守克也 2018 本当に人の命を守る避難訓練を 内閣府「津波防災の日スペシャルイベ
ント」川崎市商工会議所 2018/11/5

矢守克也 2018 「地域における津波防災の取組みと地区防災計画の役割」コーディネ
ーター 内閣府「津波防災の日スペシャルイベント」 川崎市商工会議所 2018/11/5

矢守克也 2018 「地域・企業・学校におけるこれからの津波防災」コーディネーター 内閣府「津波防災の日スペシャルイベント」 川崎市商工会議所 2018/11/5

矢守克也 2018 パネルディスカッション「地区防災計画の『これまで』と『これから』について」コーディネーター 第4回黒潮町地区防災計画シンポジウム 黒潮町総合センター 2019/11/3

矢守克也 2018 避難スイッチ 黒潮町蛸瀬川流域地区土砂災害防災ワークショップ（第3回） 集落センターかきせ 2018/11/2

矢守克也 2018 災害が「おきるまで」～最近の災害事例に学ぶ防災対策～ 第3回上郡町協議体会議 上郡町役場 2018/10/25

矢守克也 2018 ワークショップ：災害が「おきてから」～防災ゲーム「クロスロード」で学ぶ避難所について 第3回上郡町協議体会議 上郡町役場 2018/10/25

矢守克也・竹之内健介 2018 「クロスロード」で学ぶ防災 岐阜県高山市栴尾小学校 2018/10/22

矢守克也 2018 ゲーミング手法を活用した防災・減災ワークショップ 人と防災未来センター平成30年度秋期「災害対策専門研修」 人と防災未来センター 2017/10/10

竹之内健介・矢守克也 2018 宝塚市川面地区防災ワークショップ（第3回）：川面地区地域気象情報の確認 宝塚市御殿山会館 2018/9/24

矢守克也 2018 命を救うための「よびかけ」 毎日放送講演会 MBS 毎日放送 2018/9/21

矢守克也 2018 気象水文リスク情報の社会適用に向けた取り組み 気象水文リスク情報（日本気象協会）研究分野最終報告会 京都大学防災研究所 2018/9/6

矢守克也 2018 本当に人の命を守る避難訓練を作りたいー心理学と防災学の融合ー 東進予備校2018年度大学学部研究会 TKP ガーデンシティ品川 2018/8/10

矢守克也 2018 近年の豪雨の特徴と住民避難について 京都府防災・危機管理トップセミナー～平成30年度京都府市町村長防災危機管理ラボ～ 京都ブライトンホテル 2018/8/3

矢守克也 2018 最近の災害から：2018年7月西日本豪雨 黒潮町蛸瀬川流域地区土砂災害防災ワークショップ（第2回） 集落センターかきせ 2018/8/1

矢守克也 2018 宝塚市川面地区防災ワークショップ（第2回）：川面地区防災スイッチさがし 宝塚市御殿山会館 2018/7/29

矢守克也 2018 災害避難事例を分析するためのFACPモデルの提案：京都府京丹波町上乙見地区の避難事例を通して 2018年度第1回地区防災シンポジウム 九州大学大橋キャンパス 2019/7/28

矢守克也 2018 四川大地震を通して災害復興について考える：十年前、自分は何を話したか 日本災害復興学会設立10周年記念企画「復興とは何かを考える連続ワークショップ」 関西大学社会安全学部 2018/7/21

- 矢守克也 2018 巨大災害に備えるために：熊本地震での被災経験を踏まえた新しい防災訓練 香川県県民防災週間 2018 シンポジウム サンポートホール高松 2018/7/19
- 矢守克也 2018 正解がない教材「クロスロード」で防災を学ぶ NHK 大学セミナー 大阪教育大学 2018/7/18
- 矢守克也 2018 黒潮町の言葉を通して防災とまちづくりについて考える 第 12 回歴史都市防災シンポジウム 立命館大学衣笠キャンパス 2018/7/14
- 矢守克也 2018 コメント 黒潮町蛸瀬川流域地区土砂災害防災ワークショップ（第 1 回）集落センターかきせ 2018/6/16
- 矢守克也 2018 地震防災について考えよう 京丹波町下山小学校 2018/6/13
- 矢守克也 2018 防災教育に対する期待と課題：主体性の育成と長期的な評価 日本教師教育学会公開研究会 武蔵大学 2018/6/10
- 矢守克也 2018 第 6 回しずおか防災コンソーシアム勉強会「災害リスクコミュニケーションの秘訣」 静岡県地震防災センター 2018/6/6
- 矢守克也 2018 「他人事」から「自分事」へ：家庭・地域・企業で進める防災対策 小田原市市民交流センター 2018/6/6
- 矢守克也 2018 地震リスク情報／気象災害情報について学ぶ 高槻市けやきの森市民大学 2018 年春講座 高槻市立生涯学習センター 2018/6/2
- 矢守克也 2018 助かる教育／助ける教育 福岡県教育庁学校安全に関する研修会 筑後市サザンクス筑後 2018/5/31
- 矢守克也 2018 「防災家族会議」をしよう 高知県本山町連合小学校修学旅行防災学習人と防災未来センター 2018/5/30
- 矢守克也 2018 黒潮町の地区防災計画活動－「これまで」と「これから」－ 平成 30 年度 黒潮町防災地域担当職員研修実施要領 黒潮町役場および佐賀庁舎 2018/5/28-29
- 矢守克也 2018 総括コメント 被災地 OARAI と未災地 KUROSHIO の交流勉強会－海と防災がつなぐ大洗町と黒潮町－ 大洗文化センター 2018/5/26-27
- 矢守克也 2018 地域における防災体制の構築に向けて～災害のリスク・コミュニケーション戦略～ 全国市町村国際文化研修所「地域住民の防災力向上～平時からの取り組み～」研修会 全国市町村国際文化研修所会 2018/5/23
- 矢守克也 2018 災害社会学 静岡大学「平成 30 年度ふじのくに防災フェロー養成講座」静岡大学 2018.4.28
- 矢守克也 2018 こんな防災教育をめざしたい－四万十町興津小学校・中学校－ 興津小中学校教職員防災学習会 高知県四万十町立興津小学校 2018/4/26
- 矢守克也 2018 自助・共助を盛り上げる公助とは 大阪府危機管理講演会 大阪府庁 2018/4/24
- 矢守克也 2018 基調講演：『地区防災計画』の意義と策定のポイント ぎふ・げんさい楽座岐阜大学サテライトキャンパス 2018/4/23

矢守克也 2018 オープニング・趣旨説明 クロスロードのつどい熊本 2018 幕明け：「熊本地震から 2 年、ジレンマのカタチ」 熊本市市民活動支援センター「あいぽーと」
2018/4/21

矢守克也 2018 高校生に期待する防災・減災の取り組み 宮城県立多賀城高等学校大講義室落成記念講演 多賀城高校 2018/4/18

吉田明夫, 経験に学びつつ、経験を過信しない, 水蒸気噴火のメカニズムと予知に関する研究集会 神奈川温泉地学研究所, 2019.

5.2 マスメディア・新聞等への掲載

千木良雅弘,朝日新聞 2018年9月13日 北海道胆振東部地震に関連して

千木良雅弘,読売新聞 2019年11月16日 台風19号による丸森の土砂崩れ

藤井基貴,毎日新聞朝刊25面,静岡大・研究室が優秀賞 ぼうさい甲子園 授業や教材開発、普及 (2019年12月5日)

藤井基貴,静岡新聞朝刊30面,サクラエビ異変 不漁と環境授業 高評価 国際学会で発表 (2019年12月4日)

藤井基貴, 静岡新聞朝刊23面,清水八中で防災道徳授業 事前調査の大切さ認識 (2019年11月27日)

藤井基貴,静岡朝日テレビ,サクラエビでSDGs (2019年6月5日)

藤井基貴,静岡新聞社,防災道徳を普及へ (2019年6月1日)

藤井基貴,静岡新聞社,世界の哲学者 静岡に集結 (2019年5月29日)

藤井基貴,静岡新聞社,「持続社会」へ不漁問題学ぶ (2019年5月25日)

藤井基貴,朝日新聞社,研究は駅伝 (2019年1月27日)

藤井基貴,毎日新聞朝刊24面,今年度「ぼうさい甲子園」 静岡大・藤井研究室が優秀賞 (2018年12月5日)

藤井基貴,静岡新聞朝刊22面,この人：アスリートの倫理教育に取り組む (2018年10月27日)

藤井基貴,静岡新聞朝刊8面,考える防災 英語で実践 学びの相乗効果を狙う (2018年10月21日)

藤井基貴,静岡新聞朝刊20面,「アスリート道徳」 静大生企画し講座 (2018年10月20日)

藤井基貴,静岡新聞朝刊11面,「道徳」教科化指導力向上へ 思考力育む教材 工夫を (2018年6月1日)

藤井基貴,静岡新聞朝刊22面,「良い」選手 何が必要? 児童へアスリート道徳授業 (2018年5月24日)

秦康範, NHK ニュース 9, 富士山大規模噴火の降灰の社会的影響, 2020.3.31

秦康範, FM FUJI human terminal, 2020.3.23~3.28

秦康範, 山梨日日新聞, 避難訓練予告せず実施, 2020.3.11

秦康範, 山梨日日新聞, 防災教育と地域連携, 2020.3.1
秦康範, 公明新聞, 水害リスク説明義務化へ, 2020.2.14
秦康範, 山梨日日新聞, 災害時の民間の協力体制, 2020.2.11
秦康範, テレビ山梨ニュースの星, 災害時の民間の協力体制, 2020..2.10
秦康範, NHK ニュース 7, 多摩川浸水域で人口増加, 2019.12.22
秦康範, TBS あさチャン!, 抜き打ち避難訓練, 2019.12.20
秦康範, TBS はやドキ!, 抜き打ち避難訓練, 2019.12.20
秦康範, グッとラック!, 机の下に潜るより校舎から離れる, 2019.12.17
秦康範, NHK NEWS WEB, 多摩川沿い なぜ“浸水エリア”に新築が, 2019.12.3
秦康範, 山梨日日新聞, 日常を非常時に活用, 2019.11.27
秦康範, 日本経済新聞, 迫る危険新技術生かせ, 2019.11.26
秦康範, 朝日新聞 (神奈川県), 19号 記録的台風の爪痕, 2019.11.12
秦康範, 週刊朝日, 大水害に今から備えよ, 2019.11.12
秦康範, NHK ニュースかいどき, 全国初 火山防災の専門職採用へ, 2019.11.7
秦康範, NHK ニュースおはよう日本, 全国初 火山防災の専門職採用へ, 2019.11.7
秦康範, テレビ山梨ニュースの星, 台風19号の教訓, 2019.11.5
秦康範, NHK WEB 特集, 予測困難な噴火 火山情報のジレンマ, 2019.10.28
秦康範, 山梨日日新聞, 足和田災害, 2019.10.25
秦康範, 山梨放送ワイドニュース, 千曲川視察の専門家, 2019.10.16
秦康範, 山梨日日新聞, 住民が避難所運営, 2019.10.3
秦康範, テレビ山梨ニュースの星, 富士山で開発 火山防災システム, 2019.9.30
秦康範, NHK ニュース 7, 避難促進施設の指定進まず, 2019.9.26
秦康範, 山梨日日新聞, 御嶽に学ぶ意識と備え, 2019.9.19
秦康範, 週間朝日, 浸水想定区域の人口, 2019.9.10
秦康範, 毎日新聞, 宅地購入時 浸水リスク周知を求める動き, 2019.7.2
秦康範, 朝日新聞・名古屋, 浸水の街 増える住民, 2019.6.21
秦康範, 山梨日日新聞, 避難訓練 自ら判断する力を, 2019.3.12
秦康範, 朝日新聞・山梨県, フェーズフリー紹介本寄贈, 2019.2.1
秦康範, 東京新聞, みんなで用心, 火災被害ゼロ, 2019.1.29
秦康範, NHK 甲府 ニュースかいどき, 浸水想定区域 居住世帯増加, 2019.1.10
秦康範, 公明新聞, 高い水害リスクにどう備える, 2019.1.5
秦康範, 共同通信・他 34紙, 浸水想定区域での人口増, 2018.12.28
秦康範, 山梨日日新聞, 浸水想定区域に 25万6000人, 2018.11.17
秦康範, NHK ニュース 7, 御嶽山の教訓, 2018.9.27
原田賢治, まちトピ 伊豆 液状化など親子防災講座, 静岡新聞 朝刊, 2019.11.14.
原田賢治, 静岡・海岸 学生 3人死亡1年 独特の地形 引き浪強く 水難学会調査「最

も危険」指摘，静岡新聞 朝刊 社会，2019.9.11.

原田賢治，静岡大・読売講座 詳報（1）自然災害と防災対策 津波 自ら命守る行動を，読売新聞東京朝刊静岡 3web，2019.7.20.

原田賢治，静岡大読売講座 津波被害「避難行動で軽減を」，読売新聞東京朝刊 P24web，2019.7.7.

原田賢治，静岡大・読売講座「令和」最先端の研究紹介 石井学長 防災やスポーツ多分野で，読売新聞 東京朝刊 P30 静岡2 web，2019.6.11.

原田賢治，「土肥地区シンボルに」 伊豆市防災考える会—松原公園複合施設，伊豆新聞 web，2019.5.31.

原田賢治，観光防災まちづくり推進計画 伊豆市協議会 見直し案答申，静岡新聞 朝刊 P19 東部版 web，2019.3.26.

原田賢治，伊豆市「位置情報発信器で検証 より速やかな津波避難を」，NHK総合たっぷり静岡，2019.3.7.

原田賢治，津波避難データ収集 IT 活用し夜間訓練—伊豆・大藪地区，伊豆新聞 web，2019.3.8.

原田賢治，伊豆市まちづくり計画、土肥一貫校で市が考える会—生徒が意見交換，伊豆新聞 Web，2018.12.5.

原田賢治，小土肥対象に防災考える会、地区の計画まとめる 伊豆，伊豆新聞 Web，2018.9.22.

原田賢治，高校生と防災課題分析 静大生がワークショップ，静岡新聞 朝刊 P18 県内総合，2018.9.3.

原田賢治，防災計画策定目指す 観光と両立 まちづくり推進 伊豆・土肥市民集会，静岡新聞 朝刊 P20 東部版 web，2018.7.3.

本間基寛，日本農業共済新聞，ズバリ直言，2020年2月26日

池田恵子，徳島新聞，「防災担当職員 県内16市町村 女性ゼロ」，2020年3月8日

池田恵子，徳島新聞ウェブ版，「地域防災・避難所運営「平時から男女格差縮める必要」静岡大教育学部教授・防災総合センター教員、池田恵子さんに聞く」，2020年3月8日

池田恵子，NHK 総合，「＜証言記録・東日本大震災＞埋もれた声・25年の真実～災害時の性暴力～」，2020年3月1日

池田恵子，NHK，クローズアップ現代+web，【性暴力を考える vol.58】見過ごされてきた災害時の性被害，2020年2月28日

池田恵子，朝日新聞（広島朝刊），「防災の課題 女性の視点を 避難所の仕切り・訓練参加するには」 2020年2月12日

池田恵子，中日新聞（夕刊），「25年間の課題議論 13日神戸でシンポ」，2020年1月10日

池田恵子，朝日新聞（神戸朝刊）「阪神大震災25年 女性視点 災害支援考える 13日 神

戸でシンポ」, 2020年1月9日

池田恵子, 朝日新聞(朝刊, 千葉全県)「母親ら作った防災カルタ 小学生の文章も採用 流山のグループ」, 2020年1月8日

池田恵子, 東京新聞(TOKYO Web), 「防災知識 遊んで学ぼう 流山の子育てママら、カルタ発売」, 2019年11月27日

池田恵子, 朝日新聞(朝刊, 長野全県・2地方), 「避難所生活 負担を軽く 多様なニーズ 吸い上げ大切」, 2019年10月24日

池田恵子, 朝日新聞(夕刊), 「台風19号 避難所ストレス ため込まないで 多様なニーズに配慮を」, 2019年10月21日

池田恵子, 中日新聞(CHUNICHI Web), 「長野市、浸水被害約5000世帯 台風19号」, 2019年10月18日

池田恵子, 中日新聞(夕刊), 「避難所 女性に配慮を 授乳や着替え 対応に差」, 2019年10月18日

池田恵子, 佐賀新聞, 「女性視点で避難所運営を 静岡大教授・池田氏が講演」, 2019年10月17日

池田恵子, 中日新聞, 「中部9県の防災部署 女性幹部1/60人 要望反映難しく」, 2019年6月21日

池田恵子, OASIS オアシス 58号(港区男女共同参画センター リーブラ), 「災害時に女性と子どもの安全を守るために」, 2018年9月30日

池田恵子, 中日新聞(朝刊), 「避難所に女性の視点を 静大教授が防災講座」, 2018年6月24日

井ノ口 宗成, 「来月、3大学研究チーム 燕で全国初の防災訓練」, 新潟日報(朝刊), 2018.6.22.

井ノ口 宗成, 「ドローン、SNS、AI 駆使 被災状況把握 最速目指す 富大など共同訓練」, 富山新聞(朝刊), 2018.6.23.

井ノ口 宗成, 「被災状況把握に AI 活用 富大など 救助作業の効率化期待」, 読売新聞(朝刊), 2018.6.27.

井ノ口 宗成, 「浸水住宅で避難生活、必要な支援策・課題は」, NHK 岡山, もぎたて!, 2018.7.30.

井ノ口 宗成, 「地震、防災を学ぶ 富山でフォーラム」, 富山新聞(朝刊), 2018.10.23.

井ノ口 宗成, 「津波避難指示も避難所開かれず」, NHK 新潟, 新潟ニュース 610, 2019.6.19.

井ノ口 宗成, 「“り災証明書” 発行始まる」, NHK 新潟, 新潟ニュース 610, 2019.6.26.

井ノ口 宗成, 「AI 活用 した世界初の防災訓練」, NHK 愛媛, 2019.7.30.

井ノ口 宗成, 「AI と世界600人が浸水有無を判断」, 愛媛新聞(朝刊), 2019.10.9.

井ノ口 宗成, 「国際サイバー防災訓練」, 愛媛朝日テレビ, スーパーJ チャンネルえひめ, 2019.10.10.

井ノ口 宗成, 「5G時代の富山」, 北日本放送, 金曜ジャーナル, 2020.1.10.

井ノ口 宗成, 「阪神大震災きょう 25年 「自助」 やれることから」, 北日本新聞 (朝刊), 2020.1.17.

井ノ口 宗成, 「避難か 災害受け入れるか 戦略的に情報活用を」, 毎日新聞 (朝刊), 2020.1.26.

岩松 暉, 南日本放送, 肝属川大水害 80周年, 2018年11月

岩松 暉, NHK, 大規模宅地造成地の問題点, 2019年4月

岩田孝仁, 静岡新聞 (朝刊) P28, [時評]地震への関心低下 足元の「東海」意識を, 2018/4/12

岩田孝仁, 朝日新聞 (朝刊) P26, 南海トラフ 避難基準検討へ 県専門部会が第1回会合, 2018/4/12

岩田孝仁, 静岡新聞 (朝刊) P29, 中央防災会議作業部会 「防災対応に多様性を」 川勝知事ら地域の実情反映提案 内閣府法令・制度整備検討へ, 2018/4/13

岩田孝仁, 中日新聞 (朝刊) P15, 災害死ゼロは可能か? 津波シェルター全国で開発進む, 2018/4/16

岩田孝仁, 静岡新聞 (夕刊) P3, 住民自ら地区防災計画 県活動推進委 作成促す 地形、人口…特性、リスク 共有図る, 2018/5/21

岩田孝仁, 新橋経済新聞, 新橋の飲食店に防災豆知識が書かれた「みまもりレシート」導入 / 東京, 2018/5/22

岩田孝仁, 静岡新聞 (朝刊) P18, 「測量の日」記念講演会 来月6日、駿河区, 2018/5/29

岩田孝仁, 静岡新聞 (朝刊) P26, [時評] 自主防災マップの勧め 行政の一押しが重要, 2018/5/31

岩田孝仁, 静岡新聞 (朝刊) P27, 本社・河北新報社「むすび塾」津波の恐怖“自分事に” 住民ら避難訓練や意見交換, 2018/6/4

岩田孝仁, 河北新報 (朝刊) P1, いのちと地域を守る 静岡新聞社と共催 駿河区で「むすび塾」 南海トラフ備え確認, 2018/6/4

岩田孝仁, 静岡新聞 (朝刊) P3, 南海トラフ長期推計 経済に壊滅的打撃 総合的な対策課題に, 2018/6/8

岩田孝仁, 中日新聞 (朝刊) P2, 核心 政府想定上回る打撃 南海トラフ被害1410兆円 インフラ耐震で3割低減, 2018/6/8

岩田孝仁, 河北新報, むすび塾 第78回静岡新聞社と共催 @静岡・駿河区 南海トラフ想定し訓練 都市型津波備えを確認, 2018/6/10

岩田孝仁, 河北新報, いのちと地域を守る 地域に即した避難議論 小さな実践大きな動きに, 2018/6/10

岩田孝仁, 静岡新聞 (朝刊) P10, 本社・河北新報社「むすび塾」 静岡・広野地区で津波避難訓練 地域防災 見えた課題, 2018/6/12

岩田孝仁, 静岡新聞 (朝刊) P30, 予測と防災 南海トラフ巨大地震 県専門部会 脆弱性判

断へ具体案 既存の警戒区域で評価,2018/6/16

岩田孝仁,朝日新聞(朝刊) P33,南海トラフ県専門部会 事前避難の条件具体的事例示す,2018/6/16

岩田孝仁,朝日新聞(朝刊) P33,南海トラフ県専門部会 事前避難の条件具体的事例示す,2018/6/16

岩田孝仁,毎日新聞(朝刊) P23,防災会議 南海トラフ地震で警戒情報出ても 県「平時の生活を継続」,2018/6/16

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P26,構造物耐震 緊急調査へ 県教委と静岡、浜松市教委,2018/6/19

岩田孝仁,中日新聞(朝刊) P28,大阪北部地震 思い出の塀 凶器に 「阪神」頭よぎる 県内、未知の活断層も,2018/6/19

岩田孝仁,産経新聞,【備える】南海トラフ情報県民アンケート 避難期間「1週間以内」7割 「知らない」3割、周知に課題,2018/6/20

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P31,老朽ブロック塀 散見 学校「不適格」を放置 県・市長教委 緊急点検,2018/6/30

岩田孝仁,読売新聞(朝刊) P20,静岡大・読売講座 防災対策 想像力が鍵 岩田教授「想定外」なくすために,2018/7/1

岩田孝仁,日本経済新聞(沖縄朝刊) P54,福岡市「紙一重」だった 6日、中心街の川反乱寸前 排水対策進む/斜面崩壊など課題,2018/7/11

岩田孝仁,日本経済新聞(西部朝刊) P17,福岡市「紙一重」だった 6日、中心街の川反乱寸前 排水対策進む/斜面崩壊など課題,2018/7/11

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P27,西日本豪雨 本社被災地ルポ上 泥まみれの街 傷跡深く,2018/7/13

岩田孝仁,読売新聞(朝刊) P25,静岡大・読売講座 詳報① 減災から防災社会へ～想像力の欠如に陥らない防災を～災害 具体的にイメージ,2018/7/28

岩田孝仁,読売新聞(大阪夕刊) P8,個人からの物資 無料フリマで 善意「お断り」せず生かしたい,2018/7/28

岩田孝仁,毎日新聞(朝刊) P31,検証 西日本豪雨①特別警報 伝わらぬ切迫感,2018/7/31

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P27,インタビュー平成と私 都市化の陰で脆弱化も,2018/7/31

岩田孝仁,毎日新聞(大阪朝刊) P1,検証 西日本豪雨① 届かなかった切迫感, 2018/7/31

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P30,[時評] 危機感共有し早期避難へ 首長自ら呼び掛けを,2018/8/1

岩田孝仁,中日新聞(朝刊) P1,学校にエアコン 進まず 県内の公立小中 設置率12% 厳しい財政「耐震化優先」自治体も,2018/8/1

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P20,防災社会へ教育が重要 静岡大岩田教授 焼津署員らに訴え,2018/8/2

岩田孝仁,読売新聞(大阪朝刊) P26,西日本豪雨 善意の物資「自由に取って」 総社市 個人支援受け入れ,2018/8/2

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P27,予測と防災 南海トラフ巨大地震 防災対応案「大きな前進」,2018/8/7

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P22,水害対策考える 狩野川台風 60年でシンボ,2018/8/24

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P20,県 LP ガス協会 3支部合同講習 清水区,2018/8/29

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P20,高校生防災特集 見えたきた 10代の防災 地域防災での活躍に期待,2018/8/31

岩田孝仁,河北新報, 防災の心得レシートに、重要性を手元から発信 宮城・女川36店舗がプロジェクト,2018/9/3

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P1,未明の発生へ備えを,2018/9/7

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P31,未明の激震 本社北海道現地ルポ《上》 暗い歓楽街 停電余波 懐中電灯、バッテリー品薄,2018/9/11

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P29,平成30年防災功労者・防災担当大臣表彰,2018/9/12

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P28,岩田氏(静岡大防災総合センター長)ら大臣表,2018/9/14

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P28,[時評] ライフライン全面ダウン回避へ 防災の冗長性 徹底を,2018/9/27

岩田孝仁,中日新聞(朝刊) P31,浜松市教委 停電対応策なし 「休校、LINEで知った」保護者らルール化望む,2018/10/5

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P29,電線地中化 必要性浮き彫り,2018/10/7

岩田孝仁,産経新聞, 7日間の浜松大停電、複合要因で発生, 2018/10/11

岩田孝仁,毎日新聞(朝刊) P20,西伊豆町防災講演会「南海トラフ巨大地震から命を守るために」,2018/10/12

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P21,危機管理意識持って 西伊豆 防災専門家3氏が講演,2018/10/15

岩田孝仁,中日新聞(朝刊) P15,生きるために一南海トラフ地震 第6回 四日市の石油化学工場 コンビナート公開が鍵 情報共有の仕組みを,2018/10/3

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P31,予測と防災 南海トラフ巨大地震 南海トラフ 異常現象に迅速対応 中央防災会議作業部会 骨子案議論大詰め,2018/11/14

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P27,放射線技師ら災害対策学ぶ 静岡で研修会,2018/11/25

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P29,[時評] 突発地震対策 地域ぐるみで徹底を,2018/11/28

岩田孝仁,静岡新聞(夕刊) P1,地震に関心でも対策遅れ 備蓄・訓練「未実施」「検討中」が半数超 県の企業アンケート,2018/11/30

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P21,地域防災力向上シンポジウム in 静岡 2019,2018/12/6

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P31,予測と防災 南海トラフ巨大地震 事前対応「住民主体で」参画意識醸成 重要に 南海トラフ報告書,2018/12/12

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P24,ボランティアと行政の連携学ぶ 静岡で防災研修会,2018/12/15

岩田孝仁,読売新聞(朝刊) P11,自治体災害対策全国会議 巨大災害 先手で備え 即応へ常に情報共有,2018/12/17

岩田孝仁,しずおか保険医新聞 第419号,新春鼎談「静岡県の防災対策をめぐって」,2019/1/1

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P29,プレート境界へ 静岡発ちきゅうの挑戦 4 海洋研究 高まる関心 ”母港”の誇り、醸成必須,2019/1/5

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P28,静岡新聞社・静岡放送 新春祝賀会 「次への発展つなげる年に」 県内各界から300人,2019/1/5

岩田孝仁,朝日新聞(朝刊) P21,それぞれの平成期④ 巨大地震 防災先駆け啓発 「予知できぬ」災害へ 被害想定新た,2019/1/6

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P31,阪神大震災教訓に本県が推進 防災士 専門視点で力にあす発生24年 市町との連携課題,2019/1/16

岩田孝仁,読売新聞(西部朝刊) P26,首長、災害時の対応学ぶ 「減災から防災社会へ」のテーマで登壇,2019/1/30

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P24,予測と防災 南海トラフ巨大地震 想像力働かせ減災 静岡でシンポ 東日本の事例学ぶ,2019/2/4

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P1,大自在 想像力の欠如,2019/2/5

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P24,[時評] 大震災の教訓生かす 具体的な対策 実行,2019/2/7

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P18,伊東 市議と職員 災害時の役割学ぶ,2019/2/17

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P30,遠州灘 1000年周期で大津波か 伊良湖岬 6000年に6度 東日本大震災級,2019/2/26

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P26,地域防災力向上シンポジウム in 静岡 2019 巨大地震に備え地域防災力の向上を,2019/3/2

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P16,災害時の輸送路を確保,2019/3/10

岩田孝仁,毎日新聞(朝刊) P22,こだわり街歩き 静大がガイド本,2019/3/13

岩田孝仁,山梨日日新聞 P4,災害時の輸送路を確保,2019/3/10

岩田孝仁,中日新聞(朝刊) P29,被災後計画 作成9% 県、1万社調査 小規模では4%,2019/3/14

岩田孝仁,中日新聞(朝刊) P13,専門的視点で静岡紹介 静岡大教授ら「ガイド本」完成,2019/3/15

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P21,静岡の楽しみ方紹介 静大教授 新著記念しシンポ,2019/3/18

岩田孝仁,朝日新聞(朝刊) P29,まち歩き 研究者目線で提案 静大教授ら ガイド本出版でシンポ,2019/3/18

岩田孝仁,中日新聞(朝刊) P32,減災から防災 想像力を 第432回中日懇話会,2019/3/23

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P31,予測と防災 南海トラフ対応 検討項目や措置例明示 国指針 具体計画作成促す,2019/3/30

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P26,[時評] 中小企業の耐震遅れ 公的支援の強化必要,2019/4/10

岩田孝仁,読売新聞(東京朝刊) P29,多機能防災アプリ配信 避難所表示・訓練に活用 他県住民へ周知苦戦,2019/6/4

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P28,[時評] 先人が築いた治水遺産 防災機能、再確認を,2019/6/13

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P24,県自治会連が功労者を表彰 静岡,2019/6/22

岩田孝仁,静岡新聞(夕刊) P2,予測と防災 南海トラフ巨大地震 要配慮者の避難地域設定 ガイドライン作成で県方針,2019/7/10

岩田孝仁,中日新聞(朝刊) P14,湖西をモデル地域設定 伊豆、河津町も「臨時情報」事前避難で,2019/7/11

岩田孝仁,朝日新聞(朝刊) P27,南海トラフ地震 避難指針策定へ 県防災会議専門部会,2019/7/11

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P20,清流 自然災害への想像力,2019/7/12

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P29,「火山防災、磨いて」 伊東沖の噴火 30年 記憶継承へ シンポ,2019/7/20

岩田孝仁,朝日新聞(朝刊) P25,伊東沖海底噴火 30年でシンポ 防災の重要性指摘 現地調査の研究者ら,2019/7/25

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P25,[時評] 防災ナッジの勧め 被害軽減へ行動促す,2019/8/14

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P30,検証重ね、役立つ手法に,2019/9/8

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P33,道の駅 県内BCPゼロ 「防災拠点」再評価、設備あれど… 地域連携など ソフト面遅れ,2019/9/19

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P29,「道の駅」防災強化本腰 BCPや地域連携 ソフト面遅れ 専門家「関係者集い議論を」,2019/9/22

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P22,三遠南信の災害ボランティア 6市団体が活動報告 中区で学習会,2019/9/22

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P23,防災の原点「被害ゼロ」へ 岩田静岡大教授 御前崎で講演 想像力欠如にも警鐘,2019/9/29

岩田孝仁,中日新聞(朝刊) P20,被災時の生活再建考える,2019/9/29

岩田孝仁,中日新聞(朝刊) P1,浜松大停電 1年 災害への備え 「怠らないで」 専門家指摘,2019/10/1

岩田孝仁,読売新聞(東京朝刊) P3, [スキャナー] 千葉台風 15号被害 停電長期化 教訓生かす 情報発信、作業態勢…政府検証へ,2019/10/4

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P32,[時評] 命に直結 ライフライン途絶 1週間以上の備え

を,2019/10/10

岩田孝仁,静岡新聞（朝刊）P21,豪雨時 行動考える 三ケ日で水防災講座,2019/10/17

岩田孝仁,静岡新聞（朝刊）P3,会計検査院 18 年度報告 災害対策 不備相次ぐ 「将来見据え予算執行を」,2019/11/9

岩田孝仁,中日新聞（朝刊）P31,台風 19 可号でも被害 庁舎浸水 対策急げ,2019/11/12

岩田孝仁,静岡新聞（朝刊）P17,防災の秋 命守る備えを 静岡 科学、技術視点でセミナー,2019/11/17

岩田孝仁,静岡新聞（朝刊）P19,来月 4 日、中区で 一般向け防災講座, 2019/11/23

岩田孝仁,東奥日報,台風 19 号 浸水想定区域の自治体庁舎 対策本部水没 教訓生かす,2019/11/4

岩田孝仁,熊本日日新聞（夕刊）P3,台風 19 号と豪雨「初動に悪影響」 庁舎被災 熊本の教訓は?,2019/11/8

岩田孝仁,静岡新聞（朝刊）P21,地震臨時情報 啓発 南海トラフ、有識者討論 静岡,2019/12/1

岩田孝仁,静岡新聞（朝刊）P23,防災への想像力 高めて 対策 市民講座で訴え,2019/12/5

岩田孝仁,静岡新聞（朝刊）P27,[時評] 南海トラフ地震臨時情報 突発地震への備えに,2019/12/11

岩田孝仁,中日新聞（夕刊）P1,恐れる住民 悩む自治体 浸水想定区域の避難所 沼津、伊豆の国 川沿いに,2019/12/28

岩田孝仁,東京新聞（朝刊）P14,恐れる住民 悩む自治体 狩野川沿いの指定避難所,2019/12/30

岩田孝仁,the japan times P3,Despite 'Big One' threat, Shizuoka's readiness slipping,2020/1/4

岩田孝仁,the japan times P3,With more than 300 years having passed, is Mount Fuji 'on standby' for next eruption?,2020/1/4

岩田孝仁,静岡新聞（朝刊）P26,静岡新聞社・静岡放送 新春祝賀会 「五輪機に静岡世界発信」 県内各界から 307 人,2020/1/7

岩田孝仁,静岡新聞（朝刊）P25,防災かるた「県版」期待 静岡市版好評で制作 交流と学び拡大へ,2020/1/12

岩田孝仁,神戸新聞（朝刊）P7,面倒、不安…乗り越え耐震化を進めるには 人の関わり 意識変える／多様な支援セットで,2020/1/12

岩田孝仁,静岡新聞（朝刊）P18,地震の被害ゼロへ 葵区 静大岩田教授が防災講演,2020/1/15

岩田孝仁,中日新聞（夕刊）P8,巨大地震を想定 県庁で図上訓練,2020/1/17

岩田孝仁,静岡新聞（朝刊）P31,岩田孝仁 静大防災総合センター長に聞く 耐震化、地域連携 再確認を,2020/1/18

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P23,明日の静岡の道路ネットワークを考える～シンポジウム～,2020/1/30

岩田孝仁,毎日新聞(朝刊) P24, [講演会] 地震防災講演会,2020/1/31

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P1, [予防と防災 南海トラフ大地震] 事前避難対象地 昼夜別可 県、臨時情報で指針,2020/2/5

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P19,災害への心構え 自治会長再確認 中区でつどい,2020/2/5

岩田孝仁,毎日新聞(朝刊) P21,南海トラフ地震 「事前避難地域」柔軟に設定 県が指針案 住民の意見反映,2020/2/5

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P20, [熱海] 大規模災害の対策必要性訴え,2020/2/6

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P21,さまざまなケース 想定し防災対策を 熱海で講演会,2020/2/6

岩田孝仁,中日新聞(朝刊) P12,南海トラフ地震 事前避難 県が指針 20年度中 市町ごと防災計画反映,2020/2/5

岩田孝仁,東京新聞,南海トラフ地震 事前避難 県が指針,2020/2/12

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P29, [時評] 薄れる大震災の記憶 耐震、津波対策 継承を,2020/2/20

岩田孝仁,産業新聞 P3,高所避難装置を開発 ニッケン鋼業,2020/3/16

岩田孝仁,静岡新聞(朝刊) P26,明日の静岡の道路ネットワークを考えるシンポジウム 機能的な次世代の道路整備目指す,2020/3/20

岩田孝仁,静岡新聞(夕刊) P2,本県の自然災害 科学的に解説 歴史やメカニズム詳しく 静岡大学防災総合センター3教授が出版,2020/3/23

岩田孝仁,NHK総合 たっぷり静岡,南海トラフ臨時の情報 国の検討会初会合,2018/4/12

岩田孝仁,NHK総合 たっぷり静岡,南海トラフ「臨時」情報 “支援必要な人 早く避難を” ,2018/6/15

岩田孝仁,SBS ラジオ IPPO,南海トラフ地震の異常現象への対応に関して,2018/6/19

岩田孝仁,NHK総合 たっぷり静岡,防災ボイス 在宅生活継続の備えを,2018.6.20

岩田孝仁,NHK総合 たっぷり静岡,防災ボイス ブロック塀の危険を確かめよう,2018/6/22

岩田孝仁,NHK総合 たっぷり静岡,“30年以内に震度6弱以上、県内でも発生の確率上昇”,2018/6/26

岩田孝仁,SBS テレビ イブアイしずおか,豪雨に音がかき消され…伝わらなかった避難情報,2018/7/11

岩田孝仁,NHK総合 おはよう日本,“在宅避難、課題は”,2018/7/12

岩田孝仁,文化放送 ニュースワイド SAKIDORI!,台風12号接近中! 今、何にどう備えるべきか?,2018/7/27

岩田孝仁,NHK総合 たっぷり静岡,南海トラフ巨大地震 事前回避 国が呼びかけ検

討,2018/8/7

岩田孝仁,NHK総合 たっぷり静岡,防災ボイス「災害時 家の中のけがに注意しよう」,2018/8/28

岩田孝仁,NHK総合 たっぷり静岡,防災ボイス「エレベーターで被災したら」,2018/8/30

岩田孝仁,SBS ラジオ ラジオ防災スペシャル,外国人や女性が災害弱者とならないために,2018/9/2

岩田孝仁,SBS ラジオ IPPO,北海道地震,2018/9/6

岩田孝仁,静岡第一テレビ news every.しずおか,未明の大地震 命守る日ごろの備え 防災専門家に聞く,2018/9/6

岩田孝仁,静岡朝日テレビ とびっきり!しずおか,北海道地震 土砂崩れ現場取材報告 県内にも類似の地形,2018/9/12

岩田孝仁,SBS テレビ イブアイしずおか,防災最前線 間近に見る土砂崩れ 静岡県への教訓は,2018/9/12

岩田孝仁,NHK総合 たっぷり静岡,解説 北海道地震 現地調査の教授に聞く,2018/9/13

岩田孝仁,SBS テレビ イブアイしずおか,防災最前線 交通の要 薩埵峠 自然災害への備えは,2018/10/12

岩田孝仁,NHK総合 たっぷり静岡,解説 南海トラフ新情報 どう生かす?,2018/11/1

岩田孝仁,NHK総合 たっぷり静岡,南海トラフ 防災対応ガイドライン 県 策定は来年度いっぱい,2018/11/26

岩田孝仁,NHK総合 たっぷり静岡,解説 南海トラフ臨時情報への対応は,2018/12/11

岩田孝仁,静岡朝日テレビ とびっきり!しずおか,特集 南海トラフ臨時情報の課題 事前避難の対象を絞り込む作業が重要,2019/1/17

岩田孝仁,静岡第一テレビ THE COMPASS～防災の羅針盤～,防災特番,2019/3/9

岩田孝仁,NHK総合 たっぷり静岡,防災ボイス 静岡は最悪の被害想定,2019/3/11

岩田孝仁,NHK総合 たっぷり静岡,防災ボイス 命を守る 耐震診断・補強,2019/3/12

岩田孝仁,NHK総合 たっぷり静岡,南海トラフ”臨時情報”対応検討でモデル地区選定へ,2019/3/13

岩田孝仁,NHK総合 たっぷり静岡,防災ボイス 災害史を防災に生かす,2019/3/13

岩田孝仁,NHK総合 たっぷり静岡,防災ボイス 通電火災を起こさない,2019/3/14

岩田孝仁,NHK総合 たっぷり静岡,防災ボイス 静岡は最悪の被害想定,2019/4/2

岩田孝仁,NHK総合 たっぷり静岡,防災ボイス 命を守る 耐震診断・補強,2019/4/3

岩田孝仁,NHK総合 たっぷり静岡,防災ボイス 災害史を防災に生かす,2019/4/4

岩田孝仁,NHK総合 たっぷり静岡,防災ボイス 通電火災を起こさない,2019/4/5

岩田孝仁,NHK総合 たっぷり静岡,防災ボイス 静岡は最悪の被害想定,2019/4/10

岩田孝仁,NHK総合 たっぷり静岡,防災ボイス 災害史を防災に生かす,2019/4/12

岩田孝仁,NHK総合 たっぷり静岡,たっぷり防災 南海トラフ地震 臨時情報,2019/4/15

岩田孝仁,NHK総合 たっぷり静岡,防災ボイス 通電火災を起こさない,2019/4/16
岩田孝仁,SBS テレビ イブアイしずおか,平成の記憶・静岡 国と県の地震対策 失われた
予知 残された予知研究の灯,2019/4/17
岩田孝仁,NHK総合 たっぷり静岡,防災ボイス 静岡は最悪の被害想定,2019/5/20
岩田孝仁,NHK総合 たっぷり静岡,防災ボイス 命を守る 耐震診断・補強,2019/5/22
岩田孝仁,NHK総合 たっぷり静岡,防災ボイス 災害史を防災に生かす,2019/5/23
岩田孝仁,NHK総合 たっぷり静岡,防災ボイス 通電火災を起こさない,2019/5/24
岩田孝仁,静岡朝日テレビ とびっきり!しずおか,備え 新潟震度 6 強 静岡の教訓 駿河
湾地震と共通点,2019/6/19
岩田孝仁,静岡第一テレビ news every.しずおか,新潟で震度 6 強 備え再確認を いつでも
起こり得る 専門家が注意喚起,2019/6/19
岩田孝仁,SBS テレビ イブアイしずおか,被災地と静岡の共通点 岩田静大教授が解
説,2019/6/19
岩田孝仁,NHK総合 たっぷり静岡,たっぷり防災 地盤に注目 災害に深い関
係,2019/6/24
岩田孝仁,テレビ静岡 FNN Live News it!,地震 震度 4 専門家「改めて警戒を」 国内
で立て続けに発生,2019/6/25
岩田孝仁,静岡朝日テレビ とびっきり!しずおか,8 年ぶり緊急地震速報 伊豆東方沖 メ
カニズムは?,2019/6/25
岩田孝仁,静岡第一テレビ news every.しずおか,専門家 「まずは安全を…」 緊急地震速報
身を守る行動,2019/6/25
岩田孝仁,SBS テレビ イブアイしずおか,南海トラフ地震の臨時情報 事前避難の方法を議
論,2019/7/10
岩田孝仁,NHK総合 たっぷり静岡,安倍川を知り 備える,2019/7/16
岩田孝仁,静岡第一テレビ news every.しずおか,伊東沖海底噴火から 30 年,2019/7/25
岩田孝仁,NHK総合 たっぷり静岡,たっぷり防災 進まぬ津波災害警戒区域の指
定,2019/8/26
岩田孝仁,SBS ラジオ ラジオ防災スペシャル,南海トラフ地震への備え&次世代の防災担い
手の育成,2019/9/1
岩田孝仁,NHK総合 たっぷり静岡,県の防災士養成講座 ”時代に合わせた災害への備
え” ,2019/9/3
岩田孝仁,NHK総合 たっぷり静岡,”被害減らす行動を” 防災対策の講演会,2019/9/4
岩田孝仁,NHK総合 たっぷり静岡,防災ボイス 自宅内で地震が起きたら,2019/9/18
岩田孝仁,NHK総合 たっぷり静岡,防災ボイス 外出中に地震が起きたら,2019/9/19
岩田孝仁,NHK総合 たっぷり静岡,清水庁舎移転 何が問題?,2019/9/20
岩田孝仁,NHK総合 たっぷり静岡,防災ボイス 地盤を知り 被害を減らす,2019/9/26

岩田孝仁,静岡第一テレビ news every.しずおか,家庭で見直される停電対策 どう生かす?
大停電の教訓,2019/10/1

岩田孝仁,静岡第一テレビ news every.しずおか,拭いきれない不安 清水庁舎移転 なぜ浸
水域に?,2019/10/16

岩田孝仁,テレビ静岡 ただいま!テレビ,清水庁舎移転 100 人に聞いた市民の本
音,2019/10/17

岩田孝仁,NHK総合 たっぷり静岡,たっぷり防災「臨時情報」正しい理解と備え
を,2019/11/5

岩田孝仁,テレビ静岡 ただいま!テレビ,氾濫”切迫していた” 県内河川,2019/11/12

岩田孝仁,NHK総合 たっぷり静岡,防災ボイス 自宅内で地震が起きたら,2019/12/3

岩田孝仁,NHK総合 たっぷり静岡,解説 南海トラフ地震の”リスク”を知る,2019/12/6

岩田孝仁,NHK総合 たっぷり静岡,防災ボイス 外出中に地震が起きたら,2019/12/10

岩田孝仁,NHK総合 たっぷり静岡,たっぷり防災 今年の災害 新年への教訓,2019/12/16

岩田孝仁,NHK総合 たっぷり静岡,防災ボイス 地盤を知り 被害を減らす,2019/12/18

岩田孝仁,SBS テレビ ORANGE,遠州灘の巨大防潮堤 完成へ 避難意識は…,2020/1/8

岩田孝仁,SBS テレビ ORANGE,阪神・淡路大震災から 25年 都市を襲う大地震,2020/1/15

岩田孝仁,NHK総合 たっぷり静岡,「スロースリップ」 巨大地震との関連は,2020/1/16

岩田孝仁,静岡第一テレビ news every.しずおか,南海トラフ臨時情報どう対応? 独自視点
も…県がガイドライン案,2020/2/4

岩田孝仁,NHK総合 たっぷり静岡,解説「臨時情報」対応のガイドライン案,2020/2/4

岩田孝仁,SBS テレビ ORANGE,南海トラフ地震 どうする事前避難 県が初公
表,2020/2/4

岩田孝仁,NHK総合 たっぷり静岡,南海トラフ地震 臨時情報 ガイドライン正式決
定,2020/2/14

岩田孝仁,NHK総合 たっぷり静岡,防災ボイス 自宅内で地震が起きたら,2020/2/18

岩田孝仁,NHK総合 たっぷり静岡,防災ボイス 外出中に地震が起きたら,2020/2/19

岩田孝仁,SBS テレビ ORANGE,沼津市 津波避難が難しい地区 明らかに,2020/3/4

岩田孝仁,NHK総合 たっぷり静岡,防災ボイス 地盤を知り 被害を減らす,2020/3/4

岩田孝仁,静岡第一テレビ THE COMPASS～防災の羅針盤～,南海トラフ巨大地震に立ち
向かう,2020/3/7

岩田孝仁,NHK総合 たっぷり静岡,巨大防潮堤 完成へ 効果・課題は,2020/3/10

岩田孝仁,NHK総合 たっぷり静岡,解説 東日本大震災 9年 教訓と課題,2020/3/11

岩田孝仁,SBS テレビ ORANGE,防災最前線 臨時情報が出たとき 1週間の避難どう考
える?,2020/3/18

笠原順三,フジテレビ めざましテレビ,「ハワイキラウエアの爆発による事故について」コ
メント,2018年7月18日.

笠原順三,フジテレビ 情報プレゼンター とくダネ!,「北大阪地震」コメント,2018年6月19日(火)8:00~9:50.

笠原順三,フジテレビ BS プライムニュース,「北大阪地震」出演,2018年6月18日20:00-21:00.

笠原順三,フジテレビプライムニュース イブニング,「北大阪地震」コメント,2018年6月18日(月)16:50~19:00.

笠原順三,フジテレビ 直撃LIVE グッディ!,「北大阪地震」コメント,2018年6月18日(月)13:50~15:50.

笠原順三,フジテレビ,「特番 北大阪地震」出演,2018年6月18日(月)9:50~11:00

笠原順三,フジテレビ 情報プレゼンター とくダネ!,「北大阪地震」コメント,2018年6月18日 08:00-10:00.

笠原順三,フジテレビ 池上彰スペシャル,「池上彰緊急スペシャル 今ニッポン列島が危ない」に出演,2018年9月7日.

笠原順三,フジテレビ プライムニュース BS,「北海道胆振東部地震について」出演,2018年9月6日(木)20:00-21:00.

笠原順三,フジテレビ プライムニュース イブニング拡大 SP,「北海道胆振東部地震について」コメント,2018年9月6日(木)15:50~16:50.

笠原順三, フジテレビ 直撃LIVE グッディ!,「北海道胆振東部地震」コメント,2018年9月6日(木)13:45~15:50.

笠原順三,TBS ひるおび!,「北海道胆振東部地震について」出演,2018年9月6日(木)10:25~13:55.

笠原順三,フジテレビ 情報プレゼンター とくダネ!,「北海道胆振東部地震について」コメント,2018年9月6日(木)8:00~9:50.

笠原順三,フジテレビ プライムニュース イブニング,「北海道胆振東部地震」コメント,2019年2月22日(金)16:50~19:00.

笠原順三,フジテレビ 情報プレゼンター とくダネ!,「北海道胆振東部地震」コメント,2019年2月22日(金)8:00~9:50.

笠原順三,フジテレビ めざましテレビ,「北海道胆振東部地震」コメント,2019年2月22日(金)4:55~8:00.

笠原順三,フジテレビ めざましテレビ,「阿蘇の噴火」コメント,2019年4月17日(水)5:25~8:00.

笠原順三,フジテレビ めざましテレビ全部見せ,「阿蘇の噴火」コメント,2019年4月17日(水)4:55~5:25.

笠原順三,フジテレビ めざましテレビ,山形新潟地震についてコメント,2019年6月20日(木)6:00~8:00.

笠原順三,フジテレビ 直撃Live グッディ!,「山形新潟地震について」コメント,2019年6

月 19 日(水) 13:45～15:50.

笠原順三,フジテレビ 情報プレゼンター とくダネ!,山形新潟地震についてコメント,2019 年 6 月 19 日(水) 8:00～ 9:50.

笠原順三,フジテレビ めざましテレビ,「山形新潟地震について」コメント,2019 年 6 月 19 日(水) 5:25～ 8:00.

笠原順三,フジテレビ Live News It!,「山形新潟地震について」コメント,2019 年 12 月 3 日.

笠原順三,フジテレビ Live News It!,「2019 年 12 月 3 日の茨城南部地震と南海トラフへの影響」コメント,2019 年 12 月 3 日.

笠原順三,フジテレビ 直撃 Live グッディ,「最近の茨城・栃木の地震活動と首都圏直下地震への影響」コメント,2019 年 12 月 5 日.

笠原順三,フジテレビ Live News It!,「最近の茨城・栃木の地震活動と茨城北部地震と南部地震の今後とその影響」コメント,2019 年 12 月 5 日.

笠原順三,フジテレビ 直撃 Live グッディ,「茨城南部の地震活動と首都圏直下地震」でコメント,2019 年 12 月 10 日.

笠原順三,フジテレビ 直撃 Live グッディ,「青森県東方沖地震」にコメント,2019 年 12 月 19 日.

笠原順三,フジテレビ Live News It!,「青森県東方沖地震」コメント,2019 年 12 月 19 日.

笠原順三,フライデー1 月 10・17 号(発売日),「真冬の首都圏直下型地震がやってくる」にコメント,2019 年 12 月 27 日.

笠原順三,テレビ朝日 グッド!モーニング,「東京直下地震の可能性」コメント,2019 年 12 月 27 日.

笠原順三,フジテレビ Live News It!,「茨城南部の地震」,2020 年 1 月 14 日.

笠原順三,フジテレビ 直撃 Live グッディ,「ゆっくりすべりの解説」,2020 年 1 月 17 日.

笠原順三,フジテレビ 情報プレゼンター とくダネ!,「2/12 の福島で起きた地震」についてコメント,2020 年 2 月 13 日.

笠原順三,フジテレビ めざましテレビ土曜,「最近の地震活動について」,2020 年 4 月 25 日.

笠原順三,フジテレビ めざましテレビ,「最近の千葉周辺の地震活動について」,2020 年 5 月 6 日.

笠原順三,フジテレビ 直撃 Live グッディ,「千葉県周辺の地震活動」,2020 年 5 月 6 日.

笠原順三,フジテレビ Live News It!,「千葉県周辺の地震活動」,2020 年 5 月 6 日.

笠原順三,フジテレビ めざましテレビ,「最近の地震活動」,2020 年 5 月 20 日.

笠原順三,TBS あさチャン!,「飛驒の地震」,2020 年 5 月 20 日.

笠原順三,フジテレビ 情報プレゼンター とくダネ!,「最近の地震」,2020 年 5 月 20 日.

笠原順三,TBS 「N スタ」,「最近の地震活動」,2020 年 5 月 20 日.

笠原順三,TBS 「あさチャン!」,「最近の地震」,2020年6月3日.

笠原順三,TBS「あさチャン!」,「最近の関東周辺の地震活動」についてコメント,2020年6月10日.

笠原順三,講談社 Friday 6/26号,「首都圏をおそう巨大地震発生へのカウントダウン」,2020年6月12日.

笠原順三,フジテレビ 情報プレゼンター とくダネ!,「千葉県沖の M6.1.の地震とその影響」,2020年6月25日.

笠原順三,フジテレビ Live News It!,「千葉県沖の M6.1.の地震とその影響」,2020年6月25日.

笠原順三,フジテレビ めざましテレビ,「千葉県沖の M6.1.の地震とその影響」,2020年6月26日.

笠原順三,TBS「あさチャン!」,「千葉県沖の M6.1.の地震とその影響」,2020年6月26日.

風間聡,東北ジャーナル,TJインタビュー,今後はまちづくりの視点から河川整備を考えていくことも必要,2019年12月.

風間聡,災害を想定したまちづくりを,建設新聞,2019年11月22日.

風間聡,東北放送,Nスタ宮城,2018年10月4日.

風間聡,読売新聞,コメント,2018年7月15日.

木村浩之,静岡新聞,メタンの利活用法解説,2019年10月23日.

木村浩之,日本経済新聞,静岡の地下に眠るメタン,2019年6月11日.

木村浩之,中日新聞,メタンを電力に変換,2018年11月16日.

木村浩之,中日新聞,静岡大・中日新聞連携講座,2018年10月11日.

木村浩之,中日新聞,静岡大・中日新聞連携講座,2018年9月6日.

木村浩之,日本経済新聞,地下圏微生物を活用した次世代水素エネルギー生産について,2018年8月24日.

北村晃寿,2020年3月23日 静岡新聞社夕刊 2p 静岡大防災総合センター3教授が出版 本県の自然災害科学的に解説 歴史やメカニズム詳しく

北村晃寿,2019年9月16日 朝日新聞朝刊 23p 静大教授と合同 発生間隔知る資料に 1600年前にも南海・駿河トラフ地震の可能性 磐田南高生ら研究班が発見

北村晃寿,2019年8月19日 読売新聞朝刊 29p 駿河トラフに大地震証拠 西暦400年頃 静大教授と高校生ら発見

北村晃寿,2019年8月17日 中日新聞朝刊 15p 震度7級 地層に痕跡 静大教授と磐田南高生が調査 西暦400年ごろ県内で

北村晃寿,2019年8月17日 静岡新聞朝刊 26p 400年ごろ 安政東海と同型地震 地質的な証拠を発見

北村晃寿,2019年7月18日 静岡新聞朝刊 23p レベル1.5津波の解明を 南海トラフ地震で講演

北村晃寿, 2018年12月25日 静岡新聞朝刊 17p 「津波レベル「1.5」想定を」

北村晃寿, 平成30年12月24日 静岡新聞朝刊 23p 「インドネシア地震なし津波 識者談話 伊豆諸島で危険性」

北村晃寿, 2018年9月28日 科学新聞 2p 「1361年の南海地震・東海地震ペアで発生した証拠発見 二枚貝の化石に痕跡」

北村晃寿, 2018年5月25日 科学新聞 6p 貝殻からわかる津波発生の季節 埋蔵二枚貝の成長途絶から推定

北村晃寿, 2018年5月22日 静岡新聞朝刊 30p 御前崎に「隆起貝層」14世紀東海地震起因

小林 淳, 静岡新聞, 1万年の地層露呈—噴火や山体崩壊で堆積—, 2019年12月29日.

小林 淳, 静岡新聞: 県内火山学者インタビュー ハザードマップ改定進む, 2020年12月30日.

小山真人, 2018年10月4日, 静岡新聞 時評 バイオントダム地すべり55年 自然を甘く見た人災

小山真人, 2018年11月13日, 毎日新聞静岡版 富士山成り立ち学ぶ 40人受講 富士宮で市民カレッジ

小山真人, 2018年11月29日, 静岡新聞 時評 安倍川の流路変遷 通説の見直しが必要

小山真人, 2018年12月24日, 静岡新聞 インドネシア 地震なし津波 北海道駒ヶ岳、桜島でも 山体崩壊が原因か

小山真人, 2018年12月24日, 中日新聞 地震なく津波 日本でも 山体崩壊が原因か

小山真人, 2018年12月26日, 静岡新聞 衛星画像を公表 山体崩壊裏付け 専門家「発生、どの火山でも」

小山真人, 2018年12月27日, 中日新聞 「インドネシア山体崩壊」衛星画像 火山島の半分近く消失

小山真人, 2018年4月17日 NHK総合 たっぷり静岡 伊豆半島が世界ジオパークに認定

小山真人, 2018年4月17日 NHK総合 全国ニュース 伊豆半島「世界ジオパーク」に認定 ユネスコ

小山真人, 2018年4月18日 NHK総合 たっぷり静岡 世界ジオパーク認定祝う記念式典

小山真人, 2018年4月18日, The PAGE 富士山と宗教(11) 延暦噴火を収めた鎮火祭の起源は何なのか?

小山真人, 2018年4月18日, 伊豆新聞 伊豆ジオ世界認定 挑戦2度目で承認小山真人, 2018年4月18日, 朝日新聞静岡版 ジオパーク認定に喜びの声、10年の挑戦実る

小山真人, 2018年4月18日, 中日新聞 伊豆半島「世界ジオパーク」 ユネスコ認定、国内9例目 保留乗り越え地元歓喜

小山真人,2018年4月18日,産経ニュース静岡版 伊豆半島ジオパークに認定 静岡知事
「価値を後世に引き継ぐ」

小山真人,2018年4月18日,静岡新聞 伊豆半島 世界ジオパーク ユネスコ認定、国内
9地域目 大地形成 唯一の特徴

小山真人,2018年4月19日,静岡新聞 伊豆半島ジオ認定 活動充実へ決意 記念式典で
関係者団結

小山真人,2018年4月19日,中日新聞・東京新聞 世界の宝へ 伊豆半島ジオパーク認定
(上) 地域一丸でつかんだ悲願 地質の価値証明に施設整備

小山真人,2018年4月19日,毎日新聞 伊豆半島・世界ジオパーク認定 付加価値さらに
高く 15市町が歓迎

小山真人,2018年4月20日,静岡新聞 伊豆半島 世界へ発信 ジオパーク 2 観光活
用 集客力向上へ試行錯誤

小山真人,2018年4月22日,読売新聞 富士山噴火 国が対策 大量の火山灰 都心にも 避
難方法など検討 2900年前「山体崩壊」

小山真人,2018年4月25日 SBS ラジオ IPPO セレクション 伊豆半島 世界ジオパー
ク認定

小山真人,2018年4月25日,朝日新聞静岡版 富士山 世界遺産登録から5年 「活火山」
の現状を聞く

小山真人,2018年4月8日 BS フジ ガリレオX 第170回「ドローン×地学～空から解
き明かす火山の謎～」

小山真人,2018年5月25日,静岡新聞 富士山、火口周辺規制導入を 静岡大・小山教授
ら提言

小山真人,2018年5月30日,伊豆新聞 ジオパークの視点で考える 自然との共生大切

小山真人,2018年6月11日,伊豆新聞 大室山内部、透視へ 東大地震研・宮本さんら試
験観測―伊東

小山真人,2018年6月12日,読売新聞静岡版 「平成の静岡」振り返る 石井学長 文理
融合し幅広く 静岡大読売講座

小山真人,2018年6月17日,静岡新聞 富士山、噴火の歴史や地形解説 小山静大教授が
講演

小山真人,2018年6月17日,毎日新聞静岡版 ひと・しずおか 伊豆半島ジオガイド協会
会長 仲田慶枝さん(61) /静岡

小山真人,2018年6月1日,静岡新聞 清流 世界ジオパーク認定の重み

小山真人,2018年6月25日,伊豆新聞 15市町長に世界認定証 講演やトーク 伊豆ジオ
推協・祝賀の集い

小山真人,2018年6月25日,静岡新聞 伊豆・世界ジオ、15市町長に認定証 「祝賀の集
い」で決意

小山真人,2018年6月25日,静岡新聞 伊豆半島ジオパーク 15市町長に認定証 伊豆・世界ジオ発展へ決意

小山真人,2018年6月25日,朝日新聞静岡版 世界ジオパーク 15首長に認定証 伊豆

小山真人,2018年6月6日,静岡新聞 時評 世界ジオパークへの道程 伊豆の人々に栄あれ

小山真人,2018年8月1日,静岡新聞 富士山ハザードマップ改定へ 新火口を範囲に

小山真人,2018年8月1日,読売新聞静岡版 富士山噴火マップ改定へ 検討委が会合

小山真人,2018年8月29日,読売新聞静岡版 静岡大・読売講座 詳報2 火山 防災と観光両立へ

小山真人,2018年8月2日,静岡新聞 時評 南海トラフ地震情報への対応 社会的リスクも想定

小山真人,2018年8月5日,読売新聞静岡版 静岡大・読売講座 噴火リスク 無視から直視へ 小山教授が講演

小山真人,2018年9月19日,伊豆新聞 GGN加盟認定書受ける イタリアで国際会議、伊豆ジオ推進協

小山真人,2018年9月19日,静岡新聞 世界ジオネットが認定書 伊で国際会議 伊豆半島推進協 喜び

小山真人,2018年9月26日,時空旅人 no.46「天災の記憶」,今、あらためて注目が集まる宝永大噴火とは?

小山真人,2019年10月16日,静岡新聞 時評 富士山のマグマ噴出量想定 宝永噴火の約2倍に

小山真人,2019年12月12日,静岡新聞 時評 宝永噴火と宝永山 火口周辺 見直し進む

小山真人,2019年12月2日,静岡新聞 静岡大教授ら 研究内容披露 学術会議が講演会

小山真人,2019年12月30日,静岡新聞 富士山 広がる噴火リスク(下) ハザードマップ改定進む 県内火山学者インタビュー 「想定外」大幅減に期待

小山真人,2019年1月15日 静岡朝日テレビ とびっきり!しずおか 深掘りパネルゼミ パネルで防災最新情報!地震なくても津波が!?

小山真人,2019年1月1日,1月3日 時事通信配信記事(苫小牧民報、長野日報、島根日日新聞、南海日日新聞ほか掲載) 風景見直し、意味を知る 景色から読み解く

小山真人,2019年1月23日 SBSテレビ イブアイしずおか 防災最前線 県内でも警戒必要 伊豆地域 噴火の備え

小山真人,2019年1月6日 テレビ朝日 池上彰と学ぶ なるほど富士山7つの秘密

小山真人,2019年2月13日,静岡新聞 時評 スンダ海峡で何が起きたか? 留意すべき火山津波

小山真人,2019年2月3日,伊豆新聞 防災へ 対応考える 地域・大学連携講座 専門家4人が講義一下田

小山真人,2019年3月14日,日本経済新聞静岡版 静岡発 私の提言 浜松・浜名湖地域に
ジオパークを 地域活性化のツールに

小山真人,2019年3月17日,伊豆新聞 柱状節理は6角形最多 三島でジオ推進協研究発
表会

小山真人,2019年3月22日 NHK World Japan Radio News Des mesures de
prévention face au risque d'éruption du mont Fuji (フランス語版ほか各国語版)

小山真人,2019年3月27日,朝日新聞 富士山の火山灰、奈良や千葉にも 江戸時代が伝
える教訓

小山真人,2019年4月11日,静岡新聞 時評 南海トラフ地震の臨時情報 想定外ケ
ースを懸念

小山真人,2019年4月12日 NHK Web特集 死が近づく中で… 執念の研究

小山真人,2019年4月15日 日本テレビ ZIP! 熊本地震から3年 益城町に今も残る断
層痕

小山真人,2019年4月9日 TBSテレビ マツコの知らない世界 パークの中央にそびえ
立つプロメテウス火山 地質学者と風間俊介が徹底考察!

小山真人,2019年5月29日,The PAGE 千葉・幕張メッセで「ブラタモリ」!? なぜ地
球科学の学術大会のテーマになった?

小山真人,2019年6月19日,静岡新聞 時評 伊東沖海底噴火30年 貴重な経験 次世代
へ

小山真人,2019年6月19日,東京新聞 こちら特報部 予知前提の原発基準 火山ガイド
に「疑い残る」

小山真人,2019年6月6日 静岡朝日テレビ とびっきり!しずおか 富士山噴火 登山者
は…

小山真人,2019年7月11日,静岡新聞 火山と生きる 伊東沖海底噴火30年(上)全国
屈指の観測体制 データ蓄積「予知最前線」

小山真人,2019年7月12日,静岡新聞 火山と生きる 伊東沖海底噴火30年(中)模索
続く観光客避難 空振り恐れぬ判断 鍵

小山真人,2019年7月12日,読売新聞静岡版 伊東沖噴火あす30年 災害「パニック」
対応教訓

小山真人,2019年7月23日,火山のリスクについて考えてみよう 山の楽しいリスクマ
ネジメント講座40,ランドネ 2019年9月号,102-103

小山真人,2019年7月24日 SBSテレビ イブアイしずおか 防災最前線 小学生が考
えた もし南海トラフ臨時情報が出たら

小山真人,2019年7月25日 静岡第一テレビ ニュースエブリィ静岡 伊東沖海底噴火か
ら30年 自然の脅威 備えて伝える

小山真人,2019年7月31日 SBSテレビ イブアイしずおか 防災最前線 海底噴火から

30年 伊豆東部の火山防災は

小山真人,2019年7月5日,中日新聞 巨大噴火「予知できない」 原発の火山対策に司法
疑義も…「発生まれ」運転は認める 崩れる前提 動かぬ規制委

小山真人,2019年8月15日,静岡新聞 時評 富士山ハザードマップ改定作業 想定火口
範囲が拡大

小山真人,2019年8月1日,トランヴェール 東日本怪奇スポット 降毛,2019年8月号,
25

小山真人,2020年1月25日 NHK総合 ブラタモリ #153 「浜松～なぜ浜松が楽器の
町になった♪～」

小山真人,2020年2月20日,静岡新聞 市史編さんへ 委員に委嘱状 富士宮市

小山真人,2020年2月26日,静岡新聞 時評 チバニアンとは何か 地球の歴史の標準層

小山真人,2020年3月23日,静岡新聞 静岡大学防災総合センター3教授が出版 本県の
自然災害 科学的に解説 歴史やメカニズム詳しく

小山真人,2020年3月30日,中日新聞 ハザードマップ中間報告 富士山火砕流 主要道
寸断恐れ

小山真人,2020年3月31日,静岡新聞 富士山ハザードマップ検討委 自治体 避難計画
議論を

前田恭伸, SBS テレビ, イブアイしずおか「平成の記憶 集中豪雨 急がれる対策」, 2019
年4月24日.

三井雄太, 読売新聞, 詳報(5) 人工衛星データが語る富士山・伊豆半島, 2019/11/16.

三井雄太, 読売新聞, 静岡大・読売講座 地殻変動 GPSで観察, 2019/11/3.

三井雄太, 静岡新聞, 伊豆半島の動きを説明, 2018/7/22.

森下祐一, SBS テレビ ORANGE, リニア新幹線 県の有識者 JR東海に厳しい指摘,
2020.2.10(月)

森下祐一, 中日新聞 朝刊 P3 総合 リニア 流量問題 水解析 信頼性巡り対立 地質
正確に把握を, 2020.1.6(月)

森下祐一, 毎日新聞 朝刊 P23 静岡 リニア工事・静岡工区 県、国の公平性に疑念 3
者協議 有識者の専門部会で, 2019.12.14(土)

森下祐一, 静岡新聞 朝刊 P4 県内政治, リニア水問題 「県の議論 国は反映すべき」
新協議体巡り専門家, 2019.12.14(土)

森下祐一, 静岡新聞 朝刊 P1 リニア水問題 県専門家会議1年 科学的議論通じ JRの
不備露呈, 2019.11.18(月)

森下祐一, 中日新聞 朝刊 P12 県内 静岡大 森下祐一教授インタビュー 事前の地質
調査 徹底を, 2019.10.25(金)

森下祐一, 静岡新聞 朝刊 P4 県内政治 繰り返される論点外し、曖昧な説明…県側に不
信感 副知事「対話の資質問いたい」, 2019.10.11(金)

森下祐一,中日新聞 朝刊 P1 考えるリニア着工 JR 工法「変えぬ」 流量「減らぬ」
根拠示さず県側猛反発, 2019.10.5(土)

森下祐一,読売新聞 東京朝刊 P29 静岡 web リニア問題 一部専門家 工法に理解
副知事らは激しく批判, 2019.10.5(土)

森下祐一,静岡新聞 朝刊 P4 県内政治 リニア湧水問題 JR、他工法は「困難」 専
門家 流量予測を批判, 2019.10.5 (土)

森下祐一,静岡新聞 朝刊 P30 社会 リニア問題 専門家、JR 姿勢疑問視 地質情報
非公表条件に県へ提供, 2019.10.1 (火)

森下祐一,毎日新聞 朝刊 P23 静岡 リニア着工へ 宿題山積 県「協議に時間かかる」,
2019.9.25 (水)

森下祐一,中日新聞 朝刊 P14 県内 生態系影響 データ不足 モニタリング判断基準
JR、着工前数値提示へ, 2019.9.14 (土)

森下祐一,静岡新聞 朝刊 P4 県内政治 リニア水問題 JR との協議 長期化へ 県外流
出の予測値 疑問視, 2019.9.14 (土)

森下祐一,日本経済新聞 P6 地方経済面・静岡 web [リニア工事の大井川流量問題] JR
東海に批判相次ぐ 県の連絡会議「データ不足」など指摘, 2019.9.13(金)

森下祐一,日本経済新聞 P7 地方経済面・中部 web JR 東海に批判相次ぐ 静岡県のリ
ニア会議 流量減少巡り, 2019.9.13 (金)

森下祐一,毎日新聞 朝刊 P23 静岡 大井川流量減 県「受け入れられぬ」 リニア工事
JR 回答で合同会議, 2019.9.13 (金)

森下祐一,読売新聞 東京朝刊 P27 静岡 web リニア問題 JR 東海回答に強く反発
県側有識者ら議論, 2019.9.13 (金)

森下祐一,中日新聞 朝刊 P14 県内 工法検討過程 開示を 湧水全量回復 JR 側説
明に疑問, 2019.9.13 (金)

森下祐一,静岡新聞 夕刊 P1 リニア水問題 「JR の地質調査不十分」 県連絡会議 専
門家ら見解, 2019.9.12(木)

森下祐一,【出演】静岡朝日テレビ「とびっきり!しずおか」南アルプスのリニアトンネル
掘削による大井川の水量減少,2019年9月11日

森下祐一,毎日新聞 P21 リニア建設 大井川上流にカメラ設置 JR と県有識者意見交換,
2019.8.21 (水)

森下祐一,中日新聞 P12 湧水量段階的に調査 JR 側着工前に上限値設定, 2019.8.21 (水)

森下祐一,静岡新聞 P4 大井川沢枯れ発生なら JR 「調査費負担」, 2019.8.21 (水)

森下祐一, NHK 静岡 NEWS WEB リニア工事で JR カメラ設置方針, 2019.8.20 (火)

森下祐一,毎日新聞 朝刊 P26 静岡 リニア建設 JR、識者意見交換へ 県庁で 20, 21
日 流量や生態系巡り, 2019.8.18(日)

森下祐一,産経新聞 web リニア工事、湧水量に上限値設定 JR 東海、静岡県と歩み寄り,

2019.3.14(木)

- 森下祐一,日本経済新聞 P6 地方経済面・静岡 web リニア工事に湧水量上限 JR 東海「超えれば中断」, 2019.3.14(木)
- 森下祐一,静岡新聞 夕刊 P2 社会 湧水量超過で一時中断 リニア工事、JR 提示 大井川流量減少対策 県連絡会議, 2019.3.13(水)
- 森下祐一,中日新聞 朝刊 P28 社会 リニア工事 県と JR 審議進まず 県連絡会議 大井川対策で対立 会議に出席した4委員の主な発言, 2019.1.26(土)
- 森下祐一,読売新聞 東京朝刊 P33 静岡 web リニア工事 水量問題 しみ合わず 県と JR、リスク管理巡り, 2019.1.26(土)
- 森下祐一,毎日新聞 朝刊 P21 静岡 リニア工事 議論しみ合わず紛糾 県・有識者と JR 協議 リスク認識に差, 2019.1.26(土)
- 森下祐一,【出演】静岡朝日テレビ「とびっきり!しずおか」南アルプスのリニアトンネル掘削による大井川の水量減少,2018年11月22日
- 森下祐一,中日新聞 朝刊 P30 社会 湧水根拠「データ不足」 リニア 県有識者会議、意見続出, 2018.11.22(木)
- 森下祐一,中日新聞 朝刊 P14 県内 リニア工事有識者会議で疑念 湧水量や地質議論/「地下ダム」設置/生態系に配慮, 2018.11.22 (木)
- 森下祐一,NHK総合 たっぷり静岡 リニア 中央新幹線 有識者「継続して調査を」、2018.11.21 (水) 18:10~19:00
- 森下祐一,静岡朝日テレビ とびっきり!しずおか リニア JR 東海が水量対策を説明 専門家の評価分かれる, 2018.11.21 (水) 18:15~19:00
- 森下祐一,毎日新聞 朝刊 P23 静岡 21日に環境保全会議 リニア工事流量減 JR が直接説明, 2018.11.17 (土)
- 森下祐一,【出演】静岡朝日テレビ とびっきり!しずおか 南アルプスのリニアトンネル掘削による大井川の水量減少, 2018年10月11日
- 森下祐一, 中日新聞朝刊 リニア工事 大井川水系の影響, 2018年8月9日
- 森下祐一, 毎日新聞 朝刊 P23 静岡 リニア工事・水問題 流量減少データ開示を 県有識者会議 JR 東海に要求へ,2018年8月9日
- 森下祐一, 読売新聞 東京朝刊 P25 静岡 web リニア工事 南ア影響検証 県が有識者会議 大井川問題など2部会,2018年8月9日
- 森下祐一, 静岡新聞 夕刊 P2 社会 環境影響を独自検証へ リニア工事、県が有識者会議,2018年8月8日
- 森下祐一, 毎日新聞朝刊 県有識者会議が発足 地質構造・水資源部会,2018年8月4日
- 森下祐一,【出演】静岡朝日テレビ とびっきり!しずおか 南アルプスのリニアトンネル掘削による大井川の水量減少, 2018年5月25日
- 村越真、読売新聞東京朝刊、那須雪崩事故コメント、2019.7.2 (ウェブ)

村越真、静岡朝日 TV、南極観測参加、2018.4.6

中川和之、ラジオ日本「岩瀬恵子のスマートNEWS」東日本大震災 9 年災害遺構が伝えること、2020 年 3 月 13 日

中川和之、牛山素行、小山真人、風景を見直し、意味を知る＝古地図とハザードマップで街歩き：ハザードマップで危険を知る＝地形分類図や古地図も活用、時事通信配信新年企画掲載紙岩手日日/島根日日/南海日日/苫小牧民報など、2020 年 1 月

中川和之、ラジオ日本「岩瀬恵子のスマートNEWS」台風と避難の情報、2019 年 8 月 9 日

中川和之、ラジオ日本「岩瀬恵子のスマートNEWS」東日本大震災 8 年、2019 年 3 月 2 日

中川和之、ラジオ日本「岩瀬恵子のスマートNEWS」北海道胆振東部地震、台風 21 号高潮、2018 年 9 月 7 日

中川和之、ラジオ日本「岩瀬恵子のスマートNEWS」大阪北部の地震、西日本豪雨、2018 年 7 月 6 日

中川和之、ラジオ日本「岩瀬恵子のスマートNEWS」東日本大震災から 7 年、2018 年 3 月 2 日

中川和之、きみならでできる BOUSA I-内閣府「一日前プロジェクト」の体験談から 「3 日後に父と再会、『てんでんこ』の意味実感」＝学びを生かす人になる ◎「てんでんこ」の教えの意味 ◎経験から学ぶ、時事通信フィーチャーサービスこどもニュース(掲載紙＝十勝毎日、苫小牧民報、陸奥新報、岩手日日、新潟日報、長野日報、静岡新聞、山陽新聞、宇部日報)、2018 年 3 月配信

中川和之、きみならでできる BOUSA I-内閣府「一日前プロジェクト」の体験談から 『津波』って大変なことなんだ＝災害を知っておく人になる＝ ◎「津波」ってなに？ ◎地震の規模と津波、時事通信フィーチャーサービスこどもニュース(掲載紙＝十勝毎日、苫小牧民報、陸奥新報、岩手日日、新潟日報、長野日報、静岡新聞、山陽新聞、宇部日報)、2018 年 2 月配信

中川和之、きみならでできる BOUSA I-内閣府「一日前プロジェクト」の体験談から 「ぬいぐるみ抱えて母のもとへ」＝家の中を安全にする＝ ◎室内の安全 ◎家具固定と耐震補強、時事通信フィーチャーサービスこどもニュース(掲載紙＝十勝毎日、苫小牧民報、陸奥新報、岩手日日、新潟日報、長野日報、静岡新聞、山陽新聞、宇部日報)、2018 年 1 月配信

楠城一嘉: Yahoo ニュース, 東日本大震災から 9 年...地震予測研究の最前線, 2020 年 3 月 11 日.

楠城一嘉: 静岡朝日テレビ, 県内ニュース, 東日本大震災から 9 年② 進む”予測”研究, 2020 年 3 月 6 日.

楠城一嘉: 中日新聞, 地震情報を理解し 防災対応しっかり 浜松特支で講演会, 2020 年 2 月 5 日.

楠城一嘉: 静岡新聞, 静岡における防災 県立大准教授講演 6日、焼津, 2020年2月4日.

楠城一嘉: 静岡新聞, 地震、津波の予測解説 下田で連続講座の初回 県立大特任准教授講演, 2020年1月19日.

楠城一嘉: 静岡新聞, 地震と火山と防災を学ぼう 17日下田で講座, 2020年1月15日.

楠城一嘉: 防災講座参加者募集, 広報やいづ 2020年1月1日号, 2020年1月1日.

楠城一嘉: 静岡新聞, INFORMATION 2019年度出前講座 ~第2期~静岡で知っておきたい地震と火山と防災, 2019年12月29日.

楠城一嘉: 日刊工業新聞, 関西 サイエンス・フォーラム、地震予知研究テーマに講演, 2019年11月1日.

楠城一嘉: 読売新聞, 断層の監視手法開発 県立大など 地震推定の可能性, 2019年9月26日.

楠城一嘉: 中日新聞, 断層帯に係る力推定 中部大・井筒潤教授ら成功, 2019年9月14日.

楠城一嘉: 毎日新聞, 熊本地震 2断層帯にかかる力推定 研究G「破壊の恐れも」 /熊本, 2019年9月12日.

楠城一嘉: TeNY テレビ新潟, 日奈久断層帯 地震発生の可能性(熊本県), 2019年9月5日.

楠城一嘉: 宮崎日日新聞, 熊本地震 断層帯に大きな力か 研究者 破壊の恐れ指摘, 2019年9月6日.

楠城一嘉: RKK 熊本放送, 日奈久断層帯を監視する手法を開発, 2019年9月5日.

楠城一嘉: 熊本県民テレビ, 日テレ NEWS24, 日奈久断層 地震発生の可能性, 2019年9月5日.

楠城一嘉: 熊本日日新聞, 日奈久断層帯、熊本地震後も大きな力 静岡県立大など発表, 2019年9月6日.

楠城一嘉: 断層帯への力を図式化 熊本地震前後の「布田川-日奈久」 静岡県立大などデータ分析, 2019年9月7日.

楠城一嘉: 静岡新聞, 熊本地震断層帯に今もリスク 静岡県立大など、力の状態推定成功, 2019年9月8日.

楠城一嘉: 静岡新聞, 災害時の応急対応学ぶ, 県立大で防災講座住民や学生 80人参加, 2019年7月2日.

楠城一嘉: とびっきり静岡土曜日版, 静岡朝日テレビ, 2019年6月28日.

楠城一嘉: とびっきり静岡, 静岡朝日テレビ, 2019年6月25日.

楠城一嘉: イブアイ静岡, SBS, 熱海で震度4 専門家は どう見る 6月24日の地震 南海トラフとの関係は?, 2019年6月25日.

楠城一嘉: 静岡 NEWS WEB, 新潟震度6強 静岡県でも備えを, 2019年6月19日.

楠城一嘉: 静岡新聞, 災害の知識や対応法を学ぶ 県立大が来月、防災スクール, 2019年5月16日.

楠城一嘉: とびっきり静岡, 静岡朝日テレビ, 特集・平成の静岡地震防災の現状と課題を考

える, 2019 年 4 月 24 日.

楠城一嘉: SBS テレビ, イブアイしずおか, 平成の記憶・静岡残された予知研究の灯, 2019 年 4 月 17 日.

佐藤健, 読売新聞, 学校防災はいま, 2018.4.22

佐藤健, 朝日新聞, 節目の年、地震、防災研究は進んだか, 2018.6.23

佐藤健, 河北新報, 地震史 防災に活用, 2018.6.23

佐藤健, 日経アーキテクチュア, 防災を学ぶ遺構として残す, 2018.7.12

佐藤健, 朝日小学生新聞, 地名に災害の歴史がきざまれていることも, 2018.11.21

佐藤健, 朝日小学生新聞, 「地震」の漢字の成り立ちをひもとくと, 2018.11.28

佐藤健, 朝日小学生新聞, 非常時は「サバ・メシ」でおいしく栄養を, 2018.12.26

佐藤健, 河北新報, 地域の防災活動現状と課題討論 泉でリーダー研修会, 2019.6.20

佐藤健, 河北新報, 被災地復旧状況踏まえた評価を, 2019.8.10

佐藤健, WEB BUSINESS INSIDER, 武蔵小杉の台風被災で注目。タワマンは災害に弱い? 知っておくべき 6 つのこと, 2019.10.18

佐藤健, 週刊現代, 検証武蔵小杉の悲劇 地域ナンバーワンのタワマンで何が起きたか, 2019.10.28

佐藤健, 朝日小学生新聞, 在宅避難とは, 2020.1.29

佐藤健, 朝日小学生新聞, 災害時トイレはどうなる, 2020.2.5

佐藤健, 河北新報, まちの防災術学んで納得, 2020.2.7

佐藤健, 日本経済新聞, 地域防災 留学生も一緒に, 2020.3.9

佐藤健, 河北新報, 今、災害起きたら大丈夫?, 2020.3.18

佐藤健, 河北新報, 集合住宅 浸水に弱さ, 2020.3.25

菅原大助, 河北新報, 「<大川小>津波襲来、地震発生から 45~46 分後か 東北大が解析、5~6 分推定早まる」, 2018 年 11 月 5 日

牛山素行, MBC 南日本放送「MBC ニューズナウ」, 梅雨を前に 土砂災害対策を考える講演会, 2018 年 5 月 16 日.

牛山素行, TOKYO FM 「タイムライン」, FOCUS 西日本豪雨なぜ被害は広がったのか? 災害情報の観点から考える, 2018 年 7 月 9 日.

牛山素行, NHK テレビ「たっぷり静岡」 2018 年 7 月 9 日, 西日本豪雨災害関係, 2018 年 7 月 9 日.

牛山素行, 静岡朝日テレビ「とびっきりしずおか」, 西日本豪雨災害関係, 2018 年 7 月 9 日.

牛山素行, テレビ静岡「みんなのニュース しずおか」, 西日本豪雨災害関係, 2018 年 7 月 9 日.

牛山素行, SBS 静岡放送「イブアイしずおか」, 西日本豪雨災害関係, 2018 年 7 月 9 日.

牛山素行, 静岡第一テレビ「news every しずおか」, 西日本豪雨災害関係, 2018 年 7 月 9 日.

牛山素行, 日本テレビ NEWS ZERO, 広範囲で降り続いた雨 東京の年間雨量に匹敵

も,2018年7月9日.

牛山素行,NHK総合 ニュースチェック11,広範囲浸水の岡山 真備町 住民の避難めぐり課題も,2018年7月9日.

牛山素行,MBC南日本放送「MBC ニュースナウ」,西日本豪雨災害関係,2018年7月9日.

牛山素行,NHK総合 おはよう日本,岡山 倉敷真備町 避難の呼びかけは?,2018年7月10日.

牛山素行,フジテレビ FNN プライムニュース デイズ,西日本豪雨・各地で甚大な被害・西日本豪雨“平成最悪”,2018年7月10日.

牛山素行,静岡第一テレビ news every.しずおか,静大の専門家が被災地視察 西日本豪雨 広域災害の復旧の難しさ,2018年7月10日.

牛山素行,日本テレビ NEWS ZERO,難しい”避難のタイミング“どう判断? 刻々変わる情報,2018年7月10日.

牛山素行,SBS(静岡放送)ラジオ「よくばりIPPOニュース」(電話出演),西日本の豪雨被害について,2018年7月11日.

牛山素行,TBS ラジオ「荻上チキ・Session-22」(電話出演),西日本豪雨災害関係,2018年7月11日.

牛山素行,日本テレビ「NEWS ZERO」(電話出演),西日本豪雨災害関係,2018年7月11日.

牛山素行,テレビ静岡 プライムニュースしずおか,被災地 静大専門家が調査 豪雨災害被害の実態とは,2018年7月11日.

牛山素行,日本テレビ 情報ライブ ミヤネ屋,豪雨災害・専門家の現地調査に密着,2018年7月11日.

牛山素行,静岡第一テレビ news every.しずおか,閑静な住宅地が…専門家が見た被災地,2018年7月11日.

牛山素行,フジテレビ「直撃LIVEグッディ」,西日本豪雨関係,2018年7月12日.

牛山素行,フジテレビ 直撃LIVEグッディ!,豪雨 避難なぜ遅れた? 被災者の”迷い”,2018年7月12日.

牛山素行,SBS テレビ イブアイしずおか,豪雨災害の専門家は見た「静岡でも起きること」,2018年7月12日.

牛山素行,BS日テレ「深層NEWS」,豪雨被害 避難の判断迷わないために,2018年7月13日.

牛山素行,日本テレビ「バンキシャ」,西日本豪雨関係,2018年7月15日.

牛山素行,静岡第一テレビ news every.しずおか,被災地を調査 専門家が見た”異変”,2018年7月17日.

牛山素行,読売テレビ「情報ライブ ミヤネ屋」,検証「避難」を考える!常識を疑え!本当の“避難”とは?,2018年7月18日.

牛山素行,NHK総合 おはよう静岡,西日本豪雨 専門家 牛山教授に聞く,2018年7月20

日.

牛山素行,BS11 「報道ライブ インサイド OUT」,「西日本豪雨の現場は今 ソフト防災どう強化?」,2018年7月24日.

牛山素行,K-Mix(静岡エフエム放送) おひるま協同組合,大雨が降った時、どうする?考えてる?,2018年7月25日.

牛山素行,NHK「日曜討論」,「台風・猛暑 備えは」,2018年7月29日.

牛山素行,フジテレビ「報道プライムサンデー」,「台風上陸?被災地警戒」,2018年7月29日.

牛山素行,日本テレビ「真相報道バンキシャ」,台風12号西へ,2018年7月29日.

牛山素行,静岡第一テレビ「news every しずおか」,台風12号高波高潮災害関係,2018年7月30日.

牛山素行,テレビ静岡 プライムニュースしずおか,より早い情報伝達を 豪雨災害受け緊急会議,2018年7月30日.

牛山素行,NHK ニュース おはよう日本,西日本豪雨 特別警報の発表認識も避難は3%余,2018年7月31日.

牛山素行,TBS ニュース,7月の豪雨で「大雨特別警報」,“意味を適切に理解”は5割未満,2018年8月3日.

牛山素行,ANN ニュース,岡山・真備町 犠牲者の半数以上が建物内で被災,2018年8月3日.

牛山素行,NHK FM(和歌山局),ラジオ防災講座 第5回「西日本豪雨～情報は伝わったか」,2018年8月3日.

牛山素行,RCC 中国放送「RCC イマなまっ!」,7月豪雨関係,2018年8月7日.

牛山素行,静岡第一テレビ「news every しずおか」,特集西日本豪雨,2018年8月9日.

牛山素行,静岡第一テレビ news every. しずおか,レーダー解析「記録的短時間大雨情報」,2018年8月13日.

牛山素行,NHK ニュース(東海・静岡),西日本豪雨の犠牲者 屋内での洪水被害が多い傾向,2018年8月22日.

牛山素行,TBS「報道特集」,「異常気象の連鎖と防災のあり方」,2018年8月25日.

牛山素行,NHK「日曜討論」,「ニッポンの夏に何が」,2018年8月26日.

牛山素行,NHK テレビ「ニュース7」,運用開始5年「特別警報」4割近くが「警報」などと混同,2018年8月30日.

牛山素行,NHK ラジオ第一「NHK ジャーナル」,運用開始5年「特別警報」4割近くが「警報」などと混同,2018年8月30日.

牛山素行,NHK テレビ(東海北陸),ナビゲーションスペシャル「川が危ない!～命をどう守るのか～」,2018年8月31日.

牛山素行,BS日テレ「深層 NEWS」,「豪雨で東京2週間水没 250万人避難は可能か」,2018

年 9 月 3 日.

牛山素行,NHK テレビ「視点・論点」,「地域の災害特性を知ることの重要性」,2018 年 9 月 4 日.

牛山素行,TBS ラジオ「荻上チキ・Session-22」,「台風 21 号が関西を直撃。今後の影響と対策」,2018 年 9 月 4 日.

牛山素行,NHK 総合 たっぷり静岡,停電や横転の被害 専門家は,2018 年 10 月 1 日.

牛山素行,NHK 総合 たっぷり静岡,住民避難 効果的な情報発信の検討,2018 年 10 月 30 日.

牛山素行,静岡朝日テレビ とびっきり!しずおか,西日本豪雨 住民避難の遅れどうする? 初会合でアンケート実施へ 検討委「避難は自らするもの」,2018 年 10 月 30 日.

牛山素行,静岡朝日テレビ とびっきり!しずおか,「教訓 静岡 2018 台風 24 号 日頃から災害を想定して」,2018 年 12 月 24 日.

牛山素行,NHK 総合 たっぷり静岡,県委員会 西日本豪雨教訓に 災害危険性の問い合わせ窓口など提言案,2019 年 3 月 15 日.

牛山素行,静岡第一テレビ 地震・防災チェック,住民対象の防災講座,2019 年 3 月 16 日.

牛山素行,SBS 静岡放送,住民避難の実効性高めるには 有識者が提言書を提出,2019 年 4 月 24 日.

牛山素行,SBS イブアイしずおか,防災最前線 知っておきたい風水害の避難 警戒レベルが 5 段階に,2019 年 5 月 15 日.

牛山素行,TBS ラジオ「荻上チキ・Session-22」,避難勧告等ガイドラインの改定関係,2019 年 5 月 29 日.

牛山素行,静岡朝日テレビ とびっきり!しずおか,「大雨警戒レベル」運用始まる,2019 年 5 月 29 日.

牛山素行,フジテレビ系列「FNN Live News days」,新運用 避難タイミングを逃すな,2019 年 5 月 31 日.

牛山素行,テレビ静岡 NEWS web,「レベル 4」で全員避難 どう逃げるのか牛山教授に聞く 静岡,2019 年 5 月 31 日.

牛山素行,テレビ愛知「備えるあいち」,避難勧告等ガイドラインの改定について,2019 年 5 月 31 日.

牛山素行,テレビ静岡「Live news it!」,5 段階の警戒レベル運用開始,2019 年 5 月 31 日.

牛山素行,SBS(静岡放送)ラジオ「よくばり I P P O ニュース」,大雨警戒レベルについて,2019 年 6 月 5 日.

牛山素行,静岡第一テレビ「news every しずおか」,豪雨にも警戒レベル導入,2019 年 6 月 6 日.

牛山素行,NHK テレビ(静岡) たっぷり静岡,「5 段階警戒レベル わかりやすく」,2019 年 6 月 10 日.

牛山素行,NHK テレビ「あさいチ」,「知っておきたい避難のタイミング」,2019年6月13日.

牛山素行,NHKテレビ(山口) Yスペ!,「西日本豪雨1年 命を守る“率先避難”」,2019年6月14日.

牛山素行,NHK テレビ「まるっとみえ」,「伊勢湾台風を観測 旧楠町に記録用紙残る,2019年6月28日.

牛山素行,TBS ラジオ「荻上チキ・Session-22」,九州での豪雨について,2019年7月2日.

牛山素行,フジテレビ 直撃LIVE グッディ!,「命を守るために取ってほしい行動」とは? 避難時の注意点を専門家が解説!,2019年7月3日.

牛山素行,NHK テレビ「あさいチ」(視聴者コメント回答),「九州北部豪雨から2年」,2019年7月3日.

牛山素行,RCC テレビ「イマなまっ!&ニュース6」,「西日本豪雨1年」,2019年7月5日.

牛山素行,NHK テレビ「おはよう日本」,鹿児島 記録的な大雨 全域に「避難指示」で,2019年7月12日.

牛山素行,NHK NEWS WEB,“全市避難せよ!” いったいどこへ?,2019年7月30日.

牛山素行,MBS 南日本放送,地域の防災力向上を 自主防災組織リーダーが研修会,2019年8月29日.

牛山素行,NHK「日曜討論」,「相次ぐ自然災害 私たちの命をどう守る」,2019年9月1日.

牛山素行,NHK NEWS WEB,車の運転中に豪雨 どう行動すればいいのか?,2019年9月5日.

牛山素行,NHK テレビ「おはよう日本」,佐賀"防災の砦"知らされていなかった限界,2019年9月20日.

牛山素行,TBS ラジオ,台風19号関連情報 特別番組,2019年10月12日.

牛山素行,静岡朝日テレビ「とびっきり!しずおか土曜版+拡大特番」,台風19号特別番組,2019年10月12日.

牛山素行,静岡朝日テレビ「とびっきりしずおか」,台風19号関係,2019年10月14日.

牛山素行,静岡第一テレビ,台風19号関係,2019年10月14日.

牛山素行,テレビ静岡,台風19号関係,2019年10月14日.

牛山素行,TBS ラジオ「荻上チキ・Session-22」,台風19号で各地に甚大な被害。被害が拡大した地域では、何が起きたのか?,2019年10月16日.

牛山素行,NHK 静岡,静岡スペシャル「大雨特別警報 そのとき人々は」,2019年10月18日.

牛山素行,TBS ラジオ「荻上チキ・Session-22」,台風20号から変わった温帯低気圧。東日本などで大雨に警戒,2019年10月21日.

牛山素行,たっぷり静岡,どう備える?土砂災害 死角と注意点 小山町,2019年10月21日.

牛山素行,SBS テレビ ORANGE,#防災最前線 静岡でも備えを 台風19号 長野の浸水被害を現地取材,2019年10月23日.

牛山素行,NHK津「まるっと!みえ」,三重県北部での豪雨関係,2019年10月25日.

牛山素行,NHK News Watch 9,避難所が足りない,2019年10月29日.

牛山素行,NHKテレビ「おはよう日本」,被害出るとイメージしていた神奈川・長野6割,2019年10月31日.

牛山素行,TBSニュース,川の氾濫 住民に伝わらず、千葉の記録的大雨,2019年11月3日.

牛山素行,TBSラジオ「荻上チキ・Session-22」,台風19号から1カ月。被災地の今、そして調査で見えてきたこととは,2019年11月12日.

牛山素行,NHKニュース,台風19号 被災者が「住宅再建に不安」 専門家「支援制度の確認と相談を」,2019年11月12日.

牛山素行,NHKニュース,台風19号1か月 死亡者の3割が危険想定範囲外で犠牲に 地形の特徴の理解が重要,2019年11月12日.

牛山素行,NHKニュース,台風19号で死亡 15%が仕事関連 専門家「無理な出勤させないなどの対応必要」,2019年11月13日.

牛山素行,SBC信越放送,SBCスペシャル「千曲川決壊 台風19号災害から1か月」,2019年11月13日.

牛山素行,NHKニュース,台風19号被害と雨量分析 死者の9割 過去最大雨量比1.2倍超地域に集中,2019年12月12日.

牛山素行,長崎新聞,職員の残業が急増／九州北部豪雨で被災の自治体／手当支給が重荷に,2018年4月5日.

牛山素行,読売新聞,耶馬溪山崩れ 雨なのに なぜ 現場 土砂災害警戒区域,2018年4月11日.

牛山素行,信濃毎日新聞,九州北部の自治体 豪雨→残業急増→手当重荷 国の財政支援を求める声,2018年4月12日.

牛山素行,朝日新聞,(今さら聞けない+) 南海トラフ防災情報 始まった避難の指針づくり,2018年4月14日.

牛山素行,静岡新聞,要配慮者施設向け 「避難計画」促進へ研修 豪雨災害学ぶー静岡市職員,2018年4月20日.

牛山素行,河北新報,争点を語る ー大川小津波訴訟控訴審判決／(上)危険の予見／ハザードマップ頼み 静岡大防災総合センター 牛山素行教授／多忙化で防災後回し 和光大現代人間学部 制野俊弘准教授／東日本大震災の津波で児童74,2018年4月20日.

牛山素行,河北新報,大川小控訴審判決／「大変厳しい判決」／石巻市長 宮城県知事／上告 明言避ける／石巻市大川小を巡る訴訟の仙台高裁判決を受け、亀山紘石巻市長と村井嘉浩宮城県知事は26日、「大変厳しい判決」と表情をこわばら,2018年4月27日.

牛山素行,読売新聞,大川小高裁判決 学校防災の指針に 遺族、全国に波及期待＝宮城,2018年4月27日.

牛山素行,静岡新聞,時評＝土砂災害ー「前兆」頼りすぎるな,2018年5月9日.

牛山素行,読売新聞,大川小訴訟 上告可決 4差で 石巻市会 遺族、悔しさあらわ=宮城,2018年5月9日.

牛山素行,朝日新聞,(大川小津波訴訟)上告賛否、接戦4票差 石巻市議会、「承認」議案を可決 /宮城県,2018年5月9日.

牛山素行,南日本新聞,連載「潜むリスク・防災かごしま2018」下・早期避難/地域特性踏まえ判断を,2018年5月16日.

牛山素行,南日本新聞,360人が豪雨対策学ぶ/鹿児島市で土砂災害防止の集い,2018年5月17日.

牛山素行,読売新聞,災害の恐れ 直接連絡 気象台長から首長携帯に 自治体9割導入,2018年5月26日.

牛山素行,岩手日報,■識者談話■ 釜石・鶴住居津波訴訟和解へ,2018年6月9日.

牛山素行,読売新聞,大阪震度6弱 周期短い地震波 塀や家具倒れる,2018年6月19日.

牛山素行,西日本新聞,熊本県/土砂災害 進まぬ対策 豪雨禍から2年 警戒区域 県内に2万1000カ所 工事完了は4分の1/復興の音,2018年6月21日.

牛山素行,朝日新聞,(災害大国) 水害死・不明7割、浸水想定域の外 静岡大、116人分析,2018年7月2日.

牛山素行,静岡新聞,県内の要配慮者利用施設 避難確保計画作成2~3割 「多忙で理解進まず」-水害など備え義務化1年,2018年7月2日.

牛山素行,静岡新聞,時評=災害時の安全確保-状況応じた避難が鍵,2018年7月5日.

牛山素行,読売新聞,[スキャナー] 安全な避難所 確保急ぐ 町会で協定 隣接県へ誘導計画,2018年7月4日.

牛山素行,毎日新聞,クローズアップ2018:西日本豪雨(その1) 「想定外」の被害拡大 同時多発で混乱,2018年7月10日.

牛山素行,中日新聞,こちら特報部 西日本豪雨「特別警報」役に立ったか(下) 自治体の指示 後手のケースも 行動促す「最後通告」 「普段から地域の危険性知って」,2018年7月10日.

牛山素行,静岡新聞,全国降水総量 最大に 1980年以降で 「広域、多量、長時間」特徴-静岡大・牛山教授が分析,2018年7月10日.

牛山素行,中日新聞,特報 西日本豪雨 人的被害防げず 広島・安佐北区 被災者は 特別警報 よそごとじゃった 洪水警報などで「慣れっこに」,2018年7月11日.

牛山素行,秋田魁新報社,<表層深層>西日本豪雨 避難指示、難しい判断,2018年7月12日.

牛山素行,東奥日報,西日本豪雨 人命守る避難情報 タイミング難しく 空振りでも早め判断重要,2018年7月12日.

牛山素行,静岡新聞,表層深層=避難情報 いつ出すべき? 「空振り恐れず早めに」-災害時の自治体対応,2018年7月12日.

牛山素行,京都新聞,◎表層深層 避難情報 いつ出せば 西日本豪雨 続く模索、“空振り”でも 「早め判断重要に」,2018年7月12日.

牛山素行,神戸新聞,西日本豪雨 避難情報 夜間発令に迷い 自治体、移動の危険性考慮 専門家「空振り恐れず早めに」,2018年7月12日.

牛山素行,佐賀新聞,西日本豪雨自治体対応 避難勧告・指示、時機難しく,2018年7月12日.

牛山素行,沖縄タイムス,[表層深層] /避難情報 難しい判断/識者「空振りでも早めに」 /西日本豪雨 深夜に指示,2018年7月12日.

牛山素行,宮崎日日新聞,表層深層 FOCUS /西日本豪雨/深夜の避難情報タイミング 難題/「空振り」許容 求める声も/個人の支援物資待つ/一部の自治体,2018年7月12日.

牛山素行,四国新聞,表層深層=西日本豪雨 夜間の避難指示課題 移動困難/早い判断重要,2018年7月12日.

牛山素行,産経新聞,西日本豪雨 軟弱地盤、山の表面崩れ 数トンの巨大岩、民家直撃,2018年7月14日.

牛山素行,産経新聞,西日本豪雨 個人情報保護条例、緊急時は例外 人命が最優先 国も指針を,2018年7月14日.

牛山素行,北海道新聞,ハザードマップで地域の災害把握を*静岡大牛山教授が講演,2018年7月14日.

牛山素行,岩手日報,放流 間に合わなかった避難 西日本豪雨 愛媛・肱川の2ダム 津波のような濁流襲う 本県も備え必要,2018年7月14日.

牛山素行,読売新聞,西日本豪雨 キーワードで探る=特集,2018年7月15日.

牛山素行,産経新聞,西日本豪雨 雨総量553億立方メートル、過去40年で最多,2018年7月17日.

牛山素行,岩手日報,●西日本豪雨● 全国総雨量、553億立方メートル 静岡大・牛山教授調査 過去40年で最多,2018年7月17日.

牛山素行,秋田魁新報,西日本豪雨 全国雨量、過去40年最多,2018年7月17日.

牛山素行,河北新報,3日間総雨量 553億立方メートルに/概算値、過去40年で最多,2018年7月17日.

牛山素行,東奥日報,西日本豪雨/総雨量 過去40年で最多 全国、3日間で年の1割弱 静岡大試算,2018年7月17日.

牛山素行,下野新聞,雨量 過去40年で最多/3日間全国553億立方メートル,2018年7月17日.

牛山素行,中日新聞,西日本豪雨 雨量 過去40年最多 概算値 3日で全国年間1割,2018年7月17日.

牛山素行,京都新聞,◎西日本豪雨 雨総量553億立方メートル 概算値・全国 過去40

年で最多 3日で年間量の1割弱,2018年7月17日.

牛山素行,神戸新聞,西日本豪雨 総雨量 3日で年間1割分 5~7日の全国 過去40年で最多,2018年7月17日.

牛山素行,中国新聞,雨の総量553億立方メートル 3日間 過去40年で最多 年平均の1割弱か 西日本豪雨,2018年7月17日.

牛山素行,愛媛新聞,西日本豪雨 年間降水総量1割弱に相当 過去40年で最多,2018年7月17日.

牛山素行,長崎新聞,3日間総雨量553億立方メートル/概算値、過去40年で最多/全国,2018年7月17日.

牛山素行,佐賀新聞,雨の総量は553億立方メートル 過去40年で最大,2018年7月17日.

牛山素行,琉球新報,<西日本豪雨>降水総量40年で最多/72時間で年1割に匹敵,2018年7月17日.

牛山素行,宮崎日日新聞,西日本豪雨/愛媛ミカン大打撃/「発祥の地」宇和島市吉田町/急傾斜 山ごと崩落/3日間総雨量553億立方メートル/過去40年で最大全国,2018年7月17日.

牛山素行,四国新聞,雨の総量553億立方メートル 72時間概算値 過去40年で最大,2018年7月17日.

牛山素行,北海道建設新聞,道が防災・危機管理トップセミナー/市町村長ら学ぶ,2018年7月17日.

牛山素行,朝日新聞,土砂犠牲者発見地、7割弱が警戒区域 広島県まとめ 西日本豪雨【大阪】,2018年7月22日.

牛山素行,朝日新聞,西日本豪雨受け、県市町対策会議 避難情報の扱い討議 /静岡県,2018年7月31日.

牛山素行,静岡新聞,避難情報 出し方に課題 西日本豪雨受け県が緊急会議,2018年7月31日.

牛山素行,読売新聞,集落孤立 一時3万6000人 西日本豪雨 広島・愛媛,2018年8月1日.

牛山素行,朝日新聞,特別警報、「正しく把握」5割 西日本豪雨、被災3県住民調査,2018年8月2日.

牛山素行,岩手日報,異常気象 経験通じず 7月の豪雨、猛暑、逆走台風… 気象庁、危機感あらわ,2018年8月2日.

牛山素行,秋田魁新報,豪雨と猛暑、30年に1度の異常気象 気象庁・7月まとめ,2018年8月2日.

牛山素行,河北新報,異常気象 偏西風影響か/逆走台風 猛暑 豪雨/気象庁危機感/過去の経験通じず,2018年8月2日.

牛山素行,東奥日報,経験通じぬ異常気象 豪雨、猛暑→偏西風など複数要因 逆走台風→2
高気圧が進路阻む 気象庁、専門家ら危機感,2018年8月2日.

牛山素行,信濃毎日新聞,異常気象、地球に何が 記録的豪雨・連日の猛暑・逆走台風… 「自然は怖い」立ち返って,2018年8月2日.

牛山素行,静岡新聞,「経験通じぬ」気象庁危機感 偏西風、海水温 要因か 豪雨、猛暑、
逆走台風…日本、地球で何が,2018年8月2日.

牛山素行,中日新聞,豪雨、猛暑、逆走台風… 複数の要因 重なり発生 気象の常識 通用
せず,2018年8月2日.

牛山素行,京都新聞,◎7月異常気象 「経験が通用しない」 気象庁も危機感あらわ,2018
年8月2日.

牛山素行,神戸新聞,豪雨、連日の猛暑、=逆走=台風ー 「自然は怖い」再認識を 専門家
「温暖化 降雨量増に影響」,2018年8月2日.

牛山素行,佐賀新聞,豪雨、猛暑、逆走台風 気象庁「経験通じぬ」,2018年8月2日.

牛山素行,沖縄タイムス,経験通じぬ異常気象/列島 7月の豪雨・猛暑・逆走台風…/気象
庁が危機感,2018年8月2日.

牛山素行,琉球新報,豪雨、猛暑、逆走台風/経験通じず死傷者続出,2018年8月2日.

牛山素行,宮崎日日新聞,豪雨 猛暑 逆走台風/7月異常気象 30年に1度/気象庁発
表/台風12号/県内各地で一時大雨/土砂流出、鉄道乱れも/要因複数 経験通じ
ず,2018年8月2日.

牛山素行,新潟日報,猛暑続く県内 「早く雨を」農家悲鳴 生育不良対応に汗 野菜高値家
計に影響も,2018年8月2日.

牛山素行,四国新聞,「経験通じぬ」今後も 気象庁も危機感あらわ 30年に1度の異常気
象,2018年8月2日.

牛山素行,朝日新聞,死者・行方不明者、53%は屋内で被災 静岡大教授まとめ 西日本豪
雨,2018年8月3日.

牛山素行,建通新聞,県が7月豪雨で市町担当者緊急対策会議,2018年8月3日.

牛山素行,朝日新聞,緊急放流、迫る濁流 「首根っこつかんででも」避難説得 愛媛・西予、
ダム直下の地区【大阪】,2018年8月4日.

牛山素行,毎日新聞,西日本豪雨:死者・不明、屋内で被災54% 危険箇所犠牲多数,2018
年8月4日.

牛山素行,岩手日報,西日本豪雨の土砂災害犠牲者 静岡大・牛山教授調査 危険度高い地域
に多く,2018年8月4日.

牛山素行,中国新聞,災害前の長雨影響か 土砂崩れ 土壌水分30年で最大 気象協会報
告 西日本豪雨,2018年8月4日.

牛山素行,読売新聞,「大雨特別警報」理解47% ネット調査 静岡大教授分析,2018年8
月5日.

牛山素行,静岡新聞,地域の特性知り 豪雨災害に備え 静岡大牛山教授が講演,2018年8月5日.

牛山素行,岩手日報,★表層深層★ 避難率向上へ続く模索 西日本豪雨1カ月 「要支援者」犠牲多く 地域ぐるみ 共助が鍵,2018年8月6日.

牛山素行,秋田魁新報,<表層深層>西日本豪雨1カ月 逃げ遅れ、どう防ぐ 求められる「行動支援」,2018年8月6日.

牛山素行,河北新報,西日本豪雨1ヵ月/避難行動 サポートが鍵/戸別訪問で犠牲者ゼロも/「共助」構築 悩む自治体,2018年8月6日.

牛山素行,静岡新聞,表層深層=求められる 「行動支援」 戸別訪問で全員避難も-西日本豪雨きょう1カ月 ,2018年8月6日.

牛山素行,京都新聞,◎復興進むも爪痕深く 西日本豪雨1カ月 「行動支援」重要さ増す,2018年8月6日.

牛山素行,神戸新聞,西日本豪雨1カ月 移動困難、逃げ遅れ多数 高齢者避難 下支え難題 地域の交流希薄 共助体制進まず,2018年8月6日.

牛山素行,愛媛新聞,西日本豪雨 避難行動どう促す 情報提供だけでは不十分,2018年8月6日.

牛山素行,西日本新聞,地域で避難 どう構築 計画有無 分けた明暗 個人だと様子見多く 西日本豪雨1カ月,2018年8月6日.

牛山素行,熊本日新聞,表層深層=西日本豪雨から1カ月 逃げ遅れ防止へ住民共助 行政対応に限界、戸別訪問で避難も 平成30年7月豪雨,2018年8月6日.

牛山素行,長崎新聞,表層深層/西日本豪雨1カ月/情報提供と行動支援 必要/戸別訪問で全員避難例も,2018年8月6日.

牛山素行,佐賀新聞,西日本豪雨きょう1カ月 求められる「行動支援」 戸別訪問で全員避難も,2018年8月6日.

牛山素行,沖縄タイムス,土砂災害「夜と朝」に集中/甚大被害3県 犠牲者の82%/西日本豪雨 きょう1カ月,2018年8月6日.

牛山素行,琉球新報,<表層深層>西日本豪雨発生1ヵ月/求められる「行動支援」/戸別訪問奏功 全員避難区も,2018年8月6日.

牛山素行,宮崎日日新聞,表層深層 FOCUS/西日本豪雨1カ月/逃げ遅れ犠牲者相次ぐ/求められる「行動支援」,2018年8月6日.

牛山素行,四国新聞,表層深層=西日本豪雨きょう1カ月 求められる「行動支援」 戸別訪問で全員避難も,2018年8月6日.

牛山素行,神奈川新聞,表層深層/西日本豪雨1カ月/「行動支援」が必要/戸別訪問で全員避難も,2018年8月6日.

牛山素行,岩手日報,想定を超える豪雨警戒 台風13号本県接近 地球温暖化で増加,2018年8月8日.

牛山素行,読売新聞,西日本豪雨 特別警報「理解」47% 静岡大教授分析 軽く考える傾向,2018年8月14日.

牛山素行,秋田魁新報,必要な情報、瞬時に拡散 県内6市町、災害時のSNS活用進む,2018年8月17日.

牛山素行,京都新聞,◎土曜フォーカス2018 行政、説明不十分で発令 京都府内市町村の「避難準備・高齢者等避難開始」,2018年8月18日.

牛山素行,愛媛新聞,西日本豪雨 犠牲者氏名公表対応 愛媛県 基準なし 「災害ごと検討」 今回は親族の了解後に,2018年8月23日.

牛山素行,読売新聞,〔編集委員が迫る〕豪雨 危機感伝わったか 橋田俊彦氏,2018年8月25日.

牛山素行,中日新聞,スポットライト 現場 県の防災情報ポータルサイト 分かりやすく改善へ 掲載されない事例相次ぎ システム連動、表示名変更など,2018年8月26日.

牛山素行,徳島新聞,社説 防災の日,2018年9月1日.

牛山素行,読売新聞,水害避難「政治の力必要」,2018年9月4日.

牛山素行,神奈川新聞,論説・特報 連載／猛雨 東日本はいま(2)／特別警報／逃げぬ人々 効果疑問,2018年9月5日.

牛山素行,中国新聞,発生時の対応 多角分析 防災知識の有無も質問 広島市豪雨検証会議初会合,2018年9月6日.

牛山素行,神奈川新聞,論説・特報 連載／猛雨 東日本はいま(3)／予測地図／避難行動に生かせず,2018年9月6日.

牛山素行,北海道新聞,胆振東部地震 道、死者の氏名公表 及び腰 判断 市町村任せ 他県、緊急性考慮し発表,2018年9月18日.

牛山素行,建通新聞,静岡県建設業労働災害防止大会を開催,2018年10月17日.

牛山素行,毎日新聞,県：効果的な住民避難を 年度内にも対策 検討委 /静岡,2018年10月31日.

牛山素行,読売新聞,災害時「逃げ遅れ」 県が対策へ検討委=静岡,2018年11月2日.

牛山素行,朝日新聞,住民避難促す方法を提言へ 西日本豪雨受け県が検討委 /静岡県,2018年11月16日.

牛山素行,神奈川新聞,減災／警報「伝え方」改善へ／気象庁、有識者と検討／危機感高め避難後押し,2018年11月25日.

牛山素行,中国新聞,避難理由「身の危険」最多 西日本豪雨 広島市が住民アンケート 残留者「被害遭うと思わず」,2018年11月25日.

牛山素行,朝日新聞,県内30市町村が防災対策を学ぶ 盛岡で意見交換も /岩手県,2018年12月4日.

牛山素行,読売新聞,自治体 災害に備え 避難呼びかけ 工夫凝らす,2018年12月31日.

牛山素行,京都新聞,未来へ2019 災害時、どうやって逃げる? 事前に備え 慌てず行

動（特集）,2019年1月3日.

牛山素行,長崎新聞,水害に備える／危険箇所 事前に把握を／早めの避難が大切,2019年1月3日.

牛山素行,宮崎日日新聞,水害に備える／事前に調べ身を守ろう／危険知り避難早めに／分かりやすく発信／国が試み／静岡大防災総合センター／牛山素行教授／豊富な情報 賢く活用,2019年1月5日.

牛山素行,下野新聞,水害に備える／危険理解し身を守ろう／豪雨や大型台風,2019年1月6日.

牛山素行,愛媛新聞,県内豪雨半年 住民犠牲4市対応検証 遅れた避難勧告・指示 「空振り」「夜間」懸念 次の災害で逃げてもらえない 情報活用 早めの行動を,2019年1月6日.

牛山素行,静岡新聞,防災フェロー養成 受講者募る－静岡大と県、28日まで,2019年1月15日.

牛山素行,岩手日報,住民が地域特性把握を 盛岡で静岡大牛山教授 県内首長に講演,2019年1月23日.

牛山素行,河北新報,取材メモらんだむ／「避難勧告 積極的に」,2019年1月23日.

牛山素行,毎日新聞,講演:「地域知って防災を」静岡大・牛山教授 中学生が啓発寸劇も 高知／高知,2019年1月28日.

牛山素行,中日新聞,水位確認や情報提供 県の豪雨対応策議論 住民避難向上検討委,2019年1月31日.

牛山素行,岩手日報,【陸前高田】 要支援者記載など計画修正案を承認 市防災会議,2019年2月22日.

牛山素行,中日新聞,豪雨被害教訓に静大教授が講演 菊川で3日,2019年2月26日.

牛山素行,静岡新聞,近年の豪雨 状況を説明 牛山教授（静岡大防災総合センター）が講演－浜松・中区,2019年3月7日.

牛山素行,中国新聞,いのちを守る 検証 西日本豪雨 防災を学ぶ <3> 自治体職員「専門家」育成の動き 対応力 安全を左右,2019年3月8日.

牛山素行,岩手日報,★忘れない 東日本大震災8年 遺族アンケート★ 強い危機意識,2019年3月9日.

牛山素行,静岡新聞,時評＝命つないだ気仙中－津波想定 地道な訓練,2019年3月14日.

牛山素行,毎日新聞,住民避難実効性向上検討委:住民向け相談窓口を 災害危険性、県提言へ／静岡,2019年3月16日.

牛山素行,静岡新聞,住民避難支援へ10施策 県検討委が提言書－マイタイムライン（松岡雷太／社会部）,2019年3月16日.

牛山素行,中日新聞,豪雨時住民避難 あり方検討 小中防災授業・避難訓練強化など,2019年3月16日.

牛山素行,静岡新聞,研修連携、受講者増へ 防災フェロー養成講座シンポ-静岡,2019年3月17日.

牛山素行,中日新聞,豪雨時注意喚起で提言書 住民避難検討委、県に提出,2019年4月24日.

牛山素行,朝日新聞 論座 RONZA,防災最前線 知っておきたい風水害の避難 警戒レベルが5段階に,2019年5月1日.

牛山素行,国土交通省ウェブマガジン Grasp vol.6,激甚化する自然災害にいかに向き合うか。【前編】 正解なき防災と向き合う 災害の実像をとらえて行動を,2019年5月14日.

牛山素行,国土交通省ウェブマガジン Grasp vol.6,激甚化する自然災害にいかに向き合うか。【後編】 正解なき防災と向き合う 災害の実像をとらえて行動を,2019年5月21日.

牛山素行,静岡新聞,時評=警戒レベル4で「避難」-能動的な行動を促す,2019年5月22日.

牛山素行,ニュースイッチ日刊工業新聞 web,「防災情報を『分かりやすく』』という考えはかなり注意が必要,2019年5月22日.

牛山素行,北日本新聞,豪雨防災に理解深める 高岡市防災講演会,2019年5月30日.

牛山素行,北國新聞,豪雨災害の事例学ぶ 高岡で防災講演会,2019年5月30日.

牛山素行,静岡新聞,大規模氾濫 減災へ 取り組み紹介や講演 沼津(山下奈津美/東部総局),2019年6月5日.

牛山素行,茨城新聞,《広角レンズ》逃げ遅れゼロへ 水害の備え明確化,2019年6月16日.

牛山素行,読売新聞,「スキャナー」警戒レベル 避難の心得 豪雨で意識向上 「慣れ」懸念,2019年6月16日.

牛山素行,秋田魁新報,地震情報提供に差 由利本荘は発信なし、にかほは緊急メール,2019年6月20日.

牛山素行,京都新聞,災害時 氏名公表基準を 死者・不明者 知事会、国に提言へ,2019年6月21日.

牛山素行,神戸新聞,不明者氏名 公表基準を 災害時、国に策定要望へ 全国知事会,2019年6月21日.

牛山素行,静岡新聞,災害時の不明者 氏名公表基準を 全国知事会 国に提言へ 個人情報…判断難しく,2019年6月21日.

牛山素行,熊本日日新聞,人命優先、独自基準も 災害不明者公表の知事対応 西日本豪雨が契機、積極姿勢に転換 知事アンケート 安否不明者名公表、6割前向き,2019年6月26日.

牛山素行,産経新聞,捜索迅速化、安否確認に必要 静岡大・牛山素行教授(災害情報学),2019年6月26日.

牛山素行,神戸新聞,自治体の不明者公表 「西日本豪雨」機に積極姿勢 岡山 無事多数確認 捜索進む,2019年6月26日.

牛山素行,静岡新聞,悩む自治体、国も関与を 静岡大防災総合センター 牛山素行教授 安否不明者の氏名公表,2019年6月26日.

牛山素行,東奥日報,不明者氏名公表で知事側 西日本豪雨機に積極姿勢 独自基準決めた県も,2019年6月26日.

牛山素行,朝日新聞,(西日本豪雨1年)浸水、8時間の連鎖 被害情報届かず犠牲も 岡山・真備 【大阪】 ,2019年7月4日.

牛山素行,読売新聞,[豪雨1年 備え](中)伝える 危機感訴え 避難促す(連載)＝岡山,2019年7月4日.

牛山素行,毎日新聞,九州大雨：土砂崩れ民家倒壊 80代女性連絡取れず 鹿児島,2019年7月4日.

牛山素行,神奈川新聞,減災新聞 知る深める／「防災担当職員育成を」／専門家、セミナーで訴え<面名＝暮らし>,2019年7月7日.

牛山素行,静岡新聞,時評＝大雨の際の避難行動 流れる水に近づくな,2019年7月18日.

牛山素行,日本経済新聞,九州豪雨、避難率は1%未満——いつ避難「警戒レベル」難解?、同地域で異なる情報混在も(真相深層),2019年7月26日.

牛山素行,佐賀新聞,59万人避難指示妥当? 鹿児島市、大雨対応を検証,2019年8月19日.

牛山素行,日本経済新聞,鹿児島市、大雨対応検証へ、59万人、全員避難指示、避難所の定員超、増水した川渡る。 ,2019年8月19日.

牛山素行,東奥日報,消防団 自分の命も守る 東日本大震災で11人殉職 岩手・大槌、高台に待避所,2019年9月1日.

牛山素行,静岡新聞,殉職11人 岩手・大槌詰め所再建 消防団員の命守り 防災,2019年9月6日.

牛山素行,神奈川新聞,猛雨 命守るために 【6】／消すまい土地の記憶／継承<面名＝総合>,2019年9月8日.

牛山素行,読売新聞,常総水害4年 復旧工事の進捗率65% 国交省 来年度末、完了目指す＝茨城,2019年9月11日.

牛山素行,北海道新聞,19日に豪雨災害考えるセミナー,2019年9月14日.

牛山素行,静岡新聞,時評＝災害教訓に学ぶ難しさ 多くの事例収集重要,2019年9月18日.

牛山素行,河北新報,学校防災の礎に／大川小遺族の勝訴確定／「不備を改善して」 「救えた命だった」－,2019年10月12日.

牛山素行,岩手日報,早め早めの避難重要 台風19号接近 就寝時に災害恐れも,2019年10月12日.

牛山素行,京都新聞,表層深層 事前防災要求 学校戸惑い 大川小訴訟終結 マニュアル

は入り口 形式的訓練から転換を,2019年10月12日.

牛山素行,熊本日日新聞,表層深層＝大川小訴訟、学校・行政に責任 「子ども守れ」続く模
索 高水準の防災、現場に戸惑い 大川小、児童遺族の勝訴確定,2019年10月12日.

牛山素行,山陽新聞,識者談話 大川小 防災過失責任確定 組織内の人材教育を自治体
に厳しい決定,2019年10月12日.

牛山素行,西日本新聞,読み解く＝学校の防災 続く模索 大川小遺族 勝訴確定 小中高
97%マニュアル策定 司法高い要求 現場戸惑い 東日本大震災,2019年10月12日.

牛山素行,中国新聞,犠牲児童の「声」支えに 大川小津波訴訟 遺族が勝訴 代表「一つの
通過点」,2019年10月12日.

牛山素行,中日新聞,津波で児童犠牲「対策に不備」 大川小 遺族の勝訴確定 最高裁、
市県の上告棄却,2019年10月12日.

牛山素行,北海道新聞,<フォーカス>大川小訴訟「事前防災の不備」認定*「子ども守る」
問われた原点*高水準の対策 戸惑う現場,2019年10月12日.

牛山素行,スポーツ報知,静岡朝日テレビ「とびっきり!しずおか」が異例の6時間台風生放
送,2019年10月13日.

牛山素行,毎日新聞,台風19号:台風19号 漏電・感染、厳重警戒 被害撮影、片付け前
に,2019年10月15日.

牛山素行,岩手日報,●台風19号● 増水、滞留しやすい場所 堤防決壊被害 長野の被災
地分析,2019年10月16日.

牛山素行,京都新聞,台風19号 降水量と川幅 複合要因 専門家が検証 千曲川決壊
新幹線基地 「冠水想定、難しい」,2019年10月16日.

牛山素行,北海道新聞,<フォーカス>インフラで防災 限界に*台風19号 各地で堤防
決壊*気候変動へ対応遅れ,2019年10月16日.

牛山素行,佐賀新聞,半数超、水害で死亡か 犠牲の77人、複合被害 台風19号,2019年
10月17日.

牛山素行,山陽新聞,台風犠牲77人 半数超 水害原因か,2019年10月17日.

牛山素行,産経新聞,台風19号、12都県 死者77人 犠牲者半数、水害で死亡か,2019
年10月17日.

牛山素行,四国新聞,犠牲半数超、水害死因か 台風19号 土砂災害原因も多数,2019年10
月17日.

牛山素行,新潟日報,台風19号 半数超が水害で犠牲か 土砂崩れ原因も,2019年10月17
日.

牛山素行,神戸新聞,台風浸水 2万3000ヘクタール超 19号、西日本豪雨超え 死者
過半数「水害」 犠牲77人、不明15人,2019年10月17日.

牛山素行,神奈川新聞,台風19号/水害で半数超死亡か/犠牲者の検証不可欠<面名＝総
合>,2019年10月17日.

牛山素行,西日本新聞,台風犠牲 6割が水害 土砂崩れも、被害多岐に,2019年10月17日.
牛山素行,中国新聞,半数以上 水害で死亡か 台風19号 土砂崩れ原因も,2019年10月17日.
牛山素行,長崎新聞,台風19号/半数超 水害で死亡か/死者77人 詳細な検証不可
欠,2019年10月17日.
牛山素行,東奥日報,半数超 水害で死亡か 土砂災害の犠牲も二桁 複合被害浮き彫り,2019年10月17日.
牛山素行,読売新聞,[スキャナー] 浸水想定 生かせず 台風19号 「自分は大丈夫」 逃げ遅れ,2019年10月17日.
牛山素行,読売新聞,台風 車中で犠牲21人 死者78人中 夜間避難・移動中,2019年10月17日.
牛山素行,岩手日報,★表層深層★ 公表少数「異様な状況」 台風19号の死者氏名 「教訓得られない」 懸念,2019年10月18日.
牛山素行,宮崎日日新聞,表層深層 FOCUS/台風19号/死者名公表 少なさ「異様」/過度な秘匿 検証に懸念,2019年10月18日.
牛山素行,佐賀新聞,=表層深層=台風19号の死者氏名 公表数「異様」な少なさ 「教訓得られない」 不安視も,2019年10月18日.
牛山素行,山陽新聞,表層深層 台風19号 犠牲者公表 4県のみ 専門家「教訓伝わらず」,2019年10月18日.
牛山素行,四国新聞,表層深層=台風19号 死者氏名、公表少なく 「教訓得られない」 懸念も,2019年10月18日.
牛山素行,秋田魁新報,台風19号被害 死者氏名扱い、割れる判断 公表4県「異様」な少なさ 専門家「教訓伝わらない」と懸念,2019年10月18日.
牛山素行,新潟日報,台風19号 特定非常災害指定へ 特例措置で被災者救済 6例目、きょう決定,2019年10月18日.
牛山素行,神戸新聞,台風19号で自治体 犠牲者名 非公表が大半,2019年10月18日.
牛山素行,神奈川新聞,表層深層/台風19号の犠牲者氏名/公表数の少なさ「異様」/検証や教訓得られぬ懸念も,2019年10月18日.
牛山素行,中日新聞,12都県割れる判断、危ぶむ識者 氏名公表数 21 台風死者数 77 災害の検証など困難に 恐ろしさ伝わりにくく,2019年10月18日.
牛山素行,長崎新聞,表層深層/台風19号の死者氏名/公表数「異様」な少なさ/専門家 過度の秘匿 不安視,2019年10月18日.
牛山素行,東奥日報,台風19号の死者氏名 公表数「異様」な少なさ 12都県77人中4県21人のみ 「検証できぬ」と懸念も,2019年10月18日.
牛山素行,毎日新聞,台風19号:台風19号 死者4割、住宅内 車で移動中3割 避難遅れ深刻,2019年10月18日.

牛山素行,琉球新報,<表層深層>台風19号/死者の氏名公表 「異様」な少なさ/「教訓
得られない」懸念も,2019年10月18日.

牛山素行,産経新聞,命守るための適切な避難は 防災情報と組み合わせ重要,2019年10月
19日.

牛山素行,信濃毎日新聞,台風19号1週間 静岡大防災総合センター・牛山素行教授に聞く
降水量「流域全体」で見る必要,2019年10月19日.

牛山素行,中国新聞,犠牲者名公表 異様な少なさ 台風19号被災都県 判断割れる 「教
訓得られない」 懸念の声,2019年10月19日.

牛山素行,読売新聞,台風19号 信濃川3地点 最高水位記録 時間差で氾濫 危険も＝
新潟,2019年10月19日.

牛山素行,愛媛新聞,避難の在り方 活発議論 高松で災害情報学会大会,2019年10月20日.

牛山素行,朝日新聞,不明者は原則公開 災害時の個人情報公表 県が方針策定 /山梨
県 ,2019年10月24日.

牛山素行,愛媛新聞,千葉豪雨 もうこの家に住めない 重なる災害 住民悲痛,2019年10
月27日.

牛山素行,沖縄タイムス,続く大雨 生活ずたずた/子ども1200人が帰宅できず/識者
「学校待機も選択肢」,2019年10月27日.

牛山素行,沖縄タイムス,[表層深層]豪雨災害 高まるリスク/専門家「強い危機感を」/
台風21号 低気圧刺激,2019年10月27日.

牛山素行,河北新報,台風19号/東日本で記録的大雨/復旧の途上 災害連鎖/千葉 1
200人 下校困難に復旧の途上 災害連鎖/高まるリスク 常識が通じず,2019年10
月27日.

牛山素行,岩手日報,豪雨 児童ら1200人帰宅困難に 千葉 教室や体育館で一夜,2019
年10月27日.

牛山素行,岩手日報,★表層深層★ 豪雨災害 高まるリスク 専門家、情報収集訴え,2019
年10月27日.

牛山素行,宮崎日日新聞,帰宅困難子ども1200人/専門家/「学校待機も重要な選択
肢」,2019年10月27日.

牛山素行,佐賀新聞,〈千葉・福島豪雨〉児童生徒、学校で一夜 無理に帰宅させず,2019年
10月27日.

牛山素行,佐賀新聞,表層深層 豪雨災害 高まるリスク 台風21号 常識、経験頼らず
「強い危機感を」,2019年10月27日.

牛山素行,山陽新聞,千葉、福島豪雨 「またか」住民悲痛 水の恐怖 途方に暮れる/雨量
想定外 学校で一夜 「待機も重要」 専門家指摘,2019年10月27日.

牛山素行,四国新聞,下校困難相次ぐ 学校で一夜,2019年10月27日.

牛山素行,四国新聞,表層深層＝相次ぐ豪雨災害 常識、経験通じず 専門家「強い危機感

を」,2019年10月27日.

牛山素行,秋田魁新報,記録的大雨 相次ぐ被害「もう散々」,2019年10月27日.

牛山素行,秋田魁新報,<表層深層>相次ぐ豪雨災害 高まるリスク、想定外も 台風それでも被害甚大,2019年10月27日.

牛山素行,信濃毎日新聞,関東・東北記録的大雨 千葉中心、氾濫・土砂崩れ 復旧途上、新たな猛威 温暖化背景、高まるリスク,2019年10月27日.

牛山素行,西日本新聞,読み解く＝豪雨続発 通じぬ「常識」 千葉、福島 記録的大雨 時間50ミリ 30年で1.4倍 温暖化一因「強い危機感を」,2019年10月27日.

牛山素行,西日本新聞,千葉 1200人が下校できず 児童生徒、学校で一夜 記録的大雨,2019年10月27日.

牛山素行,静岡新聞,表層深層＝台風上陸なしでも豪雨 温暖化 高まるリスク 千葉中心に被害,2019年10月27日.

牛山素行,千葉日報,突然の豪雨、下校困難に 専門家「学校待機も重要」 【房総豪雨】,2019年10月27日.

牛山素行,千葉日報,表層深層 常識通じぬ豪雨災害 台風上陸しなくても猛威 実証 専門家「危機感高めて」,2019年10月27日.

牛山素行,中日新聞, 核心 「豪雨警戒 ハードル下げて」 台風21号 上陸なくとも甚大被害 今後も増加 常識や経験頼れない,2019年10月27日.

牛山素行,中日新聞,上陸なくとも 千葉再び台風禍 21号 海上から暖かく湿った空気 豪雨への危機感「ハードル下げて」,2019年10月27日.

牛山素行,長崎新聞,表層深層／相次ぐ豪雨災害／リスク上昇 専門家警鐘／1時間50ミリ以上、増加傾向,2019年10月27日.

牛山素行,徳島新聞,記録的豪雨 千葉・福島死者10人に 5県27河川で堤防越水,2019年10月27日.

牛山素行,琉球新報,<表層深層>豪雨10人死亡／水害、高まるリスク／専門家「強い危機感を」,2019年10月27日.

牛山素行,毎日新聞,記録的大雨：大雨2人死亡 千葉・長柄 避難指示、悩んだ町 2次災害懸念、発令せず,2019年10月28日.

牛山素行,読売新聞,千葉大雨 土砂崩れ 警戒区域外で 死亡現場 県の指定率 最下位,2019年10月29日.

牛山素行,産経新聞,台風犠牲、控える氏名公表 統一基準なく、自治体判断分かれ,2019年10月30日.

牛山素行,岩手日報,●台風19号● 台風接近…77%「予定変更」 19号で神奈川、長野、静岡の住民 牛山・静岡大教授（元県立大准教授）が調査,2019年10月31日.

牛山素行,四国新聞,77%が「予定変更」 台風19号接近 神奈川、長野、静岡の住民 事前注意喚起、一定の効果,2019年10月31日.

牛山素行,信濃毎日新聞,台風19号上陸前日 洪水想定、長野の住民2割 警戒、他県より薄かったか 静岡大・牛山教授、3県住民アンケート,2019年10月31日.

牛山素行,静岡新聞,台風接近 「予定変更」8割 静大・牛山教授調査 県内回答者,2019年10月31日.

牛山素行,中日新聞, のまれた車「家に居れば…」 栃木・足利の女性死亡 浸水区域外で被害多発 ハザードマップ見直し急務,2019年11月2日.

牛山素行,岩手日報,台風脅威 警戒忘れず 牛山静岡大教授(元県立大准教授)19号解説 早め避難へ事前の理解,2019年11月4日.

牛山素行,読売新聞,実名公表 自治体に差 台風19号 犠牲者 識者「教訓に氏名重要」,2019年11月4日.

牛山素行,信濃毎日新聞,台風19号緊急県民意識調査 識者2氏に聞く,2019年11月6日.

牛山素行,朝日新聞,「洪水の恐れ」認識、台風19号では3割 神奈川・長野・静岡、住民アンケート,2019年11月7日.

牛山素行,静岡新聞,河川ごとにリスク確認 牛山素行氏に聞く 静岡大防災総合センター教授・副センター長,2019年11月12日.

牛山素行,読売新聞,台風19号 長野 被害想定住民3割 意識調査 神奈川、静岡は6割,2019年11月12日.

牛山素行,読売新聞,台風19号 被害を予想 住民の3割 意識調査=長野,2019年11月13日.

牛山素行,静岡新聞,時評=直近の災害事例に強い関心 広い視点から議論を,2019年11月14日.

牛山素行,静岡新聞,豪雨災害から防災考える 静岡大牛山教授が講演 東区-浜松,2019年11月21日.

牛山素行,中日新聞,豪雨防災 事例に学ぼう 牛山・静大教授が東区で講演 情報理解 活用し行動,2019年11月21日.

牛山素行,中日新聞,こちら特報部 台風・豪雨に見る避難の「壁」(下) 防災情報 どう伝える 教授らが調査 15号の停電印象強く 19号 洪水意識は3割 61年前の「狩野川」例示 6割がイメージわかず,2019年11月22日.

牛山素行,朝日新聞,(災害大国 いのちを守る) 迫る豪雨、いつ避難 ,2019年11月25日.

牛山素行,静岡新聞,発災時 自治体リーダー育成 県庁 職員対象の講座開始,2019年11月29日.

牛山素行,岩手日報,★特命記者 あなたの疑問 徹底解明★ Lアラートに遅れ 市町村発信の避難情報 多忙で手回らず 入力方法に課題,2019年12月1日.

牛山素行,日本農業新聞,災害時 活躍できる職員に 救助法や復興支援自治体で養成講座 内閣府,2019年12月26日.

牛山素行,信濃毎日新聞,台風19号 静岡大教授、10月の長野県民ら調査 警戒、他県よ

り薄かったか,2020年1月4日.

牛山素行,静岡新聞,時評=住まい選びの条件 「防災最優先」は困難,2020年1月29日.

牛山素行,神奈川新聞,減災新聞 第433号 検証/台風19号の注意喚起/「狩野川」例示 効果に差/「ミスリードの可能性」も,2020年2月2日.

牛山素行,静岡新聞,台風被害の特徴解説 静岡大 牛山教授が防災講演 中区-浜松,2020年2月12日.

牛山素行,岩手日報,★忘れない 東日本大震災9年 遺族アンケート★ 津波だけじゃない ハザードマップ 少ない活用 「一定の予測」は役立つ,2020年3月9日.

牛山素行,静岡新聞,時評=災害への備えは人それぞれ 個々に必要性考えて,2020年3月26日.

山崎 登,NHK 教育テレビ,命を守る防災情報,2018年3月10日放送.

山崎 登,文化放送,防災アワー,2020年1月5日,12日,19日,26日.

矢守克也 コロナと防災 ニュースなラヂオ MBS ラジオ 2020/03/30

矢守克也 コロナ禍と南海トラフ地震臨時情報 NHK ラジオ ぼうさいコラム 2020/3/26

矢守克也 「次善の避難先確保を」(列島を歩く:豪雨から命を守る取り組み) 朝日新聞 2020/03/24

矢守克也 「おうみ発スペシャル しが!!防災応援団 今から備えよう!ことしの大雨」 NHK 総合 2020/3/15

矢守克也 かごスピススペシャル「命を守る避難とは~巨大災害時代にどう備える~」NHK 鹿児島 2020/3/13

矢守克也 レギュラーコメンテーター ラジオ関西「時間です!林編集長」 2020/3/11

矢守克也 変わる災害避難対策、増えるペット同伴者 産経新聞 2020/3/5

矢守克也 豊かな「縮小・楽着的復興」を くまにち論壇 熊本日日新聞 2020/3/1

矢守克也 日本の防災教育 もっと世界へ 朝日新聞 2020/2/25

矢守克也 減災:津波からの避難 逃げる先「高く」が鉄則 読売新聞 2020/02/23

矢守克也 巨大災害からの避難考えるシンポ NHK 鹿児島ニュース 2020/2/10

矢守克也 警戒すべき雨量記録の「更新」 くまにち論壇 熊本日日新聞 2020/2/2

矢守克也 基調講演「平成の災害に学ぶ」次世代につなぐ防災&減災フォーラム 産経新聞 2020/01/31

矢守克也 あなたの大切なものは何ですか NHK ラジオ ぼうさいコラム 2020/1/30

矢守克也 阪神・淡路大震災 25年特別番組「バトン 1.17:あなたへ」 サンテレビ 2020/01/17

矢守克也 サバカン!災害時の知恵工夫」 ぐるっと関西おひるまえ NHK テレビ 2020/01/17

矢守克也 「25 Years after the Great Hanshin-Awaji Earthquake: Learning from the

Experience through a Card Game」NHK Radio World-Japan. 2020/01/17

矢守克也 「論点：阪神・淡路大震災から 25 年」 毎日新聞 2020/01/17

矢守克也 「阪神・淡路大震災 25 年：備えよ、南海トラフ地震」（対談） 産経新聞
2020/01/17

矢守克也 「阪神・淡路大震災 25 年滋賀で生かせる教訓とは」NHK ニュース「おうみ発
630 しが!!防災応援団」 2020/1/16

矢守克也 「阪神・淡路大震災 25 年：災害多発教訓はいま」 産経新聞 2020/1/15

矢守克也 レギュラーコメンテーター ラジオ関西「時間です！林編集長」 2020/1/13

矢守克也 「大切なもの」が育む防災意識 くまにち論壇 熊本日日新聞 2020/1/5

矢守克也 震災、建物解体、アスベスト…「正解のない問い」に向き合う 防災教材クロ
スロード作成 毎日新聞 2020/1/4

矢守克也 「避難後の『安心』にも配慮を」 産経新聞 2019/12/16

矢守克也 「新幹線のリスク」日本経済新聞 2019/12/15

矢守克也 逃げ時、避難所、事前に決めて 県検討会が提言 2019/12/13

矢守克也 巨大地震あなたの町の“地域リスク” NHK 体感首都直下地震ウィーク
2019/12/6

矢守克也 2019 年の災害をふりかえる NHK ラジオ ぼうさいコラム 2019/12/5

矢守克也 災害の一年「命を守る行動を」 くまにち論壇 熊本日日新聞 2019/12/1

矢守克也 命を守る津波避難訓練を NHK 静岡「防災ボイス」(2019/11)

矢守克也 日頃から避難路の確認を NHK 静岡「防災ボイス」(2019/11)

矢守克也 少しでも高い場所を目指す NHK 静岡「防災ボイス」(2019/11)

矢守克也 まずは玄関先まで避難を NHK 静岡「防災ボイス」(2019/11)

矢守克也 正常性バイアスを克服する NHK 静岡「防災ボイス」(2019/11)

矢守克也 「津波てんでんこ」で命を守る NHK 静岡「防災ボイス」(2019/11)

矢守克也 地域における津波防災の取り組みと地域防災計画の役割について 建設通信新
聞 (2019/11/5)

矢守克也 ふだんとまさか結ぶ台湾防災 くまにち論壇 熊本日日新聞 2019/11/3

矢守克也 台湾水土保持局自主防災 2.0 計画記念行事開催 台湾テレビ台視新聞ニュース
2019/10/30

矢守克也 Taking precautions against severe flood. NHK WORLD “News Room Tokyo”
2019/10/23

矢守克也 電気依存の利便性見直しを くまにち論壇 熊本日日新聞 2019/10/6

矢守克也 自主避難所、どう確保 読売新聞 2019/10/3

矢守克也 オープンサイエンスと防災 NHK ラジオ ぼうさいコラム 2019/9/25

矢守克也 いのちを守る自主防災シンポジウム／滋賀 びわ湖放送ニュース
2019/09/15

矢守克也 大水害が都市を襲う～台風の猛威にどう備えるか NHK テレビ「かんさい熱視線」 2019/09/06

矢守克也 防災ラジオ特集「防災応援団、命を守る避難とは」 NHK ラジオ 2019/9/2

矢守克也 災害記念日報道の光と影 くまにち論壇 熊本日日新聞 2019/9/1

矢守克也 南海トラフ地震臨時情報：いつ、どこに避難するか、事前に計画を 神戸新聞 2019/09/01

矢守克也 令和の防災、住民主体に（伊勢湾台風 60 年） 産経新聞 2019/9/1

矢守克也 楽しみながら防災学ぶ 日本経済新聞 2019/8/31

矢守克也 減災：避難スイッチ、逃げる判断基準事前に 読売新聞 2019/8/25

矢守克也 「大雨避難のヒント～プロが教える避難のタイミング」（しが！！防災応援団～大雨避難のヒント。命を守る避難とは？） NHK テレビ「ニュースおうみ発 630」 2019/08/29

矢守克也 市民による科学で意識改革を くまにち論壇 熊本日日新聞 2019/8/4

矢守克也 サバカン「避難スイッチ」 NHK テレビ「ぐるっと関西おひるまえ」 2019/7/29

矢守克也 避難スイッチとセカンドベスト NHK ラジオ ぼうさいコラム 2019/7/25

矢守克也 災害から逃げ遅れない判断を：「避難スイッチ」明確に 毎日新聞 2019/7/24

矢守克也 西日本豪雨から 1 年：一人一人の心に避難スイッチ 産経新聞「偏西風」 2019/7/20

矢守克也 空振りには命を守る“素振り” 毎日新聞 2019/7/9

矢守克也 市民が判断できる仕組みを 毎日新聞 2019/7/9

矢守克也 防災対策：空振りには命を守る“素振り” 西日本新聞 2019/7/9

矢守克也 避難した経験がいざというときに役立つ リビング京都 1989 号（2019/7/6）

矢守克也 セカンドベストの訓練を くまにち論壇 熊本日日新聞 2019/7/7

矢守克也 「避難スイッチ」設定進む、次善避難場所も考えて 読売新聞 2019/7/7

矢守克也 地域を守るだんじり防災 産経新聞 2019/7/3

矢守克也 西日本豪雨 1 年 本気で訓練 意識向上し命救う 日本経済新聞 2019/7/3

矢守克也 西日本豪雨 1 年 避難よびかけ効果道半ば 日本経済新聞 2019/7/3

矢守克也 地震仕組み、児童学ぶ 京都新聞 2019/6/19

矢守克也 都市災害から守る（上）子どもが被災、親は…巨大地震備え、学校手探り 産経新聞 2019/6/18

矢守克也 いつか来る日のために：証言記録スペシャル「雨季到来！いまずぐ役立つ豪雨対策」 NHK 総合 2019/6/16

矢守克也 避難先の選択肢増やす（検証豪雨災害：晴れの国の試練） 山陽新聞 2019/6/16

矢守克也 「リスクの連鎖 想定内の備え、徹底を」 河北新報 2019/6/14

矢守克也 避難開始の引き金に（検証豪雨災害：晴れの国の試練） 山陽新聞 2019/6/7

矢守克也 識者インタビュー「“避難スイッチ”を設けて」（検証豪雨災害：晴れの国の試

練) 山陽新聞 2019/6/4
矢守克也 命を守る“避難のスイッチ”で迷わず早めの避難を NHK ニュースおはよう日本 2019/6/4
矢守克也 情報の意義示す昭和の風水害 くまにち論壇 熊本日日新聞 2019/6/2
矢守克也 気象警報など情報5段階レベル化 NHK ニュースほっと関西 2019/5/30
矢守克也 豪雨：レベル別情報開始 日本経済新聞 2019/05/30
矢守克也 防災業界の統計数字問題 NHK 関西ラジオワイド「ぼうさいコラム」2019/5/30
矢守克也 災害警戒情報が分かりやすく、「住民自ら避難」促す 朝日新聞 2019/5/27
矢守克也 SBS スペシャル：未完の避難情報 南海トラフ地震立ちはだかる壁 SBS 静岡放送 2019/5/27
矢守克也 避難訓練スマホで実践 「逃げトレ」津波時の課題体感 神戸新聞 2019/5/20
矢守克也 ラジオで防災応援トーク 災害情報レベル化でどう変わる NHKFM ラジオ 2019/5/17
矢守克也 今日のノート「奇妙な避難訓練」 読売新聞 2019/5/11
矢守克也 しが！！防災応援団～大雨災害から命を守る“避難”についてヒント NHK ニュースおうみ発 630 2019/5/9
矢守克也 西日本豪雨：フォーラムを前に〈1〉モデルづくり 中国新聞 2019/5/8
矢守克也 災いしのぎ恵み受ける時代に くまにち論壇 熊本日日新聞 2019/5/5
矢守克也 避難情報発信のアプリ運用へ 県が災害対策 朝日新聞 2019/4/25
矢守克也 憂楽帳「避難スイッチ」 毎日新聞 2019/4/24
矢守克也 災害前に避難「スイッチ」決める ニュースほっと関西 NHK 2019/4/23
矢守克也 津波避難訓練アプリ「逃げトレ」 「News ミント！」 毎日放送 2019/4/23
矢守克也 クロスロード熊本編お披露目 NHK ニュース「クマロク！」 2019/4/19
矢守克也 前日の意味 新生面 熊本日日新聞 2019/4/16
矢守克也 「助」の範囲踏み出そう（熊本地震3年特集） 熊本日日新聞 2019/4/14
矢守克也 責任範囲や分担超えた連携を くまにち論壇 熊本日日新聞 2019/4/7
矢守克也 ダブル戦論点 2019④「災害への備え」 産経新聞 2019/3/31
矢守克也 アプリ駆使 津波を実感（京都大学附置研・センター第14回シンポ） 読売新聞 2019/3/30
矢守克也 南海トラフ地震を想定したアプリ「逃げトレ」が挑む 脱！マニュアル避難訓練！！ ザッツ京大 2019/3/28
矢守克也 日曜「くまにち論壇」4月から新執筆陣 熊本日日新聞 2019/3/28
矢守克也 京の防災：避難スイッチを決める NHK ニュース（京都） NHK テレビ 2019/3/26
矢守克也 「私たちの町には美術館がありません、美しい砂浜が美術館です」 ちょっといい話 ABC ラジオ 2019/3/24

矢守克也 黒潮町意識調査 防災先進地 なお認識に温度差 産経新聞 2019/3/19
 矢守克也 防災すごろくで地域防災 NHK 高知 こうち情報いちばん 2019/3/18
 矢守克也 被災者支援「息長く」 熊本地震復興再生会議第 8 回シンポ 熊本日日新聞
 2019/3/17
 矢守克也 東日本大震災 8 年「列島、減災に挑む」 日本経済新聞 2019/3/11
 矢守克也 津波からの避難 スマホで訓練 京都新聞 2019/3/10
 矢守克也 特集「明日へつなげよう～震災から 8 年～」(第 1 部「東北のいま」& 第 2 部「大
 切な命を守るために」) NHK テレビ 2019/3/10
 矢守克也 南海トラフ巨大地震から命を守る～平成の“記憶”を新時代へ～ NHK 四国ら
 しんばん NHK テレビ 2019/3/8
 矢守克也 震災の教訓を後世に語り継ぐには NHK 和歌山ラジオ防災講座 (第 12 回)
 NHK ラジオ (和歌山) 2019/3/8
 矢守克也 統計依存と主観的判断の喪失 くまにち論壇 熊本日日新聞 2019/3/3
 矢守克也 ラジオ防災特番 南海地震に備えちよき～防災教育を考える～ NHK ラジオ
 (高知) 2019/2/23
 矢守克也 「犠牲者ゼロ 自主防災の力」 朝日新聞 2019/2/18
 矢守克也 「屋内避難訓練」 ちょっといい話 ABC ラジオ 2019/2/3
 矢守克也 「地震臨時情報生かせ」高知新聞 2019/2/3
 矢守克也 「元通りにする力」の危機 くまにち論壇 熊本日日新聞 2019/2/3
 矢守克也 「阪神・淡路の体験、何を伝えるか」 NHK 関西ラジオワイド「ぼうさいコラ
 ム」 2019/1/31
 矢守克也 災害時の訪日客、SNS で救う 日本経済新聞 2019/1/18
 矢守克也 対談：阪神級の内陸地震備えて 産経新聞 2019/1/17
 矢守克也 逃げるを突き詰める 4 防災スイッチ 神戸新聞 2019/1/16
 矢守克也 地域の安全、住民が守る 読売新聞 2019/1/12
 矢守克也 「前日」に宿る被災の真の意味 くまにち論壇 熊本日日新聞 2019/1/6
 矢守克也 「ことしの災害を振り返る～来年の防災につなげるには?～」 NHKFM 「し
 が!!防災応援ラジオ」 2018/12/21
 矢守克也 防災教材「クロスロード熊本編」：被災者のジレンマ設問に 熊本日日新聞
 2018/12/13
 矢守克也 津波の切迫性どう周知 産経新聞 2018/12/12
 矢守克也 興津中ぼうさい甲子園 V 「津波到達時間板」高く評価 高知新聞 2018/12/5
 矢守克也 世相と重ねる災害多発の一年 くまにち論壇 熊本日日新聞 2018/12/2
 矢守克也 震度というものさし NHK 関西ラジオワイド「ぼうさいコラム」 2018/11/29
 矢守克也 今後の自然災害に備え災害時の住民の避難行動を検証 サンテレビニュース
 2018/11/29

矢守克也 自前の「避難スイッチ」を 京大防災研・矢守教授高知市で講演 被災事例参考に 高知新聞 2018/11/29

矢守克也 「豪雨から命を守る」講演会 NHK 高知ニュース 2018/11/28

矢守克也 「津波防災の日」に川崎で啓発イベント 先進取り組み報告 神奈川新聞 2018/11/6

矢守克也 豪雨災害から4か月 RCC イマなまっ! RCC 中国放送 2018/11/6

矢守克也 災害報道にパラダイム・チェンジを 京都大・矢守克也教授が問題提起 The PAGE(Yahoo News Page) 2018/11/5 19:12 配信

矢守克也 豪雨の教訓 インタビュー：避難の「スイッチ」を 京都新聞 2018/11/4

矢守克也 「震度というものさし」 くまにち論壇 熊本日日新聞 2018/11/4

矢守克也 避難「100点」より臨機応変 朝日新聞 2018/10/18

矢守克也 「Japoneses interesados en intercambio cultural y eestudiantil con Zihuatanejo」 Zihuatanejo ABC (メキシコ) 2018/10/21

矢守克也 「Vallarta se coloca a la vanguardia en materia de Protección Civil」 Semanario Monitor (メキシコ) 2018/10/15

矢守克也 「心に感度高い、避難スイッチを」 朝日新聞 2018/10/13

矢守克也 「住民自ら避難基準づくりを」 神戸新聞 2018/10/7

矢守克也 「独自の避難基準を用意を」 京都新聞 2018/10/7

矢守克也 「変化する災害時のよびかけ」くまにち論壇 熊本日日新聞 2018/10/7

矢守克也 「防災教育、高知で学ぶ 台湾視察団が研修中：アプリ「逃げトレ」に関心」 高知新聞 2018/10/2

矢守克也 「正常性バイアスのすすめ」 NHK 関西ラジオワイド「ぼうさいコラム」 2018/9/27

矢守克也 「台風や大雨の際の避難について考える、住民自身の主体的な取り組み」 NHK ニュース「京いちにち」(京の防災2018) 2018/9/21

矢守克也 「西日本豪雨、“避難の決断”」 NHK ニュース「おはよう日本」 2018/09/20

矢守克也 「防災へ可能な限り情報公開(ジェームズ・ゴルツ氏)」(監訳)(京都新聞文化会議) 京都新聞 2018/9/14

矢守克也 コラム「凡語」：空振り 京都新聞 2018/9/12

矢守克也 「想定外」新生面 熊本日日新聞 2018/9/7

矢守克也 「ボヤキ」より「コヤシ」で防災 くまにち論壇 熊本日日新聞 2018/09/02

矢守克也 「想定外より深刻な想定内：巨大地震、試される防災の本気度」オピニオンサイト「iRONNA」 2019/9/1

矢守克也 「災害多発 カギを握る“判断”」NHK かんさい熱視線 2018/8/31

矢守克也 「豪雨で土砂崩れ、住民証言“避難の決断”」NHK おはよう関西 2018/8/29

矢守克也 防災、どのゲームで学ぶ? 朝日新聞 2018/8/29

- 矢守克也 豪雨で土砂崩れ、住民証言“避難の決断” NHK ニュースほっと関西
2018/8/28
- 矢守克也 西日本語豪雨の課題 ラジオ関西「時間です！林編集長」 2018/8/8
- 矢守克也 潜在的な豪雨災害に注目を くまにち論壇 熊本日日新聞 2018/8/5
- 矢守克也 西日本豪雨について NHK 関西ラジオワイド「ぼうさいコラム」 2018/8/2
- 矢守克也 民連携し早期避難を 九州豪雨受け福岡でシンポ 2018/7/30
- 矢守克也 九州北部豪雨1年：地域の防災力高めよう 毎日新聞 2018/7/29
- 矢守克也 住民連携し早期避難を 九州豪雨1年でシンポ 日本経済新聞 2018/7/28
- 矢守克也 防災情報だけに頼るな 高松でシンポ 避難の教訓訴え 四国新聞 2018/7/20
- 矢守克也 コラム「凡語」：心配性バイアス 京都新聞 2018/7/19
- 矢守克也 大阪北部地震1カ月「防災力」高めよう 産経新聞 2018/7/18
- 矢守克也 平成30年7月豪雨：深刻な被害 ニュースなラヂオ MBS 2018/7/9
- 矢守克也 想定内に備える“本気”の防災 熊本日日新聞 2018/7/3
- 矢守克也 大阪地震「大きな余震に備えを」矢守・京大防災研教授 京都新聞 2018/6/19
- 矢守克也 大阪北部地震の課題 ラジオ関西「時間です！林編集長」 2018/6/19
- 矢守克也 アクションリサーチ・イン・アクション 出版ニュース 2018年6月号
- 矢守克也 「家族と避難について考えよう」 NHK 静岡「防災ボイス」(2018/7)
- 矢守克也 「津波避難訓練 室内編」 NHK 静岡「防災ボイス」(2018/7)
- 矢守克也 「津波てんでんこ」 NHK 静岡「防災ボイス」(2018/7)
- 矢守克也 風水害避難のための「マイスイッチ」 NHK ラジオ関西ホットライン
(2018/6)
- 矢守克也 風水害：3種類の避難 NHK ラジオ関西ホットライン (2018/6)
- 矢守克也 「災異改元」が示す災害の歴史 くまにち論壇 熊本日日新聞 2018/6/3
- 矢守克也 「改元と災害」NHK 関西ラジオワイド「ぼうさいコラム」 2018/5/31
- 矢守克也 「海辺の防災考える：大洗でシンポ：高知の事例紹介も」 茨城新聞 2018/5/27
- 矢守克也 「思い伝えてー震災23年の神戸からー」 ラジオ関西 2018/5/25
- 矢守克也 「津波避難 安全確保に苦心」高知新聞 2018/05/11
- 矢守克也 「『故郷のために』と誓う高校生」 くまにち論壇 熊本日日新聞 2018/5/6
- 矢守克也 「地震教訓防災力高めよう」 熊本日日新聞 2018/05/04
- 矢守克也 過去の災害の教訓を滋賀で生かす NHK 滋賀「ラジオで防災応援団」
2018/4/20
- 矢守克也 「過去の災害の教訓を滋賀で生かす」NHK 滋賀ニュースおうみ発 630「しが!!
防災応援団」 2018/4/19
- 矢守克也 「熊本地震：2年 備えることで命助かる 岩永さん、経験傳承し防災取り組み 自宅全壊、久留米に避難／福岡」 毎日新聞 2018/04/14
- 矢守克也 「社説：熊本地震2年 地域の将来像 自らの手で」 熊本日日新聞

2018/04/14

矢守克也 「南海トラフ：防災対応に多様性を」中央防災会議作業部会初会合 静岡新聞

2018/4/13

矢守克也 向日市が大地震の備蓄計画 京都新聞 2018/4/5

矢守克也 「日常生活の事故」NHK 関西ラジオワイド「ぼうさいコラム」2018/4/5

矢守克也 「復興論の原点は『やり直し』」くまにち論壇 熊本日日新聞 2018/4/1

吉田明夫,静岡新聞,提言減災：共助の意義を見直そう (2018年4月8日)

吉田明夫,静岡新聞,提言減災：「三つの良き友人」大切 (2018年7月8日)

吉田明夫,静岡新聞,提言減災：地域の防災力 (2018年11月18日)

吉田明夫,静岡新聞,提言減災：予測不能な天災に備え (2019年2月17日)

吉田明夫,静岡新聞,提言減災：「長期的な視点」も重要 (2019年6月23日)

吉田明夫,静岡新聞,提言減災：災害時流言 良識で防ぐ (2019年10月27日)

吉田明夫,静岡新聞,提言減災：記憶継承で世代つなぐ (2020年3月8日)

5.3 公的な委員会等

秋元菜摘 201703-201903, 日本地理学会 (選挙管理委員会) .

秋元菜摘 2018, 第24回公開シンポジウム「人文科学とデータベース」実行委員会.

千木良雅弘,国立研究開発法人 日本原子力研究開発機構深地層の研究施設計画検討委員会
委員

千木良雅弘,京都市防災会議専門委員 委員

千木良雅弘,公益財団法人深田地質研究所 理事

千木良雅弘,近畿地方整備局道路防災ドクター

藤井基貴「諸外国における研究倫理教育内容の水準に関する調査・分析業務」委員会・委員 (2019年7月 - 2020年3月) [団体名] 文部科学省・デロイトトーマツ

藤井基貴：静岡県・道徳教育推進協議会・会長 (2018年5月 - 2020年3月) [団体名] 静岡県教育委員会[活動内容]道徳教育充実のための協議

藤井基貴：公益財団法人日本卓球協会スポーツ医・科学委員会・委員 (2019年4月 - 2021年3月) [団体名] 公益財団法人日本卓球協会

藤井基貴：文部科学省・中央教育審議会・専門委員 (2019年3月 - 2021年2月) [団体名] 初等中等教育分科会

藤井基貴「諸外国の研究公正推進に関する調査・分析」委員会・委員 (2018年6月 - 2019年3月) [団体名] 文部科学省・PwC

藤井基貴：教育課程の目標設定に関するワーキンググループ・委員 (2017年5月 - 2018年3月) [団体名] 文部科学省初等中等教育局

藤岡換太郎、海底地形名委員会、専門委員、2019年3月19日

古橋裕子、科学研究費委員会専門委員 (審査委員：若手B) 2018年

二川雅登, 長野県塩尻市 土中水分量情報システム検討委員会 委員 2019年3月～

秦康範, 内閣府 中央防災会議防災対策実行会議 大規模噴火時の広域降灰対策検討ワーキンググループ, 委員, 2018年～

秦康範, 内閣官房情報セキュリティセンター 分野横断的演習検討会, 委員, 2009年～

秦康範, 長野県 御嶽山噴火災害対応記録集検討委員会, 委員, 2018年～

秦康範, 長野県防災会議, 委員, 2012年～

秦康範, 長野県木曾地域振興局 御嶽山火山マイスター認定審査委員会, 委員, 2018年～

秦康範, 一般財団法人国土技術研究センター 河川研究会, 委員, 2017年～

秦康範, 内閣府 要配慮者利用施設避難確保計画モデル事業, 委員, 2018年度

秦康範, 長野県 長野県広域受援計画検討委員会, 委員長, 2018年度

秦康範, 甲府市教育委員会, 学校防災アドバイザー, 2018年度

秦康範, 山梨県立山梨高校, 学校防災アドバイザー, 2018年度

原田賢治, 静岡県, 静岡県海岸保全基本計画検討委員会, 委員, 2020/3/1-2021/3/31.

原田賢治, 静岡県, 静岡県津波防災地域づくり推進連絡会, アドバイザー, 2020/2/10-2021/3/31.

原田賢治, 静岡県交通基盤部, 美しい“ふじのくに”インフラビジョン推進会議, 委員, 2020/2/1-2021/3/31.

原田賢治, 松崎町, 松崎町津波防災地域づくり推進協議会, 会長, 2019/10/7-2021/3/31.

原田賢治, 西伊豆町, 西伊豆町津波防災地域づくり推進協議会, 会長, 2019/10/7-2021/10/6.

原田賢治, 静岡市, 静岡市水防協議会, 委員, 2019/10/7-2020/3/31.

原田賢治, 環境省, 災害廃棄物対策推進検討会, 地域間協調ワーキンググループ, 委員, 2019/9/1-2020/3/31.

原田賢治, 静岡県, 静岡県防災・原子力学術会議津波対策分科会, 委員, 2018.4.1-2020.3.31.

原田賢治, 国土交通省中部地方整備局静岡河川事務所, 駿河海岸保全検討委員会, 委員, 2018.3.30-2020.3.31

原田賢治, 静岡県, 静岡県津波防災地域づくり推進連絡会, アドバイザー, 2018.3.9-2019.3.31

原田賢治, 静岡県, 静岡県社会資本重点計画推進会議, 委員, 2017.7.1-2019.3.31

原田賢治, 環境省, 災害廃棄物対策推進検討会, 地域間協調ワーキンググループ, 委員, 2017.10-2019.3.

原田賢治, 伊豆市, 伊豆市津波防災地域づくり推進協議会, 副会長, 2017/5/30-2018/3/31

廣井悠, 東京都北区: 備蓄・管理・供給計画策定に係る検討委員会, 委員長 (2019年度)

廣井悠, 東京消防庁: 地震時における出火要因に関する調査研究委員会, 委員 (2019年度)

廣井悠, 総務省消防庁: 消防を取り巻く変化を踏まえた消防防災行政研究会, アドバイザー (2018年度～現在)

廣井悠, 東京消防庁: 東京都住宅防火対策推進協議会, 会長代行 (2017年度～現在)

廣井悠, 豊田市公園緑地整備課: 中央公園有識者会議, 委員 (2017年度～現在)

廣井悠, 総務省消防庁: 防災まちづくり大賞選定委員, 委員 (2014年度～現在)

廣井悠, 東京消防庁: 火災予防審議会地震対策部会, 委員 (2013年度～現在)

廣井悠, 東京消防庁: 火災予防審議会, 委員 (2013年度～現在)

廣井悠, 東京都中央区: 中央区帰宅困難者支援施設運営協議会, 座長 (2012年度～現在)

廣井悠, 内閣府「地域防災力の向上を目指すアドバイザーボード」委員 (2018年～現在)

廣井悠, 東京消防庁: 飛び火火災評価手法に関する調査研究委員会, 委員 (2017年-2018年)

廣井悠, 東京消防庁: 人的被害リスク評価に関する調査研究委員会, 委員 (2018年)

本間基寛, 静岡県住民避難実行性向上検討委員会・委員, 2018年10月4日～2019年3月31日

本間基寛, 公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会「ロジスティクスコンセプト 2030テーマ研究会」委員, 2018年11月1日～2019年3月31日

本間基寛, 公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会「ロジスティクス総合調査委員会」・委員, 2019年5月1日～2020年3月31日

池田恵子, 静岡県社会福祉協議会 地域づくり推進委員会, 委員長 (2018年9月 - 2020年8月)

池田恵子, 外務省女性・平和・安全保障に関する行動計画評価委員会, 委員 (2018年7月 - 2021年3月)

池田恵子, 静岡県情報公開審査委員会, 委員 (2017年10月 - 2020年9月)

池田恵子, 佐賀県男女共同参画の視点を取り入れた災害時避難所運営マニュアル作成委員会, アドバイザー (2019年4月-2020年3月)

池田恵子, 静岡市男女共同参画会議, 会長 (2017年5月 - 2019年3月), 委員 (2019年4月 - 2021年3月)

池田恵子, 静岡県男女共同参画企画会議委員会, 委員 (2017年12月 - 2019年3月)

今泉文寿, 静岡県森林審議会委員, 2020年1月～.

今泉文寿, 静岡県事業評価監視委員会委員, 2019年7月～.

今泉文寿, 静岡県茂畑盛土安定検証会議委員, 2019年1月～.

今泉文寿, 日本学術振興会科学研究費委員会専門委員, 2018年12月～2019年11月.

今泉文寿, 国土交通省 CIM 導入ガイドライン「地すべり編」策定ワーキンググループ委員, 2018年11月～2019年3月.

今泉文寿, 国土交通省由比地すべり対策検討委員会委員, 2018年10月～.

今泉文寿, 一般社団法人静岡県地質調査業協会 技術顧問, 2018年8月～.

今泉文寿, 静岡県環境影響評価審査会委員, 2018年7月～ 2020年6月.

今泉文寿, 筑波大学山岳科学センター共同利用運営委員会委員, 2018年4月～.

今泉文寿, 林野庁大日沢地区における土砂対策検討委員会委員, 2018年4月～2019年3月.

今泉文寿,国土交通省・JAXA 人工衛星画像データの土砂災害への活用検討ワーキンググループ委員,2017年8月～.

今泉文寿,大井川流砂系総合土砂管理計画検討委員会委員,2017年2月～.

今泉文寿,安倍川総合土砂管理計画フォローアップ作業部会委員,2014年10月～.

井ノ口 宗成,内閣府(防災担当)「市町村のための受援計画モデルに関する勉強会」委員,2019年8月～2020年3月

井ノ口 宗成,安平町:復興支援本部アドバイザー,2018年10月～現在

井ノ口 宗成,上越市:上越市消防団適正配置検討委員会アドバイザー,2018年5月～2019年3月

井ノ口 宗成,新潟県 防災局:新潟県防災立県推進戦略顧問,2017年4月～現在

井ノ口 宗成,内閣府(防災担当):「防災スペシャリスト養成」研修(警報避難),コーディネーター,2016年8月～現在

井ノ口 宗成,内閣府(防災担当):「防災スペシャリスト養成」企画検討会,委員,2016年8月～現在

井ノ口 宗成,富士市 総務部 防災危機管理課:富士市業務継続計画,アドバイザー,2016年6月～2020年3月

井ノ口 宗成,岩手県 総務部 総合防災室:岩手県被災者台帳システム整備・運用,アドバイザー,2015年4月1日～現在

井ノ口 宗成,東京都 総合防災部:東京都被災者台帳検討特別部会,アドバイザー,2014年11月～現在

井ノ口 宗成,国土交通省 北陸地方整備局:水害に強い信濃川下流域づくり推進協議会,学識協力者,2014年7月～現在

井ノ口 宗成,燕市:燕市総合防災,アドバイザー,2012年4月～現在

石川宏之,静岡市立登呂博物館協議会会長,2015年8月 - 2019年7月

石川宏之,八戸市埋蔵文化センター是川縄文館運営協議会副会長,2013年2月 - 2022年1月

石川宏之,静岡市環境影響評価審査会委員,2017年8月 - 2021年7月

石川宏之,沼津市公共施設マネジメント計画推進会議委員,2019年3月 - 2021年3月

岩松 暉,桜島・錦江湾ジオパーク推進協議会・学術顧問,2013年～

岩松 暉,霧島ジオパーク推進連絡協議会・顧問,2010年～

岩松 暉,公益社団法人鹿児島県地質調査業協会・理事,1990年～

岩田孝仁,内閣府 火山防災エキスパート,2009～

岩田孝仁,内閣府 戦略的イノベーション創造プログラム(sip2014)「レジリエントな防災・減災機能の強化」プログラム会議委員,2014～2019.3

岩田孝仁,内閣府 防災スペシャリスト企画検討会委員,2013～

岩田孝仁,内閣府 防災スペシャリスト研修コーディネーター,2016～

岩田孝仁, 人と防災未来センター 人と防災未来センター事業評価委員会委員, 2014～
岩田孝仁, 静岡県災害ボランティア活動ファンド運営委員会 委員長, 2015.6～
岩田孝仁, 伊豆半島ジオパーク推進協議会学術部会委員, 2016.7～
岩田孝仁, 内閣府 政府業務継続に関する評価等有識者会議 委員, 2016.7～
岩田孝仁, 文部科学省 「次世代火山研究・人材育成総合プロジェクト」総合協議会 委員, 2016.9～
岩田孝仁, 浜松市防災情報伝達手段整備事業選定委員会 委員長, 2016.9～2018.12
岩田孝仁, 名古屋大学減災連携研究センター社会連携推進会議委員, 2017.4～
岩田孝仁, 大阪府・大阪市 首都機能バックアップにかかる研究会 座長 2017.6～2018.6
岩田孝仁, 静岡県ボランティア協会 南海トラフ巨大地震等に備えた災害ボランティアネットワーク委員会 委員長, 2017.10～
岩田孝仁, 静岡県防災会議 専門委員, 2018.3～
岩田孝仁, 静岡県防災会議専門部会 部会長, 2018.3～
岩田孝仁, 中央防災会議「防災対策実行会議」南海トラフ沿いの異常な現象への防災対応検討ワーキンググループ 委員, 2018.4～2018.12
岩田孝仁, 消防庁 消防を取り巻く変化を踏まえた消防防災行政研究会 委員, 2018.06～2019.03
岩田孝仁, 島田市都市計画マスタープラン等アドバイザー会議 委員, 2018.07～
岩田孝仁, 科学技術振興機構 SDGs の達成に向けた協創的研究開発プログラムアドバイザー, 2019.07～
岩田孝仁, 内閣府 令和元年台風第15号を踏まえた検証チーム会議 有識者委員 2019.10～2020.03
岩田孝仁, 東京電力 台風15号対応検証委員会 アドバイザー, 2019.11～2019.12
岩田孝仁, 国土交通省中部地方整備局 天竜川水系流域委員会 委員, 2020.02～
風間聡, 最上川水系流域委員会委員長
風間聡, 仙台市環境影響評価審査会委員長
風間聡, 宮城県行政評価委員会公共事業評価部会部会長
風間聡, IHP/UNESCO 国内委員会委員
木村浩之, 静岡県環境審議会 委員, 2018年8月～.
木村浩之, 静岡県環境審議会温泉部会 委員, 2018年8月～.
木村浩之, 静岡県環境審議会地下水部会 委員, 2018年8月～.
木村浩之, 静岡県環境審議会自然公園部会 委員, 2018年8月～.
木村浩之, 牧之原市環境審議会 委員, 2018年4月～2022年3月.
木村浩之, 静岡市水素エネルギー利活用促進協議会 委員, 2016年8月～2018年8月.
小林 淳, 富士山火山防災協議会 構成機関(静岡県富士山世界遺産センター), 2019年7月
～

小林 淳,箱根山火山噴火緊急減災対策砂防計画検討委員会 委員, 2017年12月～
小林 淳,観光まちづくり支援アドバイザー(派遣先:神津島観光協会), 東京観光財団, 2019
年12月～2020年6月
小杉素子, 静岡市防災都市作り計画策定懇話会 委員 2016年10月～2019年3月
小山真人,2016年4月～2018年3月 日本建築学会火山災害対策特別調査委員会委員
小山真人,2000年4月～ 伊東市史編さん委員会編集委員
小山真人,2005年3月～ 富士山火山砂防計画検討委員会委員
小山真人,2009年10月～ 中部圏開発整備地方協議会委員
小山真人,2011年12月～2020年3月 火山噴火予知連絡会伊豆部会委員
小山真人,2011年4月～ 伊豆半島ジオパーク推進協議会顧問
小山真人,2012年3月～ 伊豆東部火山群防災協議会委員
小山真人,2012年5月～ 静岡県防災・原子力学会議 地震・火山対策分科会委員
小山真人,2012年6月～ 富士山火山防災対策協議会委員
小山真人,2014年2月～ 静岡県史編さん特別調査委員
小山真人,2016年11月～2019年3月 伊豆東部火山群火山噴火緊急減災対策砂防計画検討
会委員(副会長)
小山真人,2016年7月～ 伊豆半島ジオパーク推進協議会学術部会長
小山真人,2018年1月～ 箱根山火山噴火緊急減災対策砂防計画検討委員会委員
小山真人,2018年7月～ 富士山ハザードマップ(改定版)検討委員会委員(副委員長)
小山真人,2020年2月～ 富士宮市史編さん委員会委員
前田恭伸, 一般社団法人 浜松公園緑地協会 評議員, 2013年4月～2020年6月.
前田恭伸, 静岡県社会体育施設指定管理者評価委員会, 2016年7月～2020年3月.
前田恭伸, 浜松市建築紛争調停委員会委員, 2019年4月～2022年3月.
前田恭伸, 静岡市社会福祉協議会苦情解決第三者委員, 2018年10月～2021年3月.
前田恭伸, 静岡市社会福祉協議会リスクマネジメント委員会, 2019年4月～2021年3月.
増田俊明,静岡県総合計画審議会委員
森下祐一, 静岡県中央新幹線環境保全連絡会議委員 地質構造・水資源部会専門部会長
2018年～
森下祐一, 静岡県環境影響評価審査会委員 2017年～
森下祐一, 石油天然ガス・金属鉱物資源機構湿式製錬技術開発委員会委員 2011年～
森下祐一, 日本学術振興会マイクロビームアナリシス第141委員会委員 2000年～2020年
村越真, 国立登山研修所専門調査委員、平成18年度～現在
村越真、静岡市スポーツ振興審議会(会長)、～平成30年度
村越真、日本山岳ガイド協会 特別委員、～令和2年
村越真、河津町学校安全総合支援事業実践委員会アドバイザー、令和元年
中川和之,現在総合科学技術・イノベーション会議 戦略的イノベーション創造プログラム

(S I P)「国家レジリエンス(防災・減災)の強化」 戦略コーディネーター,2018～継続中
中川和之,内閣府 TEAM 防災ジャパン アドバイザー,2018～継続中
中川和之,地震調査研究推進本部政策委員会「第3期総合的かつ基本的な施策に関する専門委員会」委員,2018～2019
中川和之,日本ジオパーク委員会調査運営部会員,2018～2020
中川和之,南海トラフ巨大地震等に備えた災害ボランティアネットワーク委員会委員,2017～継続中
中川和之,国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構評価委員,2016～2020
中川和之,国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構農村工学研究部門運営委員,2016～2020
中川和之,文部科学省「国立研究開発法人審議会」委員、防災科学技術研究所部会部会長,2015～継続中
中川和之,月山ジオパーク推進協議会「アドバイザー」,2015～2020
中川和之,総合科学技術会議 戦略的イノベーション創造プログラム(S I P)「レジリエントな防災・減災機能の強化」プログラム会議委員,2014～2019
中川和之,国立研究開発法人海洋研究開発機構 文部科学省委託研究「南海トラフ広域地震防災研究プロジェクト」運営委員会委員,2013～2020
中川和之,宮城県「みやぎ景観アドバイザー」,2013～継続中
中川和之,京都府「危機管理アドバイザー」,2009～継続中
中川和之,気象庁「気象業務の評価に関する懇談会」委員,2007～継続中
中川和之,国立研究開発法人建築研究所国際地震工学センター「国際地震工学研修・普及会議」委員,2007～継続中
中川和之,内閣府「防災教育チャレンジプラン」実行委員会委員,2007～継続中
大谷栄治,日本学術会議 24期連携会員,2017.10~2020.9
大谷栄治,日本学術会議 24期地球惑星科学委員会地球惑星圏分科会副委員長,2017,10~2020.9
大谷栄治,日本学術会議 24期地球惑星科学委員会企画分科会委員,2017,10~2020,9.
大谷栄治,日本学術会議 24期地球惑星科学委員会国際連携分科会 IMA 小委員会委員長,2017,10~2020.9.
大谷栄治,日本学術会議 24期地球惑星科学委員会人材育成分科会委員 2017,10~2020,9.
大谷栄治,国際鉱物学連合(IMA)日本委員会代表委員 2010,10~2020,9.
大谷栄治,仙台天文台ブレインサポーター(アドバイザー) 2018.4~2021.3
大谷栄治,宇宙科学研究所はやぶさ II キュレーション委員会委員 2018.4~2021.4.
大谷栄治,ロシア共和国ノボシビルスク州立大学学長国際諮問委員会委員 2016.9~2018.8
大谷栄治,台湾中央研究特別院客座教授 2018.3.1- 2021.2.29.
大谷栄治,ドイツ連邦共和国バイロイト大学特別客員教授 2016.2,17~2021.2.16

佐藤健, 石巻市学校防災推進会議・委員長, 2012～継続中

佐藤健, 平成 30 年度学校安全総合支援業事業推進委員会・推進委員, 2018

佐藤健, 令和元年度学校安全総合支援業事業推進委員会・推進委員, 2019

佐藤健, 仙台市福祉整備審議会・副会長, 2016～継続中

佐藤健, 宮城県行政評価委員会・委員, 2018～継続中

佐藤健, 宮城県行政評価委員会政策評価部会・部会長, 2018～継続中

佐藤健, 宮城県行政評価委員会政策評価部会第 3 分科会・分科会長, 2018～継続中

佐藤健, 内閣府防災教育チャレンジプラン実行委員会・委員, 2015～継続中

佐藤健, 宮城県平成 30 年度未来へつなぐ学校と地域の安全フォーラム実行委員会・委員,
2018

佐藤健, 宮城県令和元年度未来へつなぐ学校と地域の安全フォーラム実行委員会・委員,
2019

佐藤健, 震災対策技術展第 9 回「震災対策技術展」東北実行委員会・委員, 2018

佐藤健, 震災対策技術展第 10 回「震災対策技術展」東北実行委員会・委員, 2019

佐藤健, 宮城県多賀城高等学校スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員会・委員長,
2018～継続中

佐藤健, 文部科学省学校安全に関する教職員の資質・能力の向上のための調査研究事業有
識者会議・委員, 2019.9～2020.3

佐藤健, 第 14 回災害に強いコミュニティのための市民フォーラム実行委員会・委員, 2018

佐藤健, 第 15 回災害に強いコミュニティのための市民フォーラム実行委員会・委員, 2019

佐藤健, 仙台市役所本庁舎建替基本計画検討委員会・副委員長, 2018.12～継続中

牛山素行, 岩手河川国道事務所災害情報協議会委員(アドバイザー), 2005 年 7 月～.

牛山素行, 国土交通省中部地方整備局東海・東南海・南海地震対策中部圏戦略会議委員, 2011
年 10 月～.

牛山素行, 内閣府防災スペシャリスト養成研修企画検討会委員, 2013 年 10 月～.

牛山素行, 内閣府防災研修コーディネーター, 2014 年 12 月～.

牛山素行, 静岡県津波防災地域づくり推進アドバイザー, 2016 年 2 月～2021 年 3 月.

牛山素行, 陸前高田市防災会議委員, 2016 年 2 月～.

牛山素行, 砂防フロンティア整備推進機構土砂災害に対する地域防災力の向上支援施策に関
する研究会委員, 2018 年 3 月～2019 年 3 月.

牛山素行, 広島市平成 30 年 7 月豪雨災害における避難対策等検証会議構成員, 2018 年 8 月～
2018 年 12 月.

牛山素行, 内閣府中央防災会議防災対策実行会議 平成 30 年 7 月豪雨による水害・土砂災害
からの避難に関するワーキンググループ委員, 2018 年 9 月～2019 年 3 月.

牛山素行, 気象庁防災気象情報の伝え方に関する検討会委員, 2018 年 10 月～2019 年 3 月.

牛山素行, 静岡県住民避難実効性向上検討委員会委員長, 2018 年 10 月～2019 年 3 月.

牛山素行,愛媛県西予市防災会議専門委員,2019年1月～2020年3月.

牛山素行,静岡市第3期政策・施策評価委員会委員,2019年12月～2020年2月.

牛山素行,内閣府中央防災会議防災対策実行会議 令和元年台風19号等による災害からの避難に関するワーキンググループ委員,2019年12月～2020年.

牛山素行,気象庁防災気象情報の伝え方に関する検討会委員,2020年1月～2020年3月.

牛山素行,国土交通省水害・土砂災害に関する防災用語改善検討会委員,2020年5月～2021年3月.

渡辺俊樹,東京大学地震研究所地震・火山噴火予知研究協議会,委員,2017年4月～現在.

渡辺俊樹,東京大学地震研究所・京都大学防災研究所拠点間連携共同研究委員会,委員,2017年4月～現在.

渡辺俊樹,石油天然ガス・金属鉱物資源機構石油・天然ガス技術評価部会,委員,2018年4月～現在.

渡辺俊樹,(公財)地震予知総合研究振興会東濃地震科学研究所地殻活動研究委員会,委員,2006年4月～現在.

渡辺俊樹,(一財)地球システム総合研究所,評議員,2017年4月～現在.

山崎 登,中央防災会議「平成30年7月豪雨による水害・土砂災害からの避難に関するワーキンググループ」委員,2018年9月～2019年3月.

山崎 登,中央防災会議「大規模噴火時の広域降灰対策検討ワーキンググループ」委員,2018年9月～2020年3月.

山崎 登,東京都 第24期火災予防審議会委員,2019年7月～.

山崎 登,内閣府「令和元年台風19号等による災害からの避難に関するワーキンググループ」委員,2019年12月～2020年3月.

山崎 登,令和元年台風19号等を踏まえた避難情報及び広域避難に関するサブワーキンググループ委員,2020年5月～.

矢守克也 内閣府南海トラフ沿いの異常な現象への防災対応検討ワーキンググループ委員(2018年4月～2019年3月)

矢守克也 大阪府防災に関する自助・共助のあり方検討会議委員(座長)(2018年5月～2019年3月)

矢守克也 徳島県南海トラフ沿いの異常な現象への防災対応方針策定検討委員会委員(2018年5月～2019年3月)

矢守克也 多賀城高校スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員会委員(2018年5月～現在)

矢守克也 内閣府地域で津波に備える地区防災計画策定検討委員会委員(座長)(2018年6月～2019年3月)

矢守克也 国土交通省近畿地方整備局「大阪府域の大規模なハザードが発生した場合の広域避難検討会」委員(2018年7月～現在)

矢守克也 大阪府南海トラフ地震対応強化策検討委員会 (2018年7月～現在)

矢守克也 公益財団法人セコム科学技術振興財団「特定領域研究助成」選考委員 (2018年6月～現在)

矢守克也 国土交通省異常豪雨の頻発化に備えたダムの洪水調節機能に関する検討会 (2018年9月～現在)

矢守克也 兵庫県災害時における住民避難行動に関する検討会委員 (座長) (2018年11月～現在)

矢守克也 文部科学省避難所となる学校施設の防災機能に関する事例集作成業務に係る有識者会議委員 (2019年6月～2020年3月)

矢守克也 福知山市避難のあり方検討委員会委員 (座長) (2019年6月～現在)

矢守克也 復興庁東日本大震災の復興過程における中間支援の検証有識者アドバイザー会議委員 (2019年7月～現在)

矢守克也 倉敷市災害に強い地域をつくる検討会委員 (2019年9月～現在)

矢守克也 山梨県富士山ハザードマップ (改定版) 検討委員会臨時委員 (2019年6月～現在)

矢守克也 国土交通省社会資本整備審議会専門委員 (2019年11月～現在)

矢守克也 国土交通省社会資本整備審議会河川分会専門委員 (2019年11月～現在)

矢守克也 国土交通省社会資本整備審議会 (河川分科会) 気候変動を踏まえた水災害対策検討小委員会委員 (2019年11月～現在)

吉田明夫, 箱根山火山防災協議会専門委員, 2016年～現在.

吉田明夫, 東京地学協会, 研究及び国際研究集会助成対象者選考委員会委員, 2017年～現在.

吉田明夫, 文部科学省地震調査委員会, 地震活動の予測的な評価手法検討小委員会委員, 2017年6月—2020年3月.

5.4 学会活動

千木良雅弘, 学術誌 *Engineering Geology* 編集委員

千木良雅弘, 日本地形学連合 委員

Chigira, M., International fellow of SEADPRI-UKM (Southeast Asia Disaster Prevention Research Institute, University of Kebangsaan Malaysia)

Chigira, M., Visiting Professor of Malaysia-Japan International Institute of Technology

藤井基貴, 日本教育学会「研究推進委員会」委員 (2017年9月 - 2019年8月)

藤井基貴, 日本卓球協会「スポーツ医・科学委員会」委員 (2017年4月～)

藤井基貴, 中部教育学会 理事 (2014年4月～)

Furuhashi, Yuko, *Austin Journal of Autism & Related Disabilities* : Editorial board
2018～2019年

古橋裕子, 日本精神神経学会・日本精神衛生学会・九州精神神経学会、自立支援法に関する

る業務・精神保健福祉手帳に関する業務・精神障害者年金に関する業務
古橋裕子、日本精神神経学会 認定専門医・指導医・精神保健指定医
古橋裕子、日本医師会認定産業医
二川雅登、電気学会 論文委員 (2012年4月～)
二川雅登、電気学会 E部門誌編集委員会 委員およびケミカルセンサワーキンググループ
二川雅登、副担当 (2019年10月～)
二川雅登、電気学会 平成30年度E部門総合研究会論文委員会 副委員長 (2018年2月1
日～2018年9月30日)
二川雅登、電気学会 平成30年度E部門総合研究会実行委員会 副委員長 (2018年2月1
日～2018年9月30日)
二川雅登、電気学会 水センシングに関わる調査専門委員会 委員 (2016年7月～2019年
5月)
二川雅登、電気学会 第36回「センサ・マイクロマシンと応用シンポジウム」実行委員 (行
事企画担当) (2019年2月～2020年1月)
二川雅登、電気学会 第36回「センサ・マイクロマシンと応用シンポジウム」論文委員会
(ケミカルセンサ部門) 委員(2019年2月～2020年1月)
秦康範、地域安全学会学術委員会 副委員長 (2017年～2018年), 委員長 (2019年)
秦康範、地域安全学会 理事, 2014年度～
秦康範、日本災害情報学会 編集委員会 幹事, 2015年～
秦康範、日本災害情報学会 企画委員会 委員, 2009年～
原田賢治、土木学会海岸工学委員会, 津波作用に関する研究レビューおよび活用研究小委
員会, 幹事長, 2018/7-2020/6.
原田賢治、土木学会海岸工学委員会, 津波作用に関する研究レビューおよび活用研究小委
員会, WG1 主査, 2015/7-2018/6.
原田賢治、土木学会海岸工学委員会・土木計画学委員会, 減災アセスメント研究小委員会,
委員, 2015/7-2018/6.
原田賢治、土木学会地震工学委員会, 論文編集委員会, 委員, 2014年度～継続中.
原田賢治、土木学会地震工学委員会, 委員, 2013年度～継続中.
林能成、公益社団法人日本地震学会, 代議員(2006-)
廣井悠、日本都市計画学会 学術委員会 委員 (2014年～2018年)
廣井悠、日本都市計画学会 国際委員会 委員 (2013年～現在)
廣井悠、日本建築学会 広域避難小委員会 幹事 (2011年～現在)
廣井悠、日本建築学会 文献抄録委員会第5部会 (都市計画) 委員 (2009年～現在)
廣井悠、日本建築学会 文献抄録委員会第6部会 (防火) 委員 (2011年～現在)
廣井悠、日本火災学会 地震火災専門委員会 幹事 (2011年～現在)
廣井悠、災害情報学会 学会誌編集委員会 委員 (2013年～2018年)

廣井悠, 災害情報学会 学会誌編集委員会 副編集長 (2019年～現在)

廣井悠, 日本火災学会 火災誌編集委員会 委員 (2013年～現在)

廣井悠, Urban and Regional Planning Review 編集委員会 委員 (2013年～現在)

本間基寛, 日本自然災害学会 企画委員会委員, 2015年4月1日～現在.

本間基寛, 日本自然災害学会 学術講演会部会, 2017年7月1日～現在.

本間基寛, 日本災害情報学会 学会誌編集委員会委員, 2019年12月1日～現在.

池田恵子, 国際ジェンダー学会, 理事(研究担当)(2017年10月・2019年9月)

生田領野, 日本地震学会広報委員, 2014年4月～

生田領野, 日本地球惑星科学連合 プログラム委員, 2018年～

今泉文寿, 砂防学会 総務部会幹事, 2014年7月～2018年5月.

今泉文寿, 砂防学会東海支部運営委員, 2016年6月～.

今泉文寿, 日本地形学連合 総務幹事, 2015年6月～.

今泉文寿, 砂防学会代議員, 2020年2月～.

今泉文寿, 令和2年度 公社砂防学会通常総会並びに研究発表会実行委員会委員, 2019年11月～.

今泉文寿, 砂防学会東海支部監事, 2019年5月～.

今泉文寿, 日本地すべり学会理事選挙 選挙管理委員長, 2018年12月～2019年6月.

今泉文寿, 日本地すべり学会役員選挙 選挙管理委員長, 2017年12月～2018年6月.

今泉文寿, 砂防学会役員候補者選挙 選挙管理委員長, 2017年10月～2018年5月.

今泉文寿, INTERPRAEVENT2018 編集委員, 2017年1月～2018年10月.

今泉文寿, 中部森林学会編集委員, 2017年10月～2019年3月.

井ノ口 宗成, 電子情報通信学会 第1種常設研究会「安全・安心な生活と ICT 研究会」運営委員・幹事 (2016年6月～2018年5月)

井ノ口 宗成, 国際危機管理学会 日本支部 IEMS 理事, 2013年7月～現在

井ノ口 宗成, 情報処理学会 北陸支部 会計担当, 2019年4月～現在

井ノ口 宗成, 土木学会 第60回土木計画学研究発表会・秋大会 実行委員, 2020年11月～2020年12月

石橋秀巳, 日本鉱物科学会広報委員, 2018年9月・2020年9月.

岩松 暉, 九州応用地質学会 (日本応用地質学会九州支部)・顧問, 2004年～

岩田孝仁, 日本災害情報学会 理事・予算委員長, 2015.10～.

岩田孝仁, 日本災害復興学会 理事, 2014.06～.

岩田孝仁, 地域安全学会 参与, 2016.06～.

狩野謙一, 東京地学協会総務委員会委員(2018年10月～)

風間聡, 土木学会水工学委員会水害対策小委員会委員長

風間聡, 土木学会水工学委員会幹事

風間聡, 土木学会論説委員会幹事長

風間聡, 土木学会論文賞選考委員 VII 部門主査

木村浩之, 静岡生命科学若手フォーラム 庶務, 2019 年 4 月～.

木村浩之, 第 20 回静岡ライフサイエンスシンポジウム 実行委員, 2019 年 3 月.

木村浩之, 日本微生物生態学会 第 18 期評議員, 2019 年 1 月～2020 年 12 月.

木村浩之, 5th World Congress on Microbial Biotechnology, Organizing Committee, 2018 年 9 月.

北村晃寿 日本第四紀学会評議員・第四紀研究の編集委員長 (2017 年 8 月 - 2021 年 7 月)

北村晃寿 日本古生物学会評議員・常務委員 被災博物館レスキュー委員会委員長 (2017 年 7 月 - 2021 年 6 月)

小杉素子, 日本リスク研究学会誌編集委員, 2014 年 11 月～現在

小山真人, 維持会員: 日本火山学会

小山真人, 一般会員: 日本地震学会, 日本災害情報学会, 日本地球惑星科学連合, 東京地学協会, International Association of Volcanology and Chemistry of the Earth's Interior (国際火山学・地球内部化学会), American Geophysical Union (アメリカ地球物理学連合), 歴史地震研究会

前田恭伸, 環境情報科学センター 審議員, 2017 年 6 月～

前田恭伸, 日本リスク研究学会 表彰委員会委員長, 2018 年 6 月～

Maeda, Yasunobu, Nomination Committee, Society for Risk Analysis, Asia, 2018 年 12 月～2019 年 10 月

Maeda, Yasunobu, Treasurer, Society for Risk Analysis, Asia, 2020 年 3 月～

Maeda, Yasunobu, International Scientific Committee, Annual Conference on Industrial and Systems Engineering 2019, 2019 年 4 月.

前田恭伸, 経営情報学会秋季全国研究発表大会 2019 実行委員会, 2019 年 10 月.

前田恭伸, 企画セッション「SRA Asia の誕生」主催, 2019 年度第 32 回日本リスク学会年次大会, 2019 年 11 月.

三井雄太, 日本測地学会 評議員, 2017/6-2019/5.

三井雄太, 日本測地学会 庶務委員, 2017/6-2019/5.

三井雄太, 日本地震学会 将来検討ワーキンググループ, 2019/4-2020/3.

三井雄太, 日本地震学会 代議員, 2018/4-.

三井雄太, 日本地震学会 大会・企画委員, 2018/4-2020/3.

森下祐一, 資源地質学会 会長, 2018 年～2020 年

森下祐一, Resource Geology 編集委員, 1994 年～

村越真、日本国際地図学会 昭和 63 年 10 月～現在 (2005～ 評議員)

村越真、日本野外教育学会 平成 19 年 4 月～ 現在 (平成 26 年度より評議員)

村越真、登山医学会 平成 26 年度～ (評議員)

村越真、日本安全教育学会 平成 25 年 4 月～ 現在 (平成 30 年度～31 年度は理事)

中川和之,日本地震学会ジオパーク支援委員会委員,2017～継続中
中川和之,日本地震学会理事,2014～継続中
中川和之,日本地震学会地震学を社会に伝える連絡会議委員,2014～継続中
中川和之,日本地震学会普及行事委員会委員,2003～継続中
中川和之,日本地震学会広報委員会「ないふるメーリングリスト」世話人代表,1999～継続中
中川和之,日本災害情報学会広報委員会副委員長,2013～継続中
大谷栄治, 日本地球惑星科学連合, 固体地球セクションプレジデント, 2018.5~2020,7.
大谷栄治, 日本地球惑星科学連合 PEPS ジャーナル編集委員, 2018, 5~2020, 7
大谷栄治, 日本鉱物科学会 JMPS ジャーナル編集委員, 2018. 8~2020, 9.
大谷栄治, アメリカ地球物理学連合 (AGU) 鉱物岩石物理学フォーカスグループ執行委員
2005.12~2021.12
大谷栄治, アメリカ地球惑星科学連合 (AGU) ボーウィーメダル(Bowie medal)選考委員会
委員, 2018, 12~2019, 12.
佐藤健, 日本安全教育学会・常任理事, 2017～継続中
佐藤健, 日本自然災害学会第 37 回学術講演会およびオープンフォーラム実行委員会・委員,
2018
佐藤健, 日本建築学会東北支部災害調査連絡会・委員長, 2017～継続中
佐藤健, 自然災害研究協議会 6 号委員 (データベース担当)・委員, 2017.4~2019.3
佐藤健, 日本建築学会東北支部第 39 回東北建築賞研究奨励賞選考委員会・委員, 2018
佐藤健, 日本建築学会東北支部第 40 回東北建築賞研究奨励賞選考委員会・委員, 2019
佐藤健, 東京大学地震研究所・京都大学防災研究所 拠点間連携共同研究委員会・委員,
2017.4~2019.3
佐藤健, 日本安全教育学会第 20 回山形大会実行委員会・委員, 2019
菅原大助, 土木学会津波評価小委員会 委員, 2018 年～
牛山素行,日本自然災害学会編集委員会委員,2005 年 5 月～.
牛山素行,日本自然災害学会災害情報委員会委員,2005 年 11 月～.
牛山素行,日本災害情報学会学会誌編集委員会委員長,2013 年 10 月～2019 年 10 月.
牛山素行,日本自然災害学会理事,2014 年 4 月～.
牛山素行,日本災害情報学会理事,2016 年～.
渡辺俊樹, (公社) 物理探査学会, 理事, 2012 年 5 月～現在.
渡辺俊樹, (公社) 物理探査学会, 副会長, 2018 年 5 月～現在.
渡辺俊樹, (公社) 物理探査学会, PS 検層技術委員会, 委員長, 2016 年 10 月～2019 年 3
月.
渡辺俊樹, (公社) 日本地震学会, 代議員, 2018 年 5 月～現在.
山崎 登,日本災害情報学会 理事,2019 年 10 月～.
矢守克也 自然災害学会理事 (2011 年 4 月～現在)

- 矢守克也 「自然災害科学」編集委員会委員（2003年4月～現在）
- 矢守克也 「Journal of Natural Disaster Science」編集委員（2005年10月～現在、2009年9月～2012年3月は委員長）
- 矢守克也 自然災害学会学会賞審査委員会委員（2012年9月～現在）
- 矢守克也 日本質的心理学会理事（2004年3月～現在）
- 矢守克也 日本災害情報学会理事（2013年10月～現在）
- 矢守克也 日本災害情報学会「災害情報」編集委員（2009年10月～2020年3月）
- 矢守克也 日本災害情報学会「廣井賞」選考委員会委員（2009年10月～現在）
- 矢守克也 International Society of Integrated Disaster Risk Management（国際総合防災学会）理事（2011年12月～現在）
- 矢守克也 地区防災計画学会副会長（2014年6月～現在）

防災総合センター年報 第6号

2020年9月発行

著者・発行者 静岡大学防災総合センター
〒422-8529 静岡市駿河区大谷 836
電話：054-238-4502
URL：<http://www.cnh.shizuoka.ac.jp/>

